

# 教師， その大いなる召し

福音を教えるための資料集



# 教師， その大いなる召し

福音を教えるための資料集

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会

## ご意見やご提案

本書へのご意見やご提案をお待ちしております。下記あてにお送りください。

Curriculum Planning  
50 East North Temple Street, Floor 24  
Salt Lake City, UT 84150-3200 USA  
E-mail : cur-development@ldschurch.org

あなたのお名前, ご住所, ステーク名, ワード名, それに本書のタイトルをご記入のうえ, 良かった点, 改善できる点など, ご意見とご提案をお寄せください。

©1999 by Intellectual Reserve, Inc.

著作権所有

印刷：日本

英語版承認：1998年8月

翻訳承認：1998年8月

原題： Teaching, No Greater Call

Japanese

- 表紙, p.3 「ナザレの会堂でのイエス」 グレグ・K・オルセン画
- p.1 「山上の垂訓」 カール・ブロック画, フレデリックスボル国立歴史博物館の許可を得て掲載
- p.5 「あなたはこの人たちが愛する以上に, わたしを愛するか」 デビッド・リンズリー画
- p.22 「開拓者の菜園」 バロイ・イートン画
- p.29 「イエスとサマリヤの女」 カール・ブロック画, フレデリックスボル国立歴史博物館の許可を得て掲載
- p.31 「ガリラヤでのお話」 デル・パーソン画
- p.33 「救い主の衣のすそに触れた女」 ジュディス・メール画
- p.35 「良い羊飼い」 デル・パーソン画



# 本書の活用法

## 本書はだれが使うべきですか

本書は以下の人々をはじめとする、福音を教えるすべての人を対象としています。

- 両親
- クラス教師
- 神権指導者、補助組織指導者
- ホームティーチャー、訪問教師

## 本書には何が書かれていますか

『教師、その大いなる召し』には、教授に関する指針と提案について書かれています。その概要は以下のとおりです。

### 単元A

#### 教師としてのあなたの召し

この単元では神の計画において福音を教えることの大切さが説明されています。また、個人が福音を教える準備をするうえで助けとなる事柄が書かれています。

### 単元B

#### 福音を教えるための基本原則

この単元はあらゆる福音教授の土台を築くためのものです。

### 単元C

#### 様々な年齢層を教える

この単元は子供、青少年、成人に福音を教えるための情報と提案を提供します。

### 単元D

#### 家庭で福音を教える

この単元は子供に福音を教える両親を助けるためのものです。また、ホームティーチャーや訪問教師への提案も含まれています。

### 単元E

#### 指導者として教える

この単元は教えるという大きな責任を神権指導者と補助組織指導者が理解するのを助けるためのものです。

### 単元F

#### 教授法

この単元ではレッスンを豊かにするための様々な教授法が説明されています。

### 単元G

#### 福音の教え方コース

この単元では、福音を教授する立場にある人々を備えるための12のレッスンが紹介されています。これらのレッスンはクラス単位で教えるようになっていますが、個人や家族で学ぶこともできます。

## この資料集の使用法

『教師、その大いなる召し』は初めから終わりまで通して読む本ではなく、資料集として作られたものです。次のように活用することができます。

- 個人学習ガイドとして
  - 教師改善集会の資料として
  - 福音の教え方コースのテキストとして
  - 教師とともに働く組織の指導者のための資料として
- 本書から最大の利益を得るために、教師は以下のことを行ってください。
- 目次に目を通す。
  - そのときの関心や必要に合った項目を選んで研究する。

例えば、親は子供の霊的な成長を助けるために、教える機会をよりよく活用したいと望むことでしょう。その場合は、単元D「家庭における教え」に『家庭生活での教育の機会』という項目があり、教える機会の見つけ方や子供たちが学ぶ用意のできた原則の教え方が述べてあります。教師は、レッスンをもっと変化に富んだものにしたいと考えることがあるでしょう。単元Bの中の「効果的な方法を用いる」の項の幾つかの項目に、異なった教授法の選び方や使い方について役立つアイデアが掲載されています。

このように『教師、その大いなる召し』を活用すれば、本書は教師の方々にとって教授法改善のための大切な資料となることでしょう。

---

## 既刊資料

本書は以下の既刊資料に代わるものです。

- あらゆる既刊の『教師，その大いなる召し』
  - 『子供を教えるには』
  - 『初等協会分かち合いの時間アイデア集』
- 

## 参考資料

本書で参考資料として用いられた教会出版物は以下のとおりです（五十音順）。アイテム番号は本文では省略されています。

『家庭の夕べアイデア集』（31106 300）

『教会指導手引き 第2部：神権指導者・補助組織指導者』（35209 300）

『教会指導手引き 第2部』「音楽」の章（35714 300）

『教会指導手引き 第2部』「活動」の章（35710 300）

『教会指導手引き 第2部』「福音の教授と指導」の章（35903 300）

『教会書籍・教材総合カタログ』（新アイテム番号で毎年発行）

『教師ガイド』（34595 300）

『子供の歌集』（35324 300, 35395 300）

『子供を教えるには』（ビデオカセット）（53677 300）

『賛美歌』（アイテム番号は『教会書籍・教材総合カタログ』を参照）

『初等協会視覚資料』（切り抜きセット）（08456）

『初等協会指導者訓練』（ビデオカセット）（53008 300）

『聖典からの物語』（31120 300）

『福音教授法の改善——指導者用ガイド』（35667 300）

『福音の原則』（31110 300）

『福音の視覚資料セット』（34730 300）

『モルモン書ものがたり』（35666 300）

『わたしたちのプライマリー』（ビデオカセット）（53179 300）

『わたしの達成の日』（35317 300）

# 目次

本書の活用法	iii
--------	-----

## 単元A：教師としてのあなたの召し

### 神の計画における福音を教えることの大切さ

1 大いなる召し	3
2 魂に養いを与える	5
3 神から託された教師の使命	8

### 霊的な備え

4 慈愛の賜物を求める	12
5 御霊を求める	13
6 御言葉を得ることを求める	14
7 福音を研究するための個人の計画を作る	16
8 教えることを実践する	18
9 召され、任命され、 召しを尊んで大いなるものとする	20

### 才能を伸ばす

10 あらゆる場所で教えるヒントを見つける	22
11 教授法改善の計画を立てる	24
12 指導者からの支援を得る	28

## 単元B：福音を教えるための基本原則

### 生徒を愛する

1 愛は心を和ませる	31
2 生徒を理解する	33
3 個人に手を差し伸べる	35
4 新会員とあまり活発ではない教会員を助ける	37
5 障害を持つ人に教える	38

### 御霊によって教える

6 御霊が真の教師であられる	41
7 証をもって教える	43
8 教えるときに御霊を招く	45
9 御霊の力を受け、御霊の導きにより教える	47

### 教義を教える

10 言葉の力	50
11 教義を純粋に保つ	52
12 聖文から教える	54

## 熱心に学ぶよう勧める

13 福音を学ぶ責任を引き受けられるように 個人を援助する	61
14 話し合いを展開する	63
15 耳を傾ける	66
16 質問を交えた教え方	68
17 生徒の注意を引きつける	71
18 学んでいることを確認する方法	73
19 学んだ教えに従って生活するよう助ける	74

## 学習に適した雰囲気を作る

20 教室の環境作り	76
21 学習に適した雰囲気作りに 貢献するよう教える	77
22 教師は学習に適した雰囲気作りに どのような貢献ができるか	79
23 敬虔	82
24 レッソンを妨害する生徒を助ける	84

## 効果的な方法を用いる

25 変化を持たせて教える	89
26 適切な教授法を選ぶ	91
27 効果的な教授法を選ぶ	92
28 レッソンを始める	93
29 レッソンを締めくくる	94

## 必要なものをすべて準備する

30 準備する時間を取る	97
31 レッソンの準備	98
32 大会説教やその他の資料から レッスンを構築する	100
33 レッソンを生徒の状況に合わせる	102
34 レッソンの提示方法を評価する	103
35 福音を教えるために 教会が準備している資料	105

## 単元C：様々な年齢層を教える

1 子供を教える	108
2 子供の年齢別特徴	110
3 様々な年齢層の混在したグループの 子供たちを教える	117
4 青少年を理解し、教える	118
5 グループ活動を通して青少年を教える	121
6 成人を理解し、教える	123

## 単元D：家庭における教え

### 家族の教え

1 両親の教える責任	127
2 教師である父親	129
3 教師としての母親	131
4 両親はパートナーとして教える	133

5	福音に添った生き方による教え	135
6	家庭で定期的に教える機会	137
7	家庭生活での教育の機会	140
8	家族のほかの人々からの教えによる影響	142
<b>ホームティーチングと家庭訪問</b>		
9	ホームティーチングで教える	145
10	家庭訪問で教える	147
<b>単元E：指導者としての教え</b>		
1	指導することは教えることである	150
2	指導者会での教え	152
3	面接時の教え	153
4	指導者が教師を教えるとき	154
<b>単元F：教授法</b>		
	活動シート	159
	活動の歌	159
	応用の技術	159
	導入（注目を得るための活動）	160
	視聴覚教材（ビデオテープと録音テープ）	160
	ブレンストーミング	160
	バズセッション	161
	事例研究	161
	黒板	162
	朗読	163
	比較と実物を使ったレッスン	163
	実演	164
	ジオラマ	165
	話し合い	165
	劇化	165
	絵を描くこと	166
	具体例	167
	フランネルボード	168
	ゲーム	168
	ゲストスピーカー	169
	講義	170
	当てはめること	170
	地図	171
	暗記	171
	音楽	172
	ナレーションを伴う音楽（歌でつづる物語）	174

	実物を用いたレッスン	174
	オーバーヘッドプロジェクター	174
	パネルディスカッション	174
	紙人形	175
	写真・絵	175
	指人形	176
	質問	176
	朗読劇	176
	復唱	177
	ロールプレー	177
	ローラーボックス	178
	聖句に印を付ける，余白に注釈を書き込む	178
	聖句の暗記	178
	聖句を声に出して読む	178
	聖典中の学習資料	178
	聖典から教える	178
	歌でつづる物語	178
	島	178
	物語	179
	視覚資料	181
	ホワイトボード	182
	ワークシート	182

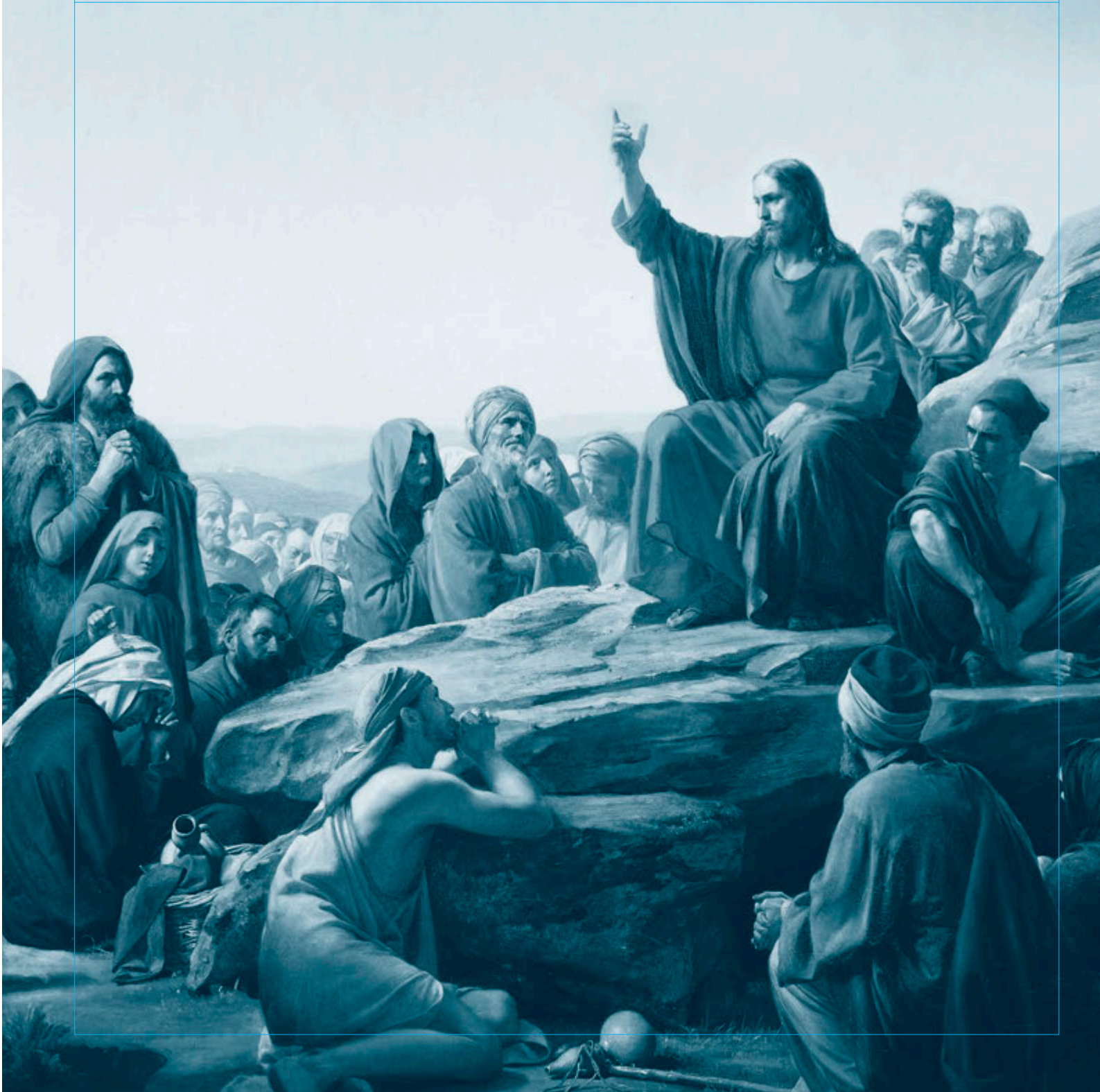
## 単元G：福音の教え方コース

	コース教師用資料	186
	個人と家族によるこのコースの学習	188
	第1課 神の計画における福音を 教えることの大切さ	189
	第2課 生徒を愛する	194
	第3課 御霊によって教える	198
	第4課 教義を教える	203
	第5課 熱心に学ぶように勧める	208
	第6課 学習に適した雰囲気を作る(第1部)	213
	第7課 学習に適した雰囲気を作る(第2部)	219
	第8課 効果的な方法を用いる(第1部)	222
	第9課 効果的な方法を用いる(第2部)	227
	第10課 必要なものをすべての準備する	230
	第11課 才能を伸ばす	234
	第12課 行って、教える	237
	索引	241



A

## 教師としてのあなたの召し





## 神の計画における福音を 教えることの大切さ

教師として、あなたは教育の最高峰に立っていると言えよう。  
なぜなら、福音を教えることほど、永遠の過去から死すべき現世、  
そして永遠の未来にわたる人の人生にとって貴重なものはなく、  
またその影響力は果てしないものだからである。  
あなたが教えることはこの世にかかわるだけでなく、永遠に及ぶのである。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長

1

# 大いなる召し



ジェフリー・R・ホランド長老は総大会でこう語った。「わたしたちは教えてくださるすべての皆さんに大変感謝しています。皆さんへの愛と感謝の気持ちは言葉に尽くせません。皆さんに大きな信頼を寄せています。」ホランド長老はこう続けている。「効果的に教えたり、うまくいっていると感じるようになったりするためには大変な労力を要しますが、その働きには価値があります。わたしたちは『大いなる召し』を受けられるのです。……わたしたち一人一人が『キリストのもとに来』て、主の戒めを守り、主の模範に従い天の御父のみもとに戻るのには、人類が存在する最も高く尊い目的です。そして、人々がこの目的を果たせるよう助けること、すなわち、彼らが贖いの道を歩むよう教え、説き勧め、祈りをもって導くのも、間違いなく人生でそれに次ぐ重要な務めです。以前にデビッド・O・マッケイ大管長が『神の子供たちの教師となる以上に大きな責任はこの世にない』と語ったのも、そのような理由からでしょう。」（『神からこられた教師』『聖徒の道』1998年7月号、28）

## 天父の計画における教育の役割

選択の自由を義にかなって十分に行使するには、救い主とその福音について学ぶ必要がある。天父がその子供たちのために作られた計画の中で福音を教えることがいつも非常に重要な役割を果たしてきたのはそのためである。

わたしたちは生まれる前の霊界において「最初の教えを受け、主の定められたときに出て行って人々の霊の救いのために主のぶどう園で働く準備をしたのである。」（教義と聖約138：56）アダムとエバがエデンの園から追放された後、主は天使を遣わし

て贖いの計画をお教えになった（アルマ12：27-32参照）。後に主はアダムとエバに、これらのことを子供たちに「率直に教え」るように命じられた（モーセ6：57-59参照）。

福音のすべての神権時代において、主は贖いの計画を教えるように命じられた。主は天使を遣わし（モーサヤ3：1-4；モロナイ7：29-32；ジョセフ・スミス—歴史1：30-47参照）、預言者を召し（アモス3：7参照）、聖文を授け（教義と聖約33：16参照）、民が聖霊の力によって真理を知ることができるように助けられた（1ニーファイ10：19；モロナイ10：5参照）。また主は従う者たちに、福音を家族にも（申命6：5-7；モーサヤ4：14-15；教義と聖約68：25-28）、教会員にも（教義と聖約88：77-78、122参照）、そして完全な福音をまだ受けていない人々にも（マタイ28：19-20；教義と聖約88：81参照）宣べ伝えるように命じられた。

教会で福音を教えることの大切さについて、ゴードン・B・ヒンクレイ長老は次のように述べている。「教会のプログラムの基本は教会員に福音を教えることです。設立以来教会に課せられてきたこの義務を果たすために、教会は偉大な教育組織を發展させてきました。すなわち、メルキゼデク神権とアロン神権の定員会、世界各地で推進されている教会運営の学校制度、補助組織……です。これらすべては民の教育に関して重要な役割を担っています。」（*Conference Report*, 1962年10月、72-73）

## すべての会員が教師である

復活された救い主はニーファイ人にこうお教えになった。「あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行くのをあなたがたが見た、その行いである。」（3ニーファイ18：24）この教えの中で主は、主の声を聞いた人を区別されることはなかった。全員に教えるよう命じられたのである。

それは今日でも同じである。福音を教える責任は、教師としての正規の召しを受けている人に限られない。皆さんは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、福音を教える責任がある。親や息子、娘、夫、妻、兄弟、姉妹、教会指導者、クラスの教



師，ホームティーチャー，訪問教師，仕事の同僚，隣人，友人として，皆さんには福音を教える機会がある。話す言葉や証によって人々の前で直接教えることもあるが，常に模範を通して教えている。

主は言われた。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと，これがわたしの業であり，わたしの栄光である。」（モーセ1：39）神の子の救いと昇栄において福音を教えることがどのような役割を果たすかについて考えるとき，これ以上に気高く神聖な務めがほかにあるだろうか。教師の召しには理解を深め，教える技術を高めるための熱心な努力が求められる。しかし，主が命じられた方法で教えるならば，主が皆さんの力を増し加えてくださる。教えることは愛の働きであり，人々が選択の自由を義にかなって使ってキリストのもとへ行き，永遠の命の祝福を受けるのを助ける機会なのである。



## 2

## 魂に養いを与える



復活された救い主はガリラヤの岸辺でペテロに、「わたしを愛するか」と3度お尋ねになった。ペテロの答えは3度とも同じであった。「わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです。」主はペテロの言葉にこう答えられた。「わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を飼いなさい。……わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ 21:15-17)

ペテロへの主のこの教えは、主の奉仕の業に召されたすべての人に当てはまる。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう書いている。「地には飢えがあります。そしてほんとうの渇き、すなわち主の言葉へのひどい飢えと、御霊にかかわる事柄への満たされない渇きがあります。……世の人々は霊的な食物に飢えているように思います。魂に養いを与えるのは、わたしたちに与えられた義務であり、機会でもあります。」(「霊を養い、魂に養いを与える」『聖徒の道』1998年10月号、アモス8:11-12も参照)

### イエス・キリストの福音——魂を養う永続的な糧

肉体の生命を保つために栄養が必要なように、霊の生命を保つにはイエス・キリストの福音が必要である。わたしたちの魂は、キリストについて語り、わたしたちをキリストのもとに導くあらゆるもので養われる。それは聖典の中に記されたものでも、末日の預言者が語ったものでも、神の謙遜な僕たちが教えたものでも変わりがない。救い主はこう言われた。「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」(ヨハネ6:35)

魂の栄養となる教えは人を鼓舞し、信仰

を築き上げ、人生のチャレンジに立ち向かううえでの自信を与えてくれる。また、罪を捨ててキリストのもとに来るように、また主の名を呼び求め、主の戒めを守り、主の愛に包まれて生活するように啓発する(教義と聖約93:1;ヨハネ15:10参照)。

### 魂を養わない教え

興味深く、重要で、生活に密着したテーマであっても、魂の養いにならない教えは多い。そのような事柄を教えるのはわたしたちの使命ではない。わたしたちは人を高める教え、神の王国と人類の救いに関する原則を教えるのである。

霊に語りかけることなく知性にのみ訴える教えは、人を養うことはできない。また、回復された福音の真理に対して、あるいはその真理に心と勢力と思いと力を尽くして献身する必要性に対して疑念を抱かせる教えは、いかなるものでも人を養うことはできない。

ブルース・R・マッコンキー長老はこのように勧告している。「救いの教義を教え、霊の食物を与え、主が神の御子であられることを証しなさい。これらに結びつかない事柄すべては、啓示によって召されている真の教師にとって価値がない。教会が命のパンによって養われていなければ、教会員は義の道を歩むことができない。」(Doctrinal New Testament Commentary, 全3巻 [1966-73年], 第2巻, 178)

### 人を養うという難題にこたえる

中には福音の原則を聞くことに関心を示さないように見える人もいる。そのような人に対しても原則をどのように教えたらよいかを、祈りをもって研究する必要がある。人々が「神の善い言葉で養われ」るように助けるとい目標をいつも忘れてはならない(モロナイ6:4)。

あなたが教える人々は、ヤコブの井戸でイエスに会ったサマリヤの女と似ているかもしれない。彼女は最初にイエスに話しかけられたとき、主がどんな御方であるか認識できなかった。しかしイエスは彼女を知っておられた。彼女の関心や責任、悩み、心配事を理解しておられたのである。主は彼女が「命の水」を求めているのを知っておられた。それは主のみがお授けになれる

スペンサー・W・キンボール大管長はこう語っている。「何年前にわたしたちはある国を訪問しました。その国では奇妙なイデオロギーが教えられており、また邪悪な教えが学校や政府の統制下にある新聞を通じて毎日広められていました。子供たちは毎日、そのような教えや、原理、考え方を教師から吹き込まれていました。」

『点滴岩をもうがつ』ということわざがあります。わたしはそれを知っていたので、子供たちに関して次のように質問しました。「子供たちは信仰を守っていますか。教師の絶え間ない圧力に子供たちは屈してしまわないですか。あなたはどのようにして、子供たちが神を信じるという純真な信仰から離れないと確信できますか。」

答えは次のようなものでした。「わたしたちは傷つけられた貯水池を毎晩修復しています。子供たちが偽りの原理に支配されないように、積極的に義を行うよう教えています。子供たちは外部からとてつもなく大きな圧力を受けていますが、信仰と義の中で成長しています。」

たとえ亀裂の入ったダムであっても、修復して、崩壊を防ぎ、さらに砂袋を置いて洪水が起きないようにすることができます。真理を繰り返し述べ、繰り返し祈り、福音を教え、愛を表し、親が関心を示すことによって、子供を救い、正しい道に踏みとどまらせることができるのです。」(Faith Precedes the Miracle [1972年], 113-114)

ものだった。主は水を飲ませてくれるように頼んだ後でこう語られた。「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」彼女の関心は高まった。彼女は主がお教えになったことに心からの関心を示したのである。そこで主が御自分はメシヤであると証されると、彼女は主を信じ、民の間に出て行って主について証をした(ヨハネ4:1-30参照)。

中央初等協会第二副会長として働いたスーザン・L・ワーナー姉妹は、自分の体験をこう語っている。「我が家では、朝早く聖文の勉強会を開くよう努めてきました。しかし息子が嫌がるのをなだめすかして起こすのによく苦労しました。やっと起きて来ても、頭をテーブルの上に伏せてしまうのでした。何年後に、伝道中の息子から届いた手紙にはこう書いてありました。「聖文について教えてくれてありがとう。伝えておきたいことがあります。あのころいつも頭を伏せて眠っているようなふりをしていたけど、実は目をつぶったまま聞いていたんです。』」

ワーナー姉妹はこう続けた。「両親や教師の皆さん、子供たちに霊的に豊かな思い出をたくさん作ってあげようとする努力は決して無駄にはなりません。時には、まいた種が何年たっても実を結ばないこともあります。いつかはそのような子供たちも、御霊に関する事柄を受けたり聞いたりしたことを思い出してくれます。また自分が知っていることや感じたことを思い出しましょう。自分は天父の子供であり、天父が神聖な目的をもって地上に送ってくださったことを思い起こすでしょう。」「(「どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起こす」『聖徒の道』1996年7月号, 90)

若人に教えるときに、彼らは福音の教義や原則について話したくないのだと考えることがある。そこで単に彼らと仲良くなり、友達のことや学校でのことを話して楽しく過ごそうという思いに駆られる。これは重大な過ちと言えよう。J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長はこう述べた。

「教会の青少年は、御霊に関することに飢えている。福音を学びたいと熱心に願っ

ている。あるがまま純粋な福音を望んでいる。

あなたがたのところへ来るこれらの生徒たちは、皆さんが彼らに正しい食物を与えさえすればすぐに到達する成熟した状態に向かって、霊的に成長している。

……あなたがたは、こっそり〔彼らの〕背後に回って、宗教について耳もとでささやく必要はない。まっすぐに顔を合わせて話し合えばよいのである。宗教的な真理を世俗的な事柄で覆い隠す必要もない。あるがままの真理を包み隠さず教えればよいのである。……段階的に教えたり、童話のようにして教えたり、甘やかしたり、過保護にする必要は毛頭ない。」(The Charted Course of the Church in Education, 改訂版 [パンフレット, 1994年] 3, 6, 9)

ある教会員が日曜学校の12-13歳のクラスを教えるように召された。彼女の夫が後に記しているところによれば、彼女はかなりの時間を使って「主食」の部分を教え、生徒たちにとって楽しい「デザート」の部分は後にしたとのことである。彼女がどのようにしてクラスの若人の魂を養っていったかについて夫はこのように書いている。

「彼女は、生徒らに栄養を摂取し、成長するには食物が必要であることを教え、自分の聖典を持参することと、王国の偉大な教義について考えることを奨励しました。

このような変化を実現させるには時間がかかりましたが、大切なことは、生徒は自分たちが福音によって養われることがほんとうに必要であり望んでいること、そして聖文と御霊を通して与えられる栄養は実際に自分たちの支えとなることを信じ始めたことでした。それから数か月間、変化が徐々に起きてきました。生徒はよく聖文を持参するようになり、進んで福音について話し合うようになり、福音のメッセージが持つすばらしさを感じ始めました。

両親は〔彼女に〕クラスで何が起こったのか、子供たちがなぜ自分から進んで教会に聖典を持って行くようになったのか、さらには冗談めかして、日曜日の夕食時に子供たちからその日に教わった福音の教義や原則について質問されたときに、どう答えたらよいかを尋ねるようになったのです。生徒たちは福音を熱心に求めていました。なぜならば、どの食べ物が生徒の栄養となり、どのような方法で与えたらよいかを理





解している教師が彼らの傍らにいたからです。」(ジェリー・A・ウィルソン, *Teaching with Spiritual Power* [1996年], 26-27)

幼い子供に福音を教える場合は、困難だと思えることもあるだろう。しかし、幼い子供でも福音の真理を必要としているし、聞きたいと思っている。子供は、温かみがあって変化に富み、熱意のあるレッスンをやる努力にこたえるものである。ある初等協会の教師は次のような経験について語っている。

「確かに、思ってもみなかったことが起こりました。しかし、それはわたしが教えていた9歳の子供たちにとって何がほんとうに大事なことを教えてくれました。彼らは無意識のうちに自分たちだけでレッスンを進めていったのです。それはケイティーから始まりました。彼女はテキストの中にある救いの計画に関する一つの質問に答えると、それに関連して自分自身の疑問を出しました。すると、別

の生徒が手を挙げてケイティーの質問に答えて、ケイティーが理解できるように助けました。次にジョンが同じテーマで、しかもケイティーの質問をもっと掘り下げる質問をしました。すると一人がそれに答え、今度はカーリーがそれに関連した質問をしました。このようにして、残りの時間はすべて、子供たちによる質疑応答となりましたが、それは彼らの年齢をはるかに超える内容のものでした。だれかがじゃまをすることも、発言の順番を乱すこともありません。彼らの正直で率直な意見にわたしが時折補足をするといった感じで、テキストの内容がすべて網羅されました。子供たちは好奇心にあふれ、答えを欲しがっていました。心からの関心を示したのです。よく考えて理解していなければ、あのような発言は出ないはずですが。そのときわたしは、これらの天父の子供たちは、福音がもたらす真理を学ぶ準備ができていて、しかも学びたいと強く思っていることが分かったのです。」



3

## 神から託された教師の使命



「熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、あなたがたが理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。」(教義と聖約88：78)

以下は1977年にブルース・R・マッコンキー長老が教会日曜学校部門を対象に語った話の抜粋である。この抜粋はマッコンキー長老が直接語った話の引用である。

わたしたちはどのような場合にも主を代表して教えて〔おり〕、わたしたちは主の福音を教えるために召されている。わたしたちは主の代理人であり、主の望んでおられる事柄のみを語る権限が与えられている。

代理人とはその主人を代表する者であり、個人の権能は持っていない。代理人は、ほかの人の名前で行動し、言われたことを行い、言うべき事柄を補足したり削除することなくそのまま語る責任がある。

主の代理人であるわたしたちは、主を代表する者である。主は次のように述べておられる。「さて、あなたがたは代理人であるので、主の用向きを受けている。そして、あなたがたが主の思いに従って行うことは何であろうと、主の業務である。」(教義と聖約64：29)

わたしたち教師の業務は、主の教義を教えることであり、それ以外の何ものをも教えるてはならない。主の教義を教える以外に、わたしたちが人々を救う道はない。わたしたち自身には人を救いに導く力はないし、人を贖い、復活させ、救い得る律法や教義を作り出す力もない。これらの事柄を行うことができるのは主をおいてほかにはいない。そしてわたしたちは、これらの事柄やそのほかあらゆる福音の教義に関して主が明らかにしておられる事柄を教えるように召されているのである。

それでは、わたしたちは、福音を教えるに当たって何を行う権限が与えられているのだろうか。わたしたちの使命は何か。ここで教師の神聖な使命について5項目にわたって以下に要約してご紹介しよう。

1. わたしたちは命じられている。教師

という使命について、わたしたちには一切選択の余地が許されていない。わたしたちは、福音の原則を教えるよう命じられているのである。

「教会の律法」と呼ばれる啓示の中で主は、「この教会の長老と祭司と教師は、わたしの福音の原則を教えなければならない」と言っておられる(教義と聖約42：12)。主は多くの啓示を通して「わたしの福音とわたしの言葉とを教えなさい」と述べておられる。またその際「預言者たちや使徒たちが書き記したことで、信仰の祈りによって慰め主により教えられることのほかは何も語ってはならない」と警告しておられる(教義と聖約52：9)。

わたしたちは、自分の知らないことを教えることはできない。福音を教えるに先立って必要なのは、福音を研究することである。神はわたしたちに次のように命じておられる。

「聖文を調べなさい。」(欽定訳ヨハネ5：39)

「これらの戒めを調べなさい。」(教義と聖約1：37)

「わたしの言葉を大切に蓄え」なさい(ジョセフ・スミス—マタイ1：37)。

「わたしの言葉を研究しなさい。」(教義と聖約11：22)

「預言者の書を調べなさい。」(3ニーファイ23：5)

「あなたがたはこれらのことを調べなさい。まことにわたしは、これらのことを熱心に調べるようにという戒めを、あなたがたに与える。」(3ニーファイ23：1)

「わたしの言葉を告げようとしなさい、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。」(教義と聖約11：21)

わたしたちは、1日に6ページ〔訳注——英文の場合。邦訳では9ページ〕の割合で読めば、1年間に四大標準聖典を読破することができる。しかし、熱心に聖文を探求し、厳粛に思い計るためには、より多くの時間を要するであろう。

聖文を読み、よく思い計り、祈ることによって、ほかの方法では決して得ることのできない知識と霊的な経験とを得ることができる。どれほど献身的かつ活発に教会の運営に関与していようと、聖文を学び、そこに書かれている主の言葉を個々の生活に生かそうとしなければ、聖文の学習を通して得られる偉大な祝福を得ることはできない。

2. わたしたちは、教会の標準聖典に記されているとおりに福音の原則を教える必要がある。

教会の律法の中で、主は次のように言っておられる。「この教会の長老と祭司と教師は、『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない。」(教義と聖約42：12)

さらに主は、御霊の導きを受ける必要があることと、それだけにとどまらず再び福音の真理を載せた聖典に心に向けるべきことを次のような御言葉をもって明らかにしておられる。「わたしの聖文のすべてが与えられるまで、あなたがたの教えることについてわたしが命じたとおりに、以上のことをすべて守って行うようにしなければならない。」(教義と聖約42：15)

この啓示が与えられた当時、末日聖徒に与えられていた聖典は、聖書とモルモン書だけであったが、今日では、教義と聖約、高価な真珠をさらに頂いている。また今後、時に応じてさらに別の啓示が与えられることは確かである。

3. わたしたちは、聖霊の力によって教えなければならない。標準聖典に見られるように、福音の原則を教えるようにとすべての教師に命じられた主は、以下のような言葉を添えておられる。「御霊に導かれるままに、これらを彼らの教えとしなければならない。」

さらに主は次のようにはっきりと述べておられる。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」

また主はこの指示に伴って次のような約束をお与えになった。「あなたがたは慰め主によって声を上げるとき、わたしがよいと思うままに語り、預言するであろう。見よ、慰め主はすべてのことを知っており、父と子のことを証するからである。」(教義と聖約42：13-14, 16-17)

教える場はそれぞれに異なるであろうが、すべての教師はこの次に示された基準に従って自らをよく吟味する必要がある。

主イエスがこの場におられたとしたら、主はこの状況において完璧な話をされることであろう。

しかし主はここにはおられず、御自分の代理人としてわたしをこの場にお遣わしになった。

したがってわたしは、主がここにおいでになったら語られるであろう事柄を語り、主が望んでおられるとおりのことを語るなければならない。

そのための唯一の方法は、主がわたしに何を望んでおられるかを明らかにしていただくことである。

そうした主の御心は、主の御霊の力によってのみわたしにもたらされるのである。

したがってわたしは、主の代理人として、わたしの能力の範囲内で教えるためには、ぜひとも御霊の導きを受けなければならない。

御霊の力によって福音の真理を教えるというこれらの原則は、別の啓示の中でさらに明らかにされている。主は質

疑応答の形で、次のように示しておられる。

質問：「主なるわたしはあなたがたにこう尋ねる。すなわち、『何のためにあなたがたは聖任されたのか。』」(教義と聖約50：13)

この質問は次のように言い換えることができよう。「あなたがたの使命は何か。わたしはあなたがたに何を行う力を与えたのか。あなたがたはわたしより何の権能を受けたのか。」

答え：「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、わたしの福音を宣べ伝えるためである。」(教義と聖約50：14)

これは次のように言い換えることができる。「あなたがたの使命、権能、および任命されて行うべき務めとは、世の哲学に惑わされることなくまた個人的な見解を挟むことなく、わたしの福音、わたしの永遠の福音を、御霊の力によって、またわたしが与えた戒めに従って教えることである。あなたがたはもし御霊を受けなければ教えるはならない。」

質問：「わたしから聖任され、慰め主すなわち真理の御霊によって真理の言葉を宣べ伝えるために遣わされる者は、真理の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。」(教義と聖約50：17)

これに対する主御自身による回答に耳を傾ける前に、次の点に注目していただきたい。すなわち主はここで、福音、真理の言葉、救いの原則について語っておられる、ということである。主は、世の教義や、人の戒め、および救いをもたらす力のない無益なものに対する執着については一切語っておられない。

主の問いを分かりやすく言い換えると、福音を説き、真理の言葉を教え、救いに関するまことの教義を教えるために出向くときに、わたしたちは、聖霊の力によってそれらのことを行うか、または別の方法で行うかということである。ところで真理を「ほかの方法」で教えるとは、知識によって教えるということである。

さてその答えはこうである。「もしそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。」(教義と聖約50：18)

この御言葉をさらに分かりやすく解明してみたいと思う。すなわち、わたしたちの教えることが真実であっても、御霊の力によって教えないならば、神から出てはいないということである。主の御霊がなければ、生徒の心を変えることも、霊的な経験をさせることもできない。

質問：「さらにまた、真理の言葉を受け入れる者は、真理の御霊によってそれを受け入れるか、それとも何かほかの方法によって受け入れるか。」(教義と聖約50：19)

答え：「もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。」(教義と聖約50：20)

わたしが始めに、この話によって皆さんの心を変えるためには、わたしが御霊の力によって語ると同時に、皆さんも御霊の力によってわたしの話を聞き、吸収すべきであると申し上げたのは、この理由によるのである。そうして初めて、「説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者とも



に教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約50：22)

4. わたしたちは、福音の原則を生徒たちの必要としている事柄や環境に適用させなければならない。

福音の原則は決して変わることがない。いかなる世であっても不変である。一般に、人々の必要とする事柄は時代にかかわりなく、少しも変わっていない。世の初めから多くの人々に降りかかる問題はいつも共通していた。したがって、永遠の原則をわたしたちの抱えている問題に適用させることは何も難しいことではないのである。立派な結果を望むならば、この真理を抽象的なものから個々の生活に生かすようにしなければならない。

ニーファイはモーセの書とイザヤの記述から引用して、次のように述べている。「すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにするためであった。」(1ニーファイ19：23) すなわちニーファイは、モーセとイザヤの教えをニーファイの民の必要としている事柄に適用させようとしたのである。

5. わたしたちは、教える事柄が真実であることを証ししなければならない。

わたしたちは証を述べる民である。わたしたちの開く集会は、わたしたちの携わっている業が真実であるという厳粛な確信で満たされている。わたしたちはイエスが主であること、ジョセフ・スミスが主の預言者であること、また末日聖徒イエス・キリスト教会が「全地の面に〔おける〕唯一まことの生ける教会」(教義と聖約1：30)であることを熱意と確信をもって証ししなければならない。

この点でわたしたちは非常によくその使命を果たしていると思う。しかしわたしたちはさらに努力する必要がある。御霊の力によって教える靈感あふれる教師は、自分の教える教義が真実であることを証するように求められている。

この面でアルマはわたしたちにすばらしい模範を示している。彼は、再び生まれるということについて、人々に力強く教えを説いた。アルマは、命じられたとおりに、聖文を引用し、真理を率直に語ったと述べている。

「そしてこれだけではない。あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っていることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。」(アルマ5：45)

この証、すなわち自分の教えている教義が真実であるという個人的な証こそ、福音を教える際の最高の刻印となるのである。

だれが証に対抗できるであろうか。不信者は、わたしたちの奉じる教義について論議を引き起こすかもしれない。彼らは聖文を曲解して破滅の道を歩んでいるのかもしれない。またまったくの知的観点からあれこれ解釈することもあろう。しかし彼らは証を打ち破ることは決してできない。

たとえわたしが、主がこの世で生活しておられた間にメシヤに関するイザヤの預言が成就したことをあれこれ採り上げて語ったとしても、多くの人々が、それを論議し世の知恵ある人々による別の見解をわたしに突きつけようと、

てぐすねひいていることであろう。しかしわたしが、メシヤに関する事柄は神の御子ナザレ人イエスにかかわるものであることを自分は聖なる御霊の啓示によってはっきりと知っていると言ったら、どこに議論を差し挟む余地があるのか。そこでわたしがこの教会で教えている教義的な面に関する個人的な証を述べるならば、わたしと同様聖なる御霊に波長を合わせてわたしの証に耳を傾けるすべての人は、わたしの語っている事柄が真実であることをその心にはっきりと知ることができるのである。

自分の教えた事柄が真実であることを証したアルマは次のように述べている。「あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであることを知ったと思うか。見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。」(アルマ5：45-46) これはすべての教師が従うべき一つの模範である。

さてこれまでの話から、主の代理人としてのわたしたち教師のあるべき姿と神聖な使命についてお分かりいただけたことと思う。

すなわち教師は、以下の事柄を行うために召されたと言えよう。

1. 福音の原則を教えるに当たって、
2. 標準聖典を活用しながら、
3. 聖霊の力によって、
4. 教えを個々の必要としている事柄に常に適用させ、
5. その教えが真実であることを証する。

さて、ここでもう一つだけ申し上げるべきことがある。それはわたしがここで述べた概念が真実であることと、それに従うことによりわたしたちは人々を改心させ救いへと導く力を得ることを証することである。

主はわたしたちに、聖文に記されている福音の原則を教えるようにと命じられた。

ただし、わたしたちが聖なる御霊の力によって教えるのでなければ、その教えは神によるものではないことを明らかにされた。

主はわたしたちが永遠の真理の原則を個々の生活に適用するよう望んでおられる。

わたしたちは、耳を傾けるすべての人に、わたしたちの教えは永遠の神から与えられたものであることと、この教えが現世にあっても来るべき永遠の世にあっても人々を平安へと導くものであることを証しなければならない。

教師であるすべての人々は、この神聖な方法に従って教えなければならない。

わたしはこれらのことをはっきりと知っている。すべてを主イエス・キリストの名により申し上げる、アーメン。



## 霊的な備え

---

「モーサヤのこの息子たちは、……正しい理解力を備えた人々であり、  
また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、  
すでに真理を深く知るようになっていた。

そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、  
預言の霊と啓示の霊を受けていた。  
そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた。」

アルマ17：2-3

4

## 慈愛の賜物を求める



地上での務めを終える間に、イエスは弟子たちにこう言われた。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ13：34) この言葉は当時も今も、福音を教える者にとって重要な勧告となっている。

使徒パウロは、慈愛すなわちキリストの純粋な愛の必要性をこう強調している。「たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。」(1コリント13：1-3)

キリストのような愛を身に付けていれば、福音を教えるためにより良い備えができる。慈愛を身に付けた人は、ほかの人が救い主を知り、主に従うのを助けるように靈感を受けるからである。

### 慈愛の賜物を受けるためにできること

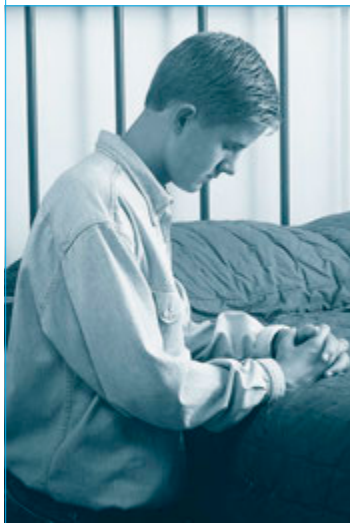
心を愛で満たせるように祈り求めるとき、奉仕を行うとき、人の中に長所を見つけようとするとき、慈愛の賜物を得ることができる。

心を愛で満たせるように祈る。預言者モルモンはこう勧告している。「この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。したがって、……この愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ7：47-48) 必ずしも祈りがすぐにこたえられてキリストの純粋な愛が感じられることはないかもしれないが、義にかなった生活をし、祝福を求めて心から謙遜に祈り続ければ、必ずこの賜物を得ることができるであろう。

奉仕をする。奉仕は人々への愛をはぐくむ。救い主の模範に従って、自分の利益を後回しにして人のために奉仕をすると、わたしたちは御霊を受けやすくなる。教える生徒のために祈り、どのような必要を抱えているかを思い巡らしながらレッスンの準備をすれば、生徒へのあなたの愛は深まる。(教える人々への奉仕のその他の方法については「個人に手を差し伸べる」35-36ページ参照)

人の長所を見つける。人の長所を見つけるようにすると、その人が神の子であることへの理解が深まる。御霊の力によりその理解が真実であることが確信できるようになり、その人をさらに理解し愛せるようになる。

## 御霊を求める



ブルース・R・マッコンキー長老はこう書いている。「聖霊の賜物を受けることができるのであれば、どのような代価も高くはないし……どのような苦難もつらくはないし、どのような犠牲も大きくはない。」(A New Witness for the Articles of Faith [1985年], 253)

### 御霊を受け入れるような生活をする

聖霊の賜物を受けた後、御霊を伴いとするにはどうしたらよいだろうか。ダリン・H・オクス長老はこう述べた。「御霊によって教えるには、まず、わたしたちが戒めを守り、わたしたち自身の宮に神の御霊が住むことができるよう、神の前に清い生活をする必要があります。」(「御霊によって、教え、学ぶ」『リアホナ』1999年5月号, 15)

神の前に清くなるには、すべての行いにおいて救い主を思い起こし、常に真の弟子として行動しなければならない。罪を悔い改める。そして「徳高いこと、好ましいこと、誉れあること、称賛に値すること」を求め(信仰箇条1:13)。日々聖文を研究し、誠実に「神の善い言葉で養われ」ることを求める(モロナイ6:4)。良書を読み、心を鼓舞し啓発する音楽を聴く。また、教会に出席し、聖餐にあずかり、できるかぎり神殿に参入することにより、「聖なる場所に立」つ(教義と聖約45:32)。それに、家族や隣人のために奉仕する。

ボイド・K・バッカー長老はこのように教えている。「申し分のない強い霊性であっても、その置かれた環境がもたらす非常に微妙な変化に反応するのです。」(“I Say unto You, Be One,” *Brigham Young University 1990–91 Devotional and Fireside Speeches* [1991年], 89)

わたしたちは聖霊を遠ざけてしまうものをことごとく避けるように注意しなければ

ならない。これには適切でない軽薄な会話や娯楽を絶つことが含まれる。衣服も節度のないものであってはならない。たとえ無駄話であっても人を傷つけるようなことがあってはならない。また、神の名をみだりに口にしたり、粗野な言葉を用いたりしてはならない。さらに、主によって選ばれた僕に反抗したり批判をしてはならない。

### 御霊を伴いとして受け入れる祝福

天父は御霊を授けてくださる前に、わたしたちが完全になるよう求めてはおられない。義なる望みを持ち、最善を尽くそうと忠実な努力を重ねるとき、天父はわたしたちに祝福を与えてくださる。エズラ・タフト・ベンソン大管長はそうした祝福の幾つかについてこう述べている。

「聖霊はわたしたちの感情を和らげてくださいます。またわたしたちは聖霊の力によって、お互いの愛と思いやりを深め、穏やかな気持ちで人に接することができるようになります。わたしたちは今よりももっと強く愛し合えるようになるのです。御霊の影響力は顔の表情の輝きとなって表れ、人々を引きつけます。またわたしたちは御霊の力を通して、人格を築き、さらに神に近づいていくことができるのです。その結果、聖霊のささやきにもっと敏感になり、霊的な事柄をいっそうはっきりと理解できるようになります。」(「主のみたまを求めなさい」『聖徒の道』1988年9月号, 5)



6

## 御言葉を得ることを求める



1829年5月、アロン神権が回復された直後に、預言者ジョセフ・スミスの兄ハイラム・スミスは自分の働きはどのようなものになるのか非常に気がかりになった。ハイラムはジョセフに自分〔自身〕が偉大な回復の業においてどのような位置を占めるのか尋ねた。(ピアソン・H・コーベット, *Hyrum Smith—Patriarch* [1963年], 48) 主はその謙虚な望みにこたえられ、預言者を通じてハイラムに啓示を下された。その一部は福音を教える備えに当てはまる。

「わたしの言葉を告げようとしなさい、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11：21)

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、この勧告が「教える際に神の力を得る順序を説明している」と語った。「……まず神の言葉を得ることを求めなさい。すると、理解と御霊が与えられ、そしてついには説得する力がもたらされる。」(*The Gospel Teacher and His Message* [宗教教育者への説教, 1976年9月17日], 5)

### 研究と信仰により学ぶ

主は神の言葉を得る方法を告げておられる。「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」(教義と聖約88：118) わたしたちは信じる心と学んだ原則に従う決意をもって聖文を熱心に研究することにより、この命令に従う。また、祈りと断食をもって聖文を研究するときに、この命令に従うことになるのである。

### 熱心な研究

ダリン・H・オークス長老はこう勧めている。

「聖文を読むことによって主の御霊と波長を合わせることができます。

わたしたちは聖文を読むことが啓示を受ける助けとなると信じています。このため、わたしたちは何度も何度も聖文を読むよう勧められているのです。この方法によって、わたしたち個人の生活において今、天父はわたしたちが何を知り、何を行うよう望んでおられるかを知ることができるのです。末日聖徒が毎日聖文を研究することを大切に行っている理由の一つがここにあります。」(“Scripture Reading and Revelation,” *Ensign*, 1995年1月号, 8)

聖文を定期的に研究し、御霊の導きを熱心に求めるならば、レッスンをどう準備するかについて理解の目が開かれる。また、レッスン中に御霊の導きを受けてそれに従うための備えもできる。「ただ絶えず命の言葉を〔わたしたち〕の心の中に大切に蓄えるように〔するならば、〕……〔わたしたち〕に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」(教義と聖約84：85)

### 信じること

モルモンは「疑ってはならない。信じなさい」(モルモン9：27)と忠告している。このような態度で聖文の研究を行うべきである。例えばヤコブの手紙1：5を読んだジョセフ・スミスには信じる心があったために、神に知恵を求めるように導かれた。彼は聖文の指示どおり、どの教会に加わるべきかを主に尋ねた。ジョセフに信じる心があったので、祈りの答えを受けたのである(ジョセフ・スミス—歴史1：11–17参照)。

### 従順

わたしたちは自分が学ぶ原則に従って生活するよう努力する必要がある。これはたとえ原則を完璧に理解していないとしてもそうである。主が言われることに信頼を置けば、わたしたちの福音の知識は増す。主は言われた。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも……この教が……わかるであろう。」(ヨハネ7：17)



### 祈りと断食

聖文の研究は小説や新聞、教科書を読むこととは異なる。毎日、聖文研究の前には祈るべきである。主の言葉を読むのであるから、理解が得られるように御霊の導きを得る必要がある。

理解を求めて祈るときに、時折断食が必要となる。アルマは、福音の真理を学ぼうとして断食し、祈った人の良い例である。イエス・キリストの贖罪と大きな改心の必要性について証した後で、アルマはこう語った。「あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っていることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであることを知ったと思うか。見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知るこ

とができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。」(アルマ5:45-46) (「御霊を求める」13ページも参照)

### 聖文を研究する決意を新たにする

ベンソン大管長はこう勧告している。「主の手より受けた偉大な事柄を軽んじないようにしましょう。主の言葉は、主がわたしたちに与えられた最も大切な賜物の一つです。ぜひとも聖文を勉強するという決意を新たにしてください。毎日聖文に親しみ、御霊の力を受けて召しを果たすようにしてください。家族の中で聖文を読み、子供たちに聖文を愛し大切にしよう教えてください。」(「み言葉の力」『聖徒の道』1986年7月号, 82)

# 7

## 福音を研究するための 個人の計画を作る



M・ラッセル・バラード長老はこう語っている。「わたしたちは聖文と生ける預言者の言葉を研究することによって霊的な知識と理解を深めるために、全力を尽くす義務があります。わたしたちが啓示を読んで研究するときに、御霊は、学んでいることが真実であることをわたしたちの心に確認してください。こうして、主の御声がわたしたち一人一人に及ぶのです。」（「驚くべき主の啓示」『聖徒の道』1998年7月号、36）

以下の提案はバラード長老が勧告している「霊的な知識と理解を深めるため」の研究計画を作るのに役立つであろう。計画は盛りだくさんなものではなく、着実に福音の研究を継続できるようなものにする。計画は忘れないように日記やノートに書いておくとうい。

### 何を研究するか

福音研究の中心は聖典である。聖典の一つの書を通して研究する方法でもよいし、テーマを決めて標準聖典から関連のある箇所を読む方法でもよい。また両方を組み合わせて、通して読みながらテーマを見つけるごとにほかの聖典を参照するやり方もある。さらに、『リアホナ』の総大会特集号やその他の号の末日の預言者の教えを研究するのもよい。

教師として召されている場合は、レッスンのテキストを必ず研究する。

また、福音を研究する際に以下の資料を参照する。(1) メルキゼデク神権、扶助協会コーステキスト、(2) 日曜学校福音の教義クラスで割り当てられている聖文、(3) 『リアホナ』の記事

### いつ研究するか

可能であれば、じゃまをされることなく研究ができる時間を定期的に設ける。ハワード・W・ハンター長老はこう勧めている。

「大勢の人々は、思考を遮る雑多な煩いを忘れ去る一夜の眠りの後の、朝の勉強がいちばん良いと考えている。また、一日の仕事や心配事が一段落した静かな夜のひとときを勉強に費やし、聖典の言葉を味わいながら平安な気持ちでその日を閉じる方が良いという人もいる。

大切なのは、いつ勉強するかという時間帯の問題よりも、決まった時間を勉強のために取るということである。毎日1時間聖文の勉強ができれば理想的だが、それほど時間が取れなくても、定期的に30分間勉強すれば、かなりの成果を得ることができる。また15分といえぼんのわずかな時間だが、短時間の間にどれだけ意義ある事柄についていかに多くの知識と啓発とを受けることができるか驚くほどである。」（「聖典を読む」『聖徒の道』1980年3月号、87-88）

### どのように研究するか

研究を始める前に、深い洞察と理解が得られるように祈る。読んだらその内容について瞑想し、生活にどう応用したらよいかを考える。御霊の促しを認識し、従うようにする。

研究を深めるために、以下の提案の一部またはすべてを活用するとよい。

- 聖句ガイドや聖書のジョセフ・スミス抜粋、地図など、末日聖典の付属資料を活用する（具体的な提案については「聖文から教える」54-58ページ参照）。
- 聖句を読むときに「この節では福音のどの原則が教えられているのだろうか、生活にどう応用したらいいのだろうか」と自問する。
- ノートや日記帳を手もとに置き、思いついたことや感じたことを記録しておくようにする。学んだことをどう応用するか、その決意を文字にする。記録したものは頻繁に読み返す。
- 聖典の章を読む前に章の前書きを読む。前書きは何に注意して読めばいいかを教えてくれる。





- 自分の聖典に印や注釈を入れる。研究している聖句の意味を明らかにしてくれる参照聖句の箇所を余白に書く。
- 自分にとって特に重要と思われる聖句は暗記する。
- 聖句の中の名前を自分の名前に置き換えて読んでみる。
- 研究が終わったら、学んだことへの感謝を表すために祈る。
- 学んだことを分かち合う。これは学んだことを整理し、記憶力を高めるのに役立つ。

### できることを行う

ある教会員は特定の福音学習プログラムに何度も挑戦したが、いつもうまくいかなかった。後に彼女はこう語っている。

「子育てもありましたし、教会の責任も果たさなければなりませんでしたが、目標を完全に達成できたことはありませんでした。時間と場所を決めて毎日取り組んだこともありましたが、病気や子供の成長期によくある難しい問

題に中断されてしまいました。当時は、自分が聖文研究をうまくやっているなどとは決して思いませんでした。

そんなある日、母が家にやって来ました。テーブルには教会関係の資料がいっぱい置いてありました。わたしの聖典もあります。母は言いました。『あなたのような方法はいいわね。教会の本をあちこちにいつも開いておけばいつでも読めるから。』

急に自分自身について新しい目が開かれた思いでした。母の言うとおりで。きちんと計画どおりにやってはいませんが、わたしは絶えず聖文に接していたのです。わたしは聖文が好きでした。聖文はわたしの糧でした。台所の壁には、仕事をしているわたしを励ましてくれる聖句や、話の責任を与えられた子供が暗記するのを助ける聖句が張ってありました。わたしは聖文を読みやすい環境の中で生活していました。そして、そこから豊かな恵みを頂いていたことに気づいたのです。」

## 教えることを実践する



福音の教師たちを前にして、スペンサー・W・キンボール大管長はこのような勧告を与えた。「生徒に行くように教えること、すなわち断食し、証を述べ、什分の一を納め、然るべきすべての集会に出席し、時が来れば神殿のセッションに参加し、安息日を聖く保ち、教会の奉仕を惜しまず行い、家庭の夕べを開き、家族の祈りをささげ、心を和らげ、正直であって、高潔であることを、皆さんはすべて実行するのです。」(Men of Example [宗教教育者への説教, 1975年9月12日], 7)

個人の模範はわたしたちが持っている教える手段の中で最も強力なものの一つである。わたしたちは真の改心を遂げると、思いや動機のすべてが福音の原則に導かれたものになる。あらゆる行動を通して真理を証するのである。

ブルース・R・マッコスキー長老は証には義になかった行動が含まれると教えた。

「イエスの証に雄々しくあるとは、キリストとキリストがもたらされた福音に対して揺るぎない信仰を持つことである。すなわち地上で行われている主の業が真実神の業であるとするのである。

しかしこれがすべてではない。イエスの証に雄々しくあるとは、信じることや知ること以上のものである。わたしたちは聞くだけの者ではなく、行う者とならなければならない。口先だけの奉仕とは違う。救い主が神の御子であられることをただ口に出して言うだけでは不十分なのである。従順、原則への一致、そして自ら義になかった生活を送ること、これが雄々しいということである。」(「信仰の戦いに雄々しくあれ」『聖徒の道』1975年4月号, 182)

### 模範の影響力

わたしたちの行動は教える人々の態度に良い影響力を与える。トーマス・S・モンソン管長は次のような体験を紹介している。

「高潔な中央幹部であったH・バーラン・アンダーセン長老の葬儀が行われた折に、息子さんが追悼の言葉を述べました。彼の話は、どこに住んでいるかまた何をしているかにかかわりなく、あらゆる人に当てはまります。……

アンダーセン長老の息子さんは何年前のある土曜日に、学校で主催するパーティ

ーにガールフレンドと一緒に参加したときのことを話しました。彼は父親から家族の車を借りました。鍵を受け取ってドアに向かおうとすると、父親が声をかけました。『明日使うだけのガソリンが入っていないから、帰る前にガソリンを入れて来るのを忘れないでくれ。』

アンダーセン長老の息子さんはそれから、その晩のパーティーがとても素晴らしいものだったと話しました。……けれども、彼はパーティーがあまりに楽しかったため、家に帰るまでに車にガソリンを入れておくように、という父の言いつけをすっかり忘れてしまいました。

日曜日の朝になりました。アンダーセン長老は、ガソリタンクが空になったままであることに気づきました。息子さんは父親がテーブルの上に車の鍵を置いたのを見ました。アンダーセン家では、安息日は礼拝と感謝の日であって、買い物をする日ではありませんでした。

アンダーセン長老の息子さんは弔辞を続けました。『わたしは父がコートをはおり、家族に出かけることを告げると、教会までの長い道のりを歩いて行く姿を見送りました。その日は早朝から集会が開かれることになっていました。』アンダーセン長老は義務を果たすために出かけました。彼は自分の都合のために真理を曲げようとはしませんでした。

アンダーセン長老の息子さんは話を終えるに当たって、このように述べています。『わたしがそのときに学んだ以上に、父親からの教えを効果的に学んだ息子はいないと思います。父は真理を知っていただけでなく、真理に従って生きました。』(「子供たちを教える」『聖徒の道』1998年1月号, 20-21)

わたしたちの行いが悪い影響を与えることもある。例えばアルマの息子コリアントンはゾーラム人を教えるために伝道に出たが、途中でその使命を捨てて重大な過ちを犯した(アルマ39:3参照)。アルマによれば、多くの人々がコリアントンの行動によって道を踏み外している。アルマはコリアントンにこう語っている。「あなたは何と大きな罪悪をゾーラム人に招いたことか。彼らはあなたの行いを見て、わたしの言葉を信じなかった。」(アルマ39:11)

ヒーバー・J・グラント大管長はこのよ





うに述べている。「イエス・キリストの福音を教える務めを与えられているすべての男女が福音に従って生活し、神の戒めを守るようお願いしたいと思います。こうすることにより彼らは模範によって教えるのです。」(*Gospel Standards* [1941年], 72)

あなたが教えることを実践し模範を示すときに、

- あなたの言葉は御霊によって響きわたり、教えを受ける人々の心にあなたの証を伝えるのである (2ニーファイ 33:1参照)。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は「いかなる男女も自分が実践していないことを御霊によって教えることはできない」と記している (*Church History and Modern Revelation*, 全2巻 [1953年], 第1巻, 184)。
- イエス・キリストの言葉を日常生活で実践できることをほかの人が分かるように助ける。
- 福音を実践することから感じる平安と喜びが表れる。それは表情や言葉、力強い証の中に見られる。
- あなたが教える人はあなたを信頼し、あなたが教えることを容易に信じるようになる。
- あなた自身の証が増す。救い主はこう教えられた。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、……この教が……わかるであろう。」(ヨハネ7:17) あなたは教えようとしている原則についての理解が不足していると感じるかもしれない。しかし、祈りをもって研究し、

その原則を実践するように努力し、教える準備をし、そしてそれを人に分かち合うとき、あなた自身の証は強く、深くなる。

### 福音を実践するように努力する

福音を教えるには、準備や提示以上のことが求められる。リチャード・G・スコット長老はこう説明している。

「天父の大切な子らを教えるあなたの務めは、レッスンの度に長い時間をかけて準備をすることだけでなく、生徒に感銘を与えることができる教師となるために何時間も断食し、祈ることだけでもありません。それは生活のあらゆる瞬間を救い主と主の僕の教えと模範に従って生活すると決意することなのです。それはあなたが、より霊的になり、いっそう献身し、そして主の教えをよりいっそう理解させるようあなたに託された人々の心があなたを通して主の御霊を感じるようになるように、いっそうふさわしい器となることです。そのために絶えず努力すると決意することなのです。」(“Four Fundamentals for Those Who Teach and Inspire Youth,” *Old Testament Symposium Speeches*, 1987年, 1で引用)

あなたはあらゆる点で完全にはならないかもしれない。しかし、自分が教える真理を実践することにより完全に向かって努力することができる。福音の原則に従って生活するように努力し続けるとき、大きな力に満たされてその原則を教えるようになるだろう。



9

# 召され、任命され、 召しを尊んで大いなるものとする



ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「尊んで大いなるものとする」という言葉についてこう述べている。「わたしが思うに、この言葉(magnify)には拡大する、いっそう明確にする、近づかせる、強化するなどの意味があります。」またこう述べている。神権者がその召しを尊んで大いなるものとするとき、彼らは「神権が潜在的に持っている力を拡大しているのです。」(「全力を尽くして召しを遂行するために」『聖徒の道』1989年7月号, 51)

これは教師としてのあなたの召しに当てはまる。力の限りを尽くして勤勉に召しを尊んで大いなるものとするとき、あなたは人々を良い方向へ向かわせる力をさらに拡大するのである。

教えるように召された人々の模範は、リーハイの息子であるヤコブとヨセフであろう。ヤコブは「主から務めを託され」と述べている。彼とヨセフは「民の祭司と教師」として聖別、すなわち聖任された。そして、「主に対して自分たちの務めを尊んで大いなるものとした。」(モルモン書ヤコブ1：17-19)

## 教師としての召しを受ける

教会で教師または指導者としての召しを受ける人は、その召しの主から与えられたものであることを確認することができる。召しは主により選ばれた僕から来るもので、主はこう言われる。「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1：38)

召しは奉仕をする神聖な機会である。召しには主に対して果たす責任が伴う。召しはあなたの生き方に影響を与え、判断を左右し、忠実で賢い僕になるように動機づけるはずである。

教える召しを受けたとき、あなたはこう自分に言ったかもしれない。「教える訓練を受けたこともないし、レッスンをしたり話し合いを進行していく能力なんてない。わたしよりもよくできる人がたくさんいるのに。」多分、あなたよりも経験豊富な人や、生来教えるのが上手な人がいるかもしれない。しかし、召されたのはあなたなのだ。あなたが謙遜で、忠実で、勤勉であれば、主はあなたを御手の器としてくださるであろう。トーマス・S・モンソン管長はこう教えている。

「兄弟姉妹の中で、人々のために奉仕をし、犠牲を払い、祝福をもたらす業に召される備えができていない、あるいはその能力がないと考えている人があれば、この真理を思い出してください。『神は、召す人をふさわしくされる。』すずめの落ちるのさえ心に留められる御方が、僕の願いを顧みら

れないはずがありません。」(「涙、試練、信頼、証」『聖徒の道』1997年9月号, 6)

## 支持と任命を受ける

会衆から支持を受け、任命されると、さらに大きな力を受ける。任命のとき、神権指導者はあなたの頭に手を置き、召しを全うする責任を与える。また、あなたを強め、導くための祝福も授ける。スペンサー・W・キンボール大管長はこのように明言している。「任命すること〔訳注—set apart (分け隔てる)〕には文字どおりの意味があります。それは罪から、俗世から分け隔てることであり、あらゆる下品で、卑しく、墮落した、俗悪な、卑わいなものから遠ざかることであり、世と一線を画して気高い思いを抱き、行動することです。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編 [1982年], 478)

教師としての正式の召しは、正しい神権の権能を持った人による任命なくしては完全ではない。もし召しと支持を受けていても任命されていない場合は、定員会や補助組織の指導者に連絡し、任命の手はずを整えてもらうようにする。

## 召しを尊んで大いなるものとする ことにより、主から力を頂く

前に述べたように、ヤコブとヨセフは人々に教えるという召しを尊んで大いなるものとした。彼らは神の言葉を「力のかぎり」(モルモン書ヤコブ1：19) 教えた。

あなたが召しを尊んで大いなるものになると、主はあなたに力を与えてくださる。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう教えている。「[わたしたちが] 全力を尽くすならば、主の業が失敗に終わることはあり得ません。わたしたちは使われる者にすぎません。これは主の業です。これは主の教会であり、主の福音の計画です。わたしたちが働きかけているのは主の子らです。わたしたちが自分のなすべきことを果たしていれば、主は失敗させるようなことをなさいません。必要であれば、わたしたちの才能や能力を超えて、わたしたちをさらに大いなるものとしてくださいます。わたしはこのことを知っています。多くの人にはわたしと同じような経験をしているに違いありません。それは人にもたらされる最も素晴らしい経験の一つです。」(The Teachings of Ezra Taft Benson [1988年], 372)

## 才能を伸ばす

---

主はわたしたち一人一人がなすべき大いなる業を用意しておられます。

皆さんは、そんなことがあり得るだろうかと思うかもしれません。

自分には、あるいは自分の能力には、

何の特別なものも優れたものもないのにと感じているかもしれません。……

主は、普通の能力の持ち主でも、謙遜で忠実で、熱心に主に仕え、

向上心のある人に大いなる奇跡を起こす力を持っておられます。

神は力の究極の源だからです。

ジェームズ・E・ファウスト管長

# 10

## あらゆる場所で 教えるヒントを見つける



「あなたは御言葉を教え始めているので、今後も教え続けてもらいたい。そして、すべてのことに勤勉であり、自制するようにしてもらいたい。」(アルマ38：10)

あるステーキ会長が花壇の手入れをしながら、間近に迫ったステーキ大会での話について考えていた。家族を強めることについて話す予定だった。

彼の隣家には花作りの名人と思われる人が住んでおり、ちょうど彼女も花壇の手入れをしていた。彼は声をかけた。「花作りの秘訣は何ですか。」

彼女の答えは驚くほど簡単だった。彼女はこう答えた。「いつも花壇のそばにしていることにしているんです。忙しいときでも、とにかく毎日花壇に入ります。そして花壇に入ったら、雑草や虫や土の状態など、問題になりそうな徴候を探すんです。早く見つければ簡単に取り除けても、放っておくとどうしようもなくなりますからね。」

ステーキ会長はなるほどと思った。彼女の花壇の世話の仕方には家族の世活に通じるところがある。彼は大会で隣人の花壇について話した。家族との関係が豊かに花開くためには、花壇のそばにいて、つまり毎日家族と一緒に時間を過ごし、言葉を交わし、感謝の気持ちを表し、手がつけられなくなるうちに解決できる問題の小さな徴候を見つけ出すことが必要なのである。

この話を聞いたある女性は、自分の花壇の花が何本かおれてしまったときのことを思い出した。時間を取って毎日生長の様子に気をつけていなかったのである。彼女はステーキ会長の話を聞いて、子供が成長期にある数年間を大切にすべきであると考えようになった。彼女はステーキ会長の教えによって、良い親へと変わったのである。

ステーキ会長は救い主の模範に従っていた。救い主はよく霊的な真理を身近な日常の事物や行いに比較された。あなたも同じ

ことができる。日々行ったり観察したりしていることの中から教訓を見つけ出すのである。レッスンの内容や教える生徒についてよく考えて祈るときに、あなたの周囲には福音の原則の例や疑問への答えがあふれていることに気づくであろう。

以下の二つは、ほかの教師がどのようにして日々の生活の中から教訓を見つけたかの例である。

ある初等協会の教師は日曜日、教会堂に入って来たある家族に目を止めた。その家族の男の子が彼女のクラスの生徒なのだが、普段は時々ほかの子に意地悪をするのに、妹を助けているのである。「これはすばらしい模範だわ。原則を教えることになるし、あの子にとっても助けになる。」彼女はそう思った。そして彼女は親切をテーマにしたレッスンの中でその例を用いた。子供たちはその模範から学び、その男の子もクラスのほかの生徒に対する行動が改善された。

ある父親と息子が積み木で遊んでいた。息子が小さな積み木の上に大きな積み木を何回か載せようとして失敗したのを見た父親は、原則を教える機会だと考え、しっかりした強い土台を作ることの大切さを説明した。そして、また遊びを始める前にヒラマン5：12〔神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならない〕を読んで聞かせた。その日の夜、家族は一緒に聖文を勉強した。その日読んだ聖句を使った短いレッスンの中で、父親と息子は積み木を見せ、キリストを基にして生活を築くことの大切さについて話し合った。

### 教師としての目と耳を養う

以下は、教えるためのヒントをあらゆる場所から見つけるための提案である。

レッスンの準備はできるだけ早いうちから始める。教えるレッスンの内容が分かっているならば、レッスンに使える日々の出来事に気づくようになる。テキストが用意されているレッスンであれば、テキスト全体に目を通して内容をつかんでおくとよい。数週間も先のレッスンで使えるような出来事が起きたときでも、それに気づくことができるからである。

準備しながら助けを求めて毎日祈る。レッスンを新鮮で印象的で、聞く者に靈感を



与えるようにする事柄に気づくことができるように、天父に助けを求める。

教える生徒と準備しているレッスンの内容をいつも心に留める。生徒について考える。生徒の生活の様子や決めなくてはならない事柄、進むべき道などについて考える。聖文を研究したり、美しい自然を眺めたりするときに、教えるヒントがないかどうか気をつける。家の掃除や仕事、買い物の中からもヒントが得られることがある。つまり、どのような活動からも福音のレッスンに必要な例や、教える内容を豊かにしたり明確にしてくれるものが見つかる。

### 印象に残ったことを記録する

自分の周りにある教えるヒントに気づくようになったら、印象に残ったものを記録しておくといよい。いつも小さなノートを携帯し、レッスンに役立ちそうなものがあつたら記録しておく。人の話や自分が受けたレッスンで感じた

ことを書いておく。信仰を鼓舞する経験を記録する。こうしたことを記録する習慣ができると、周囲にふんだんにある教えるヒントにさらによく気づくようになるであろう。

見つけたヒントをどう使うかについて心配せずに、ただ書き留めるだけでよい。見つけたものの中にはすぐに使うものもあるかもしれないが、すばらしい模範例や原則の例を見つけても、何週間、あるいは何年もレッスンで使わないかもしれない。記録しておかなければ忘れてしまう可能性がある。

また、数か月以内に教えるレッスンについては、課ごとにフォルダーを用意する。実物を使ったレッスンやたとえ、その他のアイデアが思い浮かんだら、紙に書いて該当するフォルダーに入れておく。そうすれば、具体的にレッスンの準備を始めるときには、レッスンを充実したものにするアイデアの宝庫が用意されているというわけである。

## 教授法改善の計画を立てる



「聖書を朗読すること、勧めをすること、教えることに心を用いなさい。…按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。自分のことと教のことに気をつけ、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。」(1テモテ4：13-16)

ヤレド人の記録の要約を書いていたモロナイは、自分の文章力のなさに悩み始めていた。自分が書いたものを読んだ異邦人があざけって、読むのを拒むのではないだろうかと考えたのである。彼は異邦人が慈愛の心を持ち、神の言葉を拒むことがないようにと祈った。すると主は次の約束をモロナイに下された。「あなたは自分の弱さを認めたので、強くされ〔る。〕」(エテル12：37) また主はモロナイにこう言われた。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12：27)

福音を教えようとするときに、自分には能力がないと感ずることがあるかもしれない。しかし、主がなされたこの約束を信じて勇気を持っていただきたい。へりくだって、主の助けが必要な分野を認め、主への信仰を働かせれば、主はあなたを強め、主の目にかなった方法で教えるのを助けてくださるであろう。

### 自分の長所と短所を評価する

改善計画を立てるには、まず現状の評価から始める。二つに分けて評価する。教師としてのあなたの長所と短所の二つである。

教師としてのあなたの長所は？

まず、主がすでにあなたに授けられた賜物の中で、人に教えるときに役立つと思われるものについて考える。それを日記やノート、または25ページの表に書く。その際、

本書で強調されている教えるための原則について考えるてみるとよい。生徒を愛する、御霊によって教える、教義を教える、熱心に学ぶように勧める、学習に適した雰囲気を作る、効果的な教授法を用いる、レッスンを準備するなどである。

教師として役立つ特性として、あなたには忍耐力があるかもしれない。あるいは、笑顔や思いやり、絵の才能、聖文の知識、聴く耳、穏やかさ、完璧な準備の習慣、良い教師になろうとする誠実な願いなどがあるかもしれない。

長所はたくさん挙げる必要はない。少し挙げればよい。初めに長所に焦点を絞る目的は、まず長所を伸ばして、それから弱点を克服していくためである。

教師としてのあなたの弱点は？

長所を考えた後、最近のレッスンの経験について考えていただきたい。そして、こうすればよかったと思うことを考えてみる。再び本書で強調している教えるための原則について考えるとよい。改善できる事柄が幾つも出てくるかもしれないが、一度に取り組むのは一つか二つに絞った方がよいと思われる。一般的に人は、「教えに教え、訓戒に訓戒」を得て成長する(2ニーファイ28：30)。わたしたちは「賢明に秩序正しく行う〔べきである。〕人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。」(モーサヤ4：27)

改善したい点を一つか二つ選んだら、それを日記かノートに書く。

### 改善のための計画を立てる

選んだ事柄を改善する方法を決めるには、以下の質問について考える。

- 教師として改善するために今できること

は何だろうか。

- どのような技能を身に付ける必要があるだろうか。
- だれが助けてくれるだろうか。
- どのような資料が手に入るだろうか。

以下は、これらの質問をどのように用いるかを示す例である。この例は、ある扶助協会教師が、自分が教えていることを生徒が理解しているかどうかを識別する能力を高める必要があると判断した例である。

教師として改善するために今できることは何だろうか。

この教師はまず、本書に目を通して、アイデアを得ることにした。「生徒が理解していることを確認する方法」(73ページ)を読み、理解しているかどうかを評価する方法は、学んだ原則を自分の言葉で言わせることだと分かった。彼女は次のレッスんでこのアイデアを用いることにした。そして、この計画を日記に書いた。

どのような技能を身に付ける必要があるだろうか。

また彼女は、レッスンの間生徒を観察する必要があることも学んだ。彼女はこれこそ自分が身に付けなければならない技能だと思ったが、少し実習する必要がある。この計画も日記に書いた。

彼女は自分の計画について考えていると、自分にはすでに少なくとも一つの長所があり、それを伸ばすことができると考えた。それは、レッスンの準備を熱心に行うという点である。テキストの内容がよく頭に入っているので、テキストを見なくてもレッスンができる。テキストやノートにばかり気を取られることがないから、生徒をよく観察できるのである。

だれが助けてくれるだろうか。どのような資料が手に入るだろうか。

最後にその教師は、活用できる資料があるかどうか考えた。本書はすでに使っている。そこでほかに参考にできる

あなたの教え方を改善するためにこの表を用いる (自分で作ってもよい)。

空欄に質問への答えを記入する。

<p>わたしの現状はどうだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教師としてのわたしの長所は何だろうか。</li> <li>■ わたしの弱点は何だろうか。</li> </ul>	
<p>改善するにはどうしたらよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 改善するために今できることは何だろうか。</li> <li>■ どんな技能を伸ばす必要があるだろうか。</li> </ul>	
<p>どのような援助手段があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ だれが助けてくれるだろうか。</li> <li>■ どのような資料が入手できるだろうか。</li> </ul>	



ものはないか考えた。ほかの教師はどうだろうか。教師改善コーディネーターや、生徒の理解を評価するのに特に優れているほかの教師と話したらどうだろうか。クラスの生徒たちからも提案してもらえないだろうか。あるいは、指導者の一人にレッスンを見てもらい、改善点を提案してもらうことはできないだろうか。

### 目標を設定し、進歩記録をつける

改善計画ができれば、目標達成の期限を決める。それから日記やノートに進歩状況を記録する。途中で目標の調整が必要なときは調整する。

計画どおりに目標が達成できれば、別の側面に取り組む。

### 最も大切な資質

教師としてさらなる向上を目指すに当たり、最も大切な資質について心に留めていただきたい。

ハロルド・B・リー大管長は子供のころに大きな影響を受けた教師について説明している。これは教師としてのあなたの一般的な実力を評価するとともに、改善計画を考える指針として活用することができよう。

「宗教に関してわたしが子供のころに経験した最も印象に残るレッスンは日曜学校のクラスで学んだものでした。しかし、わたしの宗教教育に不朽の貢献を果たし、今日まで記憶にはっきり残っている日曜学校の教師はわずかです。これらの教師の一人は、……特別な能力を持っていたと思います。教会歴史や道徳、福音の真理についてわたしの心の奥底に強烈な印象を与えました。40年近くたった今日でも、わたしはいまだにそのレッスンを記憶しており、彼女のレッスンによって自分が導かれていることに気づかされるのです。

彼女はどのようにその優れた日曜学校の教師の特質を得たのでしょうか。彼女は俗世の学問について偉大な知識を持っていたわけではありません。現代の教育理論や教育技術について特別な訓練を受けていたわけでもありません。外見はごく普通の女性でした。田舎の小さな町で、家族全員が一日中働かなければならない家庭の妻であり、母親でした。わたしは思うに、彼女が優れた教師であったのは3つの才能に恵まれていたからでした。第1に、彼女は一人一人に関心を持っていることを生徒に感じさせる能力を持っていました。第2に、彼女は福音の知識を持ち、福音を愛し、毎回のレッスンでわたしたちが福音を自分の生活に活用できるように組み立てる能力を持っていました。そして第3に、彼女は神に対して絶対的な信仰を持ち、回復されたイエス・キリストの福音が神聖なものであることについて揺るぎない証を持っていました。

さほど目立つ特質ではありませんが、……イエス・キリストの福音の教師として働く彼女をはじめとするすべての人にとって最も大切で基本的な特質があります。主は教師の律法をこのような言葉をもって宣言しておられます。『御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであ

ろう。そして、御霊を受けなければ、……あなたがたは教えるてはならない。』(教義と聖約42：14)

教えることに助けを求めて祈る人は聖霊の力を受けます。すると、ニーファイが宣言しているように、その人の教えは『聖霊の力によって……人の子らの心に伝え〔られる〕』のです。』(The Teachings of Harold B. Lee, クライド・J・ウィリアムズ編 [1996年], 444)

教師としての長所や弱点について評価するとき、以上の「基本的な特質」をどれほど身に付けているかを考えてみるとよい。以下の質問についてよく考えてみよう。

- わたしは生徒を愛していることを生徒に示しているだろうか。一人一人に関心を寄せているだろうか。
- 生徒はわたしが主と主の教えを愛していることを感じられるだろうか。わたしは彼らが主の教えを生活に応用できることが分かるように助けているだろうか。
- 生徒は回復されたイエス・キリストの福音に対するわたしの証を感じるができるだろうか。彼らはわたしが神に対して絶対的な信仰を持っていることを感じられるだろうか。
- 聖霊によって教えるように信仰をもって祈っているだろうか。

あなたはたとえ教える技術の面で経験が浅いとしても、最も重要な事柄に全力を集中できる。生徒を愛する、主と主の教えに続けて愛を示す、また神への信仰と回復された福音の証を熱心に伝えるなどである。技術的な面を伸ばしながら、最も大切な資質において成功を収めることができるのである。

### 主の助けにより改善する

改善の努力をすると、主が人を介して助けてくださることがある。東ヨーロッパで伝道部会長を務めた人の以下の話は、この原則をよく表している。

「1993年の夏、わたしは新たに設立された支部を訪問しました。日曜学校を教えていたのはバプテスマを受けたばかりの人でした。彼女は明らかに人前に立つのに慣れていない様子で、失敗するのを恐れるあまり、テキストをそのまま読んでいました。彼女がテキストから顔を上げないと、生徒たちはそわそわし始めました。

レッスンの後でわたしは内容が教義的に正確であったことを褒め、それから相手の気を悪くさせないように注意しながら、クラスで話し合いをさせるために、考えさせるような質問を投げかけてはどうかと言いました。『ヨーロッパでは教師は質問はしないんです。』彼女はそう答えました。『教会ができて間もない国で、彼女のようなたくさん新しい教師をどう助けたらいいのだろう。』わたしはそんな思いでその地を後にしました。

同じ年の8月、わたしたちの地域で教会教育システムのプログラムを発足させるためにある夫婦が召されました。そこでわたしたちは、当時教師訓練セッションと呼ばれて



いたプログラムを行ってもらうことにしました。彼らが助けることになった教師の一人が、わたしの訪問したあの日曜学校の教師でした。

そして4か月後、わたしは彼女の支部を再度訪問しました。奇跡でした。皆の前に立った彼女はまるで別人で、落ち着いて自信に満ちていました。入念に準備された質問は興味深い答えを引き出すものでした。生徒の意見にも一つ一つ励ましの言葉を添えていました。そして一人の生徒にテーマに関連する個人的な体験を話させ、ほかの生徒にも

発言を促しました。レッスンの終わり近くになって新会員が証をしました。するとその教師は静かな声で、皆にこう尋ねたのです。『モルナール姉妹が証をしていたとき、御霊を感じませんでしたか。これが主の御霊です。』わたしたちはその賃貸の教室で、安らいだ心温まる思いに浸ることができました。わたしはこの恐れを抱いていた新会員に福音の教え方の原則を手ほどきし、彼女がイエス・キリストの福音の教師と呼ばれるにふさわしくなるように助けてくれた夫婦のことを、天父に感謝しました。』

## 指導者からの支援を得る



教師を援助し支援するのは神権指導者、補助組織指導者の責任の一つである。教会における教育の質は、指導者と教師が支援と思いやりの関係をはぐくむときに向上する。

神権組織、補助組織において指導者は特定の教師を担当する。例えば初等協会の一人の副会長は8歳から11歳の子供たちの教師を担当し、長老定員会の一人の副会長は定員会教師を担当するといったようにである。

### 新任教師へのオリエンテーション

あなたが新任の教師であれば、あなたの指導者はできれば最初のレッスンの前にあなたと話し合う。指導者はあなたに召しの大切さを話し、クラスの資料をあなたに渡す。そして初めてのクラスが終わったら、一緒に短い話し合いを持ち、初めての体験について話し合う。

### 指導者に連絡をして相談する

指導者に頻繁に連絡をして経験を分かち合い、生徒の必要について話し合い、問題を解決し、助言を求める。これは教師として絶えず向上するための計画を見直す機会となる。

こうした接触は会って行うのが最も効果的であるが、電話や手紙、その他の手段でも行うことができる。接触は必要なときにいつでもあなたの方から行うが、少なくとも四半期に1度は接触するようにする。

女性の指導者が男性の教師と会うとき、また男性の指導者が女性の教師と会うときは、部屋のドアを開けたままにし、隣室か廊下に別の成人にいてもらう。誤解を招くような状況を作らないようにする。

指導者に相談するときは、以下のことについて話す準備をしておく。

- 教師としての召しをどう感じているか
- クラスでの体験
- 生徒の反応の例
- 生徒個人の必要
- 教師としてのあなたの目標
- 目標達成のために指導者に支援してほしいこと
- 教師改善集会で扱ってほしいテーマ

### クラスへの訪問

指導者のクラスへの訪問は、同じクラスに毎週訪問する場合と、例えば初等協会会長会や日曜学校会長会が折に触れて教師と相談したうえで訪問する場合がある（『福音教授法の改善——指導者用ガイド』6ページ参照）。指導者の訪問が決まったら、指導者には単にクラスを参観するように求めてもいいし、特定の援助を求めてもかまわない。例えば指導者にレッスンの一部を教えてもらってもよいし、特定の生徒の世話を頼んでもよい。また、活動を担当してもらってもよい。



B

## 福音を教えるための基本原則



## 生徒を愛する

---

人々に罪を捨てさせるには、手を取って導き、優しく見守る以外にない。

人々がわたしに少しでも親切と愛を示してくれたら、

わたしはどんなにか心強いことだろう。

ところがその反対の行為は、あらゆる不快な思いをを起こさせ、

人の心を憂うつにさせるものである。

預言者ジョセフ・スミス (*Teachings of the Prophet Joseph Smith* 240)



## 愛は心を和ませる



「人は謙遜であり、愛に満ち  
[ていなければ]、……だれ  
もこの業を助けることはで  
きない。」(教義と聖約12：8)

無作法な生徒に手を焼いたある新任教師が日曜学校副会長に相談を持ちかけた。すると副会長は実験を試みることを勧めた。言うことを聞かない子供を一人選び、異なった5つの方法でその子に愛していることを示すというものである。数週間後、副会長が教師に様子を聞くと、選んだ子供はもうおとなしくなったので、次の子を選んでいくとのことだった。それから2週間後、副会長はまた教師に尋ねた。すると、次にだれを選んだらいいか分からないという返事だった。そして次に尋ねたときには、彼女は3人を選んで一人ずつ愛を示したところ、すっかりおとなしくなったということだった。どのケースも、愛が子供の心を和ませたのである。

### 教師の愛の力

生徒に愛を示すと、生徒は御霊を受け入れやすくなる。学ぶことに熱意を示し、教師やほかの生徒にも心を開くようになる。しばしば自分の永遠の価値について目覚め、義を行おうという望みが増す。

七十人のガラス・N・アーチボルド長老はこう説明している。

「正しい教えは心を広げます。

たとえば子供を空のコップにたとえ、わたしたちが長年積み重ねてきた知識と経験をバケツの水にたとえてみましょう。……バケツにいっぱいの水を小さなコップに注ぐことは無理ですが、知識という水を移す正しい原則を用いれば、コップを大きくすることができます。

この原則は『説得、寛容、温厚と柔和、また偽りのない愛、優しさと純粋な知識』です。この原則は、コップすなわち子供の心を広げ、元のバケツよりさらに多くのことを受け入れられるようにしてくれます。」

(「善い父母から生まれて」『聖徒の道』1993年1月号、31)

ある初等協会教師はこのように報告している。生徒たちの家庭を訪問して、生徒たちの生活に関心を示したところ、教師自身も生徒たちも有意義な経験をすることができた。ある小さな男の子はクラスに出ようとせず、たとえクラスに出ても、レッスンに加わろうとしなかった。しかし、教師がその子の家庭をちょっと訪問してその子の好きなことを聞いてみただけで、初等協会に入るのを楽しみにするようになった。もう一人の生徒はクラスで一言も口を利かなかったが、家庭に訪れた教師に喜んで話しかけ、それ以来クラスでもレッスンに参加するようになったという。

### 教えることにキリストのような愛が与える大きな影響

使徒パウロはこう書いている。「たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。」(1コリント13：1-2) この神権時代において主はこう言われた。「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持 [たなければ]、だれもこの業を助けることはできない。」(教義と聖約12：8)

生徒に良い影響を与えたいと思うならば、教えることが好きなだけでは不十分である。生徒一人一人を愛し、自分の教え方のうまさによってではなく、生徒の進歩によって自分の成功を測らなければならない。

愛があれば、熱心に準備をするし、教え方にも変化を持たせようとする。生徒を愛するようになると、生徒一人一人のために祈るようになる。そして彼らの関心事や達成したこと、必要としていること、悩んでいることを知るために最善を尽くす(「生徒を理解する」33-34ページ参照)。たとえ余計に時間と労力が必要になっても、生徒の必要に合わせてレッスンの内容を変える。出欠席の状況をよく把握する。必要なときは助けの手を差し伸べる。彼らが永遠



の幸福を得られるように力を尽くし、そのためにできるだけだけのことを行う。それを阻むことは一切しない。

忠実で有能な福音の教師の最も重要な資質の多くは愛に関連したものである。預言者モルモンはこう教えている。

「慈愛は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず、自分の利益を求めず、容易に怒らず、悪事を少しも考えず、罪悪を喜ばないで真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

したがって、……もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである

慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。」(モロナイ7：45-47)

#### そのほかの参考資料

生徒を愛することの重要性についてさらに知りたいときには、福音の教え方コースの第2課（194-197ページ）を参照する。

## 生徒を理解する



最近のレッスンについて考えてほしい。レッスンの準備をするとき、どんなことを考えただろうか。テキストの内容だろうか。それとも教える生徒のことだろうか。あなたは生徒一人一人についてどれだけ知っていただろうか。あまり知らなかったのであれば、ほんの少しでも知っていたら、レッスンがどのように変わっていただろうか。

あるアロン神権アドバイザーが次のような感想を述べている。

「わたしは執事定員会アドバイザーとして、12歳から13歳の男の子たちのことを学んできました。同年齢の子供たちに共通したチャレンジや可能性、経験について理解することができました。彼らは皆、最近神権を受けて、神権をふさわしい状態で行使することの意味を学んでいます。

わたしは執事の兄弟一人一人を知っています。好き嫌い、才能、悩み、今生活の中でどんなことが起きているか。

レッスンを準備し教えるときは、彼らの理解と経験に合わせて福音の原則を教えようとしています。一人の子にはサッカーの試合に関連づけた質問をします。また別の子をレッスンに参加させるために、最近のキャンプの経験を話し、福音の原則をどのように応用するかを説明します。子供たちを理解すれば、各レッスンを彼らの生活に結びつける方法がよく分かるようになります。」

### 生徒に共通する特徴と経験を学ぶ

各個人はそれぞれ唯一無比の存在ではあるが、生徒は皆、老若男女を問わず共通する特徴を多く備えている。まず何よりも大切なこととして、一人一人が天父の子供である。皆、神聖な可能性を持っている。皆、愛されたいと思っている。ほかの人から支

持されたいと思い、良いことをしたら評価されたいと望んでいる。

こうした共通の特徴に加えて、生徒は恐らく同じような経験をしてきている。例えば、福音の教義クラスの生徒は親として子育ての経験を通して意義深い経験と洞察を得てきた人たちである。長老定員会では多くが帰還宣教師である。大祭司のクラスにはワードやステークで管理の責任を果たしてきた人が多くいる。また、若い男性や女性のクラスでは、同じ学校や似通った学校に通う人が多いかもしれない。

生徒には必ず何らかの共通点がある。生徒が共通に持っている特徴や経験について知り、それをレッスンの中で効果的に用いる方法を見つけなければならない。そのようにすると、生徒はレッスンが自分たちの必要や興味に合ったものであると感じ、レッスンへの参加意欲は増し、自信を持って発言するようになる。

年齢別の共通した特徴については、単元C「様々な年齢層を教える」(107-124ページ)を参照。

### 生徒一人一人を知る

あなたが教える生徒は多くの共通した特徴を備えているが、境遇や生活環境は様々である。二人として同じ人はいない。皆、異なった能力と好き嫌いがある。それぞれ異なった喜びや機会やチャレンジを経験している。

ニール・A・マックスウェル長老は地区代表時代にこう述べている。

「教会のグループ、定員会、教室には、退屈している人や、注意を向けていなかったり、苦悶していたり、自分と教会との関係について見直したりしている人、また、日曜日教会に一度だけ来てその結果から将来教会に出席するかどうかについて、あるいは教会に対する姿勢について決断しようとしている人、かつての熱意を失ってしまった人などがいます。そして、人間的な弱さを持つ人々の集まりである神の教会にあって、喜びを見だし、成長を遂げ、落胆することがあってもそれに対処できる人々も……大勢います。

必然的であるとはいえそのような多種多様な個人を指導し、教えるに当たって私情を交えず、差別せずに……行うことは、指導あるいは教授の課程において決して『熱

心に携わり』 やすいことではありません。いいかげんで無頓着な指導や教え方をする人は、自分をただ単に会員が通過しなければならない道や関門に過ぎないと思っているのです。そのような指導者は個人の違いに目を向けることもありません。大切な個人の温かさに欠けているのです。」  
(*A More Excellent Way* [1973年], 56-57)

生徒一人一人を理解するようになると、生徒それぞれの状況に合わせたレッスンを準備できるようになる。また、各人が話し合いやほかの学習活動に参加するのを助ける方法を見つけるようになる（「個人に手を差し伸べる」35-36ページ参照）。あなたには、特定の質問に答えられる人、信仰を鼓舞する話や個人的な経験を話してくれる人、特定のレッスンの目的に合った体験を持っている人がだれかが分かる。また、質問への答えを評価し、レッスンの軌道修正を図ることもできるようになる。

### レッスンを準備しながら、似ている点と異なった点を考慮する

次に教えるレッスンを考えてみよう。クラスの状況と、出席している生徒の姿を想像してみよう。たぶん毎週同じ席に座る生徒のことが思い浮かぶであろう。その人について知っていることで、レッスンの強調点を決めるのに役立つようなことはないだろうか。その生徒は、ある福音の原則をほかの生徒に理解させるのに役立つ経験をしていないだろうか。こうした知識はレッスンを準備し提示するに当たってあなたの選択に影響を与える。だからこそ、テキストを理解するだけでなく、神の子供、同じ年齢グループの一員、そして個人として、教える生徒のことを理解しなければならないのである。



## 個人に手を差し伸べる



ある教師改善コーディネーターは以下のような経験を報告している。

「わたしは日曜学校の全クラスの教師を指導するように言われました。それぞれ個性も、背景も、必要も大きく異なった人々です。一人は青少年を長く担当しているベテランの教師でした。もう一人はまったく自信がなく、自分には能力がないと強く感じていました。別の兄弟は訓練会に来たがりませんでした。聖文の知識がないことを恥ずかしく思っていたからです。

わたしは一人一人個別に手を差し伸べる方法を見出す必要があると感じました。そこでまず最初のレッスンの前に、聖文を使って教えることを苦手としていた兄弟に、福音を個人で学習する計画をどう立てたらよいかについて短い話をしてもらうように割り当てました。そこで、わたしはこの兄弟とほかの機会に会って、彼に信頼を寄せていることを伝えることができました。ベテランの教師にはクラスの中で、教えることについて考えを述べてもらいました。また自信のない姉妹には、数週間前にレッスンの中で彼女が述べた謙虚な証に感謝の言葉を述べる機会を得ました。3人は皆、良い反応を示してくれました。

最初のクラスで一人だけ離れて座っている人がいました。わたしはクラスが終わってから彼女に声をかけ、割り当てた責任で助けることがないかどうか尋ねました。このようにして、わたしは毎週、各人に手を差し伸べる機会を探しました。

こうしてコースが進むにつれて、この教師のグループが特別に素晴らしい人たちであることが分かってきました。全員が活発に話し合いに参加し、経験を分かち合ってくれるようになったのです。皆が愛によって一つになったようでした。わたしが手を

差し伸べて個人的に仕えれば仕えるほど、進んで互いの話に耳を傾け、意見交換をするようになりました。振り返って言えることは、一人一人に手を差し伸べるという何でもないことが、このコースの教師として最も重要なことだったということです。生徒は自分たちもお互いにそうしなければと思ったようです。」

福音の教師としてあなたの仕事の一つは、生徒が天父の愛を理解し感じるのを助けることである。これは言葉だけでは無理である。いつも会う生徒、時々会う生徒、そして特別な努力を払わないと会えない生徒など、すべての生徒一人一人に手を差し伸べる必要がある。協力的であろうが、無関心であろうが、反抗的であろうが、手を差し伸べる必要がある。主はわたしたちに対して、「人の価値が神の目に大いなるものであることを」思い起こさせようとしておられるのである（教義と聖約18：10）。

### ともに集まるときに個人に手を差し伸べる

大勢の人に同時に教えるときにでも、個人に手を差し伸べることはできる。例えば、クラスの初めに一人一人を温かく迎えることもその一つである。そのような小さな行いが大きな違いを生む。

また、生徒に気楽に参加を促すことによってもそれができる。家庭の夕べや教会の集会では、レッスンの一部を前もって割り当てることもできる。また、個人の才能を認めたり引き出すような特別な報告や音楽の演奏、話し合いのための質問を設けることができる。ある歌の上手な教会員はあまり活発ではなかったが、クラスやワードの集まりで時々歌うように求められたために、次第に教会に来るようになった。

人は自分の貢献が認められるとうれしいものである。個人の意見に対しては特別な努力を払って認めるようにし、可能であれば、その意見に基づいて話し合いをする。出された質問や意見を、皆が聞こえ、理解できるように繰り返すことも助けになる。

### レッスン以外に手を差し伸べる

レッスン以外に生徒に手を差し伸べる方法を探す必要がある。レッスン以外の場で手を差し伸べると、福音学習への生

徒の姿勢が大きく違ってくる。家族であれば一人一人と過ごす時間を取ることができるし、クラスの生徒と会ったときには少し時間を取って話すことができる。試練に遭っているときは励ましたり助けたりできるし、記念日を祝ったり、家庭を訪れたり、彼らが参加する活動を見に行くこともできる。

トーマス・S・モンソン管長は次のような話を紹介している。

「ルイス・ジェイコブセン……の母親はデンマーク人の貧しい未亡人だった。ルイスは背が低く、外見も格好良くはなく、クラス仲間からよく思いやりに欠ける冗談の的にされていた。ある安息日の朝、日曜学校で、子供たちがルイスの継ぎの当たったズボンと擦り切れたシャツをからかった。泣くことはプライドが許さず、小さなルイスは逃げるように教会を出て、やがて息を切らして道端に座り込ん

だ。……ルイスが腰かけた縁石のわきの溝を、きれいな水が流れていた。彼はポケットから日曜学校のレッスンの概要が書かれた紙切れを取り出し、上手に舟を折って、水の流れに浮かべた。傷ついた少年は、『もう教会に戻るものか』と心に決めていた。

すると突然に、涙でぼうっとかすんで見える水面に、身なりのきちんとした大柄な男性の影が映った。ルイスが顔を上げると、日曜学校管理会会長のジョージ・バービック兄弟だった。

『一緒に腰を下ろしていいかい?』と彼は優しく聞いた。

ルイスはこっくりとうなずいた。……幾つも舟を造り、水に浮かべて会話が続いた。やがて指導者は立ち上がり、少年の手をしっかりと握って、二人は日曜学校に向かった。」「あなたが歩むエリコへの道」『聖徒の道』1977年10月号、506)

## 4

## 新会員とあまり活発ではない 教会員を助ける

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう勧告している。

「当教会の会員になるのは、たやすいことではありません。たいていの場合、古い習慣を捨て去り、昔からの友人や知人とも別れ、これまでと異なった、多少要求の厳しい新たな社会に足を踏み入れることでもあります。

改宗者の数がますます増加するに伴い、わたしたちは、改宗者が道を進めるように助けるため、これまで以上に大きな努力を傾けなければなりません。改宗者のだれもが3つのものを必要としています。それは友人と責任と『神の善い言葉』（モロナイ6:4）による養いです。これらを提供するのはわたしたちの務めであり、わたしたちに与えられた機会です。

これはすべての人のための業です。

わたしは皆さん一人一人にお願いいたします。どうかこの業に力を貸してください。皆さんの親切心や責任感が必要とされています。」（「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号、56、58-59）

あなたは福音の教師として、最近教会に加わった人や教会へ戻って来た人のために働く機会があるであろう。そのような人に、ヒンクレー大管長の勧告に従って親切に接し、レッスンに参加させ、彼らが神の言葉で養われるように助けることができる。以下はそのための提案である。

### 友達

大管長会は、「会員は求道者と新会員を温かく歓迎し、彼らが新しい友人や生活様式に移行できるよう、愛に満ちた人間関係を築く」よう勧告している（「新会員を助ける」1997年5月15日付けの大管長会からの手紙の付属）

生徒をクラスに招待し、クラスに来たときには名前を呼んで歓迎し、クラスのほかの生徒に紹介することにより、このような移行をスムーズに行えるように助けることができる。

### 責任

教会のクラスではすべての生徒に学習に適した雰囲気を

作っていく責任がある（77-78ページ参照）。しかしながら、新会員やあまり活発ではない教会員にこの責任を受けさせるには、特別な励ましが必要になるであろう。彼らをレッスンに参加させるアイデアを以下に幾つか挙げる。

- クラスで話し合うときには、彼らが答えられる質問をする。
- 福音の真理を学ぶうえでの証や体験を話すように励ます。
- 朗読の機会を与える。準備の時間を与え、読んでほしい聖文や資料について前もって話しておく。
- 祈りの機会を与える。ただし、気まずい思いをさせないために前もって頼んでおく。
- 責任を与えるときは早くから与え、準備の時間が十分取れるようにする。質問があれば助けを申し出る。

新会員やあまり活発ではない教会員は、クラスでの話し合いなどの学習活動に参加するにつれて、福音への理解が増し、主と教会への献身を深めるようになる。また、教師やほかの生徒をも強める。

### 「神の善い言葉」によって養う

新しい改宗者や教会へ戻って来た会員は普通、福音を学びたいという思いが強い。そのような熱意を保ち、福音の知識を深めるように助けることができる。以下の提案について考える。

- あなたが福音に対して抱いている熱意を示す。
- 証を述べる。
- 聖文を愛する気持ちを話す。
- クラス以外で話す時間を取る。生徒と親しくなり、彼らが学んだ福音の原則をよく理解するように助ける。
- 福音を実践した体験談を話す。
- 自分で聖文を研究するように励ます。



## 5

## 障害を持つ人に教える



ボイド・K・パッカー長老はセミナー教師としての初めての年の経験をこう書いている。

「わたしのクラスに、横柄な態度をとり、レッスンを妨害する10代の少女がいました。彼女はレッスンに参加しようとせず、いつも妨害していました。あるとき、前もって準備してこなくても答えられるような質問を彼女にしました。しかし彼女は横柄な態度で、『嫌だ』と言いました。

わたしは多少強い調子で、答えるように言いましたが、彼女はさらに横柄な態度で拒否しました。わたしは非常に愚かな言葉を口にしてしまいました。『先生の言うことを聞かない生徒には成績も単位も上げませんよ。』さらに、心の中でこう言っていました。『さあ、どうする。従うか、従わないかのどちらかだ。』

数週間後、親との懇談会が行われ、その中で彼女の母親は、娘が恥ずかしがり屋で参加することに遠慮がちであり、ためらいを見せることを話しました。恥ずかしがり屋で遠慮がちであるだけなら、わたしは気にしません。わたしが気になっているのは横柄で無礼な態度でした。

幸いなことにわたしが彼女の横柄な態度について話す前に、母親がこう付け加えました。『それは、娘に言語障害があるからなのです。』

わたしは驚いて、それはどのようなことかを尋ねました。すると母親は、『あら、気づきませんでしたか』と言いました。気づきませんでしたとも。『娘はグループに参加しなくていいような状況を作るためならあらゆることをします』と母親が話してくれました。彼女は自分の言語障害をそれほど気にしていたのです。

母親との話し合いを終えたわたしは、自

分の愚かさを思い知らされました。彼女がそのように行動するには何か理由があることに気づいていなければならなかったのです。わたしはその年、完全な悔い改めをする努力をしました。わたしは彼女の相談に乗り、話を聞きました。そして『一緒に努力しよう』と彼女に伝えました。

年度末を迎えるまでに、彼女はほかの生徒の助けと協力によって、しばしばレッスンに参加し、受け答えをするようになりました。」(Teach Ye Diligently, 改訂版[1991年], 92-93)

救い主は地上で教え導かれたときに、心身が完全でない人々に深い思いやりを示された。希望と理解と愛の手を差し伸べられたのである。障害を持つ人々を教えるときには、救い主の模範に従う必要がある。障害を不快なものと考えず、だれでも皆、何かしら異なっていることを認めるようにしなければならない。

愛と繊細な心を持てば、障害を持つ生徒でもレッスンに参加できるように助けることができる。また、クラスのほかの生徒にも障害を持つ生徒を理解し受け入れるように働きかける必要があろう。

以下は障害の種類と、そのような障害を持つ生徒を助ける方法を解説したものである。

### 聴覚障害

聴覚障害には多少聞こえない人から完全に聞こえない人まで程度に差がある。補聴器を用いれば話し言葉が理解できる人もいれば、手話や読唇術を用いなければ理解できない人もいる。

クラスの中に聴覚障害の生徒がいる場合は、よく注意して繊細な心で接するようにする。必要であれば個人的に会い、どこに座れば話がよく理解でき、活動にも参加できるかを決める。話をするあなたの顔がよく見える場所に座ることが重要な場合もあれば、教室の一方の側でないとよく聞こえないという場合もある。助けたい、親しくなりたい、レッスンに参加してほしいという思いを込めて、これらの選択肢を検討するとよい。

### 言語障害、発声障害

言語障害や発声障害があると、人と交わり意思の疎通を図る能力が制限される。程

度に差はあるが、障害の発生は年齢を問わない。言語障害のある人は、話し言葉も書き言葉もよく理解できないことがある。自分の考えを表すために言葉や文章を組み立てることができない。言語障害を隠そうとする人もいれば、特に子供の場合などは、気づかないでいることもある。

クラスにそのような生徒がいるように思われる場合は、皆の前で話をさせないように気をつける。その人に特別な配慮を示し、その生徒の学習能力がどの程度なのかを把握する。彼らが恥ずかしい思いをせずに参加できるような学習活動を準備するとよい。例えば、特に親切で忍耐強い生徒と一緒にグループに入れて話し合いをさせるなどである。そして教師がその生徒と親しくなり、生徒も自信がついてきたら、クラスに参加できることを何か考える。このようにして、その生徒がレッスンに参加することを快く思えるようになるためのステップを見つけるのを助ける。

### 精神障害

精神に障害のある生徒の場合は、意思の疎通や他の人との交わり、学習、作業、自立などの面で進歩が遅いことがある。生活全般にわたって援助の必要な人もいるし、援助の必要性がある特定の分野に限られる人もいる。

精神に障害のある生徒には繊細な心で思いやりをもって接する。普通のことを普通に話す。彼らにとって心地よいと思われる方法でクラスに参加させる。あらかじめ準備するのを助けるのもよい。また時にはクラスを分けて、忍耐をもって助けてくれる小グループや個人と組にするのもよい。

### 読書能力の問題

読むことが困難な人がいる。失読症などの障害がある場合もある。また、自国語でない言語なので上手に読めないということもある。視力が弱くて読めないという場合もある。単に経験が少ないために読めない人もいる。

本を読むのが困難な人がクラスにいるときは、レッスンへの参加のさせ方に特に注意する。自分から望まないかぎり、朗読させて恥をかかせることはしない。できるだけその人と親しくなり、能力の程度や読むことへの意欲について知るようにする。朗読への意欲はあるが、準備に時間が

必要なときは、次のレッスンで特定の箇所を読む準備をするのを助ける。また、朗読の機会を与えずにレッスンに参加させる方法を見つける必要がある場合もある。どのようなことが可能かを本人と話し合い、その人にとって最良の方法を見つける。

### 視覚障害

視覚障害も軽度の弱視から完全な盲目まで様々である。前の方に座ったり眼鏡をかけたりすれば見えるという人もいるし、耳から、あるいは点字でしか学習ができない人もいる。こうした視覚障害を持っている人には、最も効果的に学習しレッスンに参加できる場所に座ってもらう。友情の精神をもって、どのようにしたら助けられるかを本人と話し合うとよい。

### そのほかの参考資料

以上の情報は簡単な要約にすぎない。障害を持った生徒がクラスにいるのに気づいたときは、本人や本人の家族、友人と、どのような形で援助できるかを話し合う。その生徒と親しくなる。指導者にも相談するとよい。その人がクラスで福音をよく学んで喜びを得るにはどうすればよいかを知るために、御霊の導きを求める。

障害を持った人々を教え導くためのさらに詳しい情報については、『教会指導手引き第2部』『福音の教授と指導』313-316ページを参照。

### 障害を持つ教会員のための資料

障害を持つ教会員のための資料は、毎年発行される『教会書籍・教材総合カタログ』に記載されている。

障害を持つ教会員のための教材については、以下に問い合わせる。

Members with Disabilities  
Floor 24  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, UT 84150-3200 U.S.A.  
電話 1-801-240-2477

## 御霊によって教える

もしわたしたちが主の御霊の導きを受けるならば、  
相手の教育のレベルにかかわらず、どんな人にでも、  
世界のどんな場所でも教えることができます。  
主はわたしたち以上に多くを御存じなので、  
もしわたしたちが主の僕として主の御霊を受けて行動するならば、  
主はどのような人にでも、主の救いのおとずれを伝えることができになるのです。

ダリン・H・オークス長老



## 御霊が真の教師であられる



神の言葉を聞く人の心を動かす聖霊の力は、「人々を確信に導く神の力」(教義と聖約11:21)である。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう教えた。

「人の霊に語りかける神の御霊は、天におられる方々と接して真理が与えられる場合より、はるかに効果的に分かりやすく真理を伝える力を持っている。聖霊によって真理は体の骨髄にしみ込み、忘れ去ることができないものとなる。」(『救いの教義』ブルース・R・マックンキー編、第1巻、47)

「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである。」(2ニーファイ33:1) いかにも優れた専門的な知識があり、経験が豊かであっても、この世の教師は人に証と改心の祝福をもたらすことはできない。それは聖霊すなわち御霊の務めである。人は福音が真実であることを聖霊の力によって知る(モロナイ10:5; 教義と聖約50:13-14参照)。

### 福音を教える御霊の役割

福音を教えるときには、御霊が真の教師であられることを謙虚に認めるべきである。わたしたちの特権は、わたしたちを通して聖霊が教え、証し、慰め、靈感をお与えになる器として働くことである。したがってわたしたちは、御霊を受けるにふさわしくなければならない(「御霊を求める」13ページ参照)。レッスンの準備をするとき、また教えるときには、御霊の導きを求めて祈らなければならない(「御霊の力を受け、御霊の導きにより教える」47-48ページ参照)。また、教えられる人々が御霊の影響を感じることができるよう雰囲気を作るためにできる限りの努力をする必要がある(「教えるときに御霊を招く」45-46ページ参照)。

七十人のジーン・R・クック長老はこう勧告している。「だれが教えるのでしょうか。それは慰め主です。あなたは『真の教師』ではないことを忘れてはなりません。それは重大な間違いです。……御霊のじゃまにならないように注意しなければなりません。教師のおもな役割は人々が主と霊的な経験を持つことができるように道を備えることです。あなたは使われる者であって、教師ではありません。主が、教えを受ける

人々の必要を御存じです。人の心を動かし、変化を遂げさせてくださるのは主なのです。」(宗教教育者への説教、1989年9月1日)

### 主の手にある器として謙遜に奉仕する

わたしたちは時々、わたしたち教師の努力によってのみ人々は天父に近づくという考えに駆られる。わたしたちの説得によって人は真理を確信するのだと考えるのである。また、わたしたちの雄弁さや特定の福音の原則に関する知識が人を感動させ、啓発すると想像しがちである。そのようなことを考え始めたら、わたしたちは人々を確信に導く聖霊の力を「妨害」することになる。わたしたちは、「喜びのおとずれを告げ知らせなさい。……謙遜の限りを尽くしてそれを行いなさい。〔主〕を信頼し……なさい」(教義と聖約19:29-30)という主の命令を常に忘れてはならない。

霊的に自分を備え、主の力によって教えることを認める人は、主の手の器となることができる。聖霊はあなたの言葉に力を与えてくださるであろう。

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、聖霊の力によって教える謙遜な人と、自分の力に頼る高慢な人の違いを次のように教えている。

「何年か前にわたしはメキシコと中央アメリカにおいて、現在の地域会長に相当する責任を与えられました。……

ある日曜日、……わたしはある支部の神権会に出席しました。そこでは謙遜ではありませんが、教育をあまり受けていないメキシコ人神権指導者が悪戦苦闘しながら福音の真理を伝えようとしていました。彼が福音の真理によってどれほど強い影響を受けてきたかは明らかでした。彼は何とかしてこれらの原則を神権者に伝えたいと思っていることが、わたしにはよく分かりました。愛する兄弟たちにとってきわめて大切な原則であることを彼は知っていました。彼はレッスンの手引きを読んでいるだけでしたが、その声には救い主の純粋な愛と兄弟たちを愛する気持ちががにじみ出ていました。その愛と誠実さ、それに彼の純粋な気持ちが聖霊を招いていました。……

それから何年かして、わたしは家族とともに所属するワードの日曜学校クラスに出席しました。教養豊かな大学の教授がレッスンを行っていました。そのレッスンはわ



たしがメキシコの支部の神権会で経験したものは対称的な、まるで異質のものでした。教師は、意図的に分かりにくい資料を引用し、奇抜な例を持ち出してその日のテーマであるジョセフ・スミスの生涯に関する概念を発展させているように思えました。彼は自分の偉大な知識をクラスで披露するためにレッスンの機会を利用していることが明らかでした。……少なくとも、あの謙遜な神権指導者のように原則を教えようとする姿勢は彼には見られませんでした。……

……メキシコ人の神権指導者が真理を霊的なレベルで伝える器として使われるために、彼の持っている謙遜が必要だったのです。」(*Helping Others to Be Spiritually Led* [宗教教育者への説教, 1998年8月11日], 10-12)

#### そのほかの参考資料

御霊によって教えることについてのさらに詳しい情報については、福音の教え方コース第3課(198-202ページ)を参照。



## 証をもって教える



ブルース・R・マッコンキー長老はこう言った。「福音を教えることによって、確信と改心をもたらす最も偉大な力が発揮されるのは、靈感にあふれる教師が『わたしは聖霊の力と聖なる御霊の啓示がわたしの心に与えられたので、わたしが教えている教義が真実であることを知っています』と語るときである。」(『The Promised Messiah』[1978年], 516-517)

ブリガム・ヤング大管長はこの真実を、バプテスマを受けて教会員になる前に学んだ。謙虚な宣教師の証によって聖霊の改心の力を感じることができたのである。後に彼はこう述懐している。「わたしが会った人は雄弁でないどころか、人前で話す才能すらありませんでした。彼は、『わたしは聖霊の力によってモルモン書が真実であること、ジョセフ・スミスが主の預言者であることを知っています』としか言えませんでした。その人から発散される聖霊の力はわたしの理解を照らし、光と栄光と不死不滅がわたしの前に訪れました。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』73)

この証の力を、若き宣教師の時代にも体験したヤング大管長はこう語っている。「わたしは人々に証を述べるための旅に出て間もなく、一つの事実を知りました。それは、裁きの日までには聖書の教えが正しいことを人々に証明することができるでしょうが、それは単に確信を与えるだけであって、改心させるものではない、ということです。あなたは創世記から黙示録まで聖書を読んで、教えを細部にわたって証明することができるでしょうが、それだけでは人々を改心させる力を与えることはできません。聖霊の力による証がなければ、人々に光と知識をもたらすことはできません。つまり悔い改める気持ちにさせることはで

きません。聖霊の力によらなければ何の働きもなすことができないのです。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』271)

### 証とは何か

証とは何であり、何でないかを理解することは重要である。まず、証は勧告や悔い改めへの呼びかけ、旅行談、説教、指導ではない。証は信じていること、すなわち、思い、確信、信念を率直にそのまま述べることである。通常「わたしは」という一人称で始まり、「知っています」「証します」などの力強い動詞で終わる。イエス・キリストの特別な証人がそのように証するのを聞いたことがあるのではないだろうか。証は短く、簡潔で、率直に語られたときに最も力強いことが多い。

聖文から以下の例を考えてみよう。これらの証はほかのメッセージの中、つまり初め、中間、終わりで述べられていることに注意する。

「わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」(教義と聖約76:22-24, 下線付加)

「将来起こることについてこれからあなたがたに語ることは、何事もすべて真実であると、わたしは自分で知っている。わたしはあなたがたに言う。わたしはイエス・キリストが将来来られることを知っている。イエス・キリストは御子、すなわち御



父の独り子で、恵みと憐れみと真理に満ちておられる。」  
(アルマ5：48, 下線付加)

「さて見よ、わたしも、これらのことが真実であることをあなたがたに証しよう。見よ、あなたがたに言う。将来キリストは、御自分の民の背きを御自身に負うために人の子らの中に来られ、世の罪を贖われる。わたしはこのことを知っている。主なる神がそう言われたからである。」(アルマ34：8, 下線付加)

「神に頼る者はだれであろうと、試練や災難や苦難の中にあつて支えられ、また終わりの日に高く上げられるということをわたしは知っているからである。」(アルマ36：3, 下線付加)

その他、モルモン書ヤコブ7：12；アルマ7：8；36：30；ジョセフ・スミス－歴史1：25にも例が見られる。

### 証を用いて教える

人を確信と改心へ導く聖霊の力によって教えるには、教えることに対する証を持たなければならない。デビッド・O・マッケイ大管長はこう語る。「イエス・キリストは世の贖い主であられ、ジョセフ・スミスは神の預言者であったこと、またこの末日の時代に神は御子を伴ってジョセフ・スミスの前に御姿を現されたことを教えるのはあなたの義務である。あなたはこれを信じているだろうか。実感として感じることができるだろうか。証があなたの体からあふれ出ているだろうか。……証の光があふれ出ているとしたら、あなたは教える相手の人々に生命を与えることができる。しかし、そうでないならば人々は飢え、渇き、霊性が欠けてくるであろう。……あなたは自ら感じるときにのみ、人々に効果的に教えることができる。」(1997年改訂版『教師、その大いなる召し』12)

証を得て、それを絶えず強めていくには以下の4つの事柄が必要である。(1) 聖典と末日の預言者の教えを研究する、(2) 祈る、(3) 断食をする、(4) 神の戒めに従う。ま

た、証は人に分かちにつれて強くなることも分かるであろう。

各レッスンを教える準備をするときは、あなたの最も神聖な思いをいつ伝えるべきか、御霊の導きを祈り求めるべきである。そうすると、レッスンの最後だけでなく、途中でも何度か証をしたいと思うようになるであろう。

### 証は証を呼ぶ

あなたが言葉と行いで証をすると、ほかの人々が自分自身の証を強めるのを助けることになる。ある専任宣教師が伝道する前の年に自分の教師だった人に次のような手紙を書いた。

「あなたが称賛や名誉、報償を求めない方であることは存じております。でも、モルモン書を勉強したあのクラスについて心からの感謝を述べさせていただきたいのです。わたしが度々思い出すのは、文章が拙劣であるとか思想が貧弱だとかいう理由でモルモン書を捨てる人々が多いが、モルモン書には固有の美しさと比類ない深さがあるということあなたの証です。レッスンや個人学習を通して、わたしはモルモン書が大好きになりました。クラスであなたがごく平易な真理について証をされるのを心待ちにしていたことを覚えています。アルマ書32章では、真理の種がわたしたちの心の中でどのように生長するかを証してくださいましたね。あなたの証により、わたしはその原則の真理について聖霊の証を受けることができたのです。

今わたしは伝道に出て1か月です。モルモン書への燃えるような証があります。わたしが受けたのは、いつかなくなってしまう単なる霊的な蓄えではありません。あなたはわたしを命の木へと導いてくださったのです。あなたはリーハイのように、ほかの人にその実を食べさせることを何より望んでおられました。それがわたしの心を打ったのです。あなたの生活の中にその実の祝福を見ることができたからです。」

## 教えるときに御霊を招く



あなたは教師として、レッスンに御霊が伴うように環境を整えることができる。そうすれば聖霊は、あなたが教える原則が真実であることを証してくださる。以下の提案は、あなたが教えるときに御霊を招くの役に立つであろう。

### 祈る

主は言われた。「常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。そして、あなたの祝福は大いなるものとなる。まことに、地の宝と、それと同等の腐敗するものを得るよりも、それは大きいであろう。」(教義と聖約19:39) 祈りは敬虔さと呼び起こし、福音を学ぶ備えをさせてくれる。生徒は順番に開会と閉会の祈りをするべきである。祈りの中で生徒は、レッスン中に御霊の導きを得られるように、また教わった真理を生活に応用できるように求めるとよい。

教えるときは、御霊があなたを導き、生徒の心を開き、証し靈感を与えられるように、心の中で祈る。時には生徒にも、あなたのために、自分自身のために、また学ぼうと努力しているほかの生徒のために祈るよう求めることもできる(3ニーファイ20:1参照)。

小さな子供に教えるときには、祈りの準備のために敬虔になるように助けるためにいろいろなことができる。静かに席に着くように言ったり、腕を組んで模範を示すこともできる。また、祈りでは丁寧な言葉を使うことを教えることもできる。自分の言葉で祈れるようになるまでは、祈りの言葉を教える。祈ってくれた子供には必ず感謝し、祈りの中で子供が言ったことについて短く思いやりのある意見を述べる。

## 聖典と末日の預言者の言葉から教える

聖典の教えと末日の預言者の言葉には力がある、わたしたちが御霊の影響を感じるのを助けてくれる(「言葉の力」50-51ページ参照)。主は言われた。

「これらの言葉は人々から、人間から出ているのではなく、わたしから出ているのである。それゆえ、あなたがたは、これらの言葉がわたしから出ているものであって、人間から出ているものではないことを証しなければならない。

これらの言葉をあなたがたに語っているのは、わたしの声である。これらの言葉は、わたしの御霊によってあなたがたに与えられているからである。そして、わたしの力によって、あなたがたはこれらの言葉を互いに読み合うことができる。わたしの力によらなければ、あなたがたはこれらの言葉を得ることはできない。

そのために、あなたがたは、わたしの声を聞いたこと、そしてわたしの言葉を知っていることを証できるのである。」(教義と聖約18:34-36)

### 証を述べる

教える原則について証を述べる時、聖霊が生徒一人一人に、あなたが語ることが真実であることを証してくださる(「証をもって教える」43-44ページ参照)。レッスンの最後だけでなく、御霊に促されたときはいつでも証をする。また、生徒にも証を述べる機会を与える。

### 経験を分かち合う

証は体験によって強められることが多い。天父が祈りにこたえてくださるとの証を強めた経験がたぶんあるだろう。あるいは、特定の戒めに従うことによって祝福を受けたという体験もあるだろう。そのような証を分かち合えば、あなたは福音の真理の生きた証人となり、あなたが言ったことは真実だと御霊が証してくださる。自分自身の体験を分かち合うことに加えて、生徒にも話せる範囲で自分の体験を分かち合うように励ますとよい(「物語」179-181ページ参照)。



### 音楽を用いる

音楽は、言葉で表現するのが難しい霊的な思いを表現することができる。ボイド・K・パッカー長老はこう述べている。「わたしたちは音楽を通して素早く感じ、学ぶことができます。……一部の霊的な事柄を学ぶ場合、ほかの方法では非常に時間がかかってしまうことがあります。」(“The Arts and the Spirit of the Lord,” *Ensign*, 1976年8月号, 61)

教会の賛美歌や初等協会の歌は福音の原則を教えている。どのレッスンでも、歌は概念の紹介にもまとめにも利用できる。初等協会の歌は、子供に簡単に、美しく証を述べさせる機会でもある(「音楽」172-174ページ参照)。

教会や家庭、個人的な生活で神聖な音楽をどのように用

いるかについては、賛美歌集のはしがきを参照する(『賛美歌』9-10ページ参照)。

### 主と人々に愛を示す

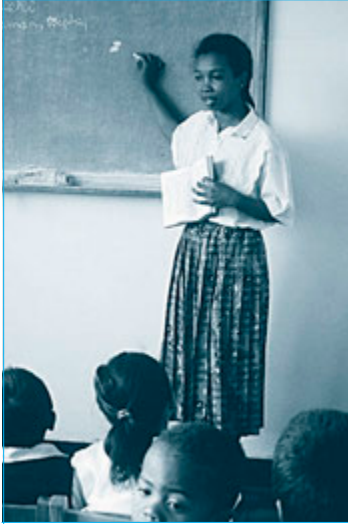
注意深く話に耳を傾けたり、生徒の生活に心から関心を寄せることにより、生徒に愛を示すことができる。キリストのような愛は人の心を穏やかにし、御霊のささやきを受け入れやすくする(「愛は心を和ませる」31-32ページ参照)。

### そのほかの参考資料

御霊によって教えることについての詳しい情報は、福音の教え方コース第3課(198-202ページ)を参照する。



## 御霊の力を受け、 御霊の導きにより教える



自分自身を適切に備える人は、教えるときに聖霊から光と導きを得ることができる。生徒がどういう状態なのか、教えるときに何を強調すべきか、どのように教えれば最も効果が上がるかについて、導きを得ることができる。御霊のささやきに謙虚に従えば、あなたの熱心な努力はさらに大きな力となるであろう。またあなたは、生徒が御霊の影響を自覚できるように助けることもできる。そして、主の次の言葉が成就するのを体験するようになる。「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約50：22)

### 御霊を認める

ダリン・H・オックス長老はこう教えている。

「わたしたちは、主がわたしたちに御霊を通じて語りかけてくださるのは、神御自身の時に、神御自身の方法で行われるのであるということを認識する必要があります。……霊的な事柄に関して、わたしたちの側からの強制はあり得ないのです。

大部分の場合、『神御自身の方法』とは、突如雷鳴がとどろいたり、目がくらむような光がさし込んだりといったものではありません。むしろ、聖文にあるように、『静かな細い声』でもたらされる方が普通です(列王上19：12；1ニエファイ17：45；教義と聖約85：6)。……主が大声で語られることはまずあり得ないということを、わたしたちは認識する必要があります。主のメッセージは、ほとんどの場合、ささやきとしてもたらされるのです。」(「御霊によって教え、学ぶ」『リアホナ』1999年5月号、20-21)

主は御霊を通して語られるとき、時折わ

たしたちの「胸を内から燃や」される(教義と聖約9：8)。この燃える心はオックス長老が説明しているように、「平安や落ち着きといった思いのことを意味しています。」(Ensign, 1997年3月号、10-12)そしてしばしば、光と喜びと平安を感じる(ローマ15：13；ガラテヤ5：22-23；教義と聖約6：23；11：13参照)。

ハワード・W・ハンター大管長は御霊の現れを識別する方法についてこう説明している。

「強い感情の高まりや自然にあふれ出る涙と御霊の現れとが同一視されているような状態にわたしは不安を抱いています。確かに主の御霊は涙を流すことを含む強い感情の高まりをもたらすことがありますが、そうした外形的な現れと御霊の現れとを混同してはなりません。

わたしは長年にわたって多くの兄弟たちと交わりを持ってきました。そしてきわめてまれな、言葉に表せないほどの霊的な経験を分かち合ってきました。これらの経験は一つ一つが異なるものでした。それぞれが特別でした。そのような神聖な瞬間に涙を流したこともあれば、流さなかったこともありました。涙を流す場合が非常に多かったのですが、あるときは完全な沈黙がその場を支配するということもありました。あるときは喜びに満たされました。いずれの場合にも、真理の大いなる現れが伴い、また啓示の大いなる現れを心に受けてきました。……

真理に耳を傾け、教義に耳をそばだて、様々な形を取ってもたらされる御霊の現れを招くのです。確かな原則に立って、清い心をもって教えなさい。すると、御霊はあなたの思いと心を、また生徒全員の思いと心を貫いてくださるでしょう。」(Eternal

*Investments* [宗教教育者への説教, 1989年2月10日], 3)

### 御霊に導かれて教える準備をする

祈りを込めて教える準備をするとき、また聖文を研究するとき、そして日々の仕事を行うときでさえも、心を開き主に心に向けて導きを求める。そうすれば、突然御霊を通して「良い考えがひらめく」ことがある (*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選, [1976年], 151)。特定の原則を強調するように導かれるかもしれないし、特定の概念を提示するための最善の方法が思い浮かぶかもしれない。また日々のごくありふれた生活の中に、事例や実物を用いたレッスン、靈感に満ちた話などを発見することもある（「あらゆる場所で教えるヒントを見つける」22-23ページ参照）。さらに、だれかを招いてレッスンの援助をしてもらおうと思いついたり、皆に話せる自分自身の体験を思い出すかもしれない。これらを紙に書いて、祈りをもって御霊の導きに従うようにする。

C・マックス・コールドウェル長老は以下の経験を紹介している。「何年か前にわたしは、自分には特に難しいと感じていたテーマでレッスンをするために準備していました。レッスンの前の晩、導きを祈り求めてから床に就きましたが、まだ心の中には不安が残っていました。目が覚めると、ある考えが心に浮かびました。レッスンでその考えを話すと、後から一人の若い男性がわたしのところに来てこのように言いました。『今日のレッスンはわたしのためにあったようなものです。今わたしは何を行うべきか分かりました。』後にわたしは、彼が久し振りに教会へ来て、最初に参加したのはあのレッスンだったことを知りました。その後彼は生活を立て直し、やがて伝道に出て忠実にその務めを果たしました。現在、家族を永遠に結ぶ聖約を守って、幸福な生活を送っています。」（『キリストの愛』『聖徒の道』1993年1月号, 35）

### 御霊に導かれて教える

祈りを込めてよく考えながらレッスンの準備をすると、

たいてい御霊によって教えることができる。さらに、御霊は教えているあなたをしばしば導いてくださる。主が約束しておられるように、「あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間に」（教義と聖約100：6）与えられるのである。また時には、御霊の促しによって、準備したものから何を省き、何を追加すべきかが分かる。自分が証を述べたり、生徒に証を述べる機会を与えるように促されることもある。生徒が質問をしてきたときに、準備したものから離れて質問の内容について話し合った方がよいと感じることもある。このときは、その促しが御霊から来るものであって、生徒の質問から来るものでないことを確認する。こうした促しに謙虚に従うことが必要である。御霊があなたを通して働き、生徒の心に触れられるようにする。

### 人々が御霊を認識できるよう助ける

御霊の声がよく聞こえるようになると、生徒が御霊の影響力を認めるのを助けることができるようになる。リチャード・G・スコット長老はこう述べている。「もしあなたが生徒に対して、御霊の導きに気づいて従わせること以外に何も成し遂げなかったとしても、あなたは彼らに計り知れない永遠の祝福を与えているのです。」（*Helping Others to Be Spiritually Led* [宗教教育者への説教, 1998年8月11日], 3）

8歳のクリスティは父親と特別な伝道集会に参加した。その会で父親がイエス・キリストの絵を見せて、救い主についての証をした。会が終わると、クリスティは父親にこう言った。『涙が出ちゃう。』父親はクリスティが御霊の力を感じているのに気づき、ひざまずいて彼女を抱き寄せ、そのような優しい心は聖霊の励ましであることを教えた。そして、彼女がその晩聞いたことは真実であること、また、何か真実であることが分かるときには、いつも同じような優しい思いを感じることができることを教えた。

あらゆる機会を利用して、御霊のささやきに従うときに得られる平安と喜びを生徒に教えるようにする。

## 教義を教える

---

わたしは皆さんを救うことはできない。皆さんもわたしを救うことはできない。

わたしたちはお互いに救い合うことはできない。

わたしたちにできるのは、真理を教え、

その真理を受け入れるように互いに説き勧めることだけである。

真理を受け入れた人は真理によって救われるであろう。

単にだれかが話しかけたから救われるのではない。

真理を受け入れ、真理に従って行動して初めて救われるのである。

ジョセフ・F・スミス大管長 (*Gospel Doctrine*, 2)



10

言葉の力



レーマン人への14年にわたる伝道の終わりに、アンモンはこう語っている。「見よ、神が地獄の苦痛から解き放してくださった同胞の数は、何千人にも上るではないか。彼らは今、贖いをもたらした愛について歌うようになっている。これはわたしたちの内にある神の御言葉の力のおかげである。」(アルマ26：13)

ゾーラム人と呼ばれる民がニーファイ人から離れて悪事を行っていたことを知ったニーファイ人の大祭司アルマは、「その民の罪悪のために……心を痛めた。自分の民の中に罪悪があるのを知ることは、アルマにとって深い嘆きの種であったからである。」さらに、ゾーラム人はニーファイ人に軍事的脅威を与えた。ニーファイ人は「ゾーラム人がレーマン人と行き来し、そのためにニーファイ人の側に大きな損害が出るのではないかとひどく恐れた。」(アルマ31：1-4参照)

こうした状況の場合、指導者の多くは武器を取り、戦いを始める。しかしゾーラム人の同胞を心配したアルマは別の方法を提案した。「ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。」(アルマ31：5)

神の言葉は大きな影響力を持つ。わたしたちは時々、生徒はもっとほかのことについて話したいのではないかと、もっと楽しいことを期待しているのではないかとといった考えに駆られることがある。しかし、有能な親や教会の指導者、ホームティーチャー、訪問教師、クラスの教師は、御霊によって教義を教えるときに、教わる人々がしばしば目覚めて、神にかかわる事柄を求めようになることを知っている。

**なぜ神の言葉を教えるのか**

ゾーラム人に教えを宣べ伝えていたアルマは、苦難を経験して神の言葉を受け入れるようになった民に話した。アルマは彼らに御言葉の力について教えた。アルマの言

葉を研究すると、福音を教えるためのよりどころとしてなぜ神の言葉を用いるべきかがよく理解できる。

アルマは御言葉を心にまかれた種になぞらえている。種をまいた庭の世話をすれば、小さかった種が程なく水を含んでふくらみ始める。種の中のエネルギーはとても大きくて、硬い土をも貫いて最初の芽を出す。わたしたちが神の言葉を心にまく「場所を設け」るとき、これと同じことが起こる。種を捨てなければ、つまり主の御霊を拒まなければ、種はふくれて生長する。アルマはこう語っている。「その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。』」(アルマ32：28)

このようなことが心の中で起こると、わたしたちは種すなわち神の言葉が善いものであることが分かる。「しかし見よ、その種がふくらんで芽を出し、生長し始めると、あなたがたはその種を良いものであると思うに違いない。……さて見よ、あなたがたはすでに試して種を植え、その種がふくらんで芽を出し、生長し始めているので、その種が良いものであることを知るに違いない。」(アルマ32：30, 33) アルマはこう続けている。「あなたがたが御言葉に養いを与えようとすれば、つまり、その木が生長を始めるときに、非常な熱意と、忍耐を伴う信仰を働かせてその実を期待しながら養いを与えようとすれば、それは根付くであろう。そして見よ、それは生長して永遠の命をもたらす木になるであろう。」また、「最も価値があ」る実がなるであろう(アルマ32：41-42)。

ボイド・K・パッカー長老はこう語っている。「まことの教えを理解すれば、人の態度や行動は変わります。福音の教義を研究することは、人の行動を研究するよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。」(「幼き子ら」『聖徒の道』1987年1月号, 18-19) この世間的な考えや原則にはこの力はない。どのような魅力的な講演でも楽しい発表でも、それほど深く人の心を動かし、人の心をキリストに向けさせること

はできない。わたしたちが神の器になって、悔い改めてキリストのもとに来るように導く信仰を人々の心に生じさせるには、福音の真理を中心として教える以外にないのである。

教義を教えることにより、わたしたちは靈的に横道にそれることから守られる。迷ったら、呼び戻してくれる。ラッセル・M・ネルソン長老はこう説明している。

「何年も前若い医学生だったころ、わたしは、今では予防可能な病気に苦しむおおぜいの患者を見ました。今日では、かつては機能障害や死に至る病気を防ぐ免疫を与えることができます。免疫を与える医療方法が予防接種です。接種を意味する“inoculate”は興味深い言葉で、二つのラテン語から来ています。“in”は『中』を表し、“oculus”は『目』を意味します。“inoculate”という動詞は『中に目を入れる』、つまり『有害なものが入ってこないように監視する』という意味です。

小児まひのような病気は、手足や体に障害を残すことがあります。罪という病気は靈に障害をもたらします。小児まひから生じる障害は免疫によって予防できますが、罪から生じる障害に対しては別の予防手段が必要です。医者には罪悪に対する免疫を与えることはできません。靈的な予防は主から、主御自身の方法でもたらされます。主が選ばれた方法は予防接種ではなく、真理の教えです。主の方法にワクチンは用いられません。神の子供たちの永遠の靈を守るために、神の教義を教えるのです。つまり『心の中の目』を働かせるのです。」（『聖約にあずかる者』『聖徒の道』1995年7月号、35）

### 聖典と末日の預言者の言葉から教える

聖典と末日の預言者の言葉を用いてすべてのレッスンを教えるとき、御靈に証をしていただくことができる。そして、「人々を確信に導く神の力」を受けて教えることができる（教義と聖約11：21）。

あるビショップがステーキ指導者会での経験をこう語っている。

「30年ほど前のことですが、わたしはワードの祭司定員会アドバイザーの責任を頂いていました。定員会のレッスンでは聖典と生ける預言者の言葉を読み、教義を強調するようにしていました。わたしたちのレッスンは御靈があったので、楽しく思い出深いものとなりました。

定員会に若い祭司でパオロという名の子がいました。めったに家に帰らず、両親はたいてい彼の居場所を知りませんでした。わたしは時折彼と接触できました。彼はたまに定員会に顔を見せました。わたしたちは当時、福音の原則をもっとよく理解しようと努めていて、聖文を中心にレッスンを学ぶようにしていました。わたしはパオロが出席す

るときは、その後で何週間も町から姿を消すことがあっても、福音の真理が彼の心を動かしていることを靈の心で感じていました。

ある日曜日の朝、パオロが教会にやってきました。スーツにワイシャツ、ネクタイ姿で、ひげもきれいにそっています。わたしたちにとってはうれしい驚きでした。後になって分かったことですが、彼は前の晩に遠く離れた町で一つの経験をしたのです。彼は失望の淵に落ち込んでいました。真夜中に、彼は心が開かれて靈的な体験をしました。彼の魂を求めて神とサタンが闘っており、サタンが勝利を収めようとしているのに気づいたのです。そこで目を覚ました彼は、そこから何マイルも歩いて自分の家にたどり着きました。そして両親を起こし、それまでのいきさつを話しました。夜が明けると、彼は身支度を整え、教会に来たのです。

それからは、過去を振り向くことはありませんでした。それまでの過ちをすべて悔い改め、後にワードの若い女性の中で最もすばらしい姉妹の一人と恋をしました。彼は今日、立派な父親、神権指導者、市民として生活しています。

当時を振り返ってよく思うのは、定員会でパオロが聞いた事柄が彼の転機に大きな影響を与えたのではないだろうかということです。定員会で福音の真理について話しているとき、パオロの心には感じるものがあったのです。それらの真理がパオロに、自分がほんとうは何者で、神が自分に何を期待しておられるかをいつも思い起こさせていたのでしょう。それが彼の心と思い働きかけて、次第に自分が選んできた生き方に対して不快感を覚えるようになったのだと思います。固く閉ざされた彼の心の非常に狭い透き間から御靈は彼に語りかけ、警告を発してくださったのです。定員会の時間を車やスポーツ、また男の子はこう生きるべきだというわたしの個人的な考えについて語ることで時間を浪費しなかったことを感謝しています。パオロはわたしたちがともに学んだ福音の真理を通して主の呼ぶ声を聞いたのだと思います。」

わたしたちは生徒に、聖文の中に力を見いだす方法を教えることができる。ボイド・K・パッカー長老はこう語っている。「あなたは聖文を教えるのです。……生徒が啓示に親しんでいるとしたら、それが個人的なことであれ、社会的なことであれ、政治についてであれ、職業についてであれ、回答の見つからない疑問などというものは存在しないでしょう。聖文には永遠の福音が完全に収められています。また、あらゆる家族と個人が遭遇する混乱や問題、ジレンマを解決する真理の原則をそこに見いだすことができます。」（*Teach the Scriptures* [宗教教育者への説教, 1977年10月14日], 5）

## 教義を純粹に保つ



モロナイ書第8章はモルモンが息子モロナイに書いた手紙である。テーマは幼児のバプテスマで、当時の教会では一部で行われていた。モルモンはこの誤った教えを正すために、責任を負うことに関する正しい教義を再度述べ、それを全地で教えるようにモロナイに指示している。教会の教義と原則をゆがめることなく純粹に保つことの必要性を扱った例として、モロナイ8章を読む。

真理のために人々が支払ってきた代価を考えると、心が打たれ、へりくだった気持ちになる。多くの人々が家族の反対を押し切ってバプテスマを受けている。預言者をはじめ多くの人々が証を否定するよりはむしろ死を選んだ。ジョセフとハイラムの殉教に関してジョン・テラー長老は、モルモン書と教義と聖約は「十九世紀の最も貴い血を犠牲にしてもたらされた」（教義と聖約135：6）と述べている。

福音を教えるすべての人は、そのような大きな犠牲が払われた真理をゆがめることなく純粹な形で人に伝える必要がある。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう語っている。「わたしは以前に教会の教義を純粹に保つこと、また教会のすべての集会でそれが教えられるようにすることの重要性について話したことがあります。わたしはこのことについて心を悩ませています。教義から少し外れた教えが、大きなそして邪悪な偽りへと発展することがあるのです。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年], 620)

### 教師としてのあなたの責任

レッスンの準備や提示を行うときは、主が啓示された真理を教えるように、以下の点で注意を払わなければならない。

聖典と末日の預言者の言葉から御霊によって教える

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう教えている。「さて、永遠の神が定めたもうた偉大な計画を教えるときに何を基としたいのでしょうか。もちろん聖典です。特にモルモン書を使ってください。末日に与えられたほかの啓示も使うようにしてください。さらに使徒や預言者の言葉、また、

御霊のささやきの言葉に従って教えてください。」(「モルモン書と教義と聖約」『聖徒の道』1987年7月号, 96)

教会発行の出版物を用いる

聖典と預言者の言葉から教える助けとして、教会はレッスンテキストなどの資料を発行している。注解書や参考書はほとんど必要がない。聖典と末日の預言者の言葉とレッスンテキストを十分に研究し、教える前に教義を正しく理解しておく。

福音の真理を教え、ほかのことは教えない

アルマは、モルモンの泉でバプテスマを受けた人々を教えるように祭司を聖任したとき、「自分が教えたことと、聖なる預言者たちの口を通して述べられたことのほかは、何も教えないように指示した。」(モーサヤ18：19) 救い主の12人のニーファイ人の弟子たちが民を教えたとき、「イエスが言われたとおりの御言葉を、イエスが教えられた御言葉と少しも異なることなく教え」た(3ニーファイ19：8)。イエス・キリストの福音を教えるときには、これらの模範に従わなければならない。

福音の真理はだれも誤解することがないように、明快に教える

ハロルド・B・リー大管長はこう語っている。「みなさんの務めは教え継がれてきた教義を教えることである。しかも、ただ生徒たちが理解できればよいというのではなく、分かりやすく、教会の教義を教えないといけないのである。」(1997年改訂版『教師、その大いなる召し』10)

### 福音を教える教師への注意

教義を純粹に保つためには、以下の問題を避ける。

推論

「訓練されていない教師は、レッスンを行っている間にも、様々な方法で目的から離れた道へと迷い込んでしまいます。最も一般的な誘惑は、主がほとんど語っておられない事柄について様々な憶測を加えることです。訓練された教師は『わたしは知りません』と言う勇気を持ち、そうした事柄に近づきません。ジョセフ・F・スミス大管長が述べたように、『推測を招く質問の



すべてに対して、率直に「分かりません」と答えても、決してわたしたちの知性を疑われたり、尊厳を失ったりすることはない』のです〔*Gospel Doctrine*, 第5版（1939年）, 9〕。（ジョセフ・F・マッコンキー, “The Disciplined Teacher,” *Instructor*, 1969年9月号, 334-335）

#### 誤った引用

「訓練された教師は自分が使う資料をよく確かめて、内容が教会の教義を正しく述べたものか、あるいは著者個人の意見なのかを見極めるためにあらゆる努力を傾けます。」（*Instructor*, 1969年9月号, 334-335）

資料を提示するとき、出典を確認せずにそれを教会指導者の言葉であると言ってはならない。聖文を引用するときには、聖文の文脈に合った方法で使用する。（「聖文から教える」54-55ページ参照）

#### 福音を自分の好みに合わせる

「教師は、福音を自分の好みに合わせることを、すなわち福音の中の一つの原則を特別にあるいは限定的に強調することを避けなければなりません。」（*Instructor*, 1969年9月号, 334-335）

ジョセフ・F・スミス大管長はこう語っている。「自分の好みに合った教えだけを守る人々は、贖い主の福音を誤った観点から捕らえ、福音の原則と教えをゆがめ、そして原則と教えから離れて行きます。視点が不自然なのです。神から啓示された原則と儀式はすべて、人の救いに欠くことのできないものであるのに、その一つだけを取ってことさら強調し、ほかのすべてを隠したり、ほかしたりするのは賢明でないし、また危険です。またそのような人は救われるかどうか危うくなります。そのような姿勢は心に暗雲を投げかけ、理解をあいまいにします。」（*Gospel Doctrine*, 116-117）

#### 好奇心をあおる話

「生徒の注意を引きつけておくために教師が陥りがちな最も大きな誤ちは、好奇心をあおる話をするることである。この種の話は数多くあり、その出所も非常にあいまいであるにもかかわらず、教会内でよく耳にする。……しかしこれらは、教える際に役立つとはいえない。好奇心をあおるような話からは証や確信が生まれにくいからである。預言者からの指示は、適切な神権の系路を通じてわたしたちに与えられる。したがってわたしたちは、ステーキ大会や総大会における中央幹部の話によく注意を払い、定期的に教会刊行物を読むようにしなければならない。教師が正当な教

義を信奉し、その教義に関して揺るぎない確信を抱いていることがほかの人々に認識されるならば、生徒も自然にレッスンを注意を向けるようになるであろう。」（1997年改訂版『教師、その大いなる召し』62-63）

#### 教会歴史の改ざん

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう警告している。「わたしたちの教会の歴史に〔人間的な〕考え方を取り込もうとする試みがこれまでに行われてきました。これは今後にも続けられることでしょう。……これらの試みは、重要な出来事において啓示や神が介在しておられることの価値を下げ、神の預言者を極端に俗人化させることにより、預言者の霊的資質を押しつけて人間的な弱さを浮き彫りにすることを強調しています。」（“God's Hand in Our Nation's History,” *1976 Devotional Speeches of the Year* [1977年], 310）

こうした試みについて、ベンソン大管長は後にこう述べている。「わたしたちは世の歡心を買おうとして教会の歴史に新しい解釈を加えるこの傾向について教師の皆さんに警告を發します。」（*The Gospel Teacher and His Message* [宗教教育者への説教, 1976年9月17日], 11）

#### 個人的解釈と正統でない見解

J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長はこう述べている。「管理大祭司である大管長のみが教会の預言者、聖見者、啓示者として支持され、大管長だけが新しい啓示であれ啓示の修正であれ、教会のために啓示を受けるのであり、聖文について権威ある解釈を加えてそれを教会全体を拘束するものとし、教会の既存の教義をどのような方法であれ変更するのです。」（*Church News*, 1954年7月31日付, 10）わたしたちは福音の原則または聖文に関して個人的な解釈を教えるはなりません。

スペンサー・W・キンボール長老はこう語っています。「教会の正統な教義に異議を唱えて、啓示された真理と異なる自分の意見を提唱することを自慢している人が現在教会に見られます。一部の人は悪意があってそうしているわけではないと思います。しかし、利己心を満足させるためにそうしている人もいます。さらに、意識的に提唱している人もいます。彼らはそれで楽しいのかもしれませんが、正統でない見解を他人に押しつける権利はありません。彼らは自分の霊が危険な状態にあることを知るべきです。」（*Conference Report*, 1948年4月, 109）

## 聖文から教える



末日の預言者はわたしたちに、聖文を用いて福音の教義を教えるように指示している。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう語った。「聖典と生ける預言者の言葉に代わって、わたしたちに満足を与えてくれるものはないことを絶えず心に銘記する必要があります。これらはあなたにとって原典ともいべきものです。主が語られたことについて書かれたほかの書物に目を向けるよりも、主御自身が語られたことを読んで、深く考えるようにすべきです。」(*The Gospel Teacher and His Message* [宗教教育者への説教, 1976年9月17日], 6)

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう語っている。「神の知恵の真の源は、教会の標準聖典という神聖な書物に記されている主の言葉です。この業を神の定めたもうた道に従って進めようとするなら、主の言葉こそわたしたちが固守すべき教義なのです。」(「教会員数500万到達——発展への道しるべ」『聖徒の道』1982年7月号, 83)

以下の提案は聖文から教えるうえで役立つものである。

### 御言葉を得るように努める

聖文から教えられるようになるには、自分で聖文を研究しなければならない(「御言葉を得ることを求める」14-15ページ、「福音を研究するための個人の計画を作る」16-17ページ参照)。

### 話し合いを進め、質問をする

聖文から教えるときは、話し合いを進め、質問をすることが特に重要である。この方法を用いると、生徒が聖文について考え、自分の考えを発表できるからである。生徒は聖文に書かれた原則について話し合うにつれて、個人の聖文学習に必要な技能を伸

ばしていくことができる。(話し合いを進め、質問を用いることについては、63-65ページと68-70ページを参照する。)

### コンテキストを提供する

聖文の状況や背景をコンテキストと呼ぶ。生徒はコンテキストが分かると、聖文の内容や出来事をさらによく理解することができる。

コンテキストを見つけるためには、以下の質問をするとよい。

- だれが話しているのだろうか。
- だれに向かって話しているのだろうか。
- 何について話しているのだろうか。
- 何に答えているのだろうか。
- なぜこのようなことを言っているのだろうか。

例えば、ルカ15:11-32には救い主が語られた放蕩息子のたとえがある。預言者ジョセフ・スミスは、コンテキストを見ることによってこのたとえを理解することができたと言っている。

「わたしは聖文を理解するための鍵を持っています。わたしは、その答えを導き出した問いは何であったか、またイエスがそのたとえを用いられたのはなぜかを考えることにしています。……イエスが人々に教えを与えておられたとき、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄って来ました。『するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った。』ここに放蕩息子のたとえを解く鍵の言葉があります。このたとえは、過ちを問いただしあら探しをしていたサドカイ人やパリサイ人が『偉大だと称しているこの人は取税人や罪人たちと食事をしているとは

いったいどういうことか』と言ってつぶやき、質問した事柄に対する答えです。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールディング・スミス選 [1976年], 276-277)

預言者ジョセフ・スミスが指摘しているように、放蕩息子のとえのコンテキストはたとえの数節前のルカ15:1-2から始まっている。コンテキストを知る一つの方法は、勉強している聖句の前後を見ることである。

この進め方は、聖文の中の話し手が人について話している場合だけではなく、当時の重要な出来事について述べている場合でも有益である。この例が「言葉の力」(50ページ)の最初に要約されている。ゾーラム人がどのような民で、彼らの霊的にすさんだ状況やニーファイ人に軍事的な脅威を与えている状況を理解すれば、「神の言葉の力を使ってゾーラム人を改心させる」というアルマの言葉の重要性がよりよく理解できる(アルマ31:5)。

また、時には、聖文の背景となる時代の政治や社会、経済について勉強するのも役に立つ。例えば、教義と聖約121章と122章にある主の慰めと約束については、当時のミズーリにおける聖徒たちの苦難と、預言者ジョセフ・スミスたちがリバティーの監獄で苦しみに耐えていた様子を知ると助けになる。パウロの書簡についての理解を深めるには、パウロの旅した地域の様子や手紙を出した支部の状況についての基本的な知識が役立つ。聖句ガイドは聖句のこうした背景情報を得るのに最適な資料である。

コンテキストを説明するときは、目的を見失わないようにすることが大切である。つまり、特定の聖句をよりよく理解するための補足にすぎないということである。歴史や政治、経済、言語などのコンテキスト説明をレッスンの中心テーマにしないように注意しなければならない。

### 聖文の中の物語を話す

福音の原則は聖文の中の物語の一部として述べると理解しやすい。物語には人々の関心事が描かれており、福音の原則を日々の生活にどう応用すべきかが分かる。それに、物語は原則を抽象的に述べた文章よりも理解しやすい。(物語の紹介については「物語」179-181ページを参照する。)

聖文の中の物語にはたくさんの原則とその応用が含まれている(その一例がエノス書で、27節しかないが、福音の多くの原則が描かれている)。物語の中のどの原則に焦点を当てるかを決める必要がある。

生徒にとって物語を代わる代わる朗読するのも有益である(「声に出して読む」55ページ参照)。長い物語の場合は、最も重要な部分を生徒に読ませ、教師が要約して話すのがいちばんよいであろう。要約の準備や提示には、章の前書きが役立つ。

### 個人の経歴を説明する

聖文の中の個人の生活を研究すると、福音の原則が長い時間の流れの中で働いているのが分かることがよくある。例えば、モルモン書のゼズロムの物語を始めから終わりまで読むと、人は悔い改めた後、義にかなって主に仕えることが分かる。聖句ガイドの「ゼズロム」の項にある聖句を読めば、ゼズロムの教会への攻撃から改心、そして最後には宣教師や福音の教師として雄々しく奉仕した姿をたどることができる。このように、個人の経歴から示唆を受ける例としては、ルツ、ダビデ王、サムエル、エステル、使徒パウロ、父アルマ、ベニヤミン王、息子アルマ、コリアントン、モルモン、モロナイが挙げられる。

### 目と耳を使う

聖典から教えるときにしばしば役に立つのは、生徒に特定の物や事柄を見たり聞いたりしてもらうことである。以下はそのような方法の幾つかの例である。

人々の生活の中に示された福音の原則の実例。例：モーセ5:4-9を読んで、原則を完全に理解できなくても従順さを示したアダムの姿を描いた箇所を見つける。

質問。例：アルマ5:14-32を読み、アルマの質問を探す。

リスト。例：教義と聖約第25章を研究して、「選ばれた婦人」の特質を挙げる。

言葉や概念の定義。例：教義と聖約97:21ならびにモーセ7:18にあるシオンの定義を挙げる。

イメージやシンボル。例：ヨハネ15:1-6を読んで、イエスが御自分をぶどうの木、弟子たちをその枝にたとえられた部分を見つける。

原則や出来事についての預言的な注釈。例：アルマ30:60を読むのを聞いて、コリホルの死についてのモルモンの注釈に耳を傾ける。

もし……ならばの関係。例：もし安息日を聖く過ごすならば、どのような約束が得られるとイザヤは言っているか(イザヤ58:13-14参照)。

神に喜んでいただける行動、神を不快にさせる行動。例：アルマ39:1-9を読んで、アルマが息子コリアントンに与えた具体的な忠告を探す。

出来事、性格、行動のパターン。例：これらの聖句を読み、真理を求めるときの正しい望みを抱く必要性のパターンを見つける(1ニーファイ10:17-22; 11:1-23; 教義と聖約11章参照)。

個人学習やレッスンの準備のときにこれらの方法を用いれば、生徒と一緒に目と耳を使う勉強が、より効果的に行えるであろう。

### すべての聖文をわたしたちのためと見立てる

「当てはめること」170-171ページ参照

### 声に出して読む

聖文を声に出して読むことは、生徒の関心を引きつけ、



特定のメッセージに焦点を絞り、御霊への感受性を高める。一人の生徒に朗読させているときは、ほかの生徒には聖文を目で追わせる。そして、特定の原則や概念を探させるとよい。読み始める前にその聖句の箇所を開く時間を十分に取る。その聖句に変わった言葉や難しい表現が使われているときは、読む前に説明を加える。クラスに朗読が苦手な人がいれば、順番に読ませる代わりに希望者に読んでもらうようにする。朗読が苦手な生徒には個人的に接触し、いつかはよく読めるようになるように導く。

### 聖典の学習補助資料を利用する

ハワード・W・ハンター大管長はこう語った。「わたしたちの教会は聖文に通じ、聖句を相互参照し、聖句に印を付け、聖句ガイドを使ってレッスンや話の準備を行い、聖典の地図や聖書辞典〔英文〕(Bible Dictionary)、その他このすばらしい標準聖典に収められている資料に通じている男女であふれていなければなりません。そこには、わたしたちが精通するための努力に追いつかないほど多くの資料が含まれています。確かに聖文の畑は『すでに白くなり刈り入れを待っている』のです。」(Eternal Investments〔宗教教育者への説教、1989年2月10日〕、2-3)

#### 聖句ガイド

聖句ガイドには重要な聖句とその説明が含まれている。この資料には多くの聖文に関する項目が網羅されており、五十音順に配列されている。項目は標準聖典に含まれる教義、原則、人物、地名などである。これは質問に答えたり、話やレッスンを準備したり、個人や家族で聖文を研究したりするときのための格好の資料である。

#### 脚注と相互参照

聖典の各ページには通常、脚注がある。末日聖徒版の聖典の場合、脚注には幾つかの種類の情報が含まれている。例えば、聖句ガイド項目リストの参照はGSとして表記されている。またJSはジョセフ・スミス訳聖書からの抜粋である。ジョセフ・スミス訳聖書の抜粋は項目リストの後に収録されている。

最も典型的な脚注は、標準聖典のほかの聖句への相互参照である。これらの参照聖句は今読んでいる聖句の意味を明らかにしたり、洞察を加えたりすることが多い。例えば、教義と聖約11：21を読んだ後で脚注にある聖句を読むと、理解がどう深まるだろうか。

聖句を教えるときは、脚注を活用して相互参照し、生徒がその聖句をより深く理解できるように助けることができる。

#### 章や書の前書き

前書きはその章や書の概要であり、教義や歴史的背景、人物などについての情報が記されている。例えば2ニーファイ27章の前書きには、この章がイザヤ29章と類似していること、またモルモン書の出現についての預言が書かれて

いることを説明している。

生徒に、前書きで強調している部分の聖句に印を付けさせてもよい。例えば、知恵の言葉に関する主要な原則が教義と聖約89章の前書きに記されている。まず前書きを読ませ、それから章の本文の聖句に印を付けさせる。

また、選んだ聖句について意見を述べさせる前に、その章の前書きを黙読させるのもよい。そうすれば、その聖句の背景を正しく理解することができる。

#### 序文

各聖典には序文があり、その聖典の目的や起源に関する重要な背景情報が記載されている。例えば、モルモン書の序文には、ジョセフ・スミスやその他の人々の証やモルモン書の起源に関する情報が含まれている。教義と聖約の序文には、教義と聖約に収められた啓示をどのようにして受け、編さんしたかが記されている。

序文は聖文の背景や歴史、年代や組み立てなどを教えるのに活用できる。序文だけでも一つのレッスンを構成することができよう。例えば、教義と聖約の序文では、福音の回復に関する短い概要が述べられ関連する聖句が挙げられている。

#### 地図

末日聖徒版の聖典には、聖句に関連する教会歴史上重要な場所の地図が載っている。生徒は、話し合われている土地の地理的な位置を理解すれば、聖句に示されている出来事をさらに深く理解できるようになる。

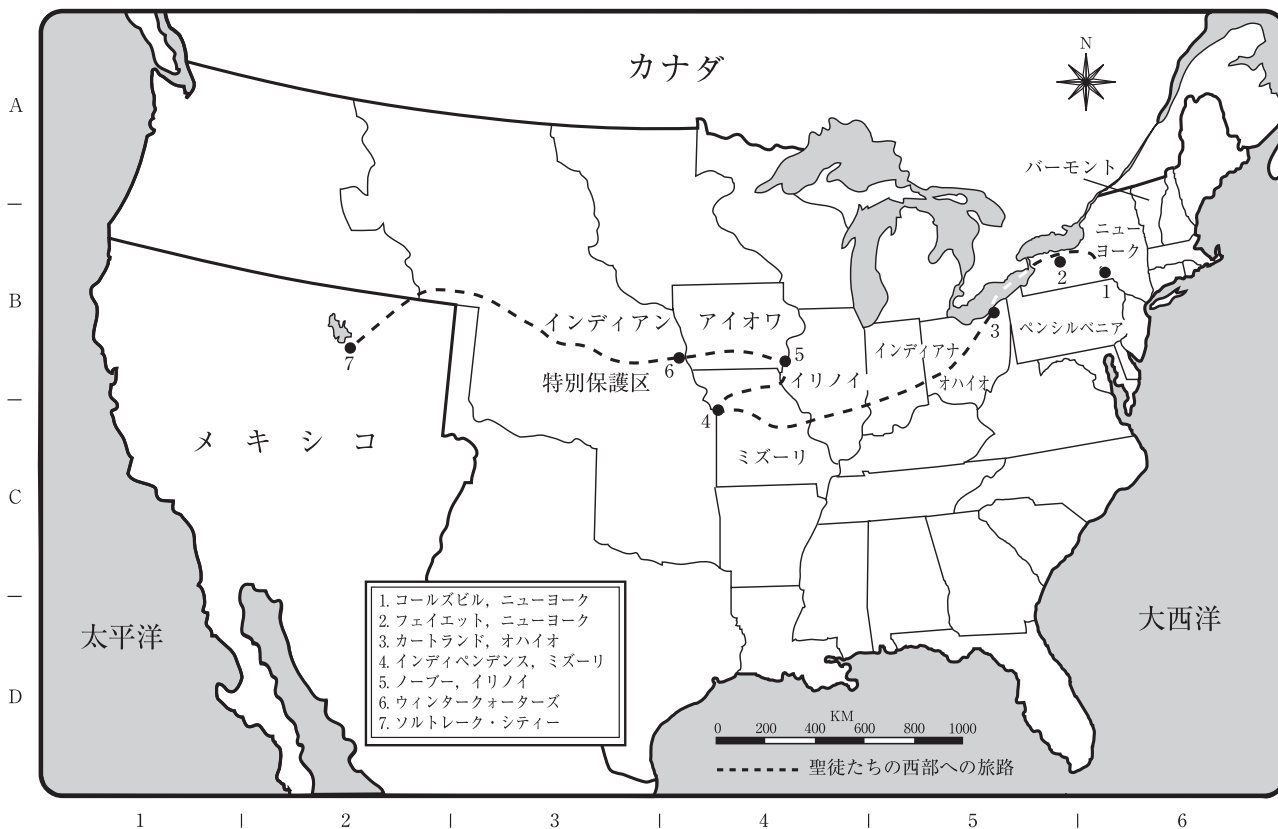
### 聖句に印を付け、余白に注釈を書き込む

物語やテーマ、原則を簡単に見つけられるように、聖句に印を付けると役に立つ。これは個人ファイルシステムのようなものである。「この聖句には大切な原則が含まれていますから、印を付けましょう」などと言いながら、聖句に印を付けさせる。

印の付け方はいろいろある。それぞれの聖文研究の仕方によって違ってくるからである。成人か青少年のクラスを担当しているのであれば、生徒にどのような方法を取っているか発表してもらおうとよい。

印の付け方には以下のようなものがある。これがすべてではない。

- 色鉛筆かマーカーで聖句全体に色をつける、傍線を入れる、括弧でくくる、線で囲む。
- 各聖句の鍵になる語句だけに傍線を引く。こうすれば章の中で重要な箇所がすぐに分かり、主概念を見つけるのに時間がかからない。
- 鍵になる語句を丸で囲んだり傍線を引き、関連する語句同士を直線で結ぶ。
- 一つまたは複数の節を囲み、その中の鍵になる言葉を結ぶ。



- 関連する内容が繰り返し出てくるときには、文中あるいは余白に番号を書き込む。

関連聖句の連結

ほとんどの福音の原則は、それぞれ独自の洞察を示す多数の聖句に表現されている。したがって、複数の関連聖句を研究すれば、一つの原則についてさらに完璧な理解が得られる。これを行うための一つの方法は、一つのテーマに関する聖句のリストを作り、そのリストを聖典に書き込むことである。テーマによってリストは長くもなれば、2, 3の重要な聖句だけのものもあるであろう。「聖句連結法」と呼ばれるこの方法は、聖文を研究し聖文を用いて教える際に貴重な手段となる。聖句リストの連結は以下の方法で行う。

各聖句の余白にリストの次の聖句の場所を書き込む。これをリストの最後の聖句まで繰り返す。そして最後の聖句のわきにはリストの最初の聖句の場所を書く。こうすればどの聖句からスタートしても、関連聖句をすべて参照することができる。

また、テーマに対してさらに完全な理解を得るために、一定の順序でリストを作成することもできる。そのリストの最初の聖句がどこかがいつも分かるように、ほかの参照聖句すべてに最初の聖句の場所を括弧で記入しておく。あるいはすべての聖句に最初の聖句の場所を書き、最初の聖句が書かれたページにリスト全体を記入しておく。

余白に注釈を記入する

自分の聖典の余白に注釈を記入する方法は、聖典を自分独自のものにするための価値ある方法となる。自分の考えを記録したり、重要な参照聖句を書いたり、聖句を日々の生活に応用するための方法を書いたりする。

生徒にも余白に記入するように勧めるとよい。このように言えばよい。「では、この章についてのわたしの考えを言いましょう。実は余白に書いてあるんです。」あるいは、「これは悔い改めについてのすばらしい聖句ですね。余白に『悔い改め』と書いておきましょう。」

子供に教えるときの聖句の使い方

聖句の言葉に親しみを持たせると、子供の生活に祝福をもたらすことができる。子供に教えるときには、しばしば聖句を用いるとともに、聖句の言葉に親しませる方法を見つける必要がある。以下の例を参照するとよい。

- 聖典の中の書の名前と順序を覚えさせる。『子供の歌集』の「モルモン書」を使う。
- 子供が聖文の語句を理解できるように助ける。聖文と一緒に読むときには、重要な語句の意味を説明する。難しい言葉や名前を発音するのを助ける。特定の語句や考えに注意しながら聞くようにさせる。
- 生徒に聖句を探させるときは、ページと聖句の箇所を両方を言う。



- 聖句の内容をあなた自身の言葉で説明する。内容を説明するとき、生徒が出来事や人物を思い描くように助ける（「物語」179-181ページ参照）。それから重要な聖句を声に出して読む。
- 子供に聖句を朗読させる。それぞれの子供の能力を考慮し、皆がうまくできるように助ける。
- 子供が小さすぎる場合、あなたが指を指しながら読む語句を見ているように言う。また、聖句を見つけたり読んだりする作業を年長の子供に助けてもらうのもよいだろう。
- 『モルモン書ものがたり』など、教会発行の絵入りの本を読ませる。
- 聖句の内容について子供が話し合うのを助ける。読みながら「どんなことが起こっているのかな」「どうしてこういうことが起こるのだろうか」「だれが話しているのでしょうか」「これはわたしにどう当てはまるのだろうか」などの質問をするように教える。
- 本書の単元Fで説明してある方法（157-183ページ）を用いる。例えば、聖典の中の物語を話すとき、フランネルボードや黒板、子供が描いた絵などを使うことができる。物語を子供たちに話させてもよいし、その聖句に関連した歌を歌ってもよい。
- 初等協会のレッスンの最後に「読書課題の提案」が載っているものもある。提案されている聖句を家族と一緒に読むように子供たちに勧める。





## 熱心に学ぶよう勧める

---

わたしたちにはそれぞれ、熱心に努力して福音を学ぶ責任がある。

わたしたちにはさらに、様々な場で教師として働く特権が与えられている。  
すなわち、福音を学ぶ責任を果たすよう人々に勧め、助けるという特権である。

この大切な責任を果たすには、以下の事柄に全力を尽くす必要がある。

1. 教える対象となる人々の関心を引き起こし、持続させる。
2. レッスンに積極的に参加するよう奨励する。
3. 学んだ真理に従って生活する方法を示す。

わたしたちはこれらのことを愛と御霊の力によって行うのである。

これは、人々が熱心に福音を学び、福音に忠実に従うよう助けることが第一であって、わたしたちの功績について考えるのは二の次でよいということを意味している。

## 13

# 福音を学ぶ責任を 引き受けられるように 個人を援助する

## 福音を学ぶ責任は個人にある

ブルース・R・マッコンキー長老は、福音を研究することについて次のような手紙を書き送っている。「ここで、わたしたちの永遠の救いについて関連のある大切な事実について結論を……出しておきたいと思います。それは各人が自分で福音の教えを学ばなければならないということです。ほかの人が代わってそれをすることはできません。福音の学識に関してはだれもが自分の努力によって修めるのです。あらゆる人は同じ聖文を手に入れることができ、同じ聖なる御霊の導きを受ける資格を持っています。高価な真珠を手に入れるには神が定められた代価を一人一人が支払わなければなりません。

真理を学び、その標準に従って生活することも同じ原則によって支配されています。だれかのために代わりに悔い改めることはできませんし、だれかの立場でその人に代わって戒めを守ることはだれにもできません。まただれかの名前のもとで救いを得ることはできません。だれにも自分以外の他人のために証を得、永遠の栄光に向かって光と真理の中を歩むことはできません。真理の知識ならびに真の原則に従う人々にもたらされる祝福は、ともに個人的な事柄なのです。公平な神は、同じ律法に従って生活するすべての人に同じ救いを与えようとしておられるように、真理を求めるために代価を支払うすべての人に対して永遠の真理に関する同じ理解を与えようとしておられます。

福音の知識を得るために教会が定めている手順は次のとおりです。

- 人にはそれぞれ自分の努力によって真理の知識を得る責任があります。
- 次に、家族は自分の家族を教えなければなりません。両親は子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じられています。末日聖徒の生活の中で、教育の中心となる場所は家庭でなければなりません。
- サービス機関として教会は、家族と個人を助けるために、教える機会と学ぶ機会を数多く用意しています。わたしたちは「互いに王国の教義を教え合」うように命じられています（教義と聖約88：77）。それは聖餐会、大会、その他の集会において、ホームティーチャーによって、神

権会と補助組織の集会において、セミナーとインスティテュートを通して、教会教育システムを通して実施されています。」（“Finding Answers to Gospel Questions,” *Charge to Religious Educators*, 第3版 [1994年], 80）

## 福音を学ぶ個人を援助する教師の役割

福音を学ぶ責任は個人にあることを知ると、このような疑問を持つかもしれない。教師の役割は何だろうか。それは、福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助すること、すなわち、福音を研究し、理解して、福音に従って生活する意欲を持たせ、その方法を示すことである。

中央若い女性会長会で第一副会長を務めていたバージニア・H・ピアス姉妹はこのように述べている。

「教師の目標は、ただ真理に関する講義を行うよりも、さらに高いところにあります。それは御霊を招き、生徒が自分自身で真理を発見し、それを応用しようという意欲がわいてくるような教授技術を用いることです。……

……毎週日曜日、何十万ものクラスでレッスンが教えられています。各教師が『学習は生徒が行うべきものである。したがって、実践の義務は生徒にある。教師が脚光を浴び、舞台の中心に立ち、すべてのせりふを語り、あるいは、全部の活動を独り占めしてしまえば、これはまず間違いなく、生徒の学習を阻害しているのである』ということを理解していると、思い描いてみてください。〔アサエル・D・ウッドラフ『福音を教える——教会教育システム教師ならびに指導者用手引き』14〕

熟練した教師は『今日のレッスンで、わたしは何をしようか』ではなく、『今日のレッスンで、生徒は何をするだろうか』と、『今日は何を教えようか』ではなく、『生徒が知らなければならないことを、彼らが気づけるように、どう助けられるだろうか』と考えます。また、生徒がクラスを出るとき、教師のすばらしさについて話してほしいと思うのではなく、福音のすばらしさについて話してほしいと思うのです。〔「教室——着実に絶えず成長する力を与える場所」『聖徒の道』1997年1月号, 12〕

自分のほんとうの責任を理解している教師は生徒一人一人の持つ選択の自由を尊重する。生徒が自分で聖文を研究し、自分で福音の原則を見いだし、話し合いにおいて思慮



深い発言をするときに、教師は喜びを覚える。生徒が熱心に研究し、福音にあって成長し、神から力を得るときにこそ、教師は最大の成功を得るのである。

優れた教師は生徒の学習や成長についてそれが自分の功績であるとは考えない。苗を植え、それを育てる庭師のように、彼らは学習に最適の状況を作り出すための努力を惜しまない。そして生徒の成長を見るときに神に感謝をささげる。パウロはこのように記している。「だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なのは、成長させて下さる神のみである。」(1コリント3:7)

### 福音の学習における自立を促す

福音を学ぶ責任を引き受けるように奨励するに当たってあなたの助けとなる提案を以下に列挙する。

- 聖典と末日の預言者の教えを研究することに対するあなたの熱意を養う。あなたの熱意が、模範に従おうという生徒の意欲を燃え立たせるであろう。
- 教えるときは常に、生徒の関心を聖典と末日の預言者の教えに向けさせる。生徒はこれによって神の言葉がどれほど大きな価値を持ち、含蓄に富んでいるかに気づくであろう。
- 聖典と末日の預言者の教えから答えを見つけさせるような質問をする。特定のテーマについて生徒の考えを聞くことも時にはよいが、聖典と末日の預言者がどのように教えているかを質問することの方が有意義である場合が多い。
- 聖典中の研究用資料の使い方を教える。一部の生徒、特に比較的教会経験の浅い生徒は、聖典に圧倒されることがある。脚注、聖句ガイド、ジョセフ・スミス訳からの抜粋、地図の使い方を教える（具体的な方法については「聖文から教える」54-58ページ参照）。これらの研究用資料の使い方を覚えると、聖文を研究する能力について自信を深めることができる。
- 聖典と末日の預言者の教えについて研究することを求めるような割り当てを与える。聖典と末日の預言者の教え

を調べることを生徒に求めるような質問をするか、あるいは割り当てを与えることによってレッスンを終えるようにする。幼い子供にもこのような割り当てを与えることができる。例えば、祈りに関するレッスンを行った後に、子供たちに祈りに関する聖典からの物語や総大会の説教を両親とともに読むように言うことができる。

- 聖典に登場する人々は、主に仕える努力をしたときに試練と喜びを経験した実在の人物であることを生徒に理解させる。聖典に登場する預言者やそのほかの人々がわたしたちと同じような経験を数多く味わったことを記憶していれば、聖文は生き生きとしたものになる。
- 生活上の様々なチャレンジの答えを聖典と末日の預言者の教えの中から見つける方法を生徒に示す。例えば、慰め、悔い改め、赦し、啓示、祈りなどに関する勧告を探すために聖句ガイドや教会機関誌の大会特集号を活用する方法を教える。
- 聖典と末日の預言者の教えを研究するよう熱心に勧める。福音を学ぶ責任があることを理解してこなかった生徒もいることだろう。この責任を忘れていた生徒もいる。あるビショップは初等協会の訓練集会に出席したときの経験を述べている。この集会で彼は聖文を毎日研究するようにというチャレンジを受けた。この経験を契機にしてビショップはそれから13年間、ただ1日を除いて毎日聖文を研究したのである。ビショップはこの勉強が自分の生活を変えたと述べている。
- 聖典と末日の預言者が教えているあらゆる事柄の中心が救い主であることについて証を述べる。救い主に関する証を述べるときには特に大胆でありなさい。聖典と末日の預言者の教えの中で救い主に関する箇所を読む度に、生徒の学習意欲と証は強められることであろう。

### そのほかの参考資料

福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助することに関してのその他の情報については、福音の教え方コースの第5課（208）を参照する。

## 話し合いを展開する



福音を教える場合、そのほとんどは有意義な話し合いを展開することが基本となっている。わたしたちは互いに福音を教え合い、互いを尊重して関心を向けるときに、御霊の影響力をその場に招くことになる。

話し合いはほかの方法では得られない結果をもたらす。例えば、次のような状態を実現することができる。

- 熱心に学ぶ雰囲気を高める。よく管理された話し合いは生徒の関心と集中力を高める。生徒一人一人を学習のプロセスに積極的に参加するよう励ますことができる。あなたと生徒がそれぞれ質問し合い、一緒に聖文を調べ、互いの意見に耳を傾け合うときに、その場に出席している全員が個人の福音研究に役立つ技術と動機づけを受ける。
- 生徒の間の一致を促す。生徒たちが自分の考えや経験を分かち合い、耳を傾け合い、尊敬の気持ちを抱いて接するとき、生徒の間に一致と積極的に学習する雰囲気が生まれる。
- 理解を深める。優れた話し合いは、親しく意見を交換する会話以上のものである。福音の原則に関する参加者の理解を広げ、また深める働きをする。
- 誤解を減少させる。生徒の発言には教えられている原則をどの程度理解しているかが表れる。あなたはそれによって、特定の原則についてどの時点で発展させ、強調し、あるいは復習したらよいかを知ることができる。

### 話し合いの展開に関する提案

#### 質問を活用する

質問をすることによって生徒を話し合い

に参加するよう促すことができる。質問は、生徒が原則を理解し、原則についていっそう深く考え、自分の生活と結びつけるのを助ける働きを持つ。答えを見つけるために聖典を開くよう促す質問もある。

ほとんどの教師の手引きには話し合いのきっかけを作り、継続させるための質問が記されている。あなたはそれらの質問を利用するほかに、独自の質問を準備してもよい。よく考えて答えさせるような質問を投げかけ、また一人一人が福音について真剣に考えるよう助ける。(追加資料として、「質問を交えた教え方」68-70ページを参照する。)

#### 話し合いとレッスンを関連づけるための教授法を選ぶ

質問事項を計画したら、次のように自問する。「ほかにもどのようなことができるだろうか。話し合いを意義深いものにするためにどのような方法が使えるだろうか。」あなたは様々な教授法を使って話し合いのきっかけを作り、そして継続させることができる。例えば、最初に物語を話したり、実物を用いて行うレッスンをしたり、賛美歌を歌ったりすることによってレッスンに入り、それから質問をして、その答えを賛美歌の中から探させるという方法がある。

#### 御霊が生徒に与えようとしておられる影響力に注意する

聖霊は一人あるいは複数の生徒に導きを与え、ほかの生徒が聞く必要のある意見を述べるよう促されることがある。あなたは御霊の導きのままに生徒の意見を求める必要がある。自分から意見を言おうとしない生徒に尋ねてみるよう導かれることもある。

#### 全員が参加する方法を見つける

生徒は互いが参加することによって恩恵に浴する。けれども、あなたには手を挙げた人の意見だけを聞く傾向があるかもしれない。話題となっている事柄について自分の意見がない場合や、ほかの人に発言の機会を譲りたいと考えて参加を見合わせる人が時々見受けられる。あるいは、間違った意見を言うのではないかと恐れていたり、ほかの人のように自分を上手に表現できないと考えていたりするかもしれない。ほか

の人たちから受け入れられていないと感じている人もいるかもしれない。

細心の注意を払い、祈りの気持ちで生徒一人一人について考える。ある生徒に対しては、答えられないかもしれない事実に関する質問をするよりも、話題になっていることについての意見を求めるようにしてもよい。例えば、「コリント人への第一の手紙で、パウロはどのような御霊の賜物を挙げているのでしょうか」と質問するのでなく、「愛は御霊の賜物のうちで最も大いなる賜物だと言われていますが、それはなぜだと思いますか」と質問するのである。生徒に簡単な発表を準備して出席するように頼んでおくこともできる。それを準備する生徒を助けてもよい。何人かの生徒については前もって励ましを与え、彼らが述べる事柄を尊重することを知らせておいた方がよいかもしれない。

#### レッスンの焦点をあいまいにしない

時々生徒はレッスンと無関係な事柄について意見を述べることがある。意見がレッスンからそれていると感じたら、次のように言ってレッスンの要点に話し合いを引き戻す。「それはおもしろい考え方です。けれども、わたしたちはほかの分野に入り込んでしまったようです。その話し合いは別の機会に譲って、元の質問に戻りましょう。」あるいはこのように言うことができる。「わたしは今日、そのことについて話し合う準備をできませんでした。そのことについては別の機会に話し合いましょう。」

あなたが答えを知らない質問を受けるかもしれない。そのような場合、答えを知らないことを率直に言う。答えを見つけるように努力すると言ってもよい。あるいは、生徒たちに調べさせ、別のレッスンで発表する機会を設けてもよい。

#### 秩序を維持する

一つのテーマについて何人かの生徒が意見をしきりに述べたがる場合がある。意見を述べたい生徒は手を挙げて、指名されるまで待つように言う。生徒がお互いからどれほど多くのことを学べるかを指摘し、お互いの考えを尊重して耳を傾けるように言う。

あなたやほかの生徒の考えを攻撃したり、乱暴な話し方をしたり、物議を醸すような問題を持ち出したりしてレッスンを混乱させる生徒がいるかもしれない。このような生徒は争いの種をまき、そのためレッスンの進行が妨げられたり、一部の生徒の信仰が弱められたりすることがある。そのような生徒への対応方法については84-87ページの「レッスンを妨害する生徒を助ける」を参照する。

#### 話しすぎではない

ほとんどの時間を講義に費やしたり、あらゆる質問に自ら答えたりしてしまう教師は生徒の参加を拒絶していることになる。必要以上に話したり、あなたの意見を出しすぎたりすることのないように注意すべきである。このような

行動は生徒に興味を失わせる原因となる。あなたは学習という旅のガイドであると考えなさい。生徒が正しい道を歩き続けるように適切な言葉をかけるのがあなたの役割である。

あなたの最大の関心は、感動的なレッスンをすることではなく、生徒が福音を学ぶように助けることに向けられていなければならない。これには生徒が教え合う機会を与えることも含まれる。生徒から質問を受けたら、あなた自身が答えるのではなく、ほかの生徒に答えさせることを考えなさい。例えば、このように言うことができる。「興味深い質問です。ほかの人はどう思いますか。」あるいは「この質問に答えてくれる人はいますか。」

#### 話し合いを終えるのを急ぎすぎではない

準備したレッスンの内容をすべて提示しようとするあまりに、よい話し合いを急いで終えてしまうことのないように注意する。用意した資料をすべて教えることも大切ではあるが、生徒が御霊の影響を感じ、疑問に思っていたことの答えを受け、福音に対する理解を深め、戒めを守る決意を強めることの方がはるかに大切である。

#### 耳を傾ける

生徒の意見に心から耳を傾けるためにあらゆる努力をする。あなたが模範を示すことによって、生徒も互いの意見に注意して耳を傾けるようになるであろう。生徒の意見を理解できなければ、質問する。次のように言うといい。「わたしはあなたの意見をよく理解していません。もう一度説明してください。」あるいは「例を挙げて説明してくれませんか。」(追加資料として「耳を傾ける」66-67ページを参照する。)

#### あらゆる生徒の貢献を認める

誠実なあらゆる意見に対してあなたが肯定的に対応するならば、生徒が話し合いに参加する自分の能力について自信を持つようになる。例えば、次のように言うといい。「答えてくださったことを感謝しています。とても深く考えられた意見です。」あるいは「すばらしい考えです。わたしはこれまでそのような考えたことがありませんでした。」「よい例ですね。」「今日皆さんがお話ししてくださったすべてのことに感謝しています。」

質問や意見を決してあざけったり、批判したりしてはならない。最高の礼儀と愛をもって対応すべきである。人々は自分の意見が大切に扱われていると感じると、自分の経験や考え、証を率直に分ち合うようになるものである(「学習に適した雰囲気作りに貢献することを教える」77-78ページ、「教師は学習に適した雰囲気作りにどのような貢献ができるか」79-81ページ参照)。





### 正しく答えられなかった生徒を助ける

時々正しく答えられない生徒がいる。あなたは「わたしはこれまでそのように考えたことはありませんでした」というように応じて生徒を助けることができる。あるいは「あなたはほかのことについて考えているのかもしれませんが」、「そのような考えも貴重です」などと言ってもよい。ある場合には、あなたが正しくない答えの責任を引き受ける。例えば、このように言うことができる。「わたしが正しく伝えていなかったようですね。ごめんなさい。」

### 話し合いを終える

適切なときに話し合いを終えることが大切である。話し合いが長すぎると、せっかく高められた気持ちが失われてしまう。以下の提案を参考にする。

- 時間を管理する。レッスンをいつ終わるべきかを知るこ

とが大切である。レッスンの全体をまとめて、あなたの証を述べる時間を取っておかなければならない。

- 生徒が話す時間に制限を設ける。このように言うことができる。「あと二人から意見を聞く時間があります。」あるいはこのように言うこともできる。「もう一人の意見を聞いて、最後にわたしがまとめをします。」

適切なときに話し合いを終えることに加えて、適切な方法で話し合いを終えることも大切である。話し合いを終えるときに、参加してくれた生徒に感謝の言葉を述べる。その後、話し合いで採り上げた大切な概念をあなたがまとめるか、生徒にまとめてもらう。レッスンで採り上げた福音の原則を強調する。話し合いで明らかになった新しい理解を復習し、深められた理解を基に生活の中でそれらの原則を応用するよう生徒に奨励する。御霊の促しに応じて、あなたが証を述べる。あるいは生徒に証を述べてもらう。

# 15

## 耳を傾ける



耳を傾けることは一つの愛の表現である。耳を傾けるにはしばしば犠牲を要求される。人々の話に心から耳を傾けるには、彼らの考えていることを表現させるために自分の言いたいことを抑えなければならないことがある。

### 注意して耳を傾けることによってどのように生徒を助けられるか

あなたは教師として、耳を傾けることによって多くのすばらしいことを成し遂げることができる。耳を傾けている間に、あなたは個人の必要と関心を読み取り、それに合わせて教えることができる。あなたの姿勢は、生徒の考え、意見、経験を尊重していることを示し、一人一人に関心を持っていることを表す。自分の考えをあなたが重要視していると知ったとき、生徒は概して次のように振る舞う。

- レッスンを受け入れ、熱意を示す。
- 考えや経験を分かち合う。
- 熱心に学ぶ。
- 学んだことに従って生活する。

グループの中の一人に対して積極的に耳を傾けることは、それ以外の人たちを無視し、ひどい仕打ちをすることだと考える人がいるかもしれない。しかし、そうではない。一人の生徒に対して注意深く耳を傾けようとする姿勢は、あなたが一人一人に関心を持っていることをほかの生徒に伝えているのである。家族や生徒の一人に耳を傾けることによって、ほかの人たちもそのように行うようにとの模範を示しているのである。

### 注意して耳を傾けることが教師であるあなたにとってどのように役立つか

注意して耳を傾けることは教師であるあなたにとって助けになる。愛と尊敬の気持ちで生徒の意見に耳を傾けるときに、あなたは以下の事柄を成し遂げることができる。

- 生徒がどれほど積極的に学習のプロセスに取り組んでいるかを判断する。
- 生徒がどれほど学んでいるかを見極める。
- 生徒の必要を的確に把握する。
- 落胆、ほかの事柄に心を奪われている状態など、学習の妨げになる事柄を察知して取り除く。
- 生徒が悩んでいる問題を理解し、解決に導く。
- 生徒にとって大切な事柄について時間をかけるべき時を見極める。
- 生徒が話す機会を必要としている時を知る。
- 特定の原則について繰り返し教えたり、強調したりすべきかどうかを決める。
- レッソンの内容を生徒の状況に合わせて変更すべきかどうかを知る。

耳を傾けることはあなた個人にとっても大きな恵みをもたらす。生徒に耳を傾けていると、生徒が多くのことをあなたに教えていることが分かるであろう。

### 効果的な耳の傾け方に関する提案

生徒はあなたが耳を傾けていることをどのようにして知るのだろうか。関心を表情に表すことにより、耳を傾けていることを表現することができる。レッスンの資料や教室内のほかのものでなく、話している人に目を向ける。途中で遮らないようにして、自分の考えを最後まで言うように励ます。忠告を与えたり、判断を下したりするのを避けて、話を途切れさせることのないようにする。生徒が何を話しているかを理解できたなら、あなたが理解していることを示すような言葉をかけることができる。理解できていなければ、質問する。

耳を傾ける能力を伸ばすために、以下の方法を検討する。

## 質問する

以下のような質問をすることによって、一人一人が何を考え、どのような気持ちでいるかに関心を持っていることを示すことができる。

- そのことについてもう少し話してくれますか。
- そのときあなたはどう感じましたか。
- わたしはあなたの言うことをよく理解していないと思います。あなたが言っているのは……ということですか。
- そのことを説明してくれませんか。

## 間を置く

沈黙を恐れてはならない。質問に答えたり、自分の気持ちを表示したりするのに考える時間を必要とすることがある。質問を投げかけた後、霊的な経験を分かち合った後、あるいは生徒が自分の考えをよく表現できないときに、間を置くことが必要である。話している人が自分の考えを最後まで述べてから、対応する。もちろん、過度に長く待つべきではない。特に、話すことに戸惑いやプレッシャーを感じている人に対しては長い間を置かないように注意する。

## 相手が話している事柄に注意を向ける

人にはほかの人の話に耳を傾けるよりも、自分が何を言おうかと考えることを優先させる傾向がある。あなたはどのように対応しようかと考えるのではなく、話している人に意識を集中しなければならない。

## 話している人の言葉にならないメッセージに注意する

人はその座り方、顔の表情、手の動き、声の調子、目の動きで気持ちを相手に伝えることがしばしばある。これらの言葉にならないメッセージは生徒の感じていることを理解するのに役立つ。

## 相手の言葉を繰り返して言う

言葉によるメッセージと言葉にならないメッセージに耳

を傾けた後、あなたが理解したことを繰り返して言うといい。正しく理解していることを確かめるためにメッセージを自分の言葉でまとめる。これを行ったら、このように言って相手に確認する。「あなたが言ったことはこのようなことですか。」あるいは「何か付け加えることがありますか。」繰り返す場合に、相手を見下すような話し方をすることのないよう十分注意する。

## 生徒が互いに耳を傾けるように教える

耳を傾けることは愛を表す一つの方法であることを生徒に思い起こさせる。互いに耳を傾けることを教えるために、以下の提案が役立つことであろう。

- 一人の生徒が質問に答えるか、自分の考えを述べた後に、何か付け加えること、あるいはほかの意見があればそれを言うようにほかの生徒に求める。
- 生徒から質問を受けたら、あなたが答えるのではなく、ほかの生徒にその質問を投げかける。例えば、このように尋ねる。「だれかこの質問に答えたいと思う人はいますか。」
- 一人または複数の生徒に前もって、話し合いの中で述べられた考えをまとめるように頼んでおく。

救い主は常に、教えを聞いている人々を見守り、耳を傾けられ、そうして察知した人々の必要に合わせて教えを説かれた。例えば、主はニーファイ人に教えを説かれた後に、このように言われた。「自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい。」(3ニーファイ17:3) けれども、主はニーファイ人のもとを去られる直前に、「もう一度群衆を見回して、彼らが涙を流しながら、もうしばらくとどまっていたほしいと願うかのように、イエスをじっと見詰めているのを御覧になった。」(3ニーファイ17:5) 主は彼らの必要としていることにお気づきになり、しばらくとどまって彼らに導きと恵みを施し、教えを与えられた。生徒に耳を傾け、正しく対応するならば、あなたは福音の学習に関して生徒の必要を満たすように助けることができる。



## 質問を交えた教え方



偉大な教師であるイエス・キリストは、自らお教えになった原則を人々が深く考え、応用することを奨励するために、しばしば質問を投げかけておられる（例として、マタイ16：13-15；ルカ7：41-42；3ニーファイ27：27参照）。イエスの質問は人々を深く考えさせ、内省させ、決意に導くものとなった。

### 質問の準備に関する一般的な指針

教会が発行しているレッスン手引きにはレッスンで利用できる質問が数多く提案されている。それらを注意深く読んで、生徒にとって最も助けになる質問を選ぶ。そのほかにあなた自身で質問を準備してもよい。レッスンで使う質問を検討する際に、次のように自分に問いかけてみる。「これらの質問は生徒がレッスンの主概念を理解するのに役立つだろうか。これらの質問によって、生徒は学んだ福音の原則を生活で応用しようとする気持ちになるだろうか。」

あなたなりの質問を準備する際に以下の事項を参考にするとよい。

#### 「はい」または「いいえ」で答えられる質問

福音を教える際に「はい」または「いいえ」で答えられる質問は限定して使用する。おもに生徒に決意させる場合や、何かについて同意するかしないかを判断する際に使うべきである。

#### 事実に関する質問

事実に関する質問は聖句、出来事、あるいは福音の原則に関する基本的な事実を確立するために利用する。それらの質問には一定の答えが存在する。事実に関する質問は、生徒が聖句を研究し、要点を理解し、概念を検討し、誤解を是正するためのきつ

かけとすることができる。例えば、次のような質問である。

- ニーファイの兄たちがニーファイを縄で縛ったことについて赦しを求めたとき、ニーファイは何と答えましたか。

- 教会はいつどこで組織されましたか。

事実に関する質問だけに終始しないようにする。事実に関する質問はさほど考えることを要求しないし、答えを知らない人を落胆させることがある。通常は、答えに必要な情報が生徒の手もとにある場合に、事実に関する質問を使うべきである。

事実に関する質問によって、生徒全員に同じ出発点から話し合いを始めさせることができる。その後、生徒が深く考え、福音の原則を生活に応用する方法を見いだしていくような質問に移行する。

#### 深く考えさせる質問

聖句や福音の原則の意味について深く考えるよう促す質問がある。それらの質問の多くは、「何」「どのように」あるいは「なぜ」などを含む。それらの質問には「はい」または「いいえ」で答えられないし、通常は複数の正しい答えがある。例えば、

- 教会歴史のこの時期にこの啓示が与えられたのはなぜだと思いますか。

- 主は助けを必要としている人に対してどのように助けをお与えになるかについて、この物語はどのようなことを教えていますか。

- 信仰を定義してください。

- 柔和とはどのような意味ですか。

- この実物と、わたしたちが話し合っている福音の原則との間にはどのような共通点がありますか。（これは実物を用いて行うレッスンにおいて尋ねることができる優れた質問である。）

- レーマンとレムエルの反応は、ニーファイの反応とどのような点で異なっていますか。

この種の質問をするときは、あらゆる答えを受け入れる（「耳を傾ける」66-67ページ参照）。採り上げている聖句と福音の原則について深く考えてから意見を言うように求める。特定の答えを言わせるように仕向けてはならない。生徒はあなたが何をしようとしているかに素早く気づいて、参

加するのをやめてしまうか、考えるのでなくあなたの求めていることを推測し始める。あなたが特定の答えを求めている場合は、事実に関する質問をするか、あるいはほかの方法で情報を提示する。

#### 福音の原則を応用する方法を考えさせる質問

福音の原則を生活で応用する方法を考えさせる質問は重要である。例えば、次のような質問である。

- 主から与えられたこの約束はあなたの生活でどのように成就していますか。
- わたしたちはどのようにして、この物語に登場する人々のような間違いを繰り返すことがありますか。
- 神から与えられる懲らしめを祝福とするにはどうすればよいですか。
- 今日わたしたちの間にはこの聖文の物語と似たような状況が見られますが、それにはどのようなものがありますか。
- もしあなたがこの人だったら、どうしますか。

検討している福音の原則を応用した生徒自身の経験か、ほかの人の例を分かち合ってもらおう。御霊による促しを受けたら、話し合っている原則について証を述べるよう生徒に言う。

#### 質問をすることに関する一般的な指針

##### 生徒が答えられる質問をする

あなたの知識を披露することを目的に質問してはならない。生徒がよく考えて答えるような質問をする。

##### 尊敬と礼儀をもって正しくない答えに対応する

時々生徒は、正しくない答えや、ほとんど理解していないことを表す答えを述べることがある。そのような答えにほかの生徒は笑うかもしれない。これはその生徒を当惑させることになり、その生徒は二度と参加しなくなるかもしれない。それはその生徒の学習を将来にわたって妨げることになる。

尊敬と礼儀をもって正しくない答えに対応する。生徒がその後も気持ちよく参加できるようにしなければならない。ある場合には、「すみません。はっきりと質問していませんでした」といいます。もう一度、質問を言わせてください」などと言って、正しくない答えの責任をあなたが取ってもよい。あるいは、次のように言って生徒を助ける。「あなたはほかのことについて考えたのかもしれませんが。」あるいは「そのような考えも貴重です。わたしの質問がはっきりしていなかったようですね。」このような対応によって生徒は、たとえ間違った答えを言うかもしれないと考えていても、気軽に参加するようになるのである。

##### 反応を待つ

あなたが質問した後、生徒が数秒間沈黙しても心配する

ことはない。自分で自分の質問に答えてはならない。答えを考える時間を生徒に与えなさい。しかし、沈黙が長すぎる場合は、生徒が質問を理解していないことを表しているので、質問を別の言葉で言い換える。

##### フォローアップの質問を活用する

フォローアップの質問をすることによって、話し合っている原則をさらに深く考えさせることができる。例えば、生徒が聖文の物語を自分に当てはめる一つの方法を提案した場合、このような質問をする。「この物語からほかにもどのようなことが学べますか。」

##### 全員に話す機会を与える

多くの生徒を参加させるために、レッスンの間一度も発言しなかった生徒にフォローアップの質問をするとうい。

ある主題について何人かの生徒が意見を持っている場合は、次のように言うとうい。「最初にあなたの意見を聞いて、次にあなたの意見を聞きます。」生徒は意見を述べる機会が与えられることを知っているため、整然として順番を待つことであろう。

##### 質問に答える準備をさせる

生徒に質問に答える準備をさせるために、何かを読んだり、提示したりする前にあらかじめ生徒から意見を求めるつもりであることを告げておくとうい（「聖文から教える」の『目と耳を使う』55ページ参照）。例えば、「これから読む聖句を聞いて、いちばん関心を持ったことを話してください」あるいは「この聖句を読んでいる間、主が信仰について何を語りかけようとしておられるかを理解できるよう注意しててください」などと言うことができる。

##### 論争に発展するような質問を避ける

救い主は「争いの心を持つ者はわたしにつく者ではない」と言われた（3ニーファイ11：29、28、30節も参照）。論争に発展するような質問や、扇情的な問題を引っ張り出すような質問を避けるように注意する。疑問を抱かせるような質問や信仰を弱める討論に発展させるような質問をしてはならない。あなたの質問は生徒を信仰と愛の一致に向かわせるべきであることを確認する（モーサヤ18：21参照）。意見の一致が見られない場合、一致を見ている点や正しい教義を強調するように努める。

##### 時には静かに考えさせる質問をする

全員で自由に討議するのではなく、時には生徒が静かに考えるような質問をするとうい。例えば、次のような質問をする。

- あなたは今日、永遠の命に向かって前進するようなことをしましたか。それはどのようなことですか。
- あなたは今日、永遠の命に向かってあなたを前進させて

くれるはずだったのに、し損ねてしまったことがありますか。

### 質問の独創的な活用法

以下のような方法で質問を活用するとよい。

- ワードストリップに質問を書いて、それをいすの腰かけ部分の裏側にテープで留めておく。レッスン中の適当な時期に、いすからワードストリップをはがすように言う。そして書かれている質問を読み上げて、答えるように言う。
- 福音の原則または聖句を基にして一人に一つずつ質問を紙に書き出してもらおう。質問を書いた紙を集め、順に話し合う。
- レッスンから選んだ物語を生徒にロールプレーで演じてもらおう。ほかの生徒はその登場人物に質問する（「ロールプレー」177-178ページ参照）。この活動は子供たちに特に有効である。
- レッスンの前週に、何人かの生徒に質問を与え、翌週のレッスンの中で答える準備をしてくるように言う。
- 福音の原則について話し合う際に、以下の質問を使う。

「わたしたちはこの原則についてどのようなことをすでに知っていますか。」「どのようなことについて知りたいですか。」「今日、わたしたちはどのようなことを学びましたか。」生徒にこれらの質問に答えさせ、黒板を3つの欄に分けて答えをそれぞれの欄に書き出すことによって、レッスンの基盤を築く。

- 生徒が教室に入って来ると同時に考え始めさせるように、クラスが始まる前から黒板に質問を書いておく。
- 聖典や賛美歌から答えを探し、それを読むことによって質問に答えてもらう。生徒に自分の生活で起きた事柄を分かち合うことによって答えさせるような質問をする。
- クラスを小グループに分ける。各グループに幾つかの質問事項を与えて考えさせる。その後、グループごとに答えを発表してもらう。

### そのほかの参考資料

そのほかの情報については『教会指導手引き』の「福音の教授と指導」の章から『有意義な話し合いを計画し、実施する』306ページを参照する。



## 生徒の注意を引きつける



ある日曜学校の教師は自分が教えたレッスンについて次のように描写している。

「わたしは生徒たちを連れて森の中をあちこちと歩き回っているような気持ちを覚えました。全員で探検に出発したので。わたしは歩きながら聖文について幾つかの興味深い解釈を説明しました。森を探検する一行が途中で見つける様々な樹木についてガイドが説明するように、レッスンの概念を事細かに説明しました。

ある地点に来たとき、わたしはふと振り返って、生徒を見ました。すると、生徒は聖文の小道のはるか後ろを歩いているではありませんか。わたしと一緒に歩いてきた生徒は一人もいませんでした。ある生徒はのろのろと歩いており、ある生徒は立ち往生していました。道を外れて迷ってしまった生徒もいました。わたしは道を引き返して、生徒を集め、もう一度最初からやり直さなければならぬことに気づきました。」

この話が描写しているように、教師はレッスン中に生徒と「離れ離れになってしまう」ことがある。生徒が興味を失ってしまったり、注意が散漫になってしまったりすることがある。

生徒の注意を引きつけておくにはどうすればよいだろうか。この質問に対して絶対的な回答は存在しない。しかし、そのような効果を上げるために教師には様々なことができる。

### 生徒を観察し、生徒に耳を傾ける

あなたは生徒が自分から「離れ」つつあるのを感じることもある。生徒が普段よりも落ち着きがなく、ほかの生徒が声を出して聖句を読んでいる間も一緒に聖句を読もうとせず、レッスンと関係のないことを生徒同士で話しているような状態である。質問に対する答えに関して、よく考えている

様子や熱意が感じられないことに気づくかもしれない。

生徒の注意力を示す手がかりを解釈する場合には、注意が必要である。「離れて」いるように見える生徒が実はレッスンをよく聞いていることもある。例えば、あなたに目を向けていない生徒でも、レッスンで話題になっていることを考えていたり、聖霊から受けた導きについて思いを巡らしていたりすることもある。

あなたが御霊によって教えているときには、生徒が注意を向けているかどうかを見分ける力を与えられることがしばしばある。生徒の注意を引きつけるためにレッスンの内容を変えるように導かれることも時にはある。

### 生徒の注意を引きつける方法

生徒の注意を引きつけるために以下の提案が役立つことであろう。

- レッソンの内容に関連性を持たせる。生徒がレッスンの内容を生活の中でどのように応用できるかを理解できるように助ける。レッスンの内容と自分とのかかわりを理解できないと、生徒は興味を失ったり、注意力が散漫になったりしやすい。
- 教える際の声の調子に変化をつける。あなたの話し方は早すぎたり、遅すぎたり、優しすぎたり、大きすぎたりしていないだろうか。声の調子に抑揚がなく、いつも同じではないだろうか。あなたは明確な話し方をしているだろうか。あなたは熱意を込めて教えているだろうか。声の使い方によって、生徒の関心度に影響を与えることが可能である。
- 目を合わせる。生徒をレッスンに引き込む一つの方法として視線を合わせる方法を活用する。目を合わせて教えるとき、あなたの注意はレッスンの資料ではなく、生徒に向けられているのである。生徒が意見を述べたり質問をしたりするときに視線を向けることによって、あなたが生徒の話に関心を持っていることを知らせることができる。あなたは話すときに視線を教室の方々に向けていたずらに行き来させることのないように注意なさい。あなたが生徒一人一人の顔を見ることができ、生徒もあなたの顔を見ることができるよういすの配置を考える。幼い子供を教える場合は、彼らの近



くに座り、子供と同じ高さの視線で話すと、彼らの注意を引きつけることができる。

- 動きを活用する。教えている間教室の中を動くようにする。ただし、いつも前後に行き来する方法は好ましくない。質問をするときに生徒に近寄ることは、あなたが関心を持ち、意見を歓迎していることを表す。腕や手の適切な動きを使ってレッスンの大切な点を強調することができる。自然で、あなたの人格にふさわしい動作が大切である。あなたの動きが演出されたものであったり、不自然であったり、度が過ぎたりすると、かえって生徒の注意が散漫になり、レッスンへの興味を失わせることになる。
- レッソンのペースを変える。レッスンを進めるペースは生徒の関心に影響を及ぼす。レッスンの進み方が早すぎれば、生徒は混乱する。遅すぎれば、生徒は興味を失う。話し合いや物語を紹介する際に、レッスンが部分的にゆっくり進められているか、あるいは止まっていると感じられることがある。ある資料は重要ではあってもほかの資料と比べて関連性が薄い場合がある。そのような資料は手短かに紹介して、レッスンの主要な部分に進むようにすべきである。

- 様々な教授法を用いる。様々な教授法を用いることによって、レッスンのペースに変化をつけたり、レッスンの初めに生徒の注意を喚起したり、レッスンの中ほどで生徒の関心を再び呼び起こしたり、レッスンの節目節目での移行をスムーズに行ったりすることができる。例えば、小グループによる話し合いは、興味や集中力が薄れ始めている生徒を即座に参加させることができる（「変化を持たせて教える」89-90ページ参照）。

#### 参加に関する個人の責任

生徒に参加を促す場合に、忘れてならないのは参加するかどうかの最終責任は生徒自身にあるということである。だれかが参加しなくても、その人に参加するよう圧力をかけてはならない。その生徒に対する関心と尊敬を持ち続け、必要であればいつでも助ける姿勢を示し、そして神権者に与えられた主の勧告を忘れないことが大切である。「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛による以外いかなる力も影響力も、……維持することはできない、あるいは維持すべきではない。」（教義と聖約121：41参照）



## 学んでいることを 確認する方法

初等協会の教師が9歳の子供たちにレッスンを行っていた。レッスンの中心となる原則は、大管長が教会全体のために啓示を受けること、個人が自分の生活の導きとなる啓示を受けられることだった。レッスンはよく計画されていた。聖句に印を付ける活動、黒板を使った話し合い、レッスンの手引きで提案されている活動、復習が網羅されていた。

レッスンの終わり近くになって、教師は復習のための質問をした。「教会のために啓示を受ける権能を持っているのはだれですか。」子供たちは全員が手を挙げた。全員が大管長という答えを知っていた。

次に教師は尋ねた。「では皆さんはどのようなことについて啓示を受けるのでしょうか。」だれも手を挙げなかった。レッスン全体で話し合ってきたのはこのテーマだった。教師は2番目の質問にだれも答えないことに驚いた。教師は質問を少し言い換えてみた。しかし、何の反応もなかった。すると、生徒の一人のサラが手を挙げて尋ねた。「ところで先生、啓示って何ですか。」

生徒全員が声をそろえて正しい答えを言ったため、教師は生徒がレッスンの基本原則を理解していないなどとは思ってもみなかったのである。もしサラが質問しなかったら、レッスンはサラにとってもまたほかの生徒にとっても不完全なまま終わってしまったに違いない。大切なことを生徒はほとんど学ばなかったことだろう。では、教師がレッスンの早い時期に、全員が理解していることを確認するにはどうすればよいだろうか。

### 生徒が理解していることを確認する方法

ボイド・K・パッカー長老はこのように教えている。「用心深い教師の目は教室を常に行き来して、一つ一つの動きを捕らえ、一人一人の表情を記録し、興味が薄れた様子や混乱した様子にすぐさま気づく。そのような教師の目は学習が行われている間に生徒の戸惑いの表情を即座に読み取るか、あるいはたちまち察知する。」(Teach Ye

*Diligently*, 改訂版 [1991年], 164–165)

生徒の進歩状況を観察することによって、レッスンの内容を微妙に調整することができる。例えば、概念を繰り返したり、強調したり、話し合いに移るために雰囲気を変えたり、物語を話したり、証を述べたりすることによって軌道を変えるのである。また、どの時点で個人に手を差し伸べるべきかを知ることができる。生徒に注意を向け、集中するためには、レッスンの手引きやメモにいつも目を向けていなくてもよいように、十分な準備をしておかなければならない。

教えられている原則を生徒が理解しているかどうかを確かめる教授法がある。以下の提案を検討する。

- 生徒に自分の言葉で原則を言い直してもらおう。あなたはこのことによってレッスンの早い時期に生徒が特定の言葉や概念を理解しているかどうかを知ることができる。もし理解していなければ、それらの言葉や概念を説明して、レッスンの残りの部分を生徒にとって意味のあるものにする。
- 幾つかの短い事例研究を使う。教える原則を正しく描写する事例とそうでない事例をそれぞれ幾つか準備しておく。そして、どの事例が原則を正しく応用しているかを生徒に尋ねる（「事例研究」161–162ページ参照）。
- 教えられている原則について理解していることを言わせるような質問をする。生徒の答えによってはレッスンの幾つかの要点について復習するか、レッスンの計画を変更する必要がある。
- 話し合いを展開する。生徒の意見に注意深く耳を傾けていると、教えられている原則を正しく理解しているかが分かる。聖典や末日の預言者の教え、あるいはレッスン手引きを開かせて、大切な点を訂正するか、明確にし、あるいは強調する（「話し合いを展開する」63–65ページ参照）。



## 19

## 学んだ教えに従って生活するよう助ける



イエスはこのように教えておられる。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」(マタイ7：21) 福音を知るだけでは不十分である。わたしたちは福音に従って生活しなければならない。

ある教師は次のような類似性に着目している。「わたしはアルファベットから偉大な教訓を学びました。……わたしたちはアルファベットを前からでも後ろからでも順に言うことができます。けれども目的や意思をもってつなぎ合わせなければ、それを言っても何の意味も成しません。目的や意思をもってつなぎ合わせると、それらは神聖な賛美歌や聖文、偉大な詩や散文、すばらしい歌などになります。わたしたちの生活もアルファベットの文字と同じようなことが言えます。……つまり、行動することが大切なのです。けれどもその行動は正しいものである必要があります。目的を持った行動です。」(ウィリアム・H・ベネット, Conference Report, トンガ地域大会, 1976年, 15)

教師であるあなたは人々を「おのれを欺いて、ただ聞くだけの者」でなく、「御言を行う人」になるよう助けることができる(ヤコブの手紙1：22)。これを成し遂げるには、生徒がそれぞれの生活の中で福音の原則を応用するために役立つような方法で教えなければならない。

### 教えられている原則を生徒が理解していることを確かめる

あなたは生徒が福音の原則をそれぞれの生活で応用できるように理解させることができる。例えば、子供が収入を得たり、小

遣いを与えられたりしたときに、父親は聖典と末日の預言者が什分の一とそれをどのように活用するかについて教えている事柄を説明することができる。父親はそのように説明したうえで、子供が金額の10分の1を取って、献金表に記入し、什分の一献金封筒に金と献金表を入れて、ピシヨップに封筒を渡すよう助けることができる。

### 御霊によって学ぶよう助ける

福音の原則を単に理解するだけでは不十分である。学んだことに真心から従って生活するには、それが真実であることについて証を受けなければならない。これを実現するには、あなたが御霊によって教え、生徒が御霊によって学ばなければならない(「教えるときに御霊を招く」45-46ページ参照)。

御霊によって学ぶよう生徒を助けるには様々な方法がある。例えば、あなたや生徒がチャレンジを克服した実際の話をつかち合っているときに、御霊は福音に従って生活するための勇気を生徒が得られるように助けをお与えになる。アロン神権のクラスのある教師は、彼の実の兄弟が喫煙をやめて、それによって大きな祝福を受けたことを生き生きと描写する話をした。この話はクラスの一人の若い男性の心を揺り動かし、喫煙をやめる決意をさせたのである。

### 生徒に「行って同じように」するよう励ます

救い主は良いサマリヤ人のたとえを話された後、弟子たちに「あなたも行って同じようにしなさい」と命じられた(ルカ10：37)。あなたは学んだ原則を応用するよう生徒に勧めるべきである。そのような目的で与える割り当ては現実的で実現が可能なものでなければならない。例えば、祈りに関するレッスンで、あなたは家族や生徒に毎朝毎晩祈るように奨励することができる。奉仕に関するレッスンでは、援助を必要としている隣人を助けるよう奨励することができる。

奨励した事柄について、通常はフォローアップを行うべきである。これによって求められている事柄が大切なことであると生徒に理解させることができる。

## 学習に適した雰囲気を作る

---

秩序と自己管理は学習に必須の要素である。  
互いに愛し合い、互いの成長を助けたいと思うときに、  
これらの要素を最善の状態で確立することができる。  
思いやりを持ち、礼儀を重んじ、敬虔であるときに、  
わたしたちは福音の学習に集中することができる。  
そして御霊が豊かに注がれることであろう。  
クラスが分裂するような状態は起きにくい。

わたしたちは教師として、互いを思いやる雰囲気を作ることができる。  
生徒にも学ぶ雰囲気作りを助けるよう教えるべきである。  
このようにして、救い主のよい弟子となるよう生徒に教えるだけでなく、  
わたしたち自身もよい弟子となることができる。

## 教室の環境作り



学習のためのくつろいだ、魅力的な環境は、生徒の自己管理、レッスンへの集中、御霊を受け入れる姿勢に大きな影響を与える。あなたがクラスの教師であれ、家庭の夕べを準備する親であれ、教える場所の物理的な環境を改善するためにできる限りのことを行うべきである。

### 教室の環境作りに関する提案

#### 清潔であること

教室が清潔であるよう心がける。床を掃き、紙くずを拾い、黒板を消しておく必要がある。またあなたの外見も清潔で、控えめであるようにする。

#### 室温

可能であれば、教室が暑すぎることなく、寒すぎることのないよう気をつける。教会の教室で教えている場合、指導者に連絡して適切な室温に調節してもらう必要があるかもしれない。

#### 照明

教室内が適切な明るさに保たれているようにする。太陽光線が直接生徒の目に入らないようにいすを並べる。

#### ちょっとした工夫

教室の環境を良くするために、時折教室に何かを持ち込むことによって温かみと趣のある雰囲気を作り出す。例えば、花を持って来たり、レッスンに関係のある絵や実物を展示したりすることができる。

#### 教材

チョーク、黒板消し、クレヨン、テープ、

視覚資料など必要なすべての教材が整えられているようにする。機器を使用する場合は、レッスンで使う前にテストしておく。こうすれば、機器が正しく作動しない場合に、余裕をもって計画を変えることができる。

#### いす

あなたと生徒、また生徒同士も互いの顔が見え、また、声が聞こえるようにいすを配置する。あなたが生徒一人一人の目を見ることができるように並べる。また、生徒全員が黒板とそのほかの視覚資料を見ることができるようにいすを配置する。

可能であれば、座り心地のよいいすであるようにする。子供たちは座って足が床に着く高さのいすまたはベンチであればリラックスできる。時には床にじかに座ることも子供たちは喜ぶ。若人および成人用には、適切な大きさのいすを備え、座りやすく足が自由に伸ばせる程度の間隔を空けて並べる。

必要であれば、ふざけ合う子供たちを離して座らせる。紙に子供の名前を書いて、クラスが始まる前にいすの背に貼るか、いすの前の床に置く方法も検討する。

複数のクラスが一つの教室を使う場合、クラスごとに生徒が教室の異なる方向を向いて座るよういすを配置する。間仕切りがあれば、それを使用する。

#### 空間

計画している活動を実施できる空間があることを確認する。例えば、劇化を計画しているのであれば、出演者が立って動く空間があることを確認する。家庭でこのような活動を行うには、家具を移動させる必要があるかもしれない。

### 生徒に手伝いを依頼する

あなたには教師として、教える場所の物理的な環境を整える責任がある。しかし、すべての準備を自分で行う必要はない。生徒に手伝ってもらいながら、学習環境を改善する。定期的に、あるいは適宜、特定の責任を生徒に果たしてもらうとよい。



## 学習に適した雰囲気作りに 貢献するよう教える



「あなたが自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように……するためである。」  
(教義と聖約88：122)

### 学習に適した雰囲気の特徴

わたしたちは福音を学ぶために集会に出席するとき、単なる教師、生徒、友人として集まっているわけではない。兄弟姉妹、すなわち天父の子らとして集まっている。わたしたちはさらにバプテスマの聖約によって固く結ばれている。なぜならば、モルモンの泉でバプテスマを受けたばかりの聖徒たちに、アルマが語った責任を分かち合っているからである。それはすなわち、わたしたちは「互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバプテスマをもって、一つの目で将来を見詰める」べきである（モーサヤ18：21）、ということである。

バプテスマの聖約をこのように理解していれば、天父のもとへ帰って天父とともに生活することができるように、わたしたちは助け合い、福音に従って生活したいという気持ちになるはずである。生徒と教師がこれを実行するための一つの方法は、学習に適した雰囲気作りをすることである。

学習に適した雰囲気において、わたしたちは（1）参加することによって互いに教化し合う、（2）互いに愛し、助け合う、（3）真理を探究することを望むのである。

教師と生徒は参加することによって互いに教化し合う。わたしたちは、互いの意見に注意深く耳を傾け、話し合いやその他の学習活動に参加し、深く考えて質問をし、ともに祈り、個人の経験や見解を分かち合い、証をするときに、互いに教化し合うのである（教義と聖約88：122参照）。

教師と生徒は互いに愛し、助け合う。自分を気遣ってくれる友達と一緒にいると感じているときに、学習効果は向上する。あざけられたり、当惑させられたりするかも

しれないと感じている人は、レッスンに寄与しにくくなり、また福音における成長も妨げられる。わたしたちは言葉と行いによって彼らを気遣い、彼らに成長してほしいと思っていることを伝えることができる。福音を学ぶために集まるときにわたしたちが心を持つべき愛について、ヘンリー・B・アイリング長老はこのように勧告している。「天の御父はわたしたちが心一つとするように望んでおられます。この愛における一致は、単なる理想ではありません。必要不可欠なものです。」（「わたしたちが一つとなれるように」『聖徒の道』1998年7月号、70）

教師と生徒は皆、真理を探求することを望む。福音を理解し、福音に従って生活する方法を学ぶという大きな目的のもとに集まるときに、学習の機会は増大する。真理の探究のために一致するとき、わたしたちは主の御霊が豊かに注がれることを願うのである。

### 学習に適した雰囲気について生徒に教える

あなたが教師として持つ責任の一部には、学習に貢献する雰囲気を作るために、生徒に何ができるかを理解させることが含まれる。ほかの生徒が望ましい学習経験をできるように助ける責任が生徒一人一人にある。学習に適した雰囲気をクラスに作るには、単に生徒の行動を正して、あなたの提示が妨げられないようにすることだけを指すのではない。あなたは人々が救い主の優れた弟子となるように助けるという神聖な使命を果たしているのである。

家族や生徒を学習に適した雰囲気作りに貢献させるために、以下の提案を基にして話し合いを進めるとよい。

- 福音に対するあなたの気持ちを述べ、福音の真理を学ぶ人々を助けたいというあなたの気持ちを説明する。
- 福音を学ぼうとわたしたちは互いに助け合う責任があることについて話し合う。
- レッスンに参加することの大切さについて話す。
- 学習に適した雰囲気を作るために生徒にできることを提案してもらう。  
初等協会では7歳児と8歳児を教える召しを

受けたある教師は、最初のレッスンでそのような話し合いを実施した。その日曜日の朝、教師はこのように言った。「皆さん、わたしはビショップから召しを受けて皆さんの先生をすることになりました。ビショップはわたしの頭に手を置いて、皆さんを理解し、愛し、真理を教えることができるように祝福してくださいました。わたしはこのような祝福を受けたのでとても幸せです。クラスでは楽しく、正しいレッスンを教えられるように準備してきます。皆さんに質問をしたり、皆さんからの質問に答えたり、歌を歌ったり、物語に耳を傾けたり、皆さんが知っている真理を先生に話してもらったりいろいろなことをすると思います。」

教師は続けてこう言った。「わたしたちは皆、生まれる前に天のお父様と一緒に住んでいました。わたしたちは天のお父様の子供です。ですからわたしたちは兄弟姉妹です。わたしたちのクラスでは、みんなが天のお父様のところへ帰ることができるように、お互いに学ぶのを助け合っていると思います。お話する大切なことをクラスのほかの人たちが学べるように、わたしたちにはどのような助けができるでしょうか。どのようなことができるかみんなで考えてみましょう。」

教師は生徒の意見を黒板に書き出した。互いに親切にする、レッスンに参加する、経験や証を分かち合う、耳を傾ける、福音の原則を理解できるように努力する、などの意

見が記されていった。

それから教師はこう質問した。「どのようなことがわたしたちの勉強のじゃまになるのでしょうか。」教師は再び生徒の意見を黒板に書き出した。だれかを笑い者にする、ほかの人が話しているときに話をする、などが書き出された。

これら二つのリストを基にして、教師は生徒とともに、互いにどのようなことを期待したらよいかを明確にするクラスの規則を作った。

教師がこれらの原則について話したのはこの1度きりではなかった。彼女は生徒と個人的に話し合うこともあれば、必要に応じてクラス全体で話し合うこともあった。

レッスンを準備する際に、この教師が取った方法を基に自分なりの方法を考えるか、ほかのアイデアを使って、学習に適した雰囲気作りに生徒を参加させる方法を考える。よく観察し、祈りの気持ちで考えるならば、あなたは様々な機会を捕らえて、わたしたちが(1)参加することによって互いに教化し合う、(2)互いに愛し、助け合う、(3)真理を探究することを望むときに、最良の学習効果が発揮されることを教えることができる。

#### そのほかの参考資料

学習に適した雰囲気を作ることに関するそのほかの情報については、福音の教え方コースの第6課と第7課(213-221ページ)を参照する。

## 教師は学習に適した 雰囲気作りに どのような貢献ができるか



「教えるを説く者は聞く者よりも偉いわけではなく、教える者は学ぶ者よりも偉いわけではない……。このように、彼らは皆、平等であった。そして、彼らは皆、各々自分の力に応じて働いた。」(アルマ1:26)

生徒が学習に適した雰囲気作りに貢献できることを理解させること(77-78ページ参照)に加えて、教師であるあなた自身がそのような雰囲気作りに貢献するためにできることが数多くある。

### あなた自身を霊的に備える

家庭や教室における学習の雰囲気はあなた自身が霊的に備えることによって大きく改善される。霊的な備えができると、平安、愛、敬虔の霊がもたらされる。これにより、教えるを受ける人は安心して、永遠に価値のある物事について考え、話し合うことができる。あなたがうろたえたり、うわのそらであったり、心に怒りを覚えていたり、批判的であったりして、霊的な準備ができていないと、彼らは御霊によって学ぶことができなくなる。(あなた自身を霊的に備えることに関する提案については、11-20ページを参照。)

### 一人一人を愛し、手を差し伸べる

イエスはこのように言われた。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ13:34) 愛しやすいつきだけでなく、あなたの忍耐が試されるときにも生徒を愛する努力をすべきである(「慈愛の賜物を求める」12ページ参照)。

あなたが教える一人一人は主の目に大切な存在であり、また、あなたにとっても大切な存在でなければならない。生徒一人一人に手を差し伸べる方法を見つけなさい(「個人に手を差し伸べる」35-36ページ参照)。生徒はあなたから愛され、関心を寄せられていることに気づくと、あなたを信頼するようになる。生徒は教えるに心を開き、レッスンを妨害したりしなくなるであろう

(「愛は心を和ませる」31-32ページ参照)。

### 適切な服装

あなたの服装や外見が原因となって生徒の注意をそらすようなことがあってはならない。若人のクラスを教えている場合でも、生徒の信頼を得ようとして彼らと同じような服装をする必要はない。

### 生徒を温かく迎える

あなたがクラスの教師であれば、教室に入って来る生徒を笑顔で迎え、一人一人と握手しなさい。出席してくれて喜んでいることを伝える。生徒に感謝していることを表しなさい。温かみのある歓迎の一言が生徒をくつろがせ、学習に備えさせるのである。

家庭の夕べや家族の聖文研究会を始める前に家族一人一人に温かい歓迎の言葉を述べることによってそれらを特別な集いにすることができる。

### 関心を集める方法で始める

レッスンを始める前に私的な会話や活動が行われていることがある。そのような会話や活動を終えて、全員の気持ちを学習に向かわせる責任はあなたにある。生徒を席に着かせたり、賛美歌の録音を聞かせたりすることもその方法である。開会の祈りを頼む前に、生徒一人一人の目を見ることで十分な場合もある。時にはあなた自身が開会の祈りをささげるとよいであろう(「レッスンを始める」93ページ参照)。

### 尊敬し合うことを奨励する

互いに愛され、認められていることを感じるためにどのようなことができるかを生徒に考えさせる。あなたの言葉と行いによって生徒は互いを尊敬することを学ぶ。質問に対するあなたの受け答えによって、生徒は互いの意見や質問を尊敬の気持ちをもって受け止める方法を学ぶ(「耳を傾ける」66-67ページ参照)。まじめな気持ちで尋ねるのであればどのような質問でも歓迎されることを生徒に理解させる。一人の生徒の質問によって、ほかの生徒にも理解されていなかった原則が明らかになることがある。

### 熱心に福音を学ぶことを奨励する

生徒がクラスに出席する理由は様々であ





子供は通常、他人から期待されていると感じるままに振る舞うものである。あなたが積極的な思いを示すことによって、学習に適した雰囲気を持続することができる。積極的な言葉の例を以下に挙げる。

- 皆さん一人一人が特別です。皆さんはほんとうに神様の子供です。世界中で皆さんとまったく同じ子はほかにだれもいません。
- 皆さんが自分の経験を話してくれたおかげで、興味深いレッスンになりました。
- みんながよく協力できたのでわたしはとても幸せです。
- 天のお父様は今日のような皆さんを喜んでおられます。
- 皆さんがよいことをしてくれたので感謝しています。わたしたちは皆、正しいことをするように努力しています。
- 順番に話しましょう。みんながよい考えを持っています。お互いに耳を傾けてよく聞きましょう。

る。しかしながら、いったん出席したら、あなたは福音を学ぶという一つの目的に全員の心が向けられるように助けるべきである。そのために、福音が彼らの問題を解決する助けとなり、生活を豊かなものにし、いっそう幸せになる手助けとなることを理解させる必要がある。

学び、参加する準備をしてクラスに来るよう生徒を奨励する。生徒が福音を学ぶための準備をしてクラスに出席すると、それが学習に適した雰囲気作りにも貢献するものである（「福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助する」61-62ページ参照）。

特に、福音の原則を日常生活で応用することを奨励する簡単な宿題を出すことによって、効果を上げる場合がある（「学んだ教えに従って生活するよう助ける」74ページ参照）。宿題を出すときは、通常、生徒にその報告をする機会を与えるべきである。これによって生徒は自分たちが学び、成し遂げることをあなたが重要視していると理解する。

### キリストについて教える

わたしたちが教えるすべての事柄は家族と生徒をキリストに向ける、つまり主が果たされた贖罪の使命、完全な模範、主の儀式と聖約に心を向けさせるものでなければならぬ。レッスンを準備し、実施する際にこれを忘れてはならない。それは学習に適した雰囲気作りを目指す教師と生徒の間に一致と希望の霊をもたらす。

### 参加を促すために様々な教授法を用いる

全員がレッスンに関心を持ち、話し合いと活動に参加するときに、学習の雰囲気は高まる。関心と参加のレベルを高い水準のまま推移させるために、様々な教授法を用いる（「変化を持たせて教える」89-90ページ参照）。

### あなたの気持ち、経験、証を分かち合う

あなたが自分の気持ちや経験、証を分かち合うことによって、それを聞く人々も同じように行動したいという気持ちにさせることがある。これは分かち合う人とそれに耳を傾ける人双方を強めるものとなる。特に新しく改宗した人たちは、経験の多少にかかわらずわたしたちが皆、教会において教え合い、学び合っていることを見る必要がある。あらゆる人は皆、何か貢献する

ものを持っている。わたしたちは「すべての者が互いに教化し合う」（教義と聖約88：122）ように、互いの貢献に耳を傾けるべきである。

### 子供を教える人々のためのそのほかの提案

#### 子供に対して積極的な気持ちを表す

子供は批判されたり、否定的な言葉をかけられたりすると、自分がその場にふさわしくないと考えたり、拒否されていると感じたりすることが多い。そのような子供はほかの子供のじゃまをしたり、行儀の悪いことをしたりすることによって周囲の関心を自分に向けようとする。これに対して、積極的な言葉をかけると、子供はあなたから最もすばらしい行動を期待されていることを理解するのである。子供のよい行いを認めて、感謝の言葉を述べ、ささいな問題は無視する。こうしたことによって子供たちは自分が受け入れられ、愛され、理解されていることを感じ始める。（そのほかの情報については、『初等協会指導者訓練ビデオカセット』を参照する。）

#### 標準を決めて、それを守る

子供たちは規則と限度を必要としており、またその意味を理解することができる。子供たちと一緒に簡単に、明確な規則を幾つか作る（3つないし4つを超えない）。これによって子供たちは自らを治める。規則を守ることによって全員が楽しく学べることを説明しなさい。また、規則を破るとどのようなことになるかについて話し合う。教師が立って腕組みをするなど、秩序を回復するための合図を子供たちと一緒に決めるとよい。

子供たちと一緒に幾つかの規則を決めたら、それを一覧表にする。文字を読めなければ、どのように行動すべきかを示す絵を描く。規則を破ったら、レッスンを中断して、優しくこのように尋ねる。「規則はどうなっていますか。」生徒が規則を言うまで忍耐して待つ。そして、どうすれば規則を守れるかを尋ねる。それから、レッスンを再開する。

#### 子供たちに参加させる

様々な活動を網羅したレッスンを展開す

叱責	理解
あなたはいつも問題を起こします。もううんざりしました。	じっと座っているのが大変なこともあります。でも、もう少し頑張ってください。わたしの隣に座ったら静かにできますか。
なぜほかの子に手を出すのをやめられないのですか。	ほかの子をからかうのが楽しそうに思えても、わたしたちは人をからかったりしません。みんなが勉強できなくなります。
あなたは どうしてそれほど思いやりがないのですか。	時には思いやりのない言葉を言いたくなることもあるでしょうが、わたしたちのクラスでは親切で、思いやりを示すように全力を尽くしましょう。自分が感じたいと思うようにほかの子にも感じてもらえるようにしましょう。
あなたは少しもわたしに注意をむけていませんね。今すぐこちらを向きなさい。	あなたの目を見ながらでないと教えるのは難しいです。ですから、わたしの言葉をよく聞いてわたしを助けてください。
乱暴をやめなさい。怒りますよ。	みんな疲れて、落ち着きがなくなっていますね。ここで少し立ち上がって、伸びをしましょう。

ることによって子供たちを活気にあふれさせ、また、関心をつなぎ止める。恐らくこれはレッスンを妨害する行動を防ぐ最良の方法である。教えているときに、子供たちの目を見なさい。手引きから読むだけのレッスンであれば、子供はほかのことに関心を向けてしまうであろう。子供たちに落ち着きがなくなったら、このように言う。「これから尋ねる質問を一生懸命に考えてください。」あるいは「みんなに見えるようにこの絵を持っていてくれますか。」ささいな妨害は無視して、子供たちの関心をほかのことに向ける。例えば、このように言うことができる。「これからお話しすることを聞いたら、皆さんはきっと楽しくなりますよ。」あるいは「答えが分かったと思ったら手を挙げてください。」

#### 思いやりを持つ

たとえ扱いに苦労しているときであっても、あなたが子

供たちを愛し、理解していることを感じさせる。子供たちは叱責よりも理解を必要としていることを忘れてはならない。したがって、忍耐し、思いやりを示しなさい。そうすれば、困難な状況を、子供たちが学ぶ機会に変えることができる。以上の表はしかるごとと理解することの違いを示している。

自分についても、子供に対しても決して完璧を期待してはならない。あなたが愛していることを子供たちに知らせるような朗らかで積極的な態度をとりなさい。様々な問題があっても次第に解決されていくことを理解させなさい。

#### そのほかの参考資料

学習に適した雰囲気作りに関するそのほかの情報については、福音の教え方コースの第6課と第7課（213-221ページ）を参照する。

23

敬虔



ボイド・K・パッカー長老はこのように教えている。

「福音の教義を学ぶために集まるときは、敬虔な気持ちを忘れないようにしてください……。

世の中はますます騒がしくなっています……。

騒音や興奮、争いが増え、慎みや気品、規律が減るということは、偶然起きたのではなく、無害でもありません。

軍隊が敵を侵略するとき、司令官が出す最初の命令は、征服しようとする敵の通信連絡網を破壊することです。

敬虔さを失わせることは、まさしくサタンのもくろみなのです。知性と霊性の両方における啓示の伝達経路を妨害することになるからです……。

……敬虔さは啓示をもたらす [のです。]」（「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号，23-24）

デビッド・O・マッケイ大管長は「敬虔とは、愛に基づいて深い尊敬の念を抱くことである」と語った（Conference Report, 1967年4月，86；Improvement Era, 1967年6月号，82）。

L・トム・ペリー長老は「敬虔さというものは、神を賛美し、神を敬う心の中から自然にわき出るものなのです」と述べている（「恐れかしこみ神によろこばれるように仕える」『聖徒の道』1991年1月号，76）。スペンサー・W・キンボール大管長はこのように勧告している。「真の敬虔さは、欠くべからざるものでありながら、悪の力が強まりつつある今日、急速に失われてきています。わたしたちの内にある善をなそうとする力は、キリストの真の教会の数多くの会員が模範となって敬虔な行いをするなら、わたしたちが考える以上に大きなもの

となることでしょう。そして想像もできないほど多くの人に影響を及ぼすことでしょう。しかし、それよりもさらに大切なことは、わたしたちが当然そうあるべき敬虔な民として模範を示すならば、わたしたちの家族が計り知れないほどの霊的な影響を受けるといことです。」（Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編 [1982年]，224-225）

末日の預言者、聖見者、啓示者によるこれらの言葉は、敬虔さがレッスンの間、単に静かにして座っていること以上のものであることを示している。それは義にかなうあらゆる行いに見られるものである。神と互いを尊敬し、愛する気持ちの中に表れるものである。初等協会の歌はこのように教えている。

静かに深く 主思う  
それが敬虔  
主を愛し 主に感謝しよう  
敬虔とは 愛  
行い 言葉 敬虔に  
イエスさまの教え  
敬虔なとき 感じる  
神さまとイエスさま  
（「敬虔は愛」『子供の歌集』12）

敬虔さの模範を示す

他人に敬虔であるように教えるには、わたしたち自身が敬虔でなければならない。敬虔さについて「敬虔とは、愛に基づいて深い尊敬の念を抱くことである」と語ったマッケイ大管長の定義をよく考えてみる必要がある。敬虔になるために以下の事項を参考にして努力するとよい。

- いつも御子を覚え、御子の名を受けるとい聖餐の聖約を守る（教義と聖約20：77，79参照）。いつも主と主の慈しみに心に浮かべ、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になる」（モーサヤ18：9）ように努力する。
- 神の名を適切に、また敬虔な気持ちで用いる。ダリン・H・オークス長老はこのように教えている。「父なる神と御子イエス・キリストの名が敬虔さと権威をもって用いられるとき、それは人の想像も及ばぬ力を引き起こします。この強力な御名を通して奇跡が起こり、この世が創



造され、人が造られ、救われるようになりました。この御名は聖いもので、最大の敬虔さをもって用いなければならないことは、信仰を持つ人々に明らかです。」（「敬虔さと清さ」『聖徒の道』1986年7月号、53）

- 中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会、地元の神権指導者、補助組織指導者に対して適切な尊敬の気持ちを表す。彼らに対して話すときや彼らについて話すときは「大管長」「会長」「長老」「ビショップ」「姉妹」などの呼び方をする。教会でほかの人に話すとき、ほかの人について話すときは「兄弟」「姉妹」と呼ぶ。
- 下品な言葉を使ってほかの人を見下したり、批判したりしてはならない。他人だけでなく家族にも「どうぞ」「ありがとうございます」「失礼します」といった丁寧な言葉を使う。
- 聖典を扱うとき、主のもの（建物、敷地、家具、書籍など）を使うときに適切な敬意を表す。

### 敬虔な行いを教えるための具体的な方法

たとえあなたの模範が家族や生徒に敬虔さを培うに十分なものであったとしても、敬虔な行いを具体的に教えることが必要となる場合もある。特に子供や若人にはこれが必要である。

10歳と11歳の少女たちを教えているある教師は敬虔さについて具体的に教える必要があることを知った。預言者ジョセフ・スミスの使命と殉教に関するレッスンで、少女たちは分別のない、無礼な言動に出始めた。不敬な言葉までもが教師の耳に入ってきた。教師はしばらく沈黙し、どうすべきかを考えた。そして、悲しく信じられない思いでいる思いを声に込めて、生徒の言葉や笑いが不適切であること、教師がジョセフ・スミスと彼の経験に対して抱いている尊敬の気持ちを傷つけていることをきっぱりと述べた。生徒はとたんに静かになった。教師は生徒を愛していること、喜びをもってクラスを教えているが、そのような振る舞いを放置しておくわけにはいかないことを告げた。それは教師と生徒にとって深く考えさせられる経験となった。

敬虔な態度を奨励するために以下の提案を参考にするとよい。

- 限度を設ける。容認できる行いと容認できない行いを明確にする。例を挙げると、神聖な事柄を軽んじる言葉、下品な言葉、不敬な言葉、思いやりのない言葉を容認しない。レッスン中に飲食をしたり、教室を出たり入ったりする行動を禁止する。生徒同士で話し合ったり、教師との間で話し合ったりする場合に、ほかの人が話してい

る途中で割り込まずに最後まで耳を傾けるよう奨励する。また、「どうぞ」「ありがとう」「失礼します」といった丁寧な言葉を使うことを奨励する。

- 混乱を最小限に抑えるように計画し、準備をする。あなたがクラスを教えているのであれば、早めに教室に到着する。
- 定刻に始め、定刻に終える。これは生徒を尊重していることを表すことになる。
- 快活に、礼儀正しい態度で話す。常に笑顔で生徒を歓迎する。
- 話し合いにおける生徒の貢献に理解を示す。
- 子供たちを教えているのであれば、敬虔さを求められていることを思い出させる簡単な合図を送る。敬虔な歌を静かに歌ったりハミングをしたりすること、絵を展示することなどによっても敬虔な雰囲気を取り戻すことができる。
- 子供にとって長時間座っていることは特に難しいことを忘れてはならない。子供たちが積極的に耳を傾け、参加できるように助ける。定期的に休憩を取る。
- 子供たちに敬虔さの重要性について特別に教える時間を取る。前奏曲を演奏する意味を説明する。耳を傾け、歌を歌い、静かに話すことがなぜ大切かを説明する。敬虔な振る舞いは天父に喜ばれることを子供たちに理解させる。敬虔であれば心によい気持ちを感じることを、また証が強められることを説明する。
- 敬虔な振る舞いに対して褒美や食べ物を与えてはならない。だれがいちばん敬虔にできるかを競わせてはならない。これらの方法は間違った方向に子供らの関心を向ける。理解が深まることや御霊の導きなどが敬虔さの真の報いであることを教える。
- 音楽を利用する。ボイド・K・パッカー長老はこのように述べている。「音楽は、啓示を受けたり証を強めたりするような礼拝の雰囲気を作り上げます。」（「啓示をもたらす敬虔さ」『聖徒の道』1992年1月号、24）敬虔な雰囲気を作るために前奏曲を活用する。レッスンでも音楽を活用する。
- 生徒が御霊の導きを認識することができるように助ける。御霊によって促されたときに証を述べる。
- 常に救い主を中心に教える。教室に救い主の絵を掲示しておく。

## レッスンを妨害する 生徒を助ける



ボイド・K・バックナー長老はこのように教えている。

「人は基本的に善なる存在であることを教師は理解しなければならない。人は正しいことを行う傾向を持っていることを知らなければならない。そのような高貴な思いは信仰が生み出すものである。わたしたちが自分の子供や若人の前に立って教えるときに、その違いは歴然としてくる。

教えようとするのであれば、わたしたちは絶えず、神の息子と娘、つまり神のようになる可能性を持つ神の子供を相手にしていることを思い起こさなければならない。」(Teach Ye Diligently, 改訂版 [1991年], 89)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は家庭の環境についてこのように述べている。「だれもが経験することですが、何か問題に出くわしたときには、まず気持ちを抑えてください。そして次の箴言の言葉を思い起こしてください。『柔らかい答は憤りとどめ [る。]』(箴言15:1) この世の中で、愛情のこもったしつけに勝るしつけはほかにありません。愛情あるしつけには特有の不思議な力があります。」(「家庭の環境」『聖徒の道』1985年10月号, 5)

ヒンクレー大管長が述べているように小さな問題は必ず起きる。家庭で、あるいは教会で教えているときに、生徒や家族の振る舞いによってレッスンを妨害されることがある。妨害するような振る舞いをする人を助けるに当たって、適切でない振る舞いをただ単に正そうとしたり、全員を静かにさせようとしたりしてはならない。彼らが救い主のよい弟子になるように助けるのである。キリストの方法によって妨害行為に対応するために以下の情報を参考にするとよい。

### 人の持つ価値を覚える

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい」と主は勧告しておられる(教義と聖約18:10)。あなたが教える人々は神聖な特質を持っており、また神聖な行く末が彼らを待ち受けている。彼らの行動に対してあなたがどのように対応するかで、神の息子娘として持つ無限の価値を彼らの心に刻むことができる。あなたは模範を通して、彼らが福音を学び、福音の原則に従って生活するために互いに助け合う気持ちを高めることができる。

### あなたが教える人々を理解する

レッスンを妨害する生徒を助ける方法に

ついて考えるとき、彼らの行動について、教室の環境を含めて考えられるあらゆる理由を検討する。御霊の導きを求めて祈りなさい。あなたやほかの人がしていることが原因で妨害している場合がある。悩みや怒り、疲れ、不満から適切でない言動をとる場合もある。問題の原因について考えるときに、これらの可能性を注意深く検討する。生徒を理解することによって、彼らを前向きな方法でレッスンに貢献させることができる。(「生徒を理解する」33-34ページ参照。生徒の年齢層別による必要を検討するには、「子供を教える」108-109ページ、「子供の年齢別特徴」110-116ページ、「青少年を理解し、教える」118-120ページ、「成人を理解し、教える」123-124ページを参照する。)

### あなた自身の行動を吟味する

レッスンを妨害する行為が行われると、その行為だけに目を向けて、自分に目を向けようとしなことが往々にして起こる。しかし、救い主はこのように言われた。「自分の目には梁があるのに、どうして兄弟に向かって、『あなたの目からちりを取らせてください』と言えようか。見よ、自分の目の中に梁があるではないか。……まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるであろう。」(3ニーファイ14:4-5)

妨害行為の問題を解決するために、まず問題の核心があなたの行いにあるかどうかを考える。このように自問する。「わたしは救い主と救い主の教えを中心に置いて教えているだろうか。御霊によって教えるために全力を尽くしているだろうか。学習について生徒が自分の責任を果たせるように助けているだろうか。学習に適した雰囲気作りに生徒を貢献させているだろうか。互いに学び合う機会を生徒に与えているだろうか。レッスンを準備する方法を改善できないだろうか。わたしは教師として改善の努力を続けているだろうか。」

あなたが用いている教授法を吟味する。このように自問してみる。「わたしの教授法は生徒が福音の真理を理解し、応用する助けとなっているだろうか。生徒が興味を持ち続け、積極的に参加するようにわたしは様々な教授法を用いているだろうか。」





### あなたの動機を吟味する

主の業を助けたいと思う者は「謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持」たなければならないと主は教えておられる（教義と聖約12：8）。愛によって動機づけられているのであれば、教えを受ける人々に積極的で力強い影響を与えることはできない。あなたが教えるすべての人に対して、特に時々不適切な行動をとる人々に対してキリストのような愛であなたの心を満たすことができるように祈りなさい（「慈愛の賜物を求める」12ページ、「愛は心を和ませる」31-32ページ参照）。

このように自問する。「わたしは福音を学ぶ人々を助けることに心を向けているだろうか、それとも、何の妨害も受けることなくレッスンの内容を提示することに心を向けているだろうか。」あなたではなく生徒が経験していることについて考える。あなたが自分の必要ではなく、絶えず生徒の心に目を向けているならば、彼らは積極的に参加し、それによって教化されることであろう。

### 学習に適した雰囲気作りに全員を参加させる

学習に適した雰囲気作りに全員を参加させるための原則について時々生徒と検討するとよい（「学習に適した雰囲気作りに貢献するよう教える」77-78ページ参照）。話し合いに参加し、ほかの人にも貢献させる機会を与え、互いに耳を傾け、聖典をクラスに持参する生徒の責任を思い起こさせる。さらに、あなたが教師としてこの学習に適した雰囲気作りに貢献するためにどのようなことを行うかを告げる。よく準備してレッスンを教え、生徒全員が参加できるように話し合いや活動を進めることを明言するとよい。

### 偶発的な妨害行為に単純な方法で対応する

ささいな妨害行為を無視して、よい行いに焦点を絞ることが最善の方法となることがある。偶発的な妨害に対応する必要がある場合、以下の提案を考慮する。

- 沈黙する。本人が話や妨害をやめるまで静かに待つ。
- 迷惑な行為をしている人に近づく。このわずかな行動によって、教師に注目しなければならないことを無言のうちに気づかせることができる。
- 軽い冗談を言う。深刻な問題に発展させることなく、本人をレッスンに引き戻すことができるであろう。しかしながら、嫌味になったり、本人を当惑させようあるいは抑えつけようとしてユーモアを使ったりしてはならない。
- 本人が積極的な方法で参加できるように助ける。朗読させたり、何かを言い換えさせたり、例を挙げさせたり、別の方法で答えさせたりすることを考える。本人に恥をかかせることなく、参加を促すことが大切である。
- 全員が参加できるように助ける。話し合いを一人の生徒が独占している場合、まだ貢献していない生徒たちを指名する。最初に質問に答える機会を彼らに与える。この方法で効果がなければ、独占している生徒に向けていた関心を次第にそらせ、このように言って関心をクラス全体に向ける。「ではほかの人の意見を聞いてみましょう。」あるいは「興味のある意見を幾つか伺いました。これらの考えに何か付け加えてくれる人はいるでしょうか。」（話し合いを進めることに関するその他の提案については、「話し合いを展開する」63-65ページ、「質問を交え



た教え方」68-70ページを参照する)

- 御霊の伴わない話し合いを原点に戻す。生徒があなたやほかの生徒に論争を仕掛けたり、不敬な言葉を述べたり、論争を招くような問題を持ち出したたりした場合、愛と柔和をもって対応方法を決める。単純明快に次のように言うことができる。「興味のある見解です。けれども今日のレッスンからは外れているようですね。」
- 別の活動を導入する。直ちにほかの活動に移ることによって、全体の流れを変える。

### 妨害行為をやめようとしなない生徒に特別な対応を試みる

学習に適した雰囲気を作るためにあなたが努力したにもかかわらず、レッスンの妨害行為をやめようとしなない生徒がいることもある。もし、ほかの生徒の学習を甚だしく妨げるようであれば、そうした問題を思いやりのない行動や無視でやり過ぎてはならない。このような場合に、主の指示に従って行動すべきであることを忘れてはならない。すなわち、「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。

聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。

それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、その人が知るためである。」(教義と聖約121:41-44)

この勧告を実行するに当たって、「そのときに」と「厳しく」の語が表す意味を理解しておく役立つ。「そのときに」とは俊敏に、あるいは時機を逸することなくという意味である。この聖句の「厳しく」とは、明確で問題点をはっきりさせる指示を与える必要があることを示している。

是正するに当たっては温厚であり、柔和でなければならない。責めるのは「聖霊に感じたとき」だけであって、その後にいっそうの愛を示さなければならないことに注意する。

妨害行為をやめようとしなない生徒がいる場合に、以下の提案を参考にする。家庭でこれらの提案を実施する場合は状況に合わせて変更する。

#### 本人と個人的に話す

妨害行為をやめようとしなない生徒と個人的に話すことが効果をもたらす場合がある。あなたは機転を利かせて、また愛をもってこの方法をとるべきである。妨害している行為について説明すると同時に、あなたがその人を愛し、尊敬していることを明確にする。本人からの助けを必要としていることを話し、一緒に解決方法を見いだせるよう努力する。その後にいっそうの愛を示すために全力を尽くす。「香油を塗って手当てを施せないほどの懲らしめは決して

与えないでください」とブリガム・ヤング大管長は勧告している(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』241)。

#### ほかの人からの助けを求める

指導者は、教えるうえでチャレンジを抱えているあなたを助けたいと願っている。あなたは指導者のアイデアや支援を利用することができる。例えば、彼らは何かの活動を実施したり、正しく振る舞えない子供の横に座る人を頼んでくれたりすることもある。所属する組織の指導者との定期面接で、クラスの個人を助ける方法について話し合うことができる(『指導者からの支援を得る』28ページ参照)。

クラスに指導者を招いて、レッスン中の学習の雰囲気を特別に観察してもらうこともできる。レッスン後に指導者と問題について話し合い、一緒に解決策を見つける。解決方法を実施している間も引き続き指導者から助言を受ける。

子供や若人が常習的に妨害行為を行っている場合は、両親の助けを求める。両親は子供の行動を知りたいと思っているので、喜んで助けてくれるであろう。可能であれば、両親との話し合いに子供を同席させる。これは子供が成長していることを認め、子供の選択の自由を尊重することをあなたが示すことになる。一緒に具体的な計画を立てて、後に進捗状況を評価する。

妨げとなる行為を行っている人が、特別な援助を必要としている場合、本人が効果的に学習し、適切な行動をとることができるように助ける方法を見つけ出す。(『障害を持つ人に教える』38-39ページ参照。さらに『教会指導手引き』「福音の教授と指導」の章から「障害を持つ会員を教え導く」313-316ページを参照する。)

#### 忍耐する

変化を見るには時間がかかることを忘れてはならない。忍耐して努力を続けなさい。問題を抱えている人を決して見捨ててはならない。一貫して積極的に働きかける。その人がクラスで敵対的な態度をとっても落胆してはならない。あなたの教えるレッスンから何も得ていないように見えても、その人にはなおイエス・キリストの福音を学び、御霊の影響を受ける機会がある。さらに、彼らは愛にあふれる教師、思いやりの深い指導者、友人と一緒にいる機会を有している。

#### 初等協会教師への特別な提案

子供が妨害行為をしている場合、やめるよう愛を込めて本人に頼みなさい。例えば、理恵という名の生徒がレッスンを妨害しているとする。あなたは、「理恵ちゃん、それをやめてちょうだい」と言うことができる。それでやめれば、彼女に感謝を表す。やめなければ、少し強く、けれども愛を込めて、お願いする。「理恵ちゃん、お願いだから今すぐにやめてちょうだい。」それでやめれば、感謝を表す。



まだ従わなければ、教室ではどうしなければならないかを個人的に話す。理恵のどのような行為が迷惑であり、それはなぜかを説明する。例えば、このように言うことができる。「理恵ちゃん、今日クラスで起きたことがとても気になっているの。クラスに敬意がないと勉強できないの。」それから、理恵はどう考えているかを尋ねる。彼女の意見を真剣に聞いてから、その気持ちが理解できることを伝えるとよい。このように言うことができるかもしれない。「あなたが落ち着かなくて、じっとしているのが大変なのは分かります。」そしてこう尋ねる。「この問題を一緒に解決するにはどうすればいいかしら。どうしたらあなたを助けられるかしら。あなたはどうすればいいと思う？」解決策を一緒に考えなさい。

理恵と話した後に、もし彼女の妨害がまだ続くようであれば、彼女とクラスを助けるためにあなたなりの計画を立てる必要がある。以下の事項をその計画に含めるとよい。

- 一つのいすをほかの子供たちのいすから離れた場所に置き、理恵をしばらくの間、2分間ぐらい、そのいすに座らせる。この間、ほかの子供と話をさせてはならない。あらかじめ決めておいた間、静かにできれば理恵をグループに戻す。
- 初等協会会長またはその他の指導者に、教会内の空き室または静かな場所へ連れて行ってもらう。そこで両親から助けてもらう。このように言うことができる。「理恵ちゃん、残念なことにあなたはクラスの規則を守りませんでした。斎藤姉妹があなたの両親に話すためにあなたを連れて行きます。早く戻れるように頑張ってくださいね。規則を守ることを決心したら、戻って来られますよ。」指導者は子供と一緒にいるべきである。子供が指導者に従うようになったら、クラスへ戻してもよい。彼女が愛され、クラスにとって必要であることを感じさせる。

## 効果的な方法を用いる

---

人々に学習意欲を持たせるには、わたしたちの教えが興味深いものでなければならない。

人々に理解させるには、教えが明確でなければならない。

学んだことを人々の記憶にとどめさせ、深く考えさせるには、

教えが記憶に残るものでなければならない。

教授法を注意深く選び、それらを効果的に用いる理由はここにある。

レッスンを興味深く、明確で、記憶に残るものとするためである。



## 変化を持たせて教える



デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べている。「すべての教師には、生徒の心に永久に訴える教えるを与えるために最良の方法を見極める責任がある。」(Gospel Ideals [1953年], 439)

### レッスンごとに教授法を変える

1週間の夕食の献立を計画するとき、7日間続けて同じ献立を考える主婦はいない。予算が限られていて、7日間じゃがいもを食べなければならないとしても、彼女は様々なじゃがいもの料理があることを学んでいくことであろう。

同じように、福音も様々な方法で提示することができる。教師は毎週毎週、同じような変化のないレッスンを行うべきではない。学習活動に変化を持たせるならば、生徒は福音の原則をよりよく理解し、そして、それを記憶にとどめやすくなる。細心の注意を払って教授法を選ぶことによって、教える原則をより明確に、より興味深く、より記憶に残るものとすることができる。

レッスンの準備をするに当たって、レッスンごとに様々な教授法を用いる予定を組むようにする。これは、あるレッスンでは色彩豊かなポスターや図表を使い、別のレッスンでは黒板に質問事項を書き出しておくというような、簡単なことを意味している。

### レッスンの中で教授法を変える

レッスンごとに教授法を変えることに加えて、レッスン中にも教授法を変える必要がある。子供たちは生来の好奇心から、趣の異なる様々な学習活動によく反応する。各レッスンについて通常は5から7の異なった教授法を用いる。若人も様々な学習活動に非常によく反応する。成人を教えている場合であっても、各レッスンで少なくとも3つの異なった教授法を使うことを検討すべきである。

### 様々な教授法を選んで、準備する

レッスンを準備しているときに、どの教

授法を選んだらよいかを判断する際に役立つ資料はたくさんある。レッスンでどの教授法を使うかを計画する際に以下の方法を考えてみる。

- 第1に検討するのはレッスンの手引きに記されている提案である。必要であれば、それらを生徒の必要に合わせて手直しする。
- 明確な目的をもって教授法を用いる。レッスンの主目的を支え、強めるための教授法を選ぶ。それらは事実と生活に密着したものであり、真理、善、美を強調するものでなければならない。楽しむためや時間つぶしだけのために教授法を選ぶではない。
- 適切かつ効果的な方法を選ぶ。物語、黒板を使うなどの方法は、パネルディスカッションやゲームなどと比べるとはるかに頻繁に使われるものであろう(「適切な教授法を選ぶ」91ページ、「効果的な教授法を選ぶ」92ページ参照)。
- 適切であれば生徒を積極的に参加させる方法を選ぶ。これはすべての生徒に当てはまることだが、特に子供に関しては重要なことである。
- レッソンを教える前に教授法を練習する。特に初めて使用する場合には、練習が大切である。

### レッスンに変化を持たせる

90ページの表を使って、あなたのレッスンが変化に富んだものかどうかを判断する。自分の日記やノートに同様の表を作るとよい。上の空欄には今後5回のレッスンの標題を記入する。レッスンを準備する際に、「レッスン」の欄にはあなたが使う教授法に該当する項目に印を付ける。

表の上部に列挙されている方法は福音を教える際に使われる最も標準的なものである。ほとんどのレッスンではこれらの方法の幾つかを使用することであろう。そのほかの方法はレッスンの内容と生徒の必要に応じて効果を上げることができる。

この表を使い始めると、あなたが教える際のパターンが明らかになることであろう。レッスンで必ず使う方法と決して使わない方法があることであろう。

わたしが利用できる教授法	第 課	第 課	第 課	第 課	第 課
<b>一般的な教授法</b>					
黒板					
比較と実物を用いたレッスン					
話し合い					
具体例					
講義					
当てはめること					
音楽					
質問					
聖文					
物語					
視覚資料					
<b>その他の教授法</b>					
活動の歌					
応用の技術					
導入					
視聴覚教材					
ブレインストーミング					
バズセッション					
事例研究					
実演					
ジオラマ					
劇化					
絵を描くこと					
フランネルボード					
ゲーム					
ゲストスピーカー					
地図					
暗記					
オーバーヘッドプロジェクター					
パネルディスカッション					
紙人形					
写真・絵					
朗読劇					
ロールプレー					
ローラーボックス					
特別な報告					
島					
ワークシート					

## 適切な教授法を選ぶ

福音の教師であるあなたは、主の代表者として教えを受ける人々の前に立っている。あなたのなすすべては主の御心にかない、また毎回のレッスンにおいて福音の真理に対する敬虔な思いが表されていないといけない。

主は言われた。「上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならないことを覚えておきなさい。」(教義と聖約63：64) 福音の真理を教えるためにあなたが使う様々な方法によって、神聖な事柄に対する生徒の感覚が養われることになるのである。したがって、その教授法は教える原則にふさわしいものであり、教会の標準に合致したものであるようにしなければならない。あるメッセージを伝えるために利用できる教授法は幾つかあっても、中には、主題、教えを受ける人の年齢や経験から判断して特定のレッスンに関しては不適切な場合もある。

特定の教授法を使おうと考えるときに、以下の事柄を自問してその方法が適切であることを確認すべきである。

### その教授法は御霊を招くものか

教えを受ける人々の心に福音のメッセージを届けるには御霊がその場にとどまっておられなければならない。したがって、あなたが用いる教授法はレッスンの性質に合ったものであると同時に、御霊を招くものでなければならない(2ニーファイ33：1；教義と聖約42：14参照)。例えば、ある福音の教義クラスの教師は預言者ジョセフ・スミスの殉教について話し合うために音楽を用いることにした。レッスンを準備しているときに教師はワードの一人の会員に「悩める旅人」(『賛美歌』15番)を歌う準備をしてくれるように頼んだ。クラスで発表されたこの賛美歌は、暴徒に襲われる直前にカーセージの監獄でジョン・テーラーが兄弟たちにこの賛美歌を歌った様子へと生徒の思いと気持ちを導いた。御霊がその情景の持つぬくもりと深刻さを生徒の心に伝えられたのだった。

### その教授法は教えている原則の神聖さにふさわしいものか

教授法の中にはくつろいだ、日常的な雰囲気をもたらす

ものがある。したがって、それらは特定のレッスンにしか使うことができない。例えば、復活について話し合うのにロールプレーを用いるのは不適切である。しかし、良い隣人になる方法について教える場合に用いるロールプレーは適切な方法である。

### その方法は教えを受ける人々を教化し、強めるものか

福音を学ぶ経験は積極的かつ喜びにあふれるものであって、生徒に自分の持つ神聖な性質を自覚させるものでなければならない。生徒はあなたから愛され、尊敬されていることを感じる必要がある。

物議を醸すテーマや奇をてらったテーマは信仰と証を築くことにつながらない。したがって、それらを持ち出すべきではない。人を困惑させたり、軽視したりする可能性のある教授法はいかなるものであれ使用してはならない。

### 資料は教会が承認しているものか

現行の標準聖典と教会が発行したレッスン資料を使用する。ほかの資料からアイデアを探す前に、レッスン手引きで提案されている教授法を使用できないかどうかを検討する。手引きにない資料やアイデアを使用する場合、それらは真理と善を強調するものでなければならない。レッスン資料と聖典の補助資料として、総大会の説教、教会の機関誌、教会が制作した視聴覚資料や絵を使用することができる。

### 教授法を使用する準備段階で正しい手順に従ったか

一部の教授法には特別な準備が必要である。例えば、話者を招待するにはビショップの承認が必要である。ステーク集會に話者を招待するにはステーク会長の承認が必要である(『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』329)。

### そのほかの参考資料

教授法の選択に関するそのほかの情報については福音の教え方コース第8課と9課(222-229ページ)を参照する。



## 効果的な教授法を選ぶ



ポイド・K・バックー長老はこのように教えている。「わたしたちが倫理的価値、霊的価値について教えるとき、形のないものについて教えるわけである。恐らく、それを成功させることは、いかなる教えよりも難しく、また報いの大きいものである。その際に利用できる技術や道具がある。生徒が……教えを受け、教師の証を生徒との間で交流させるために、教師が自らとレッスンを準備するためにできる事柄がある。」(Teach Ye Diligently, 改訂版[1991年], 62)

効果的な教授法を使うことによってレッスンは明確になり、興味深く、記憶に残るものとなる。特定の教授法を採り上げることを検討するとき、それが効果的なものかどうかを確認するため、以下の質問を自問する。

### その教授法は生徒が原則をよりよく理解する助けとなるか

効果的な教授法を使うことによって原則を説明し、レッスンを強化することができる。例を挙げると、ある若い宣教師が地上に福音が回復される必要性について求道者に教えていた。求道者は自分の所属している教会は多くの価値ある真理を教えており、自分の家族にとってはそれで十分だと言った。宣教師は背教の意味と回復の必要性を求道者によく理解してもらうために、次のレッスンに1メートルの長さの棒を持って来た。彼女は棒の長さがちょうど1メートルあることを説明した。数センチ切り取ってもその棒はまだ一定の長さを測るためであれば利用価値がある。しかし、ちょうど1メートルの長さを測ることはできない。使徒たちが亡くなってから、真理が少しずつ失われていった。主に代わって語る預言者がいなくなったため、教義が変えられてしまった。真理は部分的に残っており、それらは善いものであったが、完全な真理ではなかった。教会がイエス・キリストの教会であるためには、キリストが教えられたすべての真理を備えていなければならない。そうでなければ、教会は本来教えなければならない事柄の一部しか教えていないことになる。

### その教授法は時間を効率よく使うために役立つか

レッスンを始めた時点で多くの教師は十分な時間があると感じているものである。その結果、彼らは浅はかにもレッスンの最初の部分で楽しい教授法に多くの時間を費やしてしまったりする。そしてレッスンの時間が半ばを過ぎた時点で、レッスンの大半をまだ教えていないことに気づく。彼らは時間を調整するために、大切な部分を抜かして大急ぎでレッスンを進める。採り上げた概念をまとめて、生徒が原則を応用する方法を学ぶ機会を設けないうま結論に突入してしまうのである。

レッスンで用いる教授法とそれらに費やす時間を入念に計画する。こうすることによって、あなたは様々な優れた教授法を使いながらも、教授法自体がレッスンの目的となることのないようにすることができる。

あなたが用いる教授法が特定の原則を教えるために時間を取りすぎはしないかどうかを確認する必要がある。例えば、小グループによる話し合いは複雑な原則を教えるのに効果的な方法であるが、かなりの時間を必要とするため、単純な一つの原則を教えるためには最良の方法ではない。

### その教授法は教えを受ける人々の必要を満たすものか

あなたが用いる教授法は、生徒が教えの原則を理解し、その原則に従って生活する意欲を増し加えるものでなければならない。生徒の背景、達成した事柄、目標などを知って、生徒にとって有益で、記憶に残り、靈感を与える教授法を選ぶ。生徒一人一人を理解していれば、生徒を傷つけたり、混乱させたりする教授法を避けることができる。

### 同じ教授法を頻繁に使いすぎではないか

説得力のある教授技術であっても頻繁に使いすぎると退屈なものになってしまう。様々な教授法を使うようにする。

### そのほかの参考資料

教授法の選択に関するそのほかの情報については、福音の教え方コース第8課と第9課(222-229ページ)を参照する。

## レッスンを始める



交響楽団の演奏会に行くと、出演者が演奏を始める前に様々な混乱した音を出しているのを耳にする。出演者全員が演奏に向けて、同時にそれぞれの楽器の音を調整し、練習している音である。けれども、指揮者がステージに向かって歩き、タクトを持ち上げた瞬間、全員が動きを止め、神経を集中させて、美しい音楽を演奏する準備を一斉に整える。

演奏を始める前に指揮者が出演者全員をまとめるのと同じように、あなたはレッスンを始めるときに家族や生徒を一つにまとめなければならない。あなたがレッスンを始める前に、ある人は読書し、ある人は静かに着席し、ある人はほかの人と話をしている。あなたの耳には幾つかの会話が同時に聞こえてくることだろう。開会の祈りが終わった後でも、一部の人にはレッスンに向かって完全に集中できていないこともある。タクトを持ち上げるほど簡単ではないが、全員の注意をレッスンに向けさせる方法が幾つかある。

### レッスンの開始に関する指針

レッスンの導入は単に生徒の注意を向けさせるだけのものではない。導入部分がレッスンと結びついたものでなければ、それは恐らく助けになるどころか妨げになるであろう。例えば、日曜学校のある教師はレッスンの最初に冗談を言う。生徒は関心を向けるが、それは、教えを受ける原則以外のことを生徒に考えさせることにもなりかねない。また、謝罪（「あまり準備してきませんでした」など）やレッスンに直接結びつかないような言葉を避けるべきである。

レッスンを毎週教えている教師は、毎回同じ方法で始めることのないように工夫する必要がある。変化は興味と驚きの種をまく。本書の159-183ページに記されている方法を使うとよい。適切で効果的な教授法を選ぶことに関する指針については、91-92ページを参照する。

### レッスンを効果的に始める方法

#### 実物を用いて行うレッスン

福音の原則を教えるために実物を用いることができる（「比較と実物を用いたレッスン」163-164ページ参照）。例えば、人にとって最も価値のあるものを選ぶことに関するレッスンを始めるに当たって、本物の紙幣とその横におもちゃの紙幣、あるいは紙幣と同じ大きさに切った白い紙を置く。そして、働いた報酬としてどれを受け取るかを生徒に尋ねる。これによって、真実の教えと偽りの教えに関する話し合いに入ることができる。

#### 黒板に質問を書き出す

レッスンが始まる前に質問を黒板に書き出しておくことによって、生徒にレッスンの始まる前からテーマについて考えさせることができる。例えば、キリストの名を受けることに関するレッスンであれば、以下の質問を黒板に書き出しておくことができる。

- キリストの御名を受けているからという理由で、あなたはどのようなことを行いますか。
- キリストの御名を受けているからという理由で、あなたはどのようなことを行いませんか。

#### 物語を話す

物語を話すことによって生徒の関心を呼び起こすことができる。一つの原則について教える前に、その原則を説明する物語を話すことによってレッスンの効果を高めることができる。これは生徒の日常的な経験の中で原則を理解させるのに役立つ。

## レッスンを締めくくる



「時間がなくなりましたが、レッスンが終わっていません。少し時間を下さい。急いで最後の部分を終わってしまいますから。」ほとんどの人がこのような言葉を教師から聞いたことがあるであろう。このような言葉は教師が教えるうえで大切な機会を逸してしまったことを意味している。それは、レッスンを効果的に締めくくる機会である。

### 効果的なまとめに必須の要素

効果的なまとめは偶然にできるものではない。レッスンの一部として準備しておかなければならないものである。まとめの段階に以下の要素を含めるようにすると、最大の効果をもたらすことができる。

- 短く、簡潔で、焦点が絞られている。一般的に、レッスンで教えた事柄以外の内容をまとめの部分に差し挟んではならない。
- 話し合ってきた原則を要約し、関連づける。
- レッスンに参加した人々が指摘した大切な事項を強調する。
- 生徒が福音の原則を生活で応用するための助けとなる。
- 意気を高め、動機づけ、積極的である。
- 証を述べる時間が含まれている。  
レッスンを締めくくる方法の具体例を以下に列挙する。
- レッスンの目的を再び述べる。今週どのようにしてそれらを自分たちの生活に応用するかを生徒に尋ねる。
- レッスンが始まる前に、一人か二人の生徒に、レッスンを注意深く聞いて、レッスンの要点を述べるか、レッスン全体を

要約してもらうよう依頼する。

- ワークシートを使って、生徒にレッスンのおもな概念を要約させる（「ワークシート」182-183ページ参照）。

### まとめるための時間を取る

まとめをうまく行うには、時間の使い方に注意し、臨機応変に対応する必要がある。よく準備したレッスンであっても、必ずしも計画どおりに進められるわけではない。生徒の必要に応じて、ある点については予想していた以上の時間を割くことがある。

このような場合に、気をつけなければならないのは時間である。時間がなくなってしまううちに話し合いを結論に導く。レッスンを手短かにまとめることを含めて、話し合っていたテーマから円滑に最終段階に移行させるためにできる限りのことを行う。それからレッスンを締めくくる。

### 準備してきたまとめを修正する

話し合いや意見に基づいて、あるいは御霊の促しによって、準備してきたまとめを変更しなければならない場合がある。以下の物語にはきわめてまれな機会を捕らえてレッスンを締めくくった教師が描かれている。

早朝セミナーのクラスを教えていた教師は終了時刻が近づいていたため、話し合いを終えたいと考えていた。戒めに従うことによってキリストのもとに近づくことがレッスンの主概念だった。クラスでは、10代の若者の一部が行っていることの中で、キリストのもとに近づき主の贖罪の祝福を受けるための妨げになっていることについて話し合っていた。

教師は黒板に書き出した一覧表を基にレッスンを締めくくろうと考えていた。けれども、彼は一人の生徒が学校に提出するために完成して持って来た1枚の絵に注意を引かれた。それはさくの間から見える子羊を描いたものだった。教師はクラスの生徒にその絵を見せる許可を求め、その絵に自分が見たものを説明し始めた。「今日話し合ったように、救い主は神の小羊です。救い主はわたしたちが皆、キリストのみもとへ行き、キリストによって永遠の命を得るよう御自分の命を差し出されました。この絵の中のさくはキリストとわたしたちを





隔てている障害にたとえることができます。」

教師は、生徒がキリストのもとに近づく妨げとなっている「さく」を取り除くように願っていると述べた。そして教師は、救い主が「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」(マタイ11:28)と言ってわたしたちを招いておられることについて証した。こうしてクラスの時間が終わり、教師は絵を返した。生徒たちは心に御霊の力がとどまるのを感じながら、建物を後にした。

## 必要なものをすべて準備する

---

主の業のために献身的に働きたいと思うなら、  
わたしたちには準備という名の厳しい作業にかかわる必要がある。  
御霊によって教えなさいという主の指示があるからといって、それはいかなる意味でも、  
わたしたちの側で個人的な準備をする必要がなくなるということではない。  
わたしたちには聖文を研究する必要がある。  
生ける預言者の言葉を研究する必要がある。  
うまく説明し、よく理解してもらえるよう可能なかぎり学ぶ必要もある。  
準備は、御霊によって教えるために必要な前段階なのである。

ダリン・H・オークス長老

## 準備する時間を取る

復活された主はニーファイ人に教えを授けるために1日を過ごされてから、翌日の教えを聞くために準備する時間を取るよう彼らに命じられた。主はこのように言われた。「自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい。そして、理解できるように、また明日のために心が備えられるように、わたしの名によって父に願いなさい。」(3ニーファイ17:3) あなたは教師として準備する際にこの原則を当てはめることができる。時間を取って深く考え、祈りをもって準備するならば、大いなる理解という祝福を受けるであろう。そして、御霊の導きを受けやすくなることであろう。

### レッスンの準備を早くから始める

教える責任を直前に受けて、それから準備しなければならぬことが時にはあるかもしれない。しかし通常は、十分な時間的余裕をもって準備を始めることができる。準備は教えることの一要素であり、きわめて重要である。次回のレッスンのために早くから祈り、考え、準備をすればするほど、御霊の導きを受け、例や比較、その他のアイデアを探す時間もそれだけ多くなる（「御霊の力を受け、御霊の導きにより教える」47-48ページ、「あらゆる場所で教えるヒントを見つける」22-23ページ、「比較と実物を用いたレッスン」163-164ページ参照）。音楽の発表など特別な割り当てを生徒に与えて、準備してもらう時間的な余裕もできる（172-174ページ参照）。また、集会所付属図書館で利用できる資料を探して、準備する時間も持つことができる（「福音を教えるために教会が準備している資料」105ページ参照）。

前回のレッスンを終えたら直ちに次回のレッスンのことを考え始めるとよい。レッスンを通して生徒とともに過ごす時間を持った直後のあなたは、彼らの状態、必要、興味に気づいていることであろう。あなたの教えに対する反応にも気づいているであろう。記憶が新しい間に自分の対応方法、教授法を評価する。

### 準備に喜びを見いだす

準備する時間を取ることによって見いだした喜びを一人

の教師はこのように説明している。

「福音を教えることに喜びを見いだす人は多いですが、もう一つ、特別な楽しみがあります。準備の喜びです。多くの人はレッスンの準備を退屈な仕事と考えて、ぎりぎりまで引き延ばしています。それはまるで急いでお祈りをするようなもので、ぎりぎりになってから準備を始めるために、レッスンはしばしば、深みのないあまり効果的でないものになってしまいます。

わたし自身もそのような準備をした経験があります。気持ちが晴れず、自信もわいてきません。レッスンの準備をしていて、大きな喜びを感じたこともあります。それは、意義深い祈りをささげ、深く考えるひとときとなりました。それが、神を礼拝し、思いを巡らせ、理解を深め、靈感を授かる楽しい時間であることに気づきました……。

……わたしは準備の喜びを味わったときに、知恵と理解の高価な真珠を発見しました。これまでに教えてきたどのような経験よりも、準備を通してはるかに多くのことを学んだことに気づきました。……

真理を教えるときには、それにふさわしい準備が必要で。十分な準備をする方法を見いだしている人々は、その先に喜びにあふれる経験が待ち受けていることを知っています。」（“Random Sampler: Planning to Teach,” *Ensign*, 1995年10月号, 73）

### 個人の準備の時間を取る

イエス・キリストの福音を教えるために、単にレッスンを準備するだけでは不十分であることを忘れてはならない。自分自身をも準備する必要がある。福音を教えるあなた自身を霊的に備えるためにどのようなことができるかについて本書に述べられている勧告を研究しなさい（11-20ページ参照）。また、教師改善集会に出席しなさい。この集会であなたやほかの教師、指導者は一堂に会して、福音を教える技術を高め、自信を深める方法を学ぶのである。



## 31

## レッスンの準備



あなたが家庭や教会でレッスンを教える時間は短いひとときであっても、教えを受ける人々に永遠の効果を与え得るものである。個々のレッスンが彼らに御霊の影響を感じさせ、天父とイエス・キリストへの愛を深めさせ、福音に従って生活する気持ちを強めさせるものだからである。このことを心に留めてレッスンを準備しなさい。あなたが主を代表し、御霊によって教えられるかどうかはレッスンの準備にどれほどの関心を払うかにかかっている。

## レッスンの準備を早くから始める

レッスンを計画するには時間と細心の注意が要求される。一つのレッスンを終えたら、すぐに次のレッスンの準備を始めなさい。生徒の状態と彼らの必要、関心をいちばんよく知っているのは、生徒とともに過ごす時間を持った直後のあなたである。あなたはまた、教えに対する生徒の反応にも気づいているであろう。

## レッスンの準備の方向性を決める3つの質問

レッスンの準備を始めるに当たり、生徒の必要と関心を考えながらレッスンの資料を注意深く検討する。次いで、以下の3つの質問について考える。これらの質問はレッスンの準備をする間、あなたの指針となるものである。

1. このレッスンを受けた結果、生徒の生活にどのような変化が起きるべきか。
2. 特にどの原則を教えるべきか。
3. これらの原則をどのように教えるべきか。

これらの質問に従ってレッスンの準備に取りかかる具体的な方法を以下に列挙する。このような方法でレッスンを検討している間に、心に浮かんだアイデアを書き留

める。それらを骨子として、さらに祈りの気持ちでレッスンの方法を考える。

1. このレッスンを受けた結果、生徒の生活にどのような変化が起きるべきだろうか。

レッスンの資料と参照聖句を研究し、深く考える。レッスンの結果、生徒が何を理解し、感じ、望み、行うべきかを考える。例えば、祈りに関するレッスンを準備するに当たって、あなたは生徒が祈りの大切さを理解し、毎朝毎晩祈る決意をすべきであると考えられるかもしれない。家族の責任に関するレッスンを準備するならば、レッスンの結果、家族は家庭における義務を喜んで果たすはずであると考えられるかもしれない。聖文の研究に関するレッスンを準備するのであれば、レッスンによって生徒が毎日聖文を研究する決意をするはずだと考えるかもしれない。

教会が発行している多くの教師用手引きにはレッスンの目的を説明する項が含まれている。目的に関するこれらの説明文を基にして、各レッスンを通して生徒にどのような影響を及ぼさなければならぬかを決めることができる。

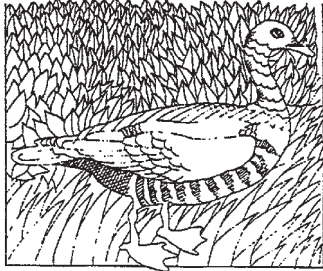
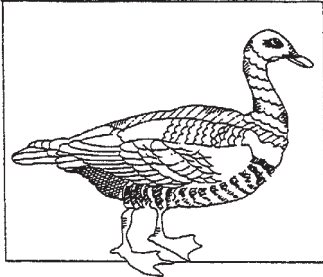
2. 特にどの原則を教えるべきか。

生徒の必要と背景を常に心に留めておく。「レッスンのどの原則が生徒の直面しているチャレンジを克服する助けになるだろうか」と自問する。

決められた時間内に教えられる以上の内容が一つの課に盛り込まれている場合がしばしばある。そのような場合、あなたは生徒にとって最も役立つ資料を選択すべきである。

あなたがどれほど多くのことを教えるかということよりも、生徒の生活にどれほどの影響を及ぼすかということの方が大切である。一時にあまりに多くの概念を提示すると生徒を混乱させたり、飽きさせたりするので、通常は一つか二つの大切な原則に焦点を絞る。その後、補足となる概念を手引きから選ぶ。

一つの主題についてあらゆることを語ろうとするのを避ける。生徒は主題についてすでにある程度の理解をしているものである。あなたのレッスンは生徒がすでに知っている事柄を補足し、明確にし、確認するものでなければならない。生徒がその主題



二つの絵をよく見なさい。どちらの絵がアヒルをよく表しているだろうか。第1の絵はアヒルの細部にわたって詳しく描かれており、アヒルから注意をそらす要素についてはまったく触れていない。レッスンで一つか二つの原則に焦点を絞る場合、それらの原則から注意をそらす概念を差し挟まないようにすることが大切である。第1の絵のように簡潔、明瞭で、焦点を絞ったレッスンを準備する。

について学ぶのは、あなたのレッスンからだけというわけでないことを忘れてはならない。

### 3. これらの原則をどのように教えるべきか。

生徒が原則を理解し、応用するのを助ける教授法を選ぶ（適切で効果的な教授法を選ぶことに関する情報については、91-92ページを参照する）。

教授法を選ぶに当たって、レッスンの手引きで提案されている話し合いのための質問、物語、その他の学習活動を最初に検討すべきである。それらの方法が生徒の必要を満たすうえで役立つと感じたら、それらの内容を十分に把握する。ほかの方法を用いるべきだと感じたら、原則を教える方法を早めに決めておく。レッスンのおもな原則を教えるうえで役立つ例、説明、比較、個人的な経験を活用することを考える。

あなたが採用する教授法では、絵や実物、賛美歌集、ビデオカセットなどを集会所付属図書館から入手する必要があるかもしれない。

### あなたのアイデアを育てる

レッスンの教え方について基本的なアイデアを決めたら、次にそれらを発展させ、磨きをかける。早くから準備を始めていれば、生徒の理解を助ける経験や物語、聖文をより多く見つけられるであろう。教える原則や生徒の必要について考えていれば様々な考えが浮かんでくるものである。これが、あなたの準備を御霊の導きによって進める一つの方法である。アイデアが浮かんだら書き留めておくためにノートを常に

携帯するとよい。

準備のこの時点で、レッスンで使う参照聖句をもう一度研究するとよい。聖文をよく理解し、それらを生徒に関連づけるうえで助けとなる。

### 必要に応じて調整と修正を加える

レッスンを実施する日が近づいたら、最終的な調整を行う必要があるかもしれない。これは庭師が樹木を正しい形に整えるために行う剪定作業せんていのようなものである。この段階であなたは以下を行う。

- このレッスンの結果、生徒の生活にどのような変化が起きるべきかはっきりとした考えを心に抱く。このように自問する。「このレッスンはそのような結果をもたらさだろうか。」
- おもな原則や補助概念など手引きに基づいて教えるポイントを検討する。明確な概要を作る。明確な導入と、説得力のある焦点を絞った結論が計画されていることを確認する（「レッスンを始める」93ページ、「レッスンを締めくくる」94-95ページ参照）。
- 採用する教授法を最終的に決める。それらの教授法が、原則を応用するに当たって生徒に役立つものであるようにする。
- レッソンの構成を最終的に決める。実施する直前まで、御霊の導きによって変更を加える可能性がある。教えている最中にも変更するよう促されるかもしれない。それらすべての促しを受け入れる。あなたが綿密な準備を行っているからこそ御霊の導きを受けるのであるということを理解する。

## 大会説教やその他の資料から レッスンを構築する



教会において行われるあらゆるレッスンのために、レッスン手引きが発行されているわけではない。場合によっては教会機関誌の記事や総大会の説教を使って教えることがある。研究のための質問は列挙されているが、レッスンの進め方が記されていない書籍を基に教える場合もある。

これらの資料を基にレッスンを準備する場合は、「レッスンの準備」(98-99ページ)に記されている提案に従う。これによってあなたは、何をどのように教えるかについて御霊の導きを受けながら決めることができる。

### 総大会の説教からレッスンを計画する方法の例

総大会におけるジョセフ・B・ワースリン長老の説教の一部を検討してみる。

「信仰箇条第13節の最後に『どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである』とあります。

この中の『尋ね求める』(Seek)という英語の言葉には、捜しに行く、見つけよう手に入れようと努める、という意味があります。これには人生に対する積極的で主体的な姿勢が必要となります。例えば、アブラハムは『先祖の祝福……を得ようと努めた。……義に従うさらに大いなる者となることを望』んだ(アブラハム1:2)とあります。努力もせずに漫然と何か良いことが起こるのを待つとは、対照的な姿勢です。

わたしたちは人生を善で満たし、悪の入り込む余地をなくしてしまふことができます。わたしたちの周囲は善にあふれていますから、悪を選ぶ必要はまったくありません。」(「善を求める」『聖徒の道』1992年7

月号、92)

この説教を基にしたレッスンを準備する方法を以下に示す。

#### 1. ワースリン長老の説教を読む。

この説教をどのように生徒に応用できるかを考えながら、祈りの気持ちで生徒について考える。

#### 2. レッソンの結果生徒の生活にどのような変化が起こるべきかを判断する。

例えば、あなたが若人を教えているとすれば、善を尋ね求めさせることを目標として設定したいと考えることであろう。これには聖文を研究すること、健全なレクリエーション、あるいは霊と精神を高める活動を友人と行うことなどに関する目標も含めることができる。

#### 3. 教えるおもな原則と補助概念を決める。

何を強調するかは、生徒の必要に基づいて決めなければならない。熱心にまた祈りの気持ちでこれらについて考えるならば、御霊の導きによって決めることができる。

例えば、善を尋ね求めることの大切さを若人に教えるには、「わたしたちの周囲は善にあふれていますから、悪を選ぶ必要はまったくありません」と語ったワースリン長老の言葉に焦点を絞る。補助概念として、積極的に善を尋ね求めること、そうするときに主の助けを求められることなどが含まれる。

これらの原則を教えるための準備として、以下の聖句を開いてみると良い。教義と聖約6:7「富を求めずに、知恵を求めなさい」、教義と聖約46:8「熱心に最善の賜物を求め」なさい。このような聖句を調べている間に、レッスンで原則を教えるために最も有効な聖句を見つけることができるであろう。

#### 4. 選んだ主概念と補助概念をどのように教えたいのかを考える。

159-183ページに記されている教授法を検討する。どのように教えるかを考えているうちにアイデアが浮かぶであろう。

例えば、黒板を使う活動を採用して、時間の過ごし方について様々な方法を生徒から挙げてもらうことにする。そして、生徒が「人生を善で満たし、悪の入り込む余地





をなくしてしまう」ようにと語ったワースリン長老の勧告に従っているかどうかについて話し合うことができる。

話し合いを展開する方法を考える場合に、どのような質問をするかをまず考えるようにする（「質問を交えた教え方」68-70ページ参照）。例えば、ワースリン長老の勧告に従って生活することの大切さについて話し合うのであれば、このように質問する。「人生を善で満たすために、わたしたちはどのようなことを変えられるでしょうか。」

生徒の必要を考え、本書に記されている教授法について

研究すればするほど、教え方についてのアイデアの開発に自信をもって臨むことができ、また独創的な方法を考えつくことであろう。

総大会の説教やその他の資料からレッスンを準備するには創造力が要求される。熱心に準備し、御霊を求めるならば、レッスンの準備をしているときに靈感を受けるであろう。そのような準備は、あなた自身と生徒たちに祝福をもたらすのである。

## レッスンを 生徒の状況に合わせる



教会が制作したレッスン手引きでは教会の教義が純粹に保たれるようにするために細心の注意が払われている。レッスン手引きは、教会の集会などで教えるための指針を定め、また、福音のテーマと原則に関して一貫した見解を示している。あなたは手引きの教えと指針に忠実でなければならない。しかしながら、手引きに書かれているそのままにレッスンを実施する必要はない。生徒の必要と状況に合わせてレッスンを変えることができる。

レッスンを変更する場合に覚えておかなければならないのは、その変更が生徒にとって福音の原則を理解し、福音の原則に従って生活する助けになるものでなければならない、ということである。したがって、変更はレッスン資料を祈りの気持ちで研究し、生徒一人一人についてよく考えた後のことでなければならない。レッスンを変更するときに、(1) レッスンの手引き、(2) 本書の98-99ページで検討した3つの大切な質問、(3) 生徒を愛する、御霊によって教える、教義を教えるなど本書に概要が示されている教えの基準、に準拠すべきである。

### レッスンの変更の例

レッスンを生徒の状況に合わせて以下に示す。

#### 最近の教会機関誌からの資料を使う

手引きに記されている奉仕に関する物語

を読んでいたあなたは同じような物語が最近の教会機関誌に載っているのを思い出した。クラスの若い女性は機関誌の物語の方になじみがあると考えた。そこであなたは手引きの物語でなく、機関誌から物語を引用することにした。

#### あなた自身の学習活動を開発する

初等協会の子供たちのレッスンを準備しているあなたは、レッスンの初めに行う導入の活動に目を通していたが、クラスの子供たちにこの活動は適さないと感じた。そこであなたは子供たちの必要をよく考えて、あなたが教えようとしている原則に焦点を絞った活動を開発した。

#### 提案されているレッスンの展開から離れる

あなたはワードで執事のクラスを教えるために準備をしている。アロン神権のレッスン手引きでは、執事に福音の原則を応用させるためにロールプレーを使うよう提案されている。若い男性について考えていたあなたは最近彼らが経験したことを思い出した。ロールプレーよりもその経験について話し合う方が効果的であるとあなたは感じている。

#### 様々な年齢層に合わせてレッスンを変更する

様々な年齢層に合わせてレッスンを変更する方法に関しては本書の「様々な年齢層を教える」(107-124ページ)を参照する。

## レッスンの提示方法を 評価する



レッスンを終えたある福音の教義クラスの教師は、自分の教え方について悩んでいた。レッスンのある部分についてはうまくいったのだが、ほかの部分ではうまく教えられなかった。「ある部分はうまくいくのに、ほかの部分ではなぜうまくいかないのだろうか」と彼は自分に問いかけた。「もう一度このレッスンをするとしたら、どのようにするだろうか。どこを変えるだろうか。」生徒が福音を学ぶためにどのような助けができるかを考えながら、彼はこの質問を繰り返していた。この教師が自問した質問はほとんど全員の教師が考えることである。

わたしたちが教える人々の学習を評価することに加えて（「学んでいることを確認する方法」73ページ参照）、レッスンを提示するわたしたち自身の成功度を評価することも重要である。スペンサー・W・キンボール大管長は自身を評価し、改善に向かって努力することの大切さを次のように教えている。「わたしたちは業績を評価するためにふさわしい標準を確立し、……その標準に照らして自分の働きを測定する必要がある。わたしたちは他人の進歩をあれこれ言うよりも、自分の過去の経験を評価することに関心を持つべきである。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編 [1982年], 488）

毎回レッスンを終えたら、キンボール大管長の勧告に従って、「自分の働きを測定する」べきである。これは次回のレッスンの準備となるだけでなく、教師として改善を続けるためにも助けとなる。

何かを変更すべきだと感じたら、評価は自分を落胆させるものではなく、向上させるためのものであるということを思い起こす。教え方を改善する方法を見つける度に、あなたは人々が福音を学び、その原則に従

って生活するのに助けるための新しい方法を見いだしているのである。

### レッスンの提示方法を評価するための質問

レッスンの成否は教えを受ける人々に与えた影響によって測られる。あなたが教える毎回のレッスンを評価する際に、レッスンの要所要所で生徒がどのような反応を示したかを思い出すようにする。レッスンを提示した際に使った概要を吟味してみると、生徒の示した反応をはっきりと思い出することができる。

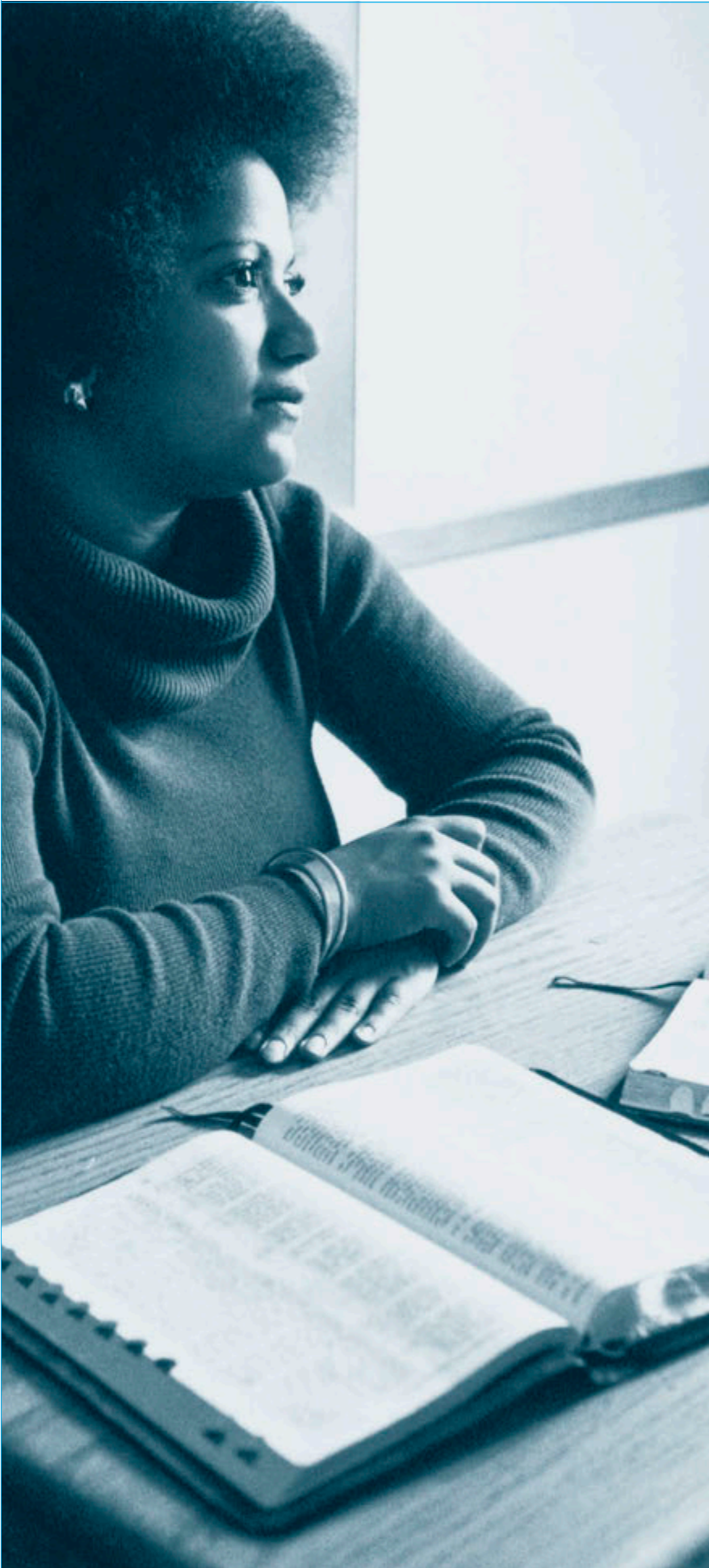
以下の質問はレッスンを評価するためのものである。各項の最初の質問はあなたが納得のいく成果を上げられた事柄について尋ねるものである。落胆したことではなく、成功したことにまず目を向ける方が、どのように改善すべきかについて多くを知ることができる。謙遜に自分の長所を認めるならば、それらの長所をさらに伸ばし、それを利用して教え方全体を改善することができる。成功した事柄について考えたら、次にどのような点について改善の余地があるかを考える。

- 生徒はレッスンのどの時点で熱心に参加しようとしたか。いつ参加する意欲を失ったか。
- 生徒はレッスンのどの時点で御霊の影響を最も強く感じただろうか。どの時点から御霊の影響をあまり感じなくなっただろうか。
- 生徒はレッスンのどの時点で熱心に考えていただろうか。どの時点から深く考えるのをやめてしまっただろうか。
- 生徒はレッスンのどの時点で自分の生活に応用しようとしただろうか。どの時点から自分の生活にレッスンを応用しようとする気持ちを失っただろうか。

上記の質問一つ一つについて深く考えるときに、以下のフォローアップの質問について考える。

- レッソンのどの部分がこれらの反応をもたらしたのだろうか。
- これは生徒についてわたしに何を告げているのだろうか。
- 次回のレッスンを準備するときこの理解をどのように役立てることができるか。





ろうか。

これらの質問に答える際に、あなたが理解した事柄と御霊によって受けた促しを忘れないために答えを紙に書いておくといよい。あなたは自分がどれほど多くのことを学んでいるかに気づいて驚くことであろう。

生徒に手を差し伸べるための方法を祈りの気持ちで考えるならば、御霊は改善できる分野に気づけるようにあなたを助けてくださる。本書の該当する箇所を研究するとよい。例えば、話し合いを発展させるための質問の仕方に関する情報を検討するとよい（「話し合いを展開する」63-65ページ、「質問を交えた教え方」68-70ページ参照）。あるいは、生徒の関心を集めるような方法でレッスンを始めること（「レッスンを始める」93ページ参照）や、レッスンを力強く締めくくることが大切であると考えられるかもしれない。

改善計画を立てることに関する提案については、「教授法改善の計画を立てる」（24-27ページ）を参照する。

## 福音を教えるために 教会が準備している資料



教会は福音を教える両親、教師、指導者を支援するために多くの資料を準備している。教会の教科課程は聖典であり、聖典はこれらの資料の中で最も大切なものである。そのほかに以下の資料がある。

- 『教師、その大いなる召し』
- 『教師ガイド』
- 『教会指導手引き』の「福音の教授と指導」の章
- 『家庭の夕べアイデア集』
- 『福音の原則』
- 『聖典からの物語』
- レッスン手引き
- 教会機関誌（物語やその他のアイデアを入手するために定期的に目を通す）
- 『福音の視覚資料セット』（聖典中の物語や出来事の描写、歴代大管長、福音の原則の実践を含む写真絵画集）
- その他の絵とポスター

- 教会の賛美歌集
- 『子供の歌集』
- 教会が制作したビデオカセット、オーディオカセット

### 集会所付属図書館

集会所に図書館が付設されているならば、以上の資料のすべてまたはほとんどが所蔵されているであろう。集会所付属図書館で入手できる資料について知るには、図書主任に問い合わせる。

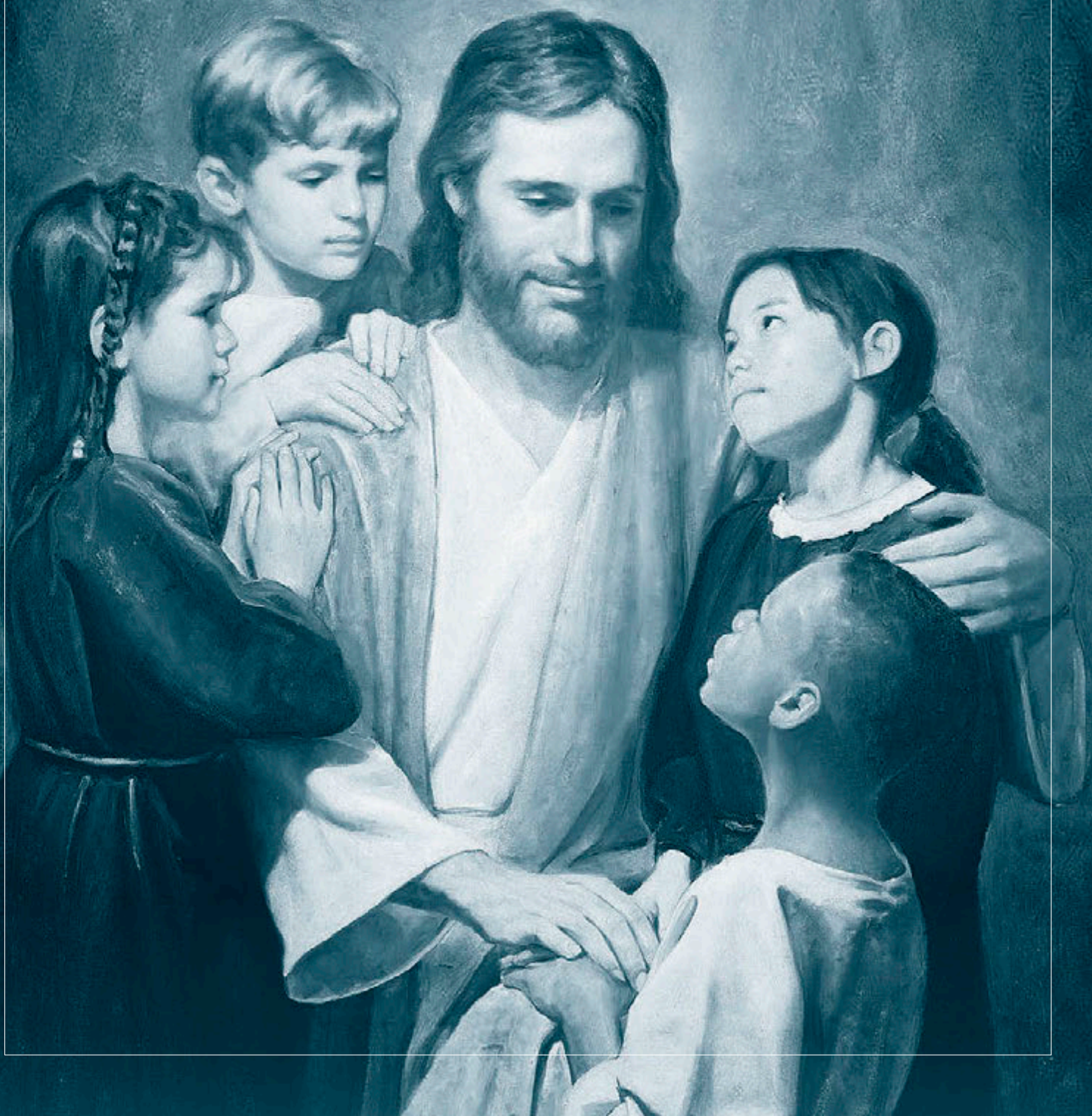
図書主任またはワード書記は『教会書籍・教材総合カタログ』を持っているので、参照する。毎年発行されるこのカタログには、教会配送センターから入手できる資料が掲載されている。カタログには上記の資料に加えて教会員を支援するための資料も掲載されている。





C

様々な年齢層を教える





1

# 子供を教える



復活された救い主はニーファイ人を教え導かれた。救い主はそこで、幼い子供たちに偉大な愛を示された。

「イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。

また、イエスは群衆に語って、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。

そこで彼らは、見ようとして天に目を向けたとき、天が開くのを見た。そして、天使がまるで火の中にいるかのような有様で天から降って来るのを見た。天使は降って来ると、幼い子供たちを取り囲み、幼い子供たちも火に包まれた。そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。」(3ニーファイ17：21, 23-24)

この出来事についてM・ラッセル・バラード長老はこのように述べている「貴い子供を託されている我々に神聖で高貴な管理の職を授けられていることは明らかです。なぜなら我々は、今の時代の子供たちを、愛と信仰の炎と彼らの本質への理解をもって包み込むよう、神より任じられているからです。」(「汝らの子供たちを見よ」『聖徒の道』1994年10月号, 40) 救い主はわたしたちが子供を教え、世話をし、影響を及ぼす際の手本をお示しになった。

子供たちにイエス・キリストの福音を教え、福音に従って生活するよう助けることは神聖な責任である。預言者ニーファイが述べたように、あなたは子供たちに真の教義を教えなければならない。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーファイ25：26)

子供に教えるとき、あなたは特別な祝福を受けていることに気づくであろう。子供たちはあなたに喜びをもたらし、良い模範を示すようにと促す。子供たちが持っている忠実さ、愛、信頼、希望に気づくときに、あなたは主に近づき、「幼な子のように」なる(マタイ18：3)よう命じられたことをよく理解することができる。あなたは御霊の導きによって、キリストのように子供たちを愛し、教えることができる。あなたは子供たち一人一人が救い主に従う人々に約束されている平安を見いだせるように助けることができる。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。」(3ニーファイ22：13)

## 子供を理解し、教えるための指針

あなたが教えている子供たちの特徴を理解するうえで役立つ情報を以下に列挙する(「子供の年齢別特徴」110-116ページも参照；初等協会で教えている場合は初等協会レッスン手引きの「教師への提案」を参照)。

子供は容易に信じる。子供たちはあなたの言うことを信じる。真理を素直に受け入れるのである。あなたには正しい教義を簡潔明瞭に、子供が理解できる言葉と模範によって教える義務がある。

子供は御霊の影響力を認識することができる。子供がイエス・キリストとイエス・キリストの福音について話したり、歌ったりするときを感じる平安、愛、心のぬくもりは聖霊から与えられるものであることを教える。これらの感覚は証の一部であることを理解させる。

子供は物事を言葉どおりに受け取る。子供にとってはあらゆるものが真実である。神聖な福音の原則を教えるために複雑な隠喩を使ったりすれば、彼らは混乱することであろう。子供にとって身近な出来事や活動、すなわち家庭、家族、彼らを取り巻く世界について話し合うことによって福音を理解させる。あなたが教えることを、彼らが誤解していないことを確認する。

子供は好奇心が強く、意欲的に学ぶ。子供は変化に富んだ新しい経験を通して学ぶことを喜び。子供は動き回り、五感のすべてを使い、探検し、新しいことを試そうとする。年長の子供は質問に答えたり、問題を解いたりするチャレンジを好む。福音の原則を教えるために変化に富んだ教授法や



活動を取り入れるならば、クラスの子供たちは学習にいつその関心を寄せ、感動を覚えることであろう（「変化を持たせて教える」89-90ページ参照）。

子供は素直に人々を愛する。そして、自分が愛され、受け入れられることを求める。子供に生来備わっている親切で愛にあふれる行動をいつそう強めるための機会を探し求める。子供はあなたを喜ばせることを望み、喜んでほかの人を助けたいと考えているので、彼らに奉仕する機会を与える。あなたの本を運んだり、絵を持ってもらったり、質問に答えたりすることを頼むとよい。互いに助け合うよう奨励する。子供たちを愛していることを表現しなさい。子供たちの努力に対していつでも感謝を表すことにより、信頼を得なさい。彼らが話すときに熱心に耳を傾けなさい。

子供は将来のための準備を始めている。子供が成人するまでにはまだ相当の時間があるように思われるが、子供は今、家族や教会、職場で将来果たす責任のために準備している。子供たちの現在の経験がどのように自分を備えているかに気づかせるとよい。例えば、このように言うことができる。「めぐみさん、けんいちくんが聖典を開けるように手伝ってあげたわね。あなたはよく忍耐しました。そして親切でした。いつかあなたがお母さんになったら、きっと子供たちにたくさんすばらしいことを教えられると思います。」あるいはこのように言うこともできる。「まことくん、目標を決めて、それを成し遂げることを学びましたね。あなたはいつかきっとすばらしい宣教師になると思います。あなたは先生の誇りです。」

子供はあなたの模範に従う。あなたは常に教えている。たとえ、それと気づいていないときでも教えているのである。言葉よりも態度や模範を通して教えていることが多い。例えば、子供たちはあなたが聖典を丁寧に扱っているかどうか気づいている。あなたが天父とイエス・キリストについてどのように話しているかを観察している。あなたがどのようにあなた自身が教えている原則に従って生活しているかを見て

いることであろう。あなたの義にかなう模範は、天父と御子を愛し、尊敬しようとする子供たちの心をはぐくむ助けとなるのである。

幼い子供は関心を維持できる時間が短く、長い間じっと座っていることができない。子供たちに過剰な期待を寄せてはならない。注意力の散漫な行動は、子供たちが疲れているか、空腹か、あなたが言ったことを理解していないか、体を動かす必要があるか、退屈しているかを意味していることがある。子供たちの関心を維持し、学ばせる最良の方法は、レッスンに参加させることである。子供は有り余るほどのエネルギーを持っているので、毎週のレッスンで動く、見る、聞く、においをかぐ、あるいは触れる行動を子供に経験させる方法を計画するとよい。子供は反復や簡単な物語、歌、活動を通して学ぶことを喜ぶ。

### 家族を強める

あなたが教師または指導者であれば、子供たちに福音を教えようとする両親を支援することができる。クラスで教えていることを両親に知らせなさい。そうすれば両親は家庭でそれらの福音の原則を復習することができる（「家庭で定期的に教える機会」137-139ページ参照）。子供たちに、教会で学んでいることを家族と分かち合うように勧める。子供たちは初等協会のクラスや活動で学んだ歌や聖文、ゲーム、原則を家庭の夕べで分かち合うことができる。子供が参加したレッスンや活動について記した報告書を時々子供に持たせて、復習のために家族に役立ててもらおうとよい。また、子供が特に貢献したとき、祈りや話の割り当てを受けているときは親にそれを知らせるとよい。レッスンに両親を招いて彼らの経験や証を分かち合ってもらおうこともできる。

子供が証を得て、福音に従って生活するとき、子供の家族に対して良い影響を与えることを忘れてはならない。あなたが子供たちに福音を教え、福音に従って生活するよう助けるとき、それは子供たちの家族をも強めることになるのである。



## 2

## 子供の年齢別特徴

子供は身体的、精神的、社会的、情緒的、霊的に絶えず変化を遂げている。彼らは一般的なパターンに従って成長し、発育する。子供の年齢層に共通する特徴を理解している両親と教師は、子供の行動に適切に対応し、効果的に教えることができる。

同年代の子供よりも発育が早い子供もいれば遅い子供もいる。例えば、6歳児であっても、5歳児の年齢別特徴に近い子供もいれば、7歳児の年齢別特徴に近い子供もいる。情緒的なストレスや緊張を感じているときの行動は一時的に実際の年齢よりも幼い行動を示す場合があることを忘れてはならない。

教会のレッスン手引きは子供の成長とともに変わっていく特徴を考慮して作成されている。レッスンを研究し、準備する際、レッスンの各部分を子供の必要を満たすためにどのように役立てることができるかに注意を払う必要がある。

教える年齢層に関係なく、あなたは一人一人の子供に対して忍耐強く、敬意を表し、愛を示し、また注意深くあるべきである。能力以上の期待を子供に寄せてはならない。

以下の説明と提案はあなたが教える子供たちをよりの確に理解するために役立てることができる。

### 1歳半児

#### 子供の特徴

- 歩く、よじ登る、這う、走る。物を押ししたり、引っ張ったりすることをおもしろがる。物を組み合わせるよりも、ばらばらにすることの方が簡単にできる。動きがぎこちない。疲れやすい。排せつのしつけは通常まだできていない。
- 意味のない音をたくさん出す。言葉を覚え始める時期である。この時期の子供はよく「わたしの」「いや」というような一語による表現を使って話す。視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚を通して知識を集める。表現能力以上に理解能力がある。

- ほかに子供と並んで遊ぶのを好むが、ほとんど彼らに関心を示さない。分かち合うことは難しい。
- すぐに泣きだすが、気の変わるのも早い。

#### 両親と教師への提案

- 子供の興味を失わないように活動に変化を持たせる。歩く、押す、引っ張るといった動作を含む活動を取り入れる。指先を使った遊びや音楽活動を取り入れる。
- 話したり、参加したりする機会を多く設ける。祈りの間、敬虔さを示す方法を教える。物語を話す際に視覚資料を使う。動かしたり、あれこれ試したりできるおもちゃを用意する。例えば、積み木、ボール、簡単なパズル、人形、人や動物の張り絵など。
- 子供が一人で遊べるおもちゃや活動を用意する。ほかの子供と分かち合い、仲良く遊ぶことを学べるように助ける。
- 子供が怒ったり、不安を感じたりしているようなときは抱き締めてやる。

### 2歳児

#### 子供の特徴

- 非常に活動的で、跳んだりはねたり、歩いたり、走ったりする。両手をたたいたり、ボールをけったりすることができる。小さいものを扱えるが、服のボタンかけやファスナーの開け閉め、自分の身の回りのことはまだできない。疲れると怒りっぽくなり、落ち着きがなくなる。
- 2、3語をつなげて一つの文を作れる。わけもなく、よく「いや」と言う。考え方は単純で、直接的である。道理をわかまえることはできない。簡単なことであれば自分で選べる。同じことを何度もしたが。注意力の持続時間は短い(2、3分)。好奇心が旺盛である。次から次に手を出して、じっとしていない。単純なおもちゃ、工作材料、絵本、短い物語、音楽活動を喜ぶ。
- 一人で遊ぶことを好む。ほかの子供と遊ぶことに関心を

持ち始めているが、一緒に遊ぶよりも、並んで遊ぶことへの関心の方が強い。おもちゃのことで争うことがしばしばある。分かち合ったり、協力したりすることは難しい。ほかの子供が持っているものが欲しくなると、大人にねだる。

- 愛情が豊かである。ひざに乗ったり、手をつないだりすることを喜ぶ。母親のそばを離れたがらない。気持ちを表したり、欲しいものを手に入れたり、怒りや不満を表すために、かんしゃくを起こす。感情の起伏が激しい。他人に頼りたがらない。
- 祈ることが好きである。天父とイエスがわたしたちを愛しておられることを理解するが、ほとんどの霊的な教えは理解するのが難しい。

#### 両親と教師への提案

- 指先を使う遊びや音楽の活動のような休憩の活動を取り入れる。お手玉投げ、行進、跳びはねる活動を取り入れる。物を切ったり、貼ったりするような技術や調和を要する活動は避ける。
- 話し合いは簡単なものにする。子供たちが参加するように助ける。繰り返し行うことを多用する。子供を一人にしない。この年齢の子供は危険な状況に発展する行動を簡単にとることがある。自分で選ぶ機会を与える。
- ほかの子供たちと交わる機会を与える。けれども、無理にさせてはならない。活動に参加することを自分で選ばせる。愛を込めて指示を与える。正しくない行動はやめるように注意する。
- 愛情を示す。好ましくない振る舞いをやめさせるために、注意をほかのことに向けさせる。自分のことは自分でするように仕向けるが、必要なときには助ける。子供に自分で選択する練習をさせる。
- 祈る機会を与える。霊的な教えは、家族や、天父とイエスの愛を中心にしたものにする。

### 3歳児

#### 子供の特徴

- 歩いたり、走ったりすることはできるが、まだ体の動きは調和していない。自分の手を使ってすることを好むが、恐る恐る行う。
- 言葉の発達が著しい。いろいろ話したが、新しい言葉を覚えようとする。注意力の持続時間は短い。好奇心が強く、何でも知りたがる。しばしば話を取り違えて、テーマから外れているような意見を述べる。まねをしたがる。指先を使った遊びや、物語、音楽活動を好む。現実と空想の区別がつけられない。
- 一人で取り組むことを喜ぶ。ほかの子供と協力して遊ぶことはしないが、友達に囲まれていることを好む。自己

中心であり、分かち合うことが難しい。安心感があるため、大人、特に家族のそばにいたがる。

- 大人を喜ばせたがる。大人から認められ、愛され、褒められることを必要としている。恐れや心配事があると感情をむき出しにする。すぐに泣く。ほかの人の気持ちを気にする。独立心が高められていく。感情をむき出しにするが、すぐに気が変わる。
- 祈りや従順といった単純な福音の原則に興味を持つ。天父とイエス・キリストを深く意識するようになる。天父とキリストに対して単純な信仰を抱く。

#### 両親と教師への提案

- 跳びはねる、スキップする、歩く、体をかがめるなどの活動を取り入れる。張り絵、粘土遊び、塗り絵のような単純な工作活動を実施する。結び合わせたり、物を切ったりするような精巧な技術や調和を要する活動は避ける。散らかしたものを片付ける心積もりをしておく。
- 概念は簡単明瞭に教える。概念を強調するために、視覚資料を利用し、まとめを行う。レッスンに関して質問させたり、答えさせたりする。しかし、順番に機会を与えるようにする。物語、歌、話し合い、劇化、指先を使った遊び、簡単なゲームなどの教授法を使う。静かにする時間と活動の時間を交互に取り入れる。
- ほかの子供たちと遊ぶ機会を与える。分かち合う、順番に行う、協力することを奨励する活動を取り入れる。子供たちとの間に親しい関係を築く。自分の家族について話す機会を子供たちにしばしば与える。
- 子供を認め、信頼していることを示す。批判的な態度を避ける。教師と家族が子供たちを愛していることを強調する。ほかの子供の気持ちを理解させ、争いを避けるように指導する。子供に自立することを奨励する。
- 福音を分かりやすく、具体的に教える。天父とイエス・キリストが生きておられること、優しく、愛に満ちた御方であることを教える。福音について簡単に証する。神が創造されたものの美しさに気づかせる。

### 4歳児

#### 子供の特徴

- 非常に活動的である。動作が機敏である。スキップする、跳びはねる、競走する、よじ登る、投げるなどの動きを好む。
- 話すことや新しい言葉を覚えることを喜ぶ。いろいろな質問をする。多少論理的に考えるが、まだ考え違いが多い。空想と現実の区別がつかないことがある。注意力の持続時間は短い。自分の感じていることを表現するために絵を描くなどする。まねをしたり、ロールプレーをしたりすることを喜ぶ。

- 友達と協力して遊べるようになる。時にはけんかをしたり、威張り散らしたり、無作法であったり、頑固であったりもするが、仲良くすることもできる。分かち合うこと、規則に従うこと、順番を守ることを学び始める。心からの称賛にこたえる。
- だれが自分の言いなりになるかを確かめるために人を試すことがある。特に自分や家族のことを自慢したがる。愛想がよいかと思うと、急にけんかをしたりする。自信を持つようになる。恐れや不安を抱くことがある。
- 善悪を意識するようになり、通常は正しいことを行いたいと考える。自分のした悪い行いを他人のせいにする。天父とイエス・キリストを自然に愛し、御二方についていろいろな質問をする。祈りが好きで、良い子供であろうとする。福音の原則にさらに興味を示すようになる。

#### 両親と教師への提案

- 静かにする時間と活動の時間を交互に取り入れる。自分の行動をコントロールし、自分の行動に責任を持つことを学ばせる。感情を正しく表現する方法を教える。
- なぞなぞや連想ゲームのような、思考を促す話し合いや活動を取り入れる。意味を取り違えていたら、はっきりさせる。絵や実物、体験を活用する。新しい言葉を教える。レッスンに関連する絵を描かせる。子供の創造力豊かな表現を受け入れ、奨励する。子供たちの周囲の世界を探求する機会を与える。ロールプレアの活動を取り入れる。
- ほかに子供と遊び、協力して作業に取り組む機会を与える。人に親切にすること、忍耐すること、行儀よくすることを教える。順番を守ることなどの簡単な規則に従わせる。罰を与えたり、しかったりせずに仲間と積極的に付き合っていくことを教える。
- 限界を決め、それを厳格に守らせる。自分や家族について話す機会を与える。一人一人が天父とイエスにとってかけがえのない存在であることを教える。親も教師も、子供たちを愛していることを伝える。
- 自分の行動に責任を持たせ、正しい選択をすることの大切さを教える。天父は子らを愛しておられること、わたしたちは祈りによって天父と交わることができることを教える。教会でどうすれば敬虔になれるかを考えさせる。福音の基本的な原則を教える。

### 5歳児

#### 子供の特徴

- 非常に活動的である。体のバランス感覚が良くなり、動きの調和が取れてくる。ボールをけったり、直線上を歩いたり、飛び上がったり、スキップしたり、行進したりすることができる。絵を描くことや、塗り絵を楽しく行

い、活動やゲームに喜んで参加する。ひもを結ぶ、ボタンをかける、ファスナーを開け閉めするといったことができるようになる。

- 多少の文字、数字、単語を識別し、読み書きのまねごとをしたがる。読むことを学び始める。よくしゃべる。質問や意見、答えに理解力が増していることが表される。問題を解くことができる。好奇心が強く、事実をしきりに知りたがる。事実と空想の区別がつき始める。注意力を持続する時間は短い、次第に長くなる。特定の作業を喜んで行う。ユーモアやいたずらをおもしろがるが、自分のことをおもしろがって笑うことはできない。物語や歌、詩、劇化を好む。
- 愛想が良く、人を喜ばせたい、協調性が出てくる。小グループでいることを好むようになるが、最も親しい友達と一緒にいることの方を好む。集団で遊んでも争いを起こさなくなる。仲間意識が強くなり、同じようにしない者を批判する。規則を理解し始めるが、自分の都合で規則を変えようとするのがよくある。
- 家庭や家族に関心を向けている。大人に対して愛情を示し、大人を喜ばせようとする。すぐに恥ずかしがる。特に自分が間違ったときはその傾向が強い。
- 良い子供であろうとする。善悪の区別を学んでいる。大人に気に入られたい、正しいことをしたいという気持ちが強い。悪いことをしたときうそをついたり、他人のせいをしたりする。霊的な真理を教わる準備ができている。

#### 両親と教師への提案

- 体を動かすゲームに子供を参加させる。簡単なゲームや活動を取り入れる。切ったり、のりづけしたり、パズルを組み合わせた作業を行う。自主的に何でも一人でさせる。子供を信頼していることを示す。子供の努力を受け入れ、奨励する。
- 話したり、質問をしたりする機会を子供に与える。簡単な単語や文章を読む機会を与える。簡単な言葉であればワードストリップを利用する。簡単な仕事や責任を与える。絵を描く活動を取り入れたゲーム、実際に起こった話、視覚資料を活用する。絵やゲーム、歌、話し合いを使って活動に変化をつける。なぞなぞや全員で話し合う問題など、問題解決を扱う活動を実施する。まねごとや劇化、人形を使った活動を取り入れるとよい。子供と一緒に笑うようにする。
- 教師に認められたいという子供の必要を敏感に感じ取る。仲間との交わりを奨励する。親しい友達がいない子供や、仲間外れになっているような子供には特に注意を払う。親切あるいは不親切にしたときに相手はどう思うかについて話す。人に愛や感謝の気持ちを示すことの大切さについて話し合い、それをどのように実行するかを





教える。一人一人が異なっていることの大切さを悟らせる。

- 家族の持つ価値と大切さについて度々教える。子供たちが自分の家族について思っていることを話す機会を与える。子供たちに愛を示す。立派な行いを褒める。子供が決まり悪く思うような活動を避け、また当惑させるような言葉を使わない。
- 正しい振る舞いを教える。たとえ子供がうそをついたり、不適切な言葉を使ったりしても憤慨してはならない。自分の行動について責任を負うことの大切さを引き続き教える。あなたの証を分かち合うことによって子供の証を強める。天父とイエス・キリストそして御二方の教えを愛する気持ちと信仰を強めるような物語と考えを分かち合う。

## 6歳児

### 子供の特徴

- 非常に活動的である。騒々しく、落ち着きがなく、元気があふれていることが多い。活動に参加したり、能力的には難しくても簡単な仕事を行ったりするのを好む。見物する側に立つのを嫌がる。
- 現実に即した方法で概念を教えることが必要である。記憶力が発達してくる。よくしゃべる。いろいろなことについて質問する。判断することを学びつつあるが、まだ判断できないことが多い。注意力の持続時間は長くなっている。読むこと、書くこと、歌うこと、物語を聞くこ

と、まねをすることを好む。

- グループ活動に関心を持ち、仲間と遊ぶが、まだ自己中心的である。威張り散らし、攻撃的であり、同年代の子供に対して思いやりを示さないことがある。友達との交わりは不安定である。ほかの人から自分がどのように扱われるかを気にする。周囲から認められることを求める。
- 自慢する。大げさに言ったり、批判したりする。興奮したり、ばかげたことを言ったり、くすくすと笑ったりしやすい。寛大で、愛情が深く、協調的なところもあるが、気が変わりやすい。
- 良い行いと悪い行いに敏感に反応する。それが自分の家族や友達に影響を与える場合は特に顕著である。時々人の悪い行いを責めることがある。聖典からの物語、特にイエスに関する話を好む。

### 両親と教師への提案

- 元気が有り余っており、落ち着きがないことを忍耐する。文字を書く、塗り絵をする、切る、のりで張る、粘土で物を作るなどの活動を取り入れる。子供にエネルギーを使わせる活動を行う。
- なぞなぞ、復習、結末を自分たちで考える物語など問題を解く活動を行う。絵やフランクの切り絵、その他視覚教材を使用する。新しい言葉を紹介する。質問をする。子供に判断する機会を与える。正しい選択をすることの大切さについて話し合い、選択範囲を定めて子供に決断する練習をさせる。読み、書き、歌い、物語を聞き、ロールプレーをする機会を与える。子供が関心を持っている

る事柄を考えながらレッスンを計画する。

- ほかに子供たちと分かち合い、一緒に参加することを奨励する。グループ活動を多用する。具体的に褒めたり、賛成したりする。ほかの人を助けて愛を示すことや、ほかの人の必要に心を配ることにレッスンの焦点を絞る。ゲームやその他の活動に参加するよう奨励する。
- 自分から自慢げに言わなくともよいように、子供の努力を褒めてやる。正直な言動を褒める。批判してはならない。子供と一緒に笑う。しかし子供を笑うようなことはしない。いつも機嫌のよい態度をとるよう励ます。あなたの模範によって、子供たちに穏やかな態度と安定した行動の大切さを教える。
- 自分の行いに気をつけて責任を持つこと、また行いを改める方法について教える。間違いはだれにでもあることを納得させる。単純な悔い改めについて教える。聖文を使って福音の基本原則を教える。子供たちに聖文を理解させ、それを応用させる。

## 7歳児

### 子供の特徴

- 体の動きをコントロールできるようになる。特定のゲーム、好きなこと、活動に興味を示し、それを上手にできるようになる。落ち着きがなく、じっとしてられない。神経質になる癖が始まったり、扱いにくい態度をとったりすることがある。元気にあふれてはいるが、疲れやすい。
- 学習意欲が旺盛である。物事を真剣に、また論理的に考えるようになる。以前に比べて複雑な問題も解くことができるようになる。難しいことに挑んだり、熱心に努力したり、時間をかけて何かを成し遂げたりすることを好む。注意力を持続する時間が長くなる。好きなことやいろいろな技術に凝る。物を集めたりすることを好み、自分の計画や成し遂げたことについて話したがる。
- よく集団を作って遊ぶが、時々一人で静かに遊ぶことを好む。異性と一緒に遊ぶことがほとんどなくなる。仲間と同じようになって、仲間から認められることを望む。威張ったり、我を張ったりすることが少なくなる。責任感と独立心が強くなってくる。うまくできないことを気にする。
- 批判がましいことを言われるのを嫌がる。自分や他人の気持ちにいつそう敏感になる。完全を求めることが多い。自分に批判的になる。自分の気持ちをはっきり表現できなかつたり、警戒心が強くなったりする。以前よりも衝動的でなくなり、自己中心でなくなる。
- 善悪を意識する。祈りや什分の一などの福音の原則を喜んで学び、実践する。聖餐、信仰、悔い改め、伝道、聖霊、神殿の儀式などの福音の教えを理解する。パプテス

マを受け、聖霊の賜物を受けたいと望む。

### 両親と教師への提案

- エネルギーを使う活動を取り入れる。子供が持っている特別な技能を披露させる。迷惑な行為や落ち着きのない態度を忍耐する。未熟な行動について注意を引くようなことを避ける。子供の関心を持続させ、間違った行動を予防するために様々な方法を用いる。正しい行いを褒める。
- 考えさせる質問を多くする。結末を自分たちで考える物語、なぞなぞ、思考を要するゲーム、話し合いを取り入れる。子供に判断する機会を与える。十分な時間を取って作業を完了させる。好きなことや関心のあることを続けて行うよう励ます。聖文やワードストリップ、物語を読む機会を与える。採り上げる物語や状況は架空の話ではなく現実にも即したものでなければならない。
- ゲーム、劇化など、グループで行う機会も与えるが、時には一人でしたいという子供の気持ちも考慮する。男女を無理に一緒にさせるようなことをしない。順番を待つ、分かち合うなど良い行いをした子供を褒める。子供に達成できる責任や課題を与え、その努力と達成したことを褒める。
- ほかにの人に関心を示すよう奨励する。自信を育てる。批判がましいことは言わずに、同意し、愛情を示す機会を探す。感情の浮き沈みや無関心な態度を受け入れる。自分の意見を述べるように励ます。
- 正しい選択をする練習を子供にさせる。自分の選択がもたらした結果を理解させる。福音の原則を具体的に、分かりやすく教え、学んだ教えを日々の生活の中で応用させる。聖文を使って教える。パプテスマと確認を受ける準備として、子供が交わす聖約を理解させる。

## 8歳児

### 子供の特徴

- 体の動きがさらに調整されたものとなる。体を揺すったり、決まり悪げにもじもじしたりする。神経質な癖がつくこともある。組織化された技術を要する遊びをする。長い時間集中することができる。仲間意識を求める。
- 理由を知りたがる。知っていることを熱心に分かち合おうとする。自分は何でも知っていると思う一方で、自分以上に知っている人がいることを認識し始める。性急に判断を下しがちである。英雄を崇拜する傾向がある。読んだり、書いたり、まねをしたりすることを好む。
- 簡単な規則を守ってグループで遊ぶ。同性だけのグループで遊ぶことを好む。さらに協力的になり、我を張ることが少なくなる。親友を欲しがらる。独立心が強いが、同時に導きと安心感を求めて大人に頼る。



- 一般に、優しくて、よく手伝い、快活で、外交的で、好奇心が強い。しかし、その反面、乱暴であったり、利己的であったり、威張り散らしたり、あれこれ要求したりすることがある。批判に対して神経をとがらす。時々、くすくすと笑ったり、ばかげたことをしたりする。罪悪感や恥ずかしい思いを経験する。
- 福音の教えを素直に受け入れるが、疑問を持つこともある。教会員であることに誇りを持つ。福音の原則に従って生活することを好む。具体的な模範や参加を通して福音を学ぶ。

#### 両親と教師への提案

- 組織的な連携を要求する活動や子供のエネルギーを使う活動を行う。ごちなさや気になる癖、決まり悪げにもじもじするのを見ても忍耐する。静かにしている時間と活動的な時間とを交互に設ける。良い行いを褒める。
- ゲーム、物語、絵、問題を解く活動を取り入れて、学習を促す。読むこと、書くこと、ロールプレーを活用する。子供が現実的な目標を決めるよう助ける。他人よりも自分の行いに関心に向けるよう奨励する。子供たちの英雄としてふさわしい教会の指導者や、その他立派な教会員について教える。
- グループの中で互いに影響し合い、協力し合い、分かち合う機会を設ける。活動を生徒の近くから監督する。友情という固いきずなで子供たちが結ばれていることを確かめる。親しい友達がいなくて子供がグループに加わるように助ける。積極的な行動を褒める。子供たちが協力してクラスの規則を作り、そのほかの決定を下すよう指導する。子供たちが個人で作業に当たる機会を設ける。
- 好ましくない感情があればそれを認めて、解決するように子供たちを助ける。関心と熱意を示す。自信を育て、自信を持っている子供を褒める。非難したり、他人と比較したりしてはならない。子供の努力と達成した事柄を認める。適切であればユーモアを取り入れる。くすくすと笑っても気に留めない。間違いはだれにでもあることを教える。
- 教師自身の信仰と証をしばしば表明する。教会員であること、それに伴う責任を認識させる。福音の原則に従って生活するようチャレンジする。個人の経験、聖文、物語を分かち合う。子供が参加できる活動を実施する。

### 9歳児

#### 子供の特徴

- チームで競うゲームを好む。体を上手にコントロールできる。力や技術、スピードをつけることに興味を持つ。複雑な工作や手工芸を好む。
- さらに長時間にわたってテーマや活動に関心を持ち続け

ることができる。事実を探求する。それほど空想を好まなくなる。暗記することを好む。特定の事柄について関心と好奇心を持つ。読むこと、書くこと、記録することを好む。地域社会や異文化、外国人に興味を持つ。現在のことだけでなく過去のことを学習することにも興味を示す。物を集めたがる。

- 同性のグループと一緒にいることを好む。仲間と一緒に冒険をすることや、協力して遊ぶことを好むが、同時に競い合うことも好む。権威を試し、独立して物事を行おうとする。友達と過ごす時間が多くなる。
- 特に他人から認めてもらえないときに、行儀が悪くなることもある。独立心が旺盛になり、頼もしく、信頼できるようになる。公平ということを非常に意識し、公平であるかどうかについて議論する。自分の悪い行いや間違いを認められるようになり、また自分の行動について責任を持てるようになる。時には愚かなこともする。
- 善悪の判断がきちんとできる。正しいことをしたいと思っているが、時には反抗もする。ほかの人の証に影響を受ける。さらに複雑な福音の原則を理解することができる。

#### 両親と教師への提案

- チームで競うゲームなど様々な活動を取り入れて、興味を持続させ、子供の技術を伸ばす。
- 架空の話でなく、明確な情報と事実を教える。何もかも教師が答えてしまうのではなく、時間を与えてよく考えさせ、答えを話し合わせる。引用文や聖句を暗記するよう励ます。割り当てや責任を与えるときは個人個人の違いを尊重する。読み、書き、記録する機会を与える。日記をつけるよう奨励する。外国人、異文化、歴史について教える。
- 仲間から受け入れられたいと思う子供の欲求を理解する。適正な限界を設けてそれを守ると同時に、自主性も尊重する。競わせる機会を設けて、負けても寛大でいられる方法を教える。友情を築くことを奨励し、友達ができるように助ける。
- 悪い行いは容認しないが、子供自身は受け入れていることを知らせる。子供が独立し、信頼に足る人物であることを示す機会を与える。悪い行いをした子供にあざけりの言葉を発してはならない。
- しばしば愛を示し、支持していることを伝える。度々あなたの証を述べ、預言者の証を紹介する。さらに高度な福音の原則を教える。

### 10歳児または11歳児

#### 子供の特徴

- 成長が著しい。力や技術、スピードを要求するスポーツ



を楽しむ。遊んだり、押したり、取っ組み合いをしたり、小突いたり、くすくすと笑ったりする時期でもある。落ち着きがなく、活動的で、我慢ができない。体格や体のバランスは個人によって様々である。子供扱いされるのを嫌がる。外見を気にする。

- 抽象的な概念や考えに対応できる。以前に学習した事柄に基づいて判断を下せるようになる。頭を使う課題に挑戦することを好む。果敢であり、分別がある。暗記を好む。目標設定を好んでする。いっそう論理的に考える。長い時間集中することができる。言葉の意味をいっそう正確にとらえ、抽象的な言葉を定義できる。大人から見るとばかばかしいような冗談を言うことがある。
- 社交的で、競争心が強い。仲間に対する忠誠心が強い。同年代の人に対して積極的、消極的両面の対応をする。友達関係は複雑で、強い結びつきを持つ。親友に頼る。大人よりも仲間の意見や標準を大切にす。大人の判断や他人の気持ちに批判的になることがある。からかったり、乱暴な遊びをしたりすることを好む。粗暴で非協力的になることも、愛想がよく協力的なこともある。
- 自分に批判的であるが、他人から批判されると怒る。非難されたりすると、自分のしていることはすべて悪いと考えることがある。学校や友達のことでは不安や恐れを抱く。非常に繊細であり、特に自分に対して神経質である。疑問や不安を抱く。情緒的に過敏であり、怒りっぽいことがあり、公平な扱いを受けることに神経をとがらす。礼儀正しく、まじめで、正直で、誠実であることができる。自分の思うとおりにしたが、責任を与えられることを望む。
- 強い道徳観念と道徳意識を持つ。自己改善に関心を持つ。自分の犯した間違いを認めることを嫌がる。福音の教義をさらに学ぶ準備ができています。

#### 両親と教師への提案

- 子供が成長し、成熟する過程を歩んでいることを認める。

異性との活動を無理強いしてはならない。エネルギーのはけ口となる身体的活動に参加する機会を与える。多少の行儀の悪い行いは気に留めない。公正であること、活動に参加する価値を教える。生徒の生活に関心を示す。個人の違いを大切にす。

- 質問、聖典からの物語、聖句暗唱、問題を解く活動、話し合いを使って思考力を刺激する。生徒自身の判断によって目標を決めさせる。新しい用語を使って、生徒なりの意味を定義させ、説明させる。視覚資料、物語、ゲームを活用する。
- グループに所属して、グループからの影響を受けるといふ必要を満たす。同年代の人々と交わる活動を取り入れる。グループで計画し、実行することを奨励する。仲間から受け入れられていない人に配慮するよう教える。責任や割り当てを与えて、最後まで果たすように助ける。年少の子供の世話をす、才能を分かち合う、人々に福音を紹介するなどの奉仕活動を実施するよう奨励する。模範とレッスンを通して繊細な心、思いやりを教える。礼儀正しさ、他人に対する配慮、忠実さ、友好的であるなどの態度や行動を褒める。
- 子供たちを比較してはならない。励ましを与え、達成したことを褒める。個人として信頼していることを示す。良い行いを強調し、重大な問題とはならない過ちを無視する。独立心を養い、自分の気持ちを表現するように励ます。子供の悩みや楽しくない理由を理解するように努める。
- 道徳的な概念や価値については具体的に教える。戒めを守るときに真の幸福がもたらされ、自己改善が実現されることを強調する。福音の原則に従って生活する決意をするように促す。未来に待ち受けている責任と祝福を理解させ、準備させる。悪い行いに対してあざけりの言葉を発してはならない。特に友達の前では決してしてはならない。聖典からの物語と末日の預言者たちの物語を使って、完全な福音を教える。証を述べることを奨励する。

# 3

## 様々な年齢層の混在したグループの子供たちを教える



家庭や教会では幅広い年齢層の子供たちが一緒に福音を学ぶ場合がある。このようなグループ構成となるのは、家庭の夕べや家族の集い、初等協会の分かち合いの時間、達成の日、活動の日、扶助協会の子供のクラスなどである。これらの活動は楽しくなければならぬが、それと同時に、福音の原則を教えなければならない。M・ラッセル・バラード長老はこのように述べている。「分かち合いの時間やその他の活動は、創意工夫を凝らして、刺激的で楽しいものにすることができる。しかし、子供たちが……楽しむだけで、まったく教化されず、福音を教えられず、霊的に高められることもなく家路に就くとしたら、それらは何の意味も持たない。……すべてのレッスン、すべての集会、すべての活動はこれらの幼子をキリストのもとに近づけることに焦点を絞ったものでなければならない。」（“Great Shall Be the Peace of Thy Children,” *Ensign*, 1994年4月号, 61）

様々な年齢層の混在したグループの子供たちを教えることは、年齢が最も低い子供たちが理解できるように概念をかみ砕いて教え、年長の子供には興味深く、チャレンジのあるレッスンを行わなければならないという課題を抱えることになる場合がある。様々な年齢層の子供たちが一緒に福音を学ぶときに、全員をレッスンに参加させるための提案を以下に列挙する。

### 年長の子供に年少の子供を助けさせる

子供たちを二人一組にして協力させるか、一人の年長の子供に数人の年少の子供を助けさせる。例えば、

- 年長の子供が年少の子供の横に座り、読んでいる語を指で追いながら聖文を読む。
- 年少の子供が物語を読んだり、ゲームに参加したり、聖句を暗記したり、課題を果たしたり、あるいはワークシートを完成させたりするのを、年長の子供が助ける。
- 原則を教えたり、ゲームを行ったりする際に、年長の子供に手伝ってもらおう。年長の子供に一人から数人の年少の子供を教えるよう頼むとよい。これは年長の子供にとって福音を学ぶ機会となるだけでなく、経験と自信を与える機会にもなる。

### 年少の子供のために活動の一部を単純にする

年少と年長の子供たちが同じ活動に参加する場合、年少の子供のために活動を単純にすることができる。例えば、

- 年少の子供のために簡単な質問、年長の子供のためにそれよりも難しい質問というように、2種類の質問を用意する。質問を紙片に書いておく。ゲームや復習の活動で、簡単な質問と難しい質問をそれぞれ別の容器に入れておく。子供たちは該当する容器から順に選んで、質問に答える。
- 劇化では、年少の子供に簡単な役あるいは動物や風景の役を与える。年長の子供には、難しい役や語り手を務めてもらったり、聖文を読んでもらったりする。年少の子供にせりふがある場合は、年長の子供にプロンプターを務めてもらう。
- あなたが物語を話す場合、年少の子供に絵を持ってもらったり、フランネルボードに絵を張ってもらったりするとよい。

### 年齢別に場所を区切って使用する

教える場に年少の子供が来た場合、成人はレッスンの内容を年少の子供に合わせるすることができる。例えば、その場所で活動を行う場合、成人はその内容を年少の子供に合わせた簡単なものに変えることができる（「島」178ページ参照）。

## 4

# 青少年を理解し、 教える



モルモンは15歳のときに、「主の訪れを受け、イエスの慈しみを味わって知った。」(モルモン1：15) ジョセフ・スミスは14歳のときに最初の示現を受けた。ジョセフは福音の回復に備えるために訓練と教えを受けて、青少年時代を過ごした。今日、主は若い人々に定員会やクラスの会長会で働き、神聖な神権の儀式を執行し、専任宣教師として福音を宣べ伝える召しを与えておられる。あなたは教会の青少年を教えるに当たって、主が彼らの能力を御存じであることを忘れてはならない。主は過去に、若い人々に対して大きな信頼を寄せてこられた。主は引き続き、今日も彼らに大きな信頼を置いておられる。

## 青少年を理解する

青少年は熱意とエネルギーにあふれている。これを活用することによって、レッスンを楽しいものにすることができる。けれども、青少年に福音を教えるあなたは、彼らのエネルギーを正しい方向に向ける方法を知っていなければならない。青少年と彼らの関心、チャレンジを理解することも重要である。

あなたが教える青少年を理解するために、あなた自身の青少年時代を振り返ってみる。どのようなことがチャレンジであり、あるいは心痛む経験だったのだろうか。どのようなことに悩んでいたのだろうか。自分自身についてどのように感じていたのだろうか。どのような目標と理想を持っていたのだろうか。どのような社会的、情緒的必要性を持っていたのだろうか。あなたを最も助けてくれた人はだれだったのだろうか。彼らはどのように助けてくれたのだろうか。これらの質問を考えることによって、あなたは青少年を効果的に教え、導くことができる。

## 青少年が直面しているチャレンジを理解する

青少年は大人になるための準備の過程で重要なチャレンジに直面する。あなたがそれらのチャレンジに気づいているならば、賢明で、彼らの気持ちに配慮した支援と励ましを与えることができる。青少年が直面するチャレンジを理解するために、以下の情報を役立てる。

### 身体の変化に対応する青少年たち

青少年時代に身体は急速な変化を遂げる。通常、これらの変化は若い男性よりも若い女性に1年か2年早く訪れる。若い男性と若い女性が経験する新しい感覚は、感動的であると同時に混乱の原因ともなる。外見が気に入らないために自信を失い、劣等感を覚えることがある。彼らが経験する身体の変化は情緒面と社交面で多くの調整を要求する。

### 社交面での変化に順応する

青少年は子供から大人に移行する過渡期にあるため、次第に広がっていく社会に溶け込めないと感じることもある。特に社会とのかかわりが教育を受けることだけに限定されている場合はなおさらである。彼らは様々な経験から判断して、自分がもう子供ではないことを自覚しているが、かといって大人としての責任を全うできるわけでもないことを知っている。自らが経験している変化がだれにも訪れる正常な状態であることを理解できずに、悩んでいる青少年もいる。彼らは自分の感覚が普通でなく、自分の経験していることをだれも分かってくれないと考えるかもしれない。

### 発育を遂げている知的能力を活用する

12歳から15歳までの間に、ほとんどの青少年は学習能力が発達する。正しい判断を下し、論理的に考え、将来の計画を立てることができるようになる。彼らの知的能力を尊重し、またあなたが彼らにあなたから学んでほしいと思っているように、あなたも彼らから学ぼうとするならば、青少年に対して影響力を発揮することができるであろう。





両親や他の成人との精神的なつながりを維持する

青少年は両親やほかの大人から学ぼうとする強い欲求を持っている。彼らはまた、自分が大人から尊重され、理解され、注目されることも望んでいる。しかしながら、成人は時折見られる彼らの未成熟な行動や普通でない行動のために彼らを誤解することがある。わたしたちは主がサムエルに与えられた勧告に従うべきである。「顔かたちや身のたけを見てはならない。……人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル上16:7) 青少年を受け入れて理解し、尊重する成人は、不安定で、人目を気にする青少年の生活にははっきりした違いをもたらすことができる。

あなたは青少年と一緒にあって彼らの両親やそのほかの大人を批判することで彼らに接近できる、と考えようとする誘惑に駆られるかもしれない。しかし、それは両親とあなたに対する尊敬を失わせることになる。両親と子供の間関係を強めることが、あなたの責任の中で重要な部分であることを忘れてはならない。

あなたが教える青少年の両親と定期的に連絡を取る。彼らの息子や娘にあなたが見つけた才能、成長、優れた貢献について両親に知らせる。クラスで何を勉強しているかを両親に知らせる。両親が子供を教えるときにどのような助けがあなたにできるかを尋ねる。青少年の心を両親に向け、家族のきずなを強めることを目指す。

#### 青少年の個性を確立する

変わった服や、ヘアスタイル、変わった考えを述べることによって個性を確立しようとする青少年がいる。彼らは自分に関心を集め、仲間との一体感を得、ほかの人々と自分を区別するためにそのようなことをしていると思われる。通常、このような行動は長続きしない。実際のところ、もし青少年が大人から純粋な愛情を感じ、批判を受けずに自分の考えを自由に発表する機会が与えられていると感じるならば、彼らは精神的に安定して、異常な行動をとらなくなる。

あなたが青少年のような服装や話し方をしようとするのは賢明なことではない。忘れてならないのは、あなたが彼らと一つに

なることであって、彼らと変わらない一人となることではない。

#### 男性らしさ、女性らしさの模範像から学ぶ

将来に向けて準備する青少年にとって、男性らしさ、女性らしさの模範像を身近に見ることが大切である。あなたやほかの成人がその模範像としての役割を果たすことになる。

#### 教会と世界で奉仕するために準備する

青少年は教育を受け、生涯の仕事に備えるために時間の多くを費やしている。真剣に教育を受け、将来のためによく準備するよう励ます。どのような訓練を受け、福音をどのように勉強し、善悪をどのように選ぶかということも、将来教会で奉仕するための準備となるという考えを持つように奨励する。若い男性に対しては、専任宣教師として奉仕するための準備をするよう助ける。

#### 結婚と家族生活に備える

若い人々を結婚と家族生活に備えさせる最良の方法は、神殿の聖約を交わしてそれを守るための準備をさせることである。あなたが行動し教えるすべての事柄は、若人を神殿に向かわせることに照準が合わせられていなければならない。ふさわしく神殿に参入するために要求される事柄を理解させ、それを個人の目標とするよう奨励する。

#### 自分の価値体系を築き、それを生活の基盤とする

回復された福音は、わたしたちを幸福と昇栄に導く原則と基準を明らかにしている。あらゆる機会をとらえて、彼らがこれらの原則と基準を自分のものとすることができるようにする。霊的成長を遂げるために自分から行動を起こすよう勧める（「福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助する」61-62ページ参照）。

#### 同年代のほかの人々と友情を築く

青少年は同年代の人々と親しく交わり、彼らから励ましを得ることを求めている。若い人々が大人になる準備の段階で、友達には重要な役割を果たす。彼らは受け入れられるという欲求を満たし、交際の技術を習得させてくれる。彼らはほかの人も自分と同じような必要を持ち、もがき苦しんでい

ることを確認して、感じている孤独感が軽減される。友達  
はほかの人の考えや気持ちに触れさせてくれる。友達は新  
しい価値観を支持してくれる。義にかなう価値観を持つ若  
い人々はグループを作ることによって、価値観の相いれな  
い人々の圧力から自分たちを互いに守る。教会は、健全な  
生活様式や価値を擁護している友達や大人との交わりを提  
供することにより、若人にとって重要な役割を果たすので  
ある。

### 青少年は成人から何を必要としているか

#### 支え

若い人々は親、教師、そのほかの大人から温かさ、愛情、  
支えを感じ取るとき、生活のチャレンジを前向きにとらえ  
るための励ましを感じる。あなたがいつでも助けの手を差  
し伸べること、関心を寄せていることを生徒に知らせる。  
あなたは青少年について、また彼らが学ばなければならない  
ことについて考えるときに、彼らの進歩を助けるために  
あらゆることをしているかどうかを自問する。

#### 正しく振る舞うことを期待する

若人は福音の標準に従い、規則を守るよう期待されると、  
危険を冒したり、道を外れたりほしくないものである。あな  
たが教え始める初期の段階で彼らに対して抱いている期待  
を明確にしておくことが賢明である。青少年の友達になる  
だけでは十分でないことを忘れてはならない。あなたは彼  
らにとって良い模範でなければならない。また、真の福音  
を教えるとともに、正しく振る舞うことを期待することによ  
って、青少年が忠実な生活を送る方法を知ることができるよ  
うにしなければならない（「言葉の力」50-51ページ  
と、「学習に適した雰囲気を作る」の項、75-87ページ参  
照）。

#### 個性を尊重する

青少年は大人が自分たちを尊重し、耳を傾けてくれてい  
ることを感じると、安心感を覚え、自分たちに関心を向け  
させる必要を感じなくなる。あなたが教える若人を理解で  
きるように努力し、祈りなさい。個人個人に手を差し伸べ  
なさい（「個人に手を差し伸べる」35-36ページ参照）。彼  
らの関心、趣味、日常生活について尋ねる。彼らの言葉に  
耳を傾け、考えや意見、気持ちを尊重する。

#### 将来のビジョン

教会の青少年を教えるあなたは、親、神権指導者、補助  
組織の指導者、宣教師、あるいは預言者をも含めた、将来  
の指導者を備える助けをしているのである。若い人々は経  
験が少ないために、現時点を越えた先を見ることができな  
い場合がある。あなたは教師として、彼らに将来のビジョ  
ンを与え、それに向けて準備するよう指導することができ  
る。青少年に自分の将来を想像してみるよう促す。明日彼  
らに知る必要が生じるであろう事柄を今日教えなさい。

#### 神の王国の一員となるよう励ます

青少年は自己中心であることも多いが、他人に関心を向  
ける能力も豊かに持っている。彼らは社会の状態を心配し  
ており、生来の理想主義者である。価値ある目的を共有し  
たいと考えている。彼らはほんとうに意義のある目的を持  
つグループに属していることが分かると、創造性を発揮し、  
協力し、自己犠牲もいとわない。彼らが忠誠をささげる対  
象として、神の王国を建設すること以上にふさわしいもの  
はない。神の王国の建設に力を差し出すことによって、  
人々に奉仕する望みを行動に表すよう励ます。

## 5

## グループ活動を通して 青少年を教える



福音が何を目的としているかを念頭に置いて青少年の活動を計画すべきである。活動を実施している間も、あなたは青少年の証を強め、才能や指導力を伸ばし、奉仕を行い、福音の原則に従う人々との間に友情を築くための機会を逃さないように注意すべきである。指導者、教師、両親にとって役立つ情報を以下に列挙する。

### 模範によって教える

青少年の活動を実施している間、あなたにとって最も力ある教具は模範である。あなたの行動、ほかの人に関して漏らす何げない言葉、問題の解決方法、あなたが使う言葉、他人に対するあなたの接し方によって教えるのである。

例えば、ガールズキャンプに参加した若い女性のグループは指導者たちから一つの教訓を学んだ。一行は予想もしていなかった状況に立たされた。キャンプ場にはバンガローがあり、電気も来ていると考えていた若い女性は、それ相当の準備をしてキャンプ場に向かった。ところが到着してみると、電気はおろかほかに何の施設もなく、あるのはテントだけだった。不平を言うのは簡単だったが、若い女性の指導者たちはそこで模範を示したのである。指導者たちはその状況を笑って受け入れ、持って来たものでできる限りのことをすることにした。それから長い年月を経た後に、そのキャンプが人生にとって大きな意味をもたらしたことを当時若い女性だった姉妹はこのように話している。「ほかの若い女性たちと指導者の一人とともに、茂みの陰に座って過ごしたひとときは決して忘れないでしょう。みんな大声を上げて笑い、それから3日間どうやって過ごしたらよいのかをあれこれ言い合っていました。困難な状況に

もかかわらず、指導者たちが全力を尽くしている姿から、わたしはほほえみをもって状況を受け入れ、人々を助けることを学びました。それは偉大な教訓でした。」

### 教えるタイミングを計画する

活動を正規のクラスに代えてはならない。しかし、活動の中に福音を教えることを組み入れる方法は幾つかある。

例えば、エズラ・タフト・ベンソン大管長がモルモン書を毎日読むよう家族に奨励していることを聞いたあるアロン神権アドバイザーは、その勧告とともに与えられた約束に感銘を受けた。特に、この勧告に従う家族は家庭に主の御霊を受ける、という約束に感動した（『モルモン書』で洪水のごとく地を満たす」『聖徒の道』1989年2月号、4-6参照）。このアロン神権アドバイザーは当時を思い出してこのように述べている。「わたしは『その約束が家族に対して与えられたものならば、スカウト隊にも与えられているのではないだろうか』と考えました。わたしはスカウトのキャンプで聖典を読む時間を毎日設けることを決心しました。毎朝、わたしたちは一日の活動を始める前に集まって、モルモン書から1章ずつ読むことにしました。ベンソン大管長の約束がわたしたちの隊の中で実現したことを証します。わたしたちが全員で読み始めたその日から、少年たちの間で重大な問題が起きなくなりました。預言者の勧告に従うことによってもたらされる力を彼らが理解してくれたことを願っています。」

この指導者はキャンプファイヤーをするときは必ず自分の証を述べ、伝道に行くよう励ますことを決意した。それから何年後に、数名の若い男性がこの指導者のもとを訪れて、キャンプファイヤーでの勧告に感謝の言葉を述べた。その勧告が彼らの伝道に対する決意に影響を与えたからである。

### 思いがけない教えるタイミングを活用する

活動の最中に、思いがけなく福音の原則を教える機会に出会うことがある（「家庭生活での教育の機会」140-141ページも参照）。一例を挙げると、あるグループが午後になってハイキングから戻って来たが、若い女性が二人いないことに気づいた。指導者は直ちに全員を呼び集めた。彼らはま



ずひざまずいて祈り、それからいなくなった二人を探しに行く計画を立てた。重大な問題になるかという事態は、数分後に二人とも発見されたことによって回避された。指導者は再び全員を集めて、心からの感謝の祈りをささげた。祈りが終わると、指導者は若い女性一人一人を愛していることを述べ、そして、天父が実在し、祈りにこたえてくださることについて証した。

### 福音を教える基礎を築くために行う活動

あなたと生徒は福音の原則を応用する状況を活動の中に作り出すことができる。時間的な余裕があれば、活動が終わってから、応用した福音の原則について青少年と話し合う。以下の言葉で始まる質問に基づいて話し合いを展開するとよい。何が。それでどうなったか。これからどうするか。

何が。その活動でどのようなことが行われたか、そして参加した人々、実施された場所について話してもらおう。「いちばん良かったと思うことはどのようなことですか」あるいは「いちばんおもしろかったことはどのようなことですか」あるいは「どんなことが大変でしたか」などと質問することができる。

それでどうなったか。福音の原則と関連づけて活動を考えてもらおう。「わたしたちはなぜそうしたのですか」あるいは「活動を通してだれかを助けることができましたか」あるいは「この活動を通してどのようなことを学びましたか」あるいは「あなたにとってどのようなことが難しく、どのようなことが簡単でしたか」などと質問することができる。

これからどうするか。その活動が青少年の将来にどのような影響を与えると思うかについて話してもらおう。これは青少年に学んだことを応用する決意を促すことになるため、重要である。「今日学んだことを基にして、将来活動をするとしたら、何か別のことを行いたいと思いますか。そうであれば、どのようなことを変えたいと思いますか」などと質問することができる。あるいは次のような文を完成させる。「次の機会に、わたしは……をするつもりです。」

これらの質問を基礎として、以下のいずれかの方法で話し合いを展開するとよい。

- イベントから帰る途中、私的な話し合いを展開する。地元の小児病院で子供たちと遊ぶ奉仕活動を終えた若い男性と若い女性のグループが帰宅の途に就いていた。多くの青少年は最初こそ神経質になっていたが、全員が楽しくその午後を過ごしたようだった。教会の集会所へ戻る車に乗ると、それぞれに自分が世話をした子供について

話し始めた。おかしかったこと、よかったこと、悲しい思いを味わったことなどを口々に話した。アドバイザーの一人が車を運転していた。彼女はたまに質問し、どのようなことが起きたかを話すよう全員に勧めただけで、じっと耳を傾けていた。やがて、彼女は言った。「わたしたちの訪問は子供たちの役に立ったかしら。」少しためらった後に、だれかが言った。「役に立ったと思います。」この質問がきっかけとなって、話し合いはさらに新たな展開を見せた。訪問してなぜうれしかったのか、次の機会にはどのようなことをしたいかなどについて話し合う青少年の言葉に彼女は耳を傾けていた。この短い話し合いがその日の午後の経験が持つ意味をよく理解する助けとなったのである。

- 活動を終える前の数分間を取って、どのようなことが行われたか、その活動からどのような教訓を学べるかについて話す。これはユースカンファレンス、キャンプ、神殿訪問の際に最後の時間を取って行うことができる。青少年が証を述べる前にこれを実施するとよい。
- 活動直後のレッスンで活動について話し合う。青少年が何を感じ、何を学んだかを確認する。
- 次回の活動を計画する前に、最近実施した活動について話し合わせる。もし前回の活動からこの話し合いまで相当時間が空いているのであれば、本ページの「何が」「それでどうなったか」「これからどうするか」の質問に時間を多めにかけて、その出来事をはっきりと思い出させるようにする。
- レッソンを教える際に活動を例として使う。レッスン中に、話し合っている福音の原則に関連のある過去の活動について、あなたが話すか、あるいは割り当てておいた青少年に話してもらおう。
- 活動について書き残すように勧める。活動について日記に書くか、宣教師に手紙を書き、奉仕活動について、また活動から学んだ事柄について知らせるとよい。

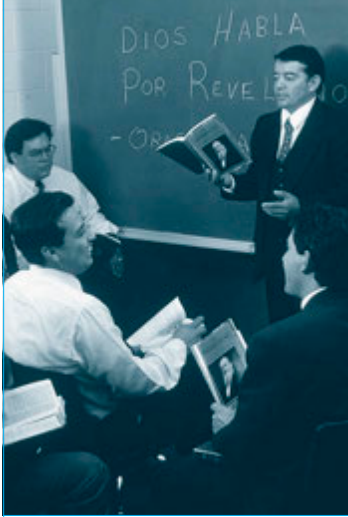
### 活動を計画するための指針と方針

活動は信仰を養い、愛のきずなを強めるものでなければならないことを忘れてはならない。あなたが若い人々に与えることのできる最も大いなる贈り物の一つは、福音を生活で応用できることを彼らに気づかせるような経験である。

活動を計画するための指針と方針については、『教会指導手引き』の「活動」の章を参照する。

## 6

## 成人を理解し、教える



あるワードの扶助協会の副会長はしばしば、正規の教師に代わって姉妹たちに代理教師を依頼しなければならない必要に迫られていた。ところが、依頼しても姉妹たちが躊躇することに彼女は少なからず驚きを感じていた。自分よりも知識が豊富で、教師としてふさわしい大勢の姉妹たちを前にして、自分が教えるのは不相当であるというのが彼女たちの躊躇する理由だった。

あなたも自分は成人に教える召しに適さないと感じたことがあるかもしれない。生徒として座っている人々の多くがあなたよりも知識が豊富であり、経験も豊かであると感じているだけでなく、生徒のレベルが様々であることに悩んでいるかもしれない。成人のクラスは、その職業、教育、教会での経験、家族として抱えているチャレンジ、聖文の知識、自信の度合い、霊的発達に関して多種多様な人々で構成されていることが多い。これらは、クラスの全員にとって楽しく、また意義のあるレッスンをどのように準備したらよいかを判断する際に、チャレンジとして立ちはだかることがある。けれどもあなたに力量不足を感じさせているこれら様々な特徴と経験を、レッスンを豊かにするために利用することができるのである。

あなたは教えを受ける人々が持つ多くの長所を使って、教師としての召しを尊んで大いなるものとすることができる。彼らの理解と経験を生かすのである。生徒が学び合うことができるようにレッスンを計画することができる。あなたがすべての答えを持っている必要はないし、あなたの提示によって生徒を魅了する必要もない。これらは福音の優れた教師の要件ではない。それよりも、謙遜であり、勤勉であり、祈りの気持ちを持ち、生徒がレッスンに貢献でき

るように配慮することが求められている。この精神で召しを果たすならば、主は、ふさわしくないと悩んでいるあなたの気持ちを主に頼る気持ちに変えてくださる。主はあなたの努力に力を加え、心に平安を与え、クラスの話し合いを豊かなものにするよう生徒を励ましてくださる。主はわたしたちが福音を研究するために集まるとき、特に豊かな靈感を与えてくださるのである。

## 成人の生徒に共通の特徴

あなたが教える成人の持つ長所や理解を活用しようとするときに、彼らの持つ共通の特徴を知っておくとよい。成人の生徒はほとんどの人が以下の特徴を持っている。

彼らは自分が愛され、尊敬され、何らかの価値あるものを提供していると感じる必要がある

愛され、尊敬されるという必要は年齢とともに消えうせるわけではない。また、意味のある貢献をしたいという欲求も衰えるものではない。これらの必要を理解していると、生徒の考えに耳を傾け、それを大切に作る姿勢があなたに生まれる。生徒が提案するあらゆる考えに敬意を払い、それらを考慮し、彼らの心からの貢献に感謝を表す。クラスのだれをも当惑させることのないように注意する。あざけりや相手を傷つけるような冗談を避ける。

彼らは御霊によって学ぶことを求めている

成人は経験という貴重な資源とともにクラスに参加している。多くの人はそれぞれの生活で真の原則が持つ力を学んできており、福音によってどれほど祝福されてきたかを証することができる。試練と喜びを経験しているため、彼らは福音を理解し、御霊の導きを受けることを心底必要としているのである。

彼らは自分の生活で福音を応用する方法について話し合うことを望んでいる

成人は自らの信仰を実践し、聖文を深く考えることによって得た個人的な理解を分かち合うことによってクラスに寄与することができる。彼らは経験を分かち合うことによって、教え合い、強め合うことができる。話し合いの中で彼らの経験を分かち合うよう勧める。クラスで学んでいる原則に

よって個人の生活と家族の生活にどのような好ましい変化が生じるかを理解させ、話し合わせる。

彼らは自主性を望んでいる

成人は福音を学ぶ責任を自ら果たすことを望んでいる。あなたは彼らとその責任を果たすのを助けられるような教授法を使うべきである（「福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助する」61-62ページ参照）。レッスンの準備として読書課題を果たしてくるよう励ます。質問をし、理解や経験を分かち合う準備をしてクラスに出席するよう勧める。

ある福音の教義クラスの教師は、クラスの最初の5分間を、生徒が1週間の個人の聖文学習で得た理解と靈感を分かち合う時間に行っている。この経験は御霊を招き、ほかの生徒たちも熱心に学ぶよう励ましを与えるものとなった。また彼らの意見は多くの場合にレッスンの効果的な導入となった。

彼らは家族としての責任に関心を持っている

成人は家族の中で直面しているチャレンジの解決方法を見だしたいと願っている。福音の原則をそれらのチャレンジにどのように応用したらよいかを学びたいと望んでおり、ほかの人の見解や経験にも関心を持っている。そのようなテーマに関する話し合いは、ともに福音を研究する者たちにとって貴重な時間となる。

ある長老定員会の教師は「家族——世界への宣言」に基づいてレッスンを教えていた。彼らは一人の定員会会員に宣言の一部を読んでもらってから、レッスンを先に進めようとしていた。すると一人の会員が手を挙げて、「質問があります」と言った。宣言から一節を引用して、彼は言った。「子供たちに『互いに愛と関心を示し合う』ことを教えるにはどうすればよいでしょうか。」この質問がきっかけとなって実りある話し合いが展開された。定員会の会員たちは原則を応用する実際的な方法を分かち合ったのである。

わたしたちは、成人たちが学んだ事柄をどのように分かち合っているか、特に彼らがそれを家族と分かち合っている

ことを知るときに、成人クラスを教える召しの重要性に気づき始める。

ある大祭司グループで、教師は伝道活動についてレッスンを教えていた。レッスンの中で、宣教師として奉仕する年配の夫婦が求められていることについて話し合いを始めた。多くの兄弟たちが若い時代に、あるいは後年妻とともに宣教師を務めていた。そして、一部の兄弟たちがそのような奉仕をする責任と祝福について証した。

大祭司グループの会員の一人は、家に帰るとその話し合いについて妻に話した。二人はこれまで家族を支えるために貢献してきたことで十分満足していた。けれども、そのレッスンの言葉と霊が二人の心の中で息づき始めたのである。それから2か月もたたないある安息日の聖餐会で、二人は18か月間の外国での伝道に旅立つに当たり、話をしたのである。心を込めて、彼は宣教師グループの教師と、自分の決断に影響を与えたそのレッスンに感謝の言葉を述べた。彼は伝道に出る決断が自分の生活と家族の生活に祝福をもたらすに違いないと語った。

### 様々な個人に働きかける

成人はその経験と能力において個人差が大きい。聖文に通じている人、質問に対して即座に答える人、質問について考える時間を必要とする人、話す内容を豊富に持っている人、発言することをためらっている人、文章を読むのに支障がある人などがいる。これらの違いを注意深く考えながら、生徒全員が参加できる学習活動を計画する。

個々の生徒を知ったうえで、彼らの必要と関心に合わせて教えるならば、幅広い構成のグループに対しても効果的に教えることができる（「生徒を理解する」33-34ページ参照）。新しい改宗者、あまり活発でない会員、ワードに転入して来て日が浅い会員、アロン神権定員会または若い女性のクラスから移って来たばかりのヤングアダルトに参加を奨励することは特に大切である。これらの会員にも自分の見解や経験があるが、彼らはそれを分かち合うことにためらっているかもしれない。



D

家庭における教え





## 家族の教え

---

光の中歩もう  
いつも祈り、従い  
正しい道歩んで  
光の道行こう

子供たちよ一緒に  
主のみ言葉学ぼう  
天へ戻れるように  
光の道行こう

「光の中進もう」『賛美歌』194番

## 両親の教える責任



ボイド・K・バックー長老は次のように述べている。「教会の教えが最終的に目指しているものは、主イエス・キリストを信じる信仰の中で、親と子とを一つに結びつけることです。それは彼らが家庭で幸福になり、永遠の結婚による結び固めを受け、世代同士を結びつけ、天父のみもとでの昇栄を確信できるようにするためです。」（『信仰の盾』『聖徒の道』1995年7月号、8）

家族は神によって定められたものである。家族は神の計画の中心を成すものである。神は家族を設けて、神の子供たちに幸福をもたらし、愛ある雰囲気の中で福音を学べるようにし、永遠の命を得られるように備えをさせておられる。家庭は福音の原則を教え、学び、実践する最も大切な場所である。

両親には、子供たちに福音を教えるという主要な責任がある（教義と聖約68：25－28参照）。大管長会ならびに十二使徒定員会は次のような宣言を發した。「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも靈的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの義務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。」（『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1998年10月号、24）

### 両親は子供たちに何を教えなければならないか

次に挙げるのは、両親が子供たちに教えるなければならない事柄をまとめたものである。子供たちに教える際に活用できるものとして、聖典、末日の預言者の言葉、教会の機関誌、そのほか教会で制作された資料がある。

#### 福音の基本的な原則

主は両親に対し、子供たちが「八歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように」彼らを教えることを命じられた（教義と聖約68：25）。あなたは、救い主の贖罪、神権

の力と救いの儀式の性質、神の幸福の計画において中心的な役割を果たす家族と永遠の結婚について子供たちに教えなければならない。

#### 祈り

主はまた、「子供たちに祈ること」を教えるように両親に命じておられる（教義と聖約68：28）。天の御父に語ること、また天の御父の導きを求めることができるのは、子供たちにとって必須のことである。あなたは子供たちに、神がいつでも助ける備えをしておられると教えることができる。あなたは子供たちに対し、彼らが朝に、夜に、また助けの必要なときに、あるいは感謝を述べたいときにいつでも、独りで祈れるように助けることができる。また、家族の祈りの大切さを教えることもできる。

#### 聖文の研究

あなたは福音を個人で研究するとき、また家族で毎日聖文を研究するとき、大きな祝福を得る。あなたは子供たちが聖文を愛し、また生活の中で神の言葉の力を認識できるようにすることができる（『言葉の力』50－51ページ参照）。また、子供たちが聖文を調べて真の原則を理解し、問題への答えを見いだせるようにすることができる。さらに、子供たちが生涯を通じて福音の学習を続けるために必要な学習の技術と習慣を身に付けるようにすることもできる（『福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助する』61－62ページ参照）。

#### 福音に従った生活

あなたは子供たちに、義にかなった方法で自らの選択の自由を行使するように、すなわち彼らのすべての行動において福音を実践するように教えなければならない。ベニヤミン王が教えているように、子供たちに「真理の道をまじめに歩むように」教えなければならない（モーサヤ4：15）。

子供たちは家庭において、安息日を聖く保ち、什分の一を納め、末日の預言者に従うことを学ばなければならない。また、「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」（信仰簡条1：13）を求めることを学ばなければならない。



### 実用的な技術

教義的な事柄を教えるほかに、金銭の管理の仕方、健康維持の方法、ほかの人と仲良くする方法、衣服や持ち物の手入れの仕方など、実用的な技術についても、あなたは子供たちに教えなければならない。彼らが熱心に働き、良い教育を受け、立派な市民になるように助けなければならない。

### 両親が子供たちを教える方法

あなたは親として、家庭の中で福音に添った生き方を確立するよう努めなければならない（「福音に添った生き方による教え」135-136ページ参照）。毎日福音に添った生き方をすることにより、家庭の中に信仰と従順の雰囲気が生まれる。あなたが子供たちを教える方法はたくさんあるが、その一部を以下に示す。

### 模範

模範は最も力強い教授法である。子供たちはあなたの行いを見て、態度や振る舞いを学ぶものである（「教えることを実践する」18-19ページ参照）。

### 定期的に家庭で教える機会

毎日の家族の祈りと聖文の研究、家庭の夕べ、家族の伝統によって、子供たちの日常生活のあらゆる面に福音が浸透するであろう（「家庭で定期的に教える機会」137-139ページ参照）。

M・ラッセル・バラード長老は次のように教えている。「天父と御子イエス・キリストに対する愛は、家庭の中で福音を教え実践するときに、大いに高まります。永遠の命の真の原則が老若を問わず人の心に植え付けられるのは、聖文を読んで話し合うときであり、朝晩祈りをささげるときであり、日常生活の中で神への敬虔な思いと従順さを示すときなのです。」（「主の食卓に着く」『聖徒の道』1996年7月号、93）

### 教える時機

最も効果的に教える機会というものは予期せぬときに訪

れることがある。したがって、日常生活の中にある、子供たちに福音の原則を教える機会によく注意を払うようにする（「家庭生活での教育の機会」140-141ページ参照）。

### 両親が子供を教え始めるのに、決して遅すぎる時期は存在しない

子供が幼いときに福音に添った生き方を確立することが大切である。L・トム・ペリー長老は次のように述べている。「大切なのは、福音を教えるのは家庭に新しい幼い霊を迎えたそのときから始まるということです。」（「子供を教えなさい」『聖徒の道』1989年2月号、76）幼い子供は家庭の夕べや聖文の研究、祈り、奉仕活動に熱心に参加するものである。

トーマス・S・モンソン管長は次のように述べている。「子供が大きくなるまで先延ばしにできると考えて、これらの責任を回避している人々がいます。しかしそれは間違いであることが証明されています。教えるために最も適した期間は非常に短いのです。」（「子供たちを教える」『聖徒の道』1998年1月号、20）

子供に福音を教え始める、あるいは教えるを再開するのに、遅すぎる時期は存在しない。しかし、子供に福音を教えるのを遅らせていたら、教えるプロセスは異なる。さらなる試練が伴うかもしれない。しかし、あなたが真の原則を教え、家族の中に義にかなった習慣を確立する努力を十分に払うならば、主は祝福してくださるであろう。新たな気持ちで親としての責任に目覚めるならば、希望を持つことである。そして子供の心に触れて良い感化を及ぼせるように、祈り、信仰を行使し、できることはすべて行う。

ロバート・D・ヘイルズ長老は次のように語っている。「子供を育てる過程で間違いを犯さない親はいません。しかしへりくだり、信仰を持ち、祈り、勉強することによって、だれでもさらによい道を学び、その過程で現在の自分の家庭を祝福し、幾世代にもわたって正しい伝統を伝えることができるのです。」（「どのように子供の心に残る親か」『聖徒の道』1994年1月号、10）

## 教師である父親



大管長会ならびに十二使徒定員会は次のように宣言している。「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号、24）これには福音を教える責任も含まれる。

教会のある成人会員が、父親から受けた福音の教えについて次のように優しい言葉を述べている。

「わたしの父は子供たちが8歳になるおよそ2か月前から毎週、その子のために時間を取るのを家族の伝統にしていました。わたしの番になったとき、父はわたしに真新しい日記帳を買ってくれました。また、わたしたちは二人きりで座って話をしました。父はわたしに、イエス様のことをどのように感じているか尋ね、それから、準備していた福音の原則について一緒に話し合いました。

2か月以上もの間、父はわたしに、簡潔ですばらしい福音について教えてくれました。二人でいたときに、わたしに一つの視覚教材を書かせました。それは、前世での経験、現世の生活、また天の御父のもとに戻って一緒に暮らすために必要な段階、すなわち、イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受けること、最後まで信仰をもって堪え忍ぶことを示すものでした。

わたしは、父がそのような時間をともにしてくれたときに感じた愛を決して忘れないでしょう。父は救いの計画のそれぞれの段階について証を述べ、わたしの質問にいつも面倒がらずに答えてくれました。父がわたしのレベルに合わせて語り、わたしに証を述べてくれたので、それが非常に力強い経験になったと思います。わたしがバプテスマを受けるときに福音についての証を

得ていた大きな理由は、この経験によるものであると信じています。」

父親たちは時々、家族のこの世的な福利に気を奪われがちになる。また、福音を教える責任をすべて母親任せにしている父親もいる。そうであってはならない。すべての父親に対して、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っている。

「皆さんには、家族の長として立つという、免れることのできない重要な責任があります。それには、独善的な支配、不正な支配という意味合いは少しもありません。家長には、家族の様々な必要を満たすという責任があります。その必要とは、衣食住の必要だけではありません。行いと言葉によって、正しく導き教えることも求められているのです。正直、高潔、奉仕、人の権利を尊重すること、また、人間同士だけでなく永遠の御父である天の神に対しても、この世における自分の行いについて責任を求められるということも教える必要があります。」（「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号、67）

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、父親が「子供に霊的な指導を与えるうえで役に立つ10の具体的な方法」を提言している。

「1. 子供に父親の祝福を与えてください。またバプテスマと確認の儀式を施してください。さらに神権への聖任も自ら行うようにしてください。これらの事柄は、子供たちの人生にとって、霊的に非常に大切な意味を持つ出来事となります。

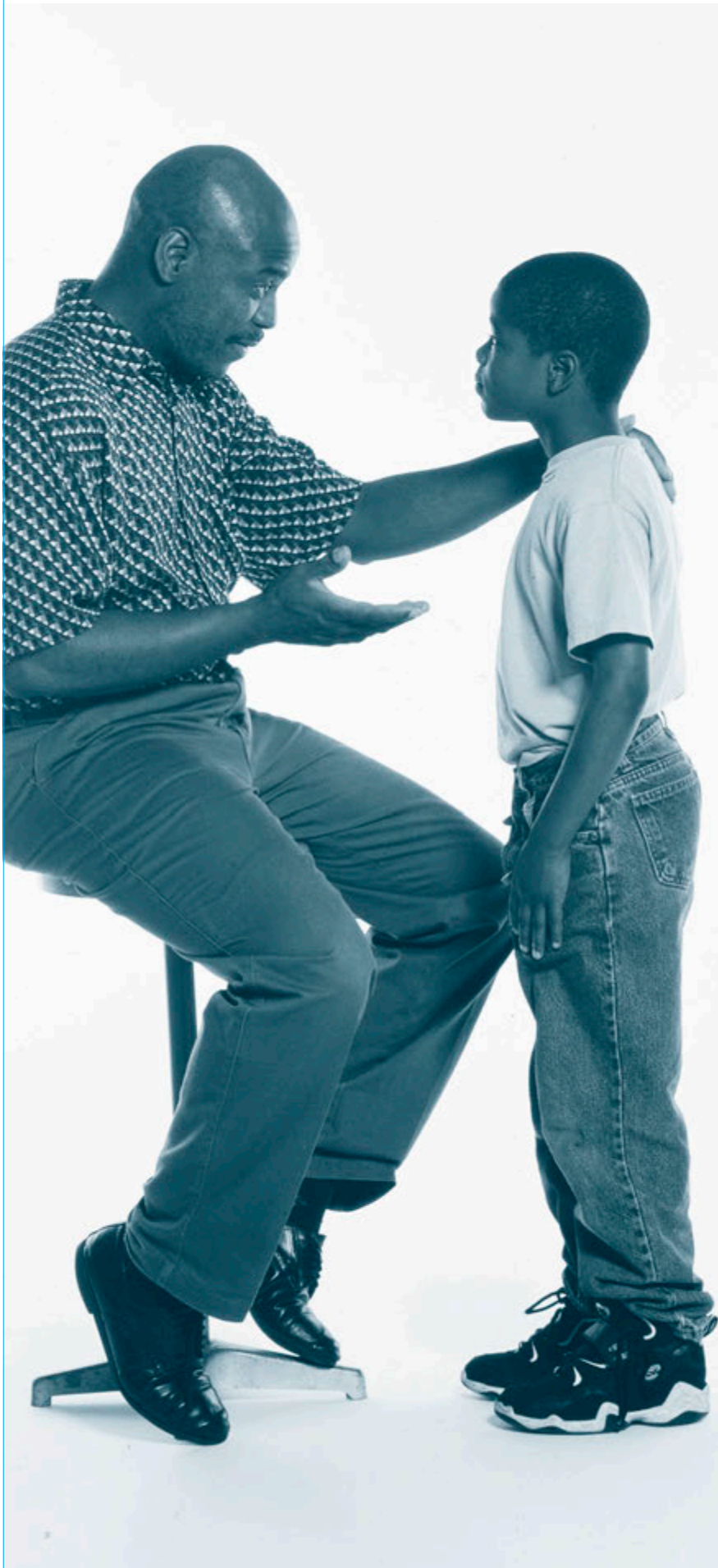
2. 家族の祈り、毎日の聖文の勉強、週に1度の家庭の夕べを、父親として自ら指導してください。皆さんが積極的に進めることにより、これらの大切さを子供たちに理解させることができます。

3. できるかぎり、家族一緒に教会の集いに集うようにしてください。父親の指導の下に家族として礼拝をささげることは、子供たちの霊的な成長に非常に大切な意味を持っています。

4. 子供の一人一人と個人的に接触する場を作ってください。また、家族全員でキャンプやピクニックに出かけたり、野球の試合や音楽会、学校のプログラムなどに行くようにしてください。父親がいると、随分大きな違いが出てきます。

5. 家族一緒に休暇を過ごしたり、旅行に出かけたりする楽しい伝統を築くように





してください。これらの楽しい思い出は、いつまでも子供たちの心の中に残ることでしょう。

6. 定期的に子供たちと一対一で話し合うようにしてください。子供たちが何を望んでいるか聞いてあげてください。そして福音の原則、正しい価値観を教え、彼らを愛していることを伝えてください。このようにして個人的に話し合う時間を取ることで、あなたが何を大切に思っているかを、子供たちに伝えることができます。

7. 子供たちに働くことを教え、価値ある目標に向けて働くことの大切さを教えてあげてください。子供たちの伝道資金や教育資金を準備することによって、父親として何を大切に考えているかを子供たちに教えることができます。

8. 家庭の中で良い音楽や芸術、文学を鑑賞するように奨励してください。教養や、美しいものに対する認識は、子供たちの生活にいつまでも消えることのない祝福をもたらします。

9. 時間が許す範囲内で、定期的に夫婦で神殿に参入するようにしてください。そうすれば子供たちも神殿結婚、神殿の聖約、家族の永遠のきずなをもっとよく理解するようになるでしょう。

10. 教会の責任を果たす楽しみと喜びを子供たちに理解させてください。親のそのような気持ちは子供たちにも伝わり、彼らも教会の中で働き、教会の中で召しを果たし、神の王国を愛するようになるでしょう。」

ベンソン大管長は次の言葉で結んでいる。「イスラエルの父親という神聖な召しを心に留めてください。それはこの世においても来世においても、最も大切な召しです。皆さんは決してその召しから解任されることはありません。」（「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年1月号、55）

あなたは父親として、あなたの役割が永遠に重要であることをいつも心に留めておかなければならない。父親の務めは神聖な責任である。ボイド・K・パッカー長老は次のように述べている。「至高なる神に与えられる尊敬と誉れと賛美の全称号を意味する呼び名として、簡単な父という言葉が選ばれたことには、大きな意味があるはずです。」（「なぜ清くあるべきか」『聖徒の道』1973年1月号、16）



## 教師としての母親



大管長会ならびに十二使徒定員会は次のように述べている。「母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。」（『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1998年10月号、24）

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、自分の愛情深い母親を思い出して次のように語っている。

「わたしの家は農家でしたが、アイダホ州のホイットニーにいた子供のころ、外から帰って来て家に近づくと、『今日われ善きことせしか』（『賛美歌』137番）と母の歌声が聞こえてきました。

あのときのことは、まぶたの裏にはっきりと焼きついています。母は額に玉の汗を浮かべながら、床にきれいな紙を敷き、その上から、アイロン台にかがみ込むようにして細長い白布にアイロンを当てていました。何をしているのか聞くと、『ああ、坊や、これは神殿衣よ。父さんと母さんはローガンの神殿に行くのよ』と言いました。

母はそれから旧式のアイロンをストーブの上に置くと、わたしのそばに自分のいすを近づけて、神殿のことを話し、神殿に入る資格を得、そこで行われる神聖な儀式にあずかることがどれほど大切かを教えてくれました。そして、母はいつか自分の孫、ひ孫たちがこのすばらしい祝福にあずかれるよう心から願っていることも話してくれました。」（『神殿について子供たちに教える』『聖徒の道』1986年4月号、2）

母親が子供に福音を教えることの重要性について、ベンソン大管長はこう述べている。「母親の皆さん、皆さんは自分の子供にとって最高の教師です。……あなたの家庭で、自分たちだけのファイヤサイドで子供たちに福音を教えてください。これは子供にとって最も効果的な教育を受ける機会

なのです。これが主の御心になかった教授法です。教会は母親であるあなたのように教えることはできません。学校も不可能です。幼稚園や保育所もできません。けれどもあなたにはできます。主はあなたを支えてくださいます。子供たちはあなたの教えを永遠に忘れないでしょう。そして彼らは成長したときに、その教えから離れることがないでしょう。彼らはあなたを祝福された者と呼ぶことでしょう。あなたは真に天使のような母親なのです。」（*To the Mothers in Zion* [パンフレット、1987年]、10-11）

あなたは母親として、多くの方法で教えている。教える機会を持つように計画することも時にはあるが、普段の家庭生活の中で教える機会が生じることの方が多いものである（『家庭生活での教育の機会』140-141ページ参照）。模範によって教えるときもあれば、訓戒によって教えるときもある。家庭において福音に添った生き方を確立することによって教えるときもあれば、注意を払い愛を示すために時間を取るだけのときもある。ベンソン大管長は、子供たちを教えるのに役立つ10の提案を挙げている。どの提案でも、時間を取ることが強調されている。

「子供が大切な決断を下すときに正しい選択を行えるように、子供が6歳であろうと16歳であろうと一緒に過ごす時間を取ってください。

……子供のほんとうの友達になるための時間を取ってください。

……子供に本を読んであげる時間を取ってください。

……子供と一緒に祈る時間を取ってください。

……有意義な家庭の夕べを開く時間を毎週取ってください。……これを家族の偉大な伝統の一つとしてください。

……食事のときには極力一緒に過ごすようにしてください。

……家族全員で聖文を読む時間を毎日取ってください。

……家族で何かを一緒に行う時間を取ってください。

……子供に教える時間を取ってください。教える機会をとらえ、活用してください。

……子供を心から愛するための時間を取



ってください。母親の無条件の愛はキリストの愛に近いのです。」(To the Mothers in Zion, 8-12)

母親の務めという責任に圧倒されるように感じるかもしれない。しかし、主はわたしたちに、完全さを期待しておられない。すなわち家庭を築くうえでの非現実的な理想に到達することは期待しておられないということを心に留めておくことが大切である。主が母親たちに期待しておられるのは、母親の神聖な役割を認識して尊び、へりくだって最善を尽くすことである。

ジェフリー・R・ホランド長老は、教会の母親たちに次のように述べている。「皆さんには全人類の母であるエバから受け継いだ立派な伝統があります。……皆さんはサラ、リベカ、ラケルの伝統も受け継いでいます。彼女たちがいなければ、わたしたちすべての祝福はなかったでしょう。皆さんにはロイスやユニケ、2,000人の若い兵士の母親の伝統もあります。創世の前から選ばれ予任されて、神の御子を身ごもり、育て、産んだマリヤの伝統もあります。わたしたちは自らの母親も含め皆さんに感謝し、こう申し上げ

ます。神の業と栄光に直接携わること、すなわち高い所にある日の栄えの領域で不死不滅と永遠の命を受けられるように、神の息子、娘たちを死すべき状態に置いて彼らに地上の命を与える業に携わること、これ以上に大切なものはこの世にほかにありません。」(「彼女は母親だからさ」『聖徒の道』1997年7月号, 41-42)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、母親に与えられた大いなる祝福について次のように述べている。

「母親の皆さんにぜひ理解していただきたいことがあります。全能の神から賜物として与えられた子供に勝る大きな祝福はありません。子供を光と真理、理解と愛のうちに育てていくことは、母親に与えられた最も大切な使命です。

すべての母親に申し上げます。皆さんの召しは神聖なものです。皆さんの代わりを務められる人はだれもいません。自分がこの世に生を与えた子供を、愛と安らぎと誠実さをもって育てることほど大きな責任と義務はありません。」(「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号, 67)



4

## 両親は パートナーとして教える



大管長会ならびに十二使徒定員会は、「家族——世界への宣言」の中で、父親と母親は「対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号、24）と説いている。両親が子供たちを教えるという神聖な責任を果たすに当たっては、このパートナーとして働くことが特に必要である。

ボイド・K・バックャー長老は、総大会の話の中で教義と聖約27：15、17を読み上げた。「あなたがたの心を高めて喜び、また腰に帯を締めなさい。災いの日に耐えられるように……わたしの武具を身に着けなさい。……悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことのできる信仰の盾を取り」なさい。バックャー長老は、この聖句を読んだ後、母親と父親が力を合わせて子供たちが「信仰の盾」を取れるように助けることの重要性を説いている。

「信仰の盾は工場ではなく、家庭で生産されるからです。……

……天父の計画によれば、命それ自体の創造と同じように、家族の一人一人に合った信仰の盾を作る必要があるのです。どの盾も同じものは一つとしてありません。どれも個人の規格に合った手作りでなければならないのです。

御父の考案された計画では、男性と女性、夫と妻と一緒に働き、悪魔の火矢をはね返し、奪い取られることのないがっしりとした信仰の盾を、子供たち一人一人に合わせて備えてやる必要があります。

それには、盾の材料であるあらがねを打ち出す父親の着実な力と、それに磨きをかけ、一人一人の規格に合わせる母親の優しい手が必要です。時には親が一人でそれを

しなければならぬ場合もあります。難しい務めですが、それは可能です。

教会では、信仰の盾を作る幾つかの材料について教えることができます。敬虔さ、勇気、純潔、悔い改め、赦し、愛に満ちた思いやりなどがそれです。それらを組み合わせ、個人個人の規格にどのように合わせるができるかについても教会で学べます。しかし実際に信仰の盾を作り、それを個人に合うようにする作業は家庭の中で行う必要があります。そうでなければ、危機が襲ってきたときに盾は緩んで、外れてしまうかもしれません。」（「信仰の盾」『聖徒の道』1995年7月号、8）

次の提案は、両親がもっと効果的な教えを施すパートナーとなるのに役立つものである。

### 時間を取って一緒に計画する

あなたは親として、子供たちが必要としている事柄について話し合い、その必要を満たす方法を計画するために特別に時間を取らなければならない。ある多忙な両親は、週に1度の計画会を持つことが親として行う最も価値ある事柄の一つになったと語っている。

「週に1度の計画会を持つのを習慣とするのに、1年ほどかかりました。今はそれなしにはやっていけないと思います。計画会は相手が行っている事柄に関心を払う大きな助けになっています。また自分たちが互いにとって、また子供たちにとって、どれほど大切な存在であるかを知る助けにもなります。計画会によって自分自身や子供たちを見詰める時間が与えられ、さらに自分たちの問題の対応策を決める時間も得られます。わたしたちはまた、二人のデートや子供たちと過ごす特別な時間、家庭の夕べの具体的な内容、日曜日に行う事柄も計画します。計画会は普通30分ぐらいですが、大きな行事や特別な問題があってもっと話し合う必要があれば、さらに長い時間をかけます。」

子供たちへの教え方を計画するときは、祈りの気持ちで次の問いについて考えるとよい。

- わたしたちの教えによって、子供たちの生活にどのようなことが起こるはずか。
- このことを達成するために、具体的に福





音のどの原則を教えるとよいか。

■ これらの原則をどのように教えるか。

これらの質問を活用するための提案は、「レッスンの準備」98-99ページ、「大会説教やその他の資料からレッスンを構築する」100-101ページに出ている。

**子供たちを教える際の一致の重要性**

父親と母親が時間を取って相談するとき、もっと一致して子供たちを教えることができる。普段の家庭生活の中で予期せず訪れる子供たちを教える機会にも一致が見られる。このような一致は重要である。なぜなら、自分が愛し尊敬している二人から相反する教えを受けることほど子供たちを混乱させるものはないからである。

次に紹介するのは、ある夫婦が息子のことで経験した話である。

6歳のマイクは、夏の間のほとんどを、家や近所の人々のために特別な仕事をして一生懸命に働いていた。家族が夏の休暇を取るときに使うお金をためるためであった。長い旅になる予定で、彼の母親は、もし彼が途中で何かおやつやお土産が欲しければ自分で買わなければならないと言った。母親が毎日のように彼に、お金を安全な所にしまっておくよう忠告しても、マイクはお金がポケットの中にあるという感覚が好きであった。そして、彼はいつもお金を持ち歩いた。彼は一日に何度も、それを取り出して、数えたり友達に見せたりしていた。

ところが、旅行の前日、マイクはポケットからお金がなくなっているのに気づいた。彼は悲しんで、泣きながら母親のもとへ行った。母親は同情して、マイクが思いつく場所をすべて見て回るのを手伝った。しかし、お金は見つからなかった。「お金がなくなっかわいそうに」と、彼女は言った。彼女は、何度も彼に注意を与えてき

たことを言おうとしたが、言うのをやめた。同時に、彼を慰めようとする誘惑にも耐えた。結局彼女は、何度も注意を与えたにもかかわらず彼が毎日お金で遊んでいた報いだと思った。

絶望した小さなマイクは、父親が帰宅したとき、表の階段に腰を下ろしていた。マイクの父親は、悲しい話を聞いた後で、ポケットに手を入れ、マイクがなくなると同じ額のお金を取り出して彼に渡した。父親は妻の驚いた顔を見て言った。「少しのお金だ。いいだろう。」

この話を考えるとき、どちらの親が正しかったかと考えがちである。しかし、それは最良の質問ではない。マイクの両親はその状況に一致して対応するにはどうすればよかったかを問う方がよい。両親は互いに相談して、マイクに必要なことを考えることができたはずである。

彼らは次のように自問することができたであろう。「この状況の結果として、我々はマイクの生活にどのようなことが起こってほしいか。マイクはもっと大切な責任を学ぶ必要はないだろうか。マイクはもっと両親の思いやりと理解を感じる必要はないだろうか。マイクは友達に見せびらかしてはならないことを学ぶ必要はないだろうか。家族の決まりの大切さを学ぶ必要はないだろうか。」これは息子に何を教え、どのように教えるかを決める助けになるであろう。

マイクの両親は、時間をかけてこの状況に一致して対処していたならば、マイクの失ったお金を補ったか、あるいはそうしなかったか、いずれにしても良い方法を見つけることができたであろう。しかし実際は、相反する教えを与えてしまったのである。

両親は親として力を合わせるとき、一つになって、子供たちにイエス・キリストの福音を教えることができるのである。

## 福音に添った生き方による教え



主がわたしたちを教えてくださいの方法の一つは、わたしたちが正しい、礼拝の念に満ちた生き方を確立するように導くことである。主はわたしたちに、個人としても家族としても、毎日祈り、聖文を読むように命じておられる。また、毎週教会に出席して聖餐を受け、できるだけ頻繁に神殿に参入し、毎月断食して断食献金を納めるように命じておられる。この生き方は、わたしたちに主の弟子として歩む道を示すものである。

子供たちはごく幼いころから家族とともに行動し、主が定められた礼拝と奉仕、勉強、勤労の規範に繰り返し従うとき、救い主の弟子として生活することを学ぶ。家族がこれらの規範に従った生活をしなければ、両親が教える福音の教えの効果は薄れてしまう。両親の生き方が彼らの語った言葉に一致していないと、子供たちは概して、両親の言葉よりも行動の方に従うようになるものである。しかし、両親がしばしば救い主のことを話し、救い主の方法を家族の生き方として確立するならば、エノスが彼の父親から教えを受けたように、彼らは「主の薫陶と訓戒によって」（エノス1：1）子供たちを教えることになる。

ブリガム・ヤング大管長は次のように述べている。「あらゆる国家、地域社会、家族には特有の伝統があり、子供たちはその伝統に基づいて訓練を受けます。キリストの律法をこの民の伝統とするならば、子供たちは日の栄えの王国の律法に基づいて育てられることになります。……すると子供たちは先祖の伝統の下で、善を行い、悪を退けるようになることでしょう。」（*Journal of Discourses*, 第3巻, 327）

わたしたちが家庭の中に福音に添った生き方を確立するとき、子供たちは「日の栄

えの王国の律法に基づいて育てられる」ことになる。

### 弟子としての生き方を確立するために行える具体的な事柄

わたしたちには福音に添った生き方を自ら選択し、そのような生き方をはぐくむ責務がある。例えば、わたしたちは、子供たちが精神を高揚させ啓発するのに助けとなる芸術や音楽、文学を選ぶことができる。わたしたちは教会や地域社会で一緒に奉仕することができる。慎み深い衣服を選び、子供たちにも同じような選びをさせることができる。わたしたちは一緒に聖文を研究し、家庭の夕べを行うことができる。わたしたちはまた、安息日に対する敬虔な態度を培い、子供たちが安息日を聖日とするように彼らに感化を与えることができる。

義にかなった生き方を確立する最も力強い方法の一つは、家族の伝統を作り、それを保つことである。子供たちは生活の中で何が起ころうと、家庭内の事柄はいつも同じであると知ることによって安心感を持つものである。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように助言している。「家庭を永遠に一つにするようなすばらしい伝統を何か作っていきましょう。そうすることによって、わたしたちはこの地上の家庭の中に小さな天国を作ることができます。結局、永遠とは義にかなった家庭生活の延長なのです。」（「教会の高齢の方々へ」『聖徒の道』1990年1月号, 5）

家族の伝統の多くは福音を中心としたものにすることができる。例えば、子供が8歳の誕生日を迎えると新しいモルモン書をプレゼントする家庭がある。また、救い主の降誕にまつわる出来事を演じてクリスマスを祝う家庭もある。新学年の始めに子供

たち一人一人に父親が神権の祝福を授ける家庭もある。またある家族は年に1度家族の親睦会を行ったり、あるいは休日ごとに集まったり、子供の祝福のために集まったりする。将来を見越したこのすばらしい伝統は家族と個人を強め、彼らは自分たちが慣れ親しんでいること、ならびに神聖なことを繰り返すことに喜びを感じるようになるのである。数々の伝統はキリストの弟子としての生き方を家族に思い出させ、またしばしば福音の原則を教える機会を与える。

### 家庭内の望ましくない生き方を変える

わたしたちは家庭内の望ましくない生き方を変えることができる。教会にあまり活発でない家族で育ったのであれば、自分自身の生活におけるその生き方を変えて、教会の集いに定期的に出席するよう努めることができる。教会の指導者を批判してきたのであれば、あるいは両親がそうするのを耳にしてきたのであれば、今後、言葉と行いによって指導者を支持するように努めることができる。わたしたちの生き方をこのように変えると、子供たちにより良い模範を示すことになる。

教会のある会員は、次のように語っている。

「わたしの夫ロジャーは、福音に添った生き方とは無縁な家庭で育ちました。彼の父親はアルコール中毒で、家族はそれに悩まされていました。母親は教会に活発であろうと努めていました。しかし、父親は、日曜日に家族でほかのことをしたりしました。ロジャーは10代のとき、友人たちと活発に交流するようになりました。そして彼は、福音について自分自身の証を得て、結婚したら自分の家庭で行いたい事柄を特別なルーズリーフのノートに書き始めました。当時、彼は17歳くらいでした。子供たちとともに行いたい事柄、奥さんに望む事柄、家庭をどのようにしたいか、どのような仕事に備えるか、これらの事柄についてノートに各1章ずつ設けました。彼はそこにアイデアをすべて書きました。また、彼が見つけた有益な記事も入れました。自分が育った家庭の良くない点から得た教訓も幾つか書き

ました。自分自身の家庭にはあってほしくない事柄をそこから学んだのです。彼の父親は彼が教会の活動に参加するのを反対したため、彼は家を出ることが必要になりました。そして、宗教を尊ぶ家族とともに生活しました。彼らは教会員ではありませんでしたが、立派な人々でした。ロジャーはその家族からも自分の将来の家族についてのアイデアを得ました。彼はそのように若いときに、問題の多い過去からもっと祝福された将来に、世代を変える者になりたいと思ったのです。

わたしたちが婚約したとき、彼はわたしにそのノートを見せてくれました。そして、わたしたちはそれらのアイデアについて話し合い、またそれを発展させて、わたしたちが目指す家庭の在り方について理想を分かち合いました。わたしたちが取り組んだ最初の事柄は祈りであったと記憶しています。わたしたちは、子供たちがまだ小さいときから祈ることを教えました。そのため、祈りは子供たちが無視することのできない、心に深くしみ込んだ習慣となりました。わたしたちは什分の一を決して問題とはとらえないようにしようと決心しました。わたしたちは忠実に家庭の夕べを行いました。また、毎朝聖文を研究する伝統も築きました。最初、わたしたちは毎回、ある程度の節を読むように一生懸命に頑張りました。しかしその後、読書スケジュールを厳密に守るよりも、子供たちが質問するときそれについて話し合うことの方がもっと大切であると気づきました。ここ数年間、わたしたちは開会の祈りのすぐ後に、賛美歌を全節歌うようにしています。これはわたしたちの目を覚まさせ、良い雰囲気をもたらします。以上は、わたしたちが築いてきた伝統のほんの一部です。

夫がそのように若く、また良い模範のない中で、自分の家庭には義にかなった伝統を築こうと決心したことに、わたしは驚いています。また、彼がわたしたちの家族にその伝統とともに教え、そのほとんどすべてを信仰の土台に立って行おうと決心したことに、わたしは驚くと同時に、感謝しています。」



## 家庭で定期的に教える機会



あなたは親として、家庭で定期的に福音を教える機会を持つようにしなければならない。そのような機会を持つと、子供たちは一貫して福音の教えを受け入れ、それが彼らの生活に生かされ、生活の基盤となる。福音を信じるとは生活のあらゆる面で福音による導きを得ることであるということを、彼らはあなたの行いから学ぶであろう。

次のアイデアは、あなたが子供たちに定期的に福音を教える機会を持つ助けとなるであろう。

### 家族の祈り

救い主は次のように命じられた。「あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい。」(3ニーファイ18：21)

家族の祈りは、祈る方法を子供たちに教えるすばらしい機会である。子供たちは天の御父と心から語り合っているあなたの姿を見るときに、あなたの祈りと義にかなった望みを知るようになる。そして、子供たちは「すべての行いについて主と相談」するようになり、主は彼らの「ためになる指示を与えてくださる。」(アルマ37：37)

天の御父に祈るときには、敬語を使うようにしなければならない。その模範によって、子供たちは天の御父に愛と敬意を表す祈りの言葉を学ぶようになるであろう。

子供たちは親兄弟の祈りを聞くときに、福音について多くを学ぶことができる。ほかの人々が赦しを求めるのを聞いて、子供たちは悔い改めの必要性を学ぶ。ほかの人々が祝福について天の御父に感謝を述べるとき、子供たちは感謝について学ぶ。両親がいつも導きを求めるのを見て、子供たちは信仰と謙遜と従順を学ぶ。家族の人々

が毎日教会の指導者のために祈るとき、子供たちは教会の指導者を敬い尊ぶことを学ぶ。子供たちが伝道や神殿に伴う祝福を受けるふさわしさを保てるような選択をするよう両親が天の御父に助けを求めるとき、子供たちは伝道に出ること、また神殿の祝福を受けることを望むようになる。

子供たちは、家族がほかの人々のために祈るのを聞くとき、ほかの人々を愛し、関心を払うことを学ぶ。また子供たちは、家族が互いのために祈るのを聞くとき、心の中に深い愛の気持ちを感じる。

家族の一人一人に、祈りによって家族への導きを求める機会を与えなければならない。周囲の助けがあれば、幼い子供たちにもその機会を与えることができる。

### 家族の聖文研究

毎日聖文を学ぶことは、子供たちに福音を教えるもう一つの効果的な方法である。できれば、毎日決まった時間に家族で一緒に読むようにすべきである。早朝に行いやすい家族もあれば、就寝前に家族の聖文研究を行うのが最も良い家族もある。時には、家族を参加させるのが難しいことがあるかもしれない。しかし、神の言葉を学ぶように絶えず努力することは、子供たちの人生に祝福をもたらすであろう。そして子供たちは、ニーファイの次の教えが真実であることを学ぶであろう。「わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」(2ニーファイ32：3)

子供たちは、家族と一緒に聖文を読むとき、神聖な福音の真理を大切に思うようになる。また、聖文の言葉に親しみを覚えるようになる。子供たちは聖典中の話を知り、



家庭は福音を学ぶ最も重要な場である。したがって、そこは家族が教会の集会やクラスや活動で学んだ真理を分かち合い、話し合うのにふさわしい。あなたは家庭において親として、子供たちの福音の学習に心配りをする事ができ、また彼らを教える最も大きな責任を負っている者として立派に役割を果たすことができる。

ほとんどの場合、家庭で定期的に教える時間は、教会で学んだ事柄を子供たちに尋ねるのに良い機会である。物語や具体的な事柄など、できるだけ多くのことを思い出すように子供たちを促す質問をするとよい。学んだことについて話すように家族全員を促すために、できる限りのことを行う（「話し合いを展開する」63-65ページ参照）。

神聖な言葉を日々の生活に取り入れる方法を知るようになる。また子供たちは、聖典の中の地図や聖句ガイドなどの学習資料の使い方も学ぶことができる（56-58ページ参照）。

毎日、一定の時間を決めて読むようにするとよい。文字を読める全員に読む機会を与えるとよい。一度に1節あるいは数節ずつ順番に読ませることができる。文字を読めない子供たちには、ほかの人が読んだ節を復唱させるとよい。可能であれば、幼い子供たちに聖典の絵物語や『福音の視覚資料セット』の絵を見せるとよい。

家族が聖句を理解できるようにするために、難しい節については易しい言葉で言い換えるか、聞き慣れない言葉については聖句ガイドを参照することができる。その日に読んだ聖句の要点を家族に言うこともできる。幼い子供には、読んだ話の絵を持たせることができる。

あなたが読んでいる間、子供に、聖典のその話に似た状況をその子供の生活の中から考えさせてもよい。例えば、次のように言うことができる。「今、ダビデとゴリアテの話を読んだでしょう。あなたの生活の中にどんな『ゴリアテ』があると思う？そのような問題を解決するために、ダビデから何を学べるだろう。」あるいは、次のように言うこともできる。「あなたは妹の部屋の片付けを手伝ったわね。あなたは、イエス様がこの話の中でおっしゃった愛と同じような愛を示したことに気づいているかしら。」

あなたが聖文に慣れ親しんでいない、あるいは読むのが難しい場合、子供たちと一緒に読むのに不安を感じるかもしれない。あるいは、そうするのはふさわしくないと感じるかもしれない。あなたも聖典の読み方を学んでいるところであるということ、子供たちに知らせても何の支障も来さない。あなたの自信がつくまで家族の聖文学習を先延ばしすると、子供たちが非常に必要としている霊的な養いを彼らから奪ってしまうことになる。あなたの経験にかかわらず、御霊はあなたに影響を及ぼせることを心に留める。

### 家庭の夕べ

家庭の夕べは、子供たちが福音の原則を理解し実践するのを助ける最もすばらしい

機会を与えてくれる。家庭の夕べに、家族の祈り、福音のレッスン、賛美歌や初等協会の歌、家族の活動を組み込むことができる。

家庭の夕べの計画に当たっては、家族の現在の必要、心配事、関心事を考慮する。例えば、バプテスマや神権の職への聖任に備える必要のある子供はいないだろうか。家庭の中に言い争いはなかったか。家族の必要や試練について祈りの気持ちで考慮するとき、どの福音の原則を教えることが必要か、適切に判断することができる。

本書で紹介されている効果的な教授の原則は、家庭の夕べを計画するうえで助けとすることができる。ほかに、教会では『家庭の夕べアイデア集』が発行されている。『家庭の夕べアイデア集』には、家庭の夕べを良いものとするためのレッスンとアイデアが掲載されている。教会機関誌も有益な資料とすることができる。

時には、家庭の夕べを定期的に行うのが難しいと思われる場合もある。子供たちが協力しない場合や、両親が忙しすぎると思うこともある。しかし、家庭の夕べを計画し実施する努力を払うならば、家族全員に祝福がもたらされるであろう。ある人は自分の育った家庭ではたった2度しか家庭の夕べを行わなかったと語った。しかし、それらの経験は彼にとって印象深いもので、彼は結婚してからもそのときのこととそこで学んだ福音の原則を忘れていなかった。そうして、彼と妻は自分たちの家庭で毎週家庭の夕べを行うようになったのである。

### 家族の食事時間

家族の食事時間は、貴重な教訓を与え、また家族を話し合いに参加させる良い機会となる。多忙なスケジュールの中で、食事時間は、子供たちとともに集まって毎日の出来事を話し合い、互いの考えを分かち合う唯一の時間ということもしばしばある。あなたはこれらの機会を使って、福音の原則や、家族にとって大切な事柄、聖餐会やその他の教会の集会で聞いた話、学校のこと、これからの活動、世界の出来事、そのほか興味深い事柄について子供たちと語り合うことができる。そして子供たちの心配事や考え、気持ちをj知る時間にする事ができる。

家族の食事時間は、全員が話に参加でき





る、くつろいだ楽しい時間になければならない。できれば、この時間には気を散らすほかの事柄に妨げられないようにする。この機会を、家族の一致と霊的な成長に役立てることができる。

### 家族会議

家族会議には家族全員を集めるようにする。家族会議を、目標を定め、問題を解決し、家計について話し合い、計画を練り、助けと力を与える時間とすることができる。家庭の夕べやその他と関連づけて家族会議を開くことができる。あなたは家族会議を司会するとき、子供たちに、互いの気持ちや意見に耳を傾け、尊ぶ方法を教えることができる。

### 個人的な語り

子供たちと定期的に話をすると、親子の関係が緊密になる。子供たち一人一人に愛を示し、励ましを与え、福音の原則を教える時間を取るよう計画すべきである。子供たち一人一人に、自分にとって重要な問題や経験について話す時間を与えるようにすべきである。子供たちの心配事や考えに関心を示すときに、彼らはあなたを信頼し、あなたの助言を求めるようになる。そうするときに、あなたは正しい決心をし、祈り、聖文を研究して質問に対する答えを見いだすように子供たちに教えることができるのである。

聖文を用いて、子供たちに、義にかなった方法で選択の自由を行使するように教えるとよい。日曜日に行ってはならないことが様々あるのはなぜか、という疑問を持っている子供を助けるために、親はどのように聖典を活用できるかについて、ジーン・R・クック長老は語っている。

「あなたはこのように言いたいと思う誘惑に駆られるかもしれませんが、『わたしがそう言っておいたはずですよ。』あるいは『教会ではそう言われているでしょう。』けれども靈感を受けている親ならばこのように言うでしょう。『主の日を聖く過ごすことはわたしたちが決めたことではないでしょう。説明してみようか。』そして、あなたは教義と聖約59章を開いて、〔9節から11節までを〕読みます。それからこのように説明することができます。『ここに書かれているように、日曜日は聖なる日だと主は教えておられるね。……働きを休んで、「いと高き方に礼拝をささげる」日だね。つまり、教会の集会に出席して、聖餐を受け、教会の義務を果たし、病人や貧しい人、乏しい人を訪問する日だね。主に聖別された日なんだよ。これが真実であって、わたしたちが安息日を守るなら、主が豊かに祝福してくださいることを証するよ。』」(Raising Up a Family to the Lord [1993年], 19-20)

子供たちと個人的に語り合う際に行える事柄については、「面接時の教え」153ページを参照するとよい。



7

## 家庭生活での教育の機会



あなたが親として教える機会の多くは、会話をしているときや、子供たちと一緒に働いているとき、また家族が同じ問題に直面しているときなど、予期せぬ瞬間に訪れるものである。これらの機会は、子供たちが経験している事柄と密接な関係があるため、教える時機としては有効である。このような機会は、訪れるとすぐに去ってしまうので、あなたはその好機を認識し、子供たちに学ぶ準備のできている原則を教える備えをしておく必要がある。次の提案は、教える機会を探す助けとなるであろう。

### 子供たちの質問や心配事に対処する

子供たちは皆、自分自身や世の人々のことに関心がある。あなたは子供たちに、福音は彼らの問題を理解し解決する導きと答えを提供していることを示すことができる。子供が嵐を怖がったら、慰めを祈り求めるように励ます機会となる。10代の息子が不適切な映画を見るように誘われるときは、その子供とその件について話し合い、それを見るか否かを決めるときに福音の原則を実践できるようにすることができる。子供たちが何か重大な決定を下すので悩んでいれば、一緒にモロナイ7：15-19を読み、「その判断の方法」に関するモロナイの勧告について話し合うことができる。家族の一人が亡くなった場合、子供たちに霊界と復活について教えることができる。

子供たちに助言する方法については、「家庭で定期的に教える機会」の中の139ページにある提案を参照するとよい。

### 子供たちと同年代の人々に影響を及ぼしている問題について話し合う

時折、子供たちが同年代の人々に影響を及ぼしている問題について話すことがあ

る。子供たちの友人が日曜日に働かなければならない仕事をしているかもしれない。専任宣教師として伝道に行く決心をしていない教会の青少年を知っているかもしれない。良くない言葉を使う友人や、ほかの人々への敬意を欠いている友人がいるかもしれない。子供たちとこれらの事柄について話し合うとき、聖典を用いて福音の原則を教えることができる。これは同じような状況の下で子供たちが正しい決心をするように導く助けになる。

### 正しい選択をする機会を分かち合う

あなたが正しい選択をする機会があるときに、子供たちとその経験を分かち合うとよいことがある。例えば、買い物に行って釣り銭を余分にもらったとき、どうすればよいか子供たちに尋ねることができる。こうすることで、正直、選択の自由、自分の行いのもたらす結果などの主題について話し合うことができる。

### メディアを通じて与えられた考え方について話し合う

映画やテレビ番組、音楽によって奨励されている考え方について子供たちと話し合うことができる。ニュース番組も現代の出来事や問題について話し合う機会となる。このような話し合いは、正しい娯楽と、福音の標準に反する考え方や行いを伝える娯楽を子供たちに区別させる助けとなる。

### 子供たちに過ちから学ばせる

過ちを教える機会とすることができる。子供が間違いを犯しても、その子を赦し、わびることについて話し、何かを壊した場合は修理させることができる。また、子供が戒めに従わなかった場合、悔い改めの方法について教える。

あなたが間違っていたならば、わびて、赦しを求めなければならない。あなたが自分自身の弱さを克服しようと努力しているのを見て、子供たちは大切な教えを学ぶことができる。ある教会員の語った次の経験について考えてみるとよい。

「わたしは10歳くらいのとき、あることをして父を怒らせてしまいました。父はとても腹を立て、わたしを罰することにしました。わたしは深く傷つきました。わたしは自分が考えていた以上の懲らしめを父か



ら受けたと感じたからです。わたしはその日の残りの時間、父を避けました。父から声をかけられる度に、顔を背けて走り去りました。翌日も、わたしは父に腹を立てていました。ですから、父がわたしの部屋に入って来て、厳しく懲らしめすぎて悪かったと言ったときに、わたしは驚きました。父はわたしに赦してほしいと言いました。そのときわたしは、人が赦しを求め、過ちを認めるのに年齢は関係がないということを学んだのです。これは悔い改めの真の価値を学ぶ機会となりました。」

### 奉仕を行う理由を説明する

教会の召しやそのほかで奉仕するとき、子供たちに、あなたが何を行っており、またなぜそれを行っているかを話すことができる。このことは、自分の信念と価値観が自分の行動にどれほど影響を及ぼすかを子供たちに十分理解させるのに役立つであろう。あなたが病気の人のために夕食を作るのであれば、その人を助けることが大切なのはなぜかを説明することができる。あなたが教会でレッスンを教える準備をしているのを子供たちが見るとき、あなたは召しを尊んで大いなるものとするものの大切さについて子供たちと話すことができる。教会の指導者を支持するためになぜ挙手をするのか、また主から召された人々をどのように支えればよいかについても、子供たちと話し合うことができる。

### 子供たちが感情を抑えるのを助ける

子供たちは腹を立て、いらだち、怒るとき、不適切な振る舞いをするかもしれない。そのとき、あなたは、ほかの人を傷つけたり声を荒げたりする衝動に気づいてそれを抑えるように、子供たちに教えることができる。あなたはその怒りの原因となった状

況に注意を払い、将来同様の状況になったときに対処する、より良い方法について話し合うことができる。

### 子供たちが御霊の影響力を認識できるように助ける

あなたは子供たちが自分の気持ちに注意を払って御霊の影響力を認識できるように助けることができる。ロバート・D・ヘイルズ長老は、次のような経験を述べている。

「わたしがバプテスマと確認の儀式を受けた後、母がそばに来て『どんな気持ち?』と聞きました。わたしは、何とか言葉を見つけて、その平安に満ちた穏やかで、幸せで、温かい感じを伝えました。すると母は、それは今受けたばかりの聖霊の賜物で、もしふさわしく生活すれば、その賜物が常にわたしとともにあることを説明してくれました。そのとき受けた教えは、生涯にわたってわたしの心に刻まれています。」(「家族を強めること——わたしたちに託された神聖な義務」『リアホナ』1999年7月号、39)

### 自然から教訓を学ぶ

あなたは毎日自然を観察し、子供たちに福音を教えることができる(「あらゆる場所で教えるヒントを見つける」22-23ページ、「比較と実物を用いたレッスン」163-164ページ参照)。例えば、子供が春の花は美しいと言ったときに、あなたはイエス・キリストの復活に話を向けることができる。また、一緒に種を植えるときは、アルマはどのように神の言葉を種になぞらえたかを話し合う絶好のときである(アルマ32:28-43参照)。

あなたは注意深くあれば、子供たちが経験する多くの事柄を、静かに、また確実に教える機会に変えることができるものである。

8

## 家族のほかの人々からの 教えによる影響



子供たちを教える第一の責任は両親にあるが、家族のほかの人々も大きな助けになれる。両親は機会を見つけて、家族のほかの人々が、子供たちを教え、励ますことができるようにすべきである。

### 祖父母の教えによる影響

祖父母は自分の経験や証、信仰を分かち合うときに、孫たちを強め、鼓舞することができる。彼らの従順についての実話、過ちから学んだこと、永遠の目標に到達するために犠牲を払った話、楽しく問題に対処した話は、子供たちが同じような経験に直面するときに助けとなるであろう。祖父母は孫たちに話すほかに、日記に自分の証や経験を記録することができる。そうすると、その記録は現在の家族と将来の世代を鼓舞し、教えるものとなる。

中央初等協会第二副会長として奉仕したスーザン・L・ワーナー姉妹は、次のように語っている。

「最近ある家族が親族の交流を図るために山に集まりました。おじいさんは孫たちを散歩に連れて行きました。辺りに樹木が植わっていない場所まで来ると、彼は子供たちを丸太に座らせ、心を悩ませていた問題について天の御父に尋ねたいと思った一人の少年について話しました。その14歳の少年ジョセフ・スミスは神が自分の祈りにこたえてくださるという信仰をもって家の近くの森へ入って行きました。子供たちは静かに話を聞いていましたが、4歳のジョニーは日ごろからだまって座っていることが苦手な子でした。そのときも出し抜けにこう言いました。『その話、前にも聞いたことがあるよ。』

それでもおじいさんは、ジョセフが誠心

誠意祈ったこと、そして栄光に包まれた天の御父と御子イエス・キリストがジョセフを訪れて、祈りがこたえられたことを話しました。『おじいちゃん、とってもいい証だったよ。』ジョニーはその話をまた聞いてほんとうにうれしかったのです。

彼はそれまでの生涯で、この神聖な出来事について幾度となく話してきましたが、『自分の孫たちにジョセフ・スミスの経験について証したときほど、主の御霊を強く感じたことはありませんでした』と語ってくれました。』（「神を証する」『リアホナ』1999年1月号、72）

祖父母は孫と離れて暮らしていても、良い影響を与えることができる。称賛や励ましの電話または手紙により、信頼を伝え、助言を与えることができる。

### 兄弟と姉妹の教えによる影響

両親は子供たちを励まして、学び合い、成長し合えるようにすることができる。兄や姉は弟や妹に良い模範を示し、また家の仕事をどのように果たしたらよいか教える責任を果たすことができる。専任宣教師として伝道に召された息子は、模範と手紙によって、弟に伝道に出たいという望みを抱かせることができる。神殿で結婚する娘は、弟と妹に自分の喜びと証を分かち合うことができる。子供たちが家庭の仕事を進んで手伝うとき、彼らは良い模範を示し、互いに仕え、務めを果たすように教えているのである。そして、彼ら自身の学習も促される。

### おじやおば、いとこの教えによる影響

両親ができないときに、おじやおば、いとこが手を差し伸べて、家族を助けられることもある。

ある父親は、息子がいとこから影響を受けたことを思い出して語っている。その息子は数週間、教会に行くこと拒んでいた。ところが、総大会のある日、大会に出席しなかった彼のいとこが、朝早く起きてソルトレーク・タバナクルの席を確保するための列に並んだ。その息子はこの模範を見て、いとこの信仰と熱意に胸を打たれ、教会に再び集うようになった。そして、その決心が彼の生活を変え、彼は後に忠実な宣教師として奉仕したのであった。

ある夫婦は夏の間、息子を妻の兄の家族





のもとに送り、その家のガソリンスタンドで働かせた。母親はそのときの自分の兄とその家族の良い影響について語っている。また、ある女性は、息子が大好きなおじと話す機会を持てたことを感謝している。彼女の息子は、その会話のおかげで、良くない行為をするように感化していた友達を遠ざけるようになったということである。

### 子供たちの教えによる影響

両親は子供たちの語ることに耳を傾けると、多くの真理を学ぶことができる。ラッセル・M・ネルソン長老は、娘から学んだことを次のように述べている。

「わたしのいちばん下の娘が4歳くらいのときでした。ある晩、わたしは病院の仕事から遅く帰って来ました。妻

はぐったりと疲れ果てた様子です。……そこで、わたしが4歳になる娘を寝かせようと言いました。そして、命令をし始めたのです。『服を脱いで、ハンガーにかけなさい。パジャマを着て、歯を磨いて、お祈りしなさい。』まるで軍隊の鬼軍曹でした。突然、彼女は小首をかしげ、悲しそうな目でわたしを見詰めてこう言いました。『お父さんって、「しなさい」ばかり。』

彼女は大切な教訓を教えてくださいました。この愛らしい幼子に対して、わたしは強制的な手段を用いていたのです。力で子供たちを支配するのはサタンのやり方であって、救い主の方法ではありません。」（「耳を傾けて学ぶ」『聖徒の道』1991年7月号、22）

## ホームティーチングと 家庭訪問

---

ホームティーチャーと訪問教師に二つの事柄を経験してほしいとわたしは願っています。

第1に、その偉大な召しには責任に伴うチャレンジがあるということ、

第2に、その働きからすばらしい結果が得られるということです。

特に、あまり活発でない人々に対する働きかけから得られる結果はすばらしいものです。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

## ホームティーチングで教える



あなたはホームティーチャーであれば、福音の教師である。あなたと同僚に割り当てられている家族の福利に心を砕くほかに、少なくとも月に1度は福音のメッセージを携えて行く。聖典で教えられているように、ホームティーチャーは、「警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招かなければならない。」(教義と聖約20:59)

割り当てられている家族を教えるために、あなたは自分自身を霊的に備え、また本書に述べられている福音の教え方の原則を取り入れるようにする必要がある。あなたはまた、教え方を改善するように絶えず努めなければならない(「教授法改善の計画を立てる」24-27ページ参照)。

ホームティーチャーとしての割り当てを果たすに当たって、あなたはこのような備えをし、絶えず改善を図ることが特に必要である。福音の基本的な原則を知っておくことは、あなたが教えるすべての人、すなわち福音のレッスンに参加する習慣のないあまり活発でない会員であっても、あるいは活発で経験豊かな教会員であっても、すべての人に役立つ方法でメッセージを伝える助けとなるであろう。

人にはそれぞれに合った教え方をすることがあることを心に留めておくことよ。あなたは様々な年齢の子供たちがいる家族にメッセージを伝える必要があるかもしれない。あるいは、新しい改宗者をフェローシップするように割り当てられるかもしれない。また、高齢の会員や独身の会員を訪問する機会があるかもしれない。

ある1組のホームティーチャーは、レッスンを入念に考えた挙げ句、釣り竿を持って訪問した。また、ポケットにルアーを詰

め込んでいた。訪問を受けた家族はその理由を知りたいと思った。しかし、ホームティーチャーはメッセージの時間まで理由を話さなかった。ホームティーチャーが子供たちを周りに集め、注目させるのに、何の造作もなかった。それから、ホームティーチャーの一人は、釣り人がルアーを使って魚を捕る方法を実演した。彼は、小さな魚は年老いて経験のある魚よりもルアーにかりやすいことを説明した。それから、彼はルアーをサタンの誘惑と対比して、サタンはわたしたちを捕らえ、自由を奪い去るために、巧妙な方法を使うということを家族に教えた。そのレッスンは家族にとっていつまでも忘れられないものとなった。

あなたにはホームティーチャーとして、あなたが教える人々に愛を示す特別な機会がある。エズラ・タフト・ベンソン大管長が教えているように、あなたは以下のことを行うべきである。「ささいなこと、小さなことであっても、家族にとっては大きな意味を持つ事柄を実行するように、ぜひとも皆さんにお勧めします。例えば、家族全員の名前を覚えてください。誕生日や特別な祝福を授ける日、バプテスマ、結婚式などに注意してください。時には、顕著な業績を上げたり、功績を残したときに電話やカードで称賛の言葉を送ってください。」(「教会のホームティーチャーへ」『聖徒の道』1987年7月号, 54) あなたは必要ときに家族を助け、子供たちや青少年の活動を支援し、また家族が必要としていることを定員会指導者に確実に伝えることができる。

### メッセージを選ぶ

分かち合うメッセージを選ぶときには、次の指示を心に留めておくことよ。「ホームティーチャーは普通、『エンサイン』[英文](*Ensign*) および教会の国際機関誌に載せられる大管長会メッセージを伝える。ビショップまたはその他の地元の指導者よりさらにメッセージが与えられることもある。また家長がホームティーチャーに対して特別なメッセージを依頼してもよい。ホームティーチングメッセージは聖典および末日の預言者の教えに基づくものであるべきである。」(『教会指導手引き第2部: 神権指導者・補助組織指導者』[1998年] 173)



### メッセージを準備する

ホームティーチャーは、教会のクラスでのレッスンを準備するのと同様に注意深く、それぞれのホームティーチングのメッセージを準備する必要がある。そのためには、次の提案が役立つであろう。

- レッスンを検討する。同僚と相談して、それぞれがレッスンのどの部分を担当するかを決める。
- 大管長会メッセージ、あるいは正式なレッスン計画を与えられていない別の主題でレッスンを行う場合、「大会説教やその他の資料からレッスンを構築する」（100－101ページ）に述べられている提案に従う。
- メッセージと教授法を、あなたが教える家族各人の背景や年齢、関心に合わせる。レッスンを各人にとって興味深い、実践を促すものにする。
- メッセージは簡潔で、出席者全員の関心を保てる長さとする。

### メッセージを伝える

あなたが訪問するときの管理と司会は家族の長が行うということを覚えておく。また、次の提案に心を留めておくとうよい。

- できれば一緒に祈り、聖文を読む。機会があるごとに聖文を使う。訪問時にはいつも聖典を持参する。質問に答えるとき、あるいは助言するときに聖文を用いる。
- 教えるときは御霊の勧めに従う。
- 出席者全員にとって興味のない、あるいは助けとならない会話を長々とすることは避ける。訪問先の家族の時間には限りがあることに配慮する。
- レッスンに家族一人一人を参加させる方法を見つける。また、各人に深い関心を示す。
- あなたが教えている真理について証する。その真理を日々の生活に生かす方法の実例を分かち合う。

## 家庭訪問で教える



あなたは訪問教師としての割り当てを受けたら、「姉妹とその家族の霊的あるいは物質的必要について」聞く、そして「毎月のメッセージを通して霊的な教えを授ける」という大切な責任を負うことになる（『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』〔1998年〕207）。あなたは福音の教師である。

あなたに割り当てられた姉妹たちを教えるために、あなたは自分自身を霊的に備え、本書に述べられている福音の教え方の原則を取り入れるようにする必要がある。また、教え方を改善するように絶えず努めなければならない（「教授法改善の計画を立てる」24-27ページ参照）。

あなたは多くの異なる状況で姉妹たちを教えるように召されるかもしれないので、このように準備をしておくといかに役立つであろう。また、あなたは若い人や高齢の人、既婚者、独身者、離婚した人、新たに福音を受け入れた人、教会に非常に活発な人、あまり活発でない人、立派な教育を受けている人、学習障害のある人、多忙な人、孤独な人、訪問者、教会に反対している人などに教える機会があるかもしれない。姉妹たちはそれぞれ違うので、違った教え方が必要である。あなたが教える姉妹たちの状況がどうであろうと、あなたは、彼女たちが救い主のこともっとよく知り、救い主の福音にもっと忠実に従って生活するのに助けることができる。

イレイン・L・ジャック姉妹は、中央扶助協会会長の務めを果たしていたときに、次のような話をしている。

「ガーナのプリシラ・サムソン-デービス姉妹は、様々な苦労を経験してきました。まさに試練の生涯を送ってきたのです。教師であるデービス姉妹は、人々が赤痢やマ

ラリヤと戦いながら子供たちを育てている様子、愛する家族に食べさせていくために米や玉ねぎ、トマトなどの食物を求めて必死で働く姿を見てきました。彼女は訪問教師として、バスで町外れに住む姉妹をよく訪問しました。訪問は負担にはなりませんか、と聞かれた彼女はただこう答えました。『いいえ、訪問先の女性は字が読めないのので、行くといつも聖典を読んで差し上げるんです。』

デービス姉妹の簡潔な答えには、正しい道を歩んでいるという確信と信仰が表れています。彼女の乗るバスが進むのは、でこぼこで曲がりくねった道ですが、主の目には、まっすぐで狭い道に映っていることでしょう。デービス姉妹は、主の目になかった道をたどっているのですから。（『われと共に歩け』『聖徒の道』1994年7月号、17）

### メッセージを選ぶ

分かち合うメッセージを選ぶときには、次の指示を心に留めておくといよい。「訪問教師は毎月のメッセージを通して霊的な教えを授ける。『エンサイン』〔英文〕や国際機関誌に掲載されるメッセージを指針として利用し、それぞれの姉妹の必要に応じて用いる。」（『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』〔1998年〕207）同僚と一緒に毎月のメッセージを注意深く検討するとき、御霊の導きを求める。その後、あなたが教える一人一人の姉妹のことを祈りの気持ちで考える。準備したメッセージのほかに、メッセージを計画する主要な資料として、聖典と末日の預言者の教えを使用すべきである。また、教会で作成したそのほかの資料を補足資料とすることもできる。

### メッセージを準備する

教会のクラスでのレッスンを準備するときと同様に注意深く、それぞれの家庭訪問メッセージを準備する。そのためには、次の提案が役立つであろう。

- レッスンを検討する。同僚と相談して、それぞれがレッスンのどの部分を担当するかを決める。
- 「大会説教やその他の資料からレッスンを構築する」(100-101ページ) に述べられている提案に従う。
- メッセージと教授法を、あなたが教えるそれぞれの姉妹の背景や年齢、関心に合わせる。

### メッセージを伝える

訪問先の姉妹を教えるとき、次の提案が役立つであろう。

- できれば一緒に祈り、聖文を読む。機会があるごとに聖文を用いる。訪問時にはいつも聖典を持参する。質問に答えるとき、あるいは助言するときに聖文を活用する。
- 教えるときは御霊の勧めに従う。
- 訪問先の姉妹の時間には限りがあることに配慮する。
- レッスンに姉妹を参加させる方法を見つける。また、姉妹の話したいことに深い関心を示す。
- あなたが教えている真理について証する。その真理を日々の生活に生かす方法の実例を分かち合う。



E

## 指導者としての教え





## 1

# 指導することは 教えることである



ボイド・K・パッカー長老は、すべての教会指導者の教師としての働きを強調して次のように述べている。「預言者は教師です。管長は教師です。中央幹部は教師です。ステーク会長と伝道部会長は教師です。高等評議員と定員会会長は教師です。ビショップは教師です。教会のすべての組織においてそうです。教会は熟練した教師の力によって支えられ発展しています。」(Teach Ye Diligently [1991年], 3-4)

教会のユースカンファレンスで、一人の成人会員が、指導者が正しい原則を教えるときに与えることのできる霊的な影響力の実例を目にした。

「カンファレンスの最後に、ダンスが行われました。ダンスのバンドがシャツを着ないで現れました。大人たちが見ていると、青少年のグループがバンドのいる舞台に近づき、彼らに少し何か話しました。バンドのメンバーは何か言い返していました。それから間もなく、何人かの青少年がシャツを持って来ると、バンドのメンバーは実に不承不承それを着ました。

音楽が始まると、それは騒がしく、騒がしきはさらに増していきました。大人たちが心配し始めたちょうどそのとき、青少年のグループが部屋の真ん中に集まり、それから一緒にバンドのいる舞台に近づきました。そして、もっと音楽を静かにするように頼みました。バンドは反対しましたが、青少年は強く求めました。そこで、バンドは音量を下げました。音楽がまたうるさくなると、青少年は集まって、もう一度バンドのところへ行きました。同じことが3度繰り返されました。ついに、青少年のグループはステーク会長のところへ来て言いました。「この音楽はふさわしくないと思います。ほくたちはダンスを続けるよりは、別の建物へ行ってファイヤサイドをする方がいいです。自分たちでできますが、大人の人たちもおいでになりたければ、来ていただいでけっこうです。」こうしてダンスは終わり、若い男性と女性は別の建物で集会を行いました。

後に、わたしはステーク会長に、どうしてこんなことが起こったのか尋ねました。ステーク会長の話では、5年前に一人の高等評議員が、『若い人々に標準を教えたい

れば、彼らの行うべきことを、わたしたちははっきり知らなければなりません。まず、ステーク会長会がわたしたちに話すことです』と言ったとのことでした。ステーク会長会が標準についてははっきりと理解し、それをステーク内にどのように取り入れるか決めるのに少し時間がかかりました。高等評議員会がこれらの標準を理解し、守る決意をするのにももっと時間を要しました。そして、ビショップたちの同意を得るのにも時間がかかりました。そのときまで、両親と青少年には相いれないものがありました。しかし、今初めて、指導者たちは標準について教える準備ができたのです。

その後、指導者はステーク全体で、何年もかけてすべての人に標準を教えました。わたしがユースカンファレンスのダンスが行われた夜に見たのは、その結果でした。

指導者が聖徒たちを教える責任を果たす務めに誠実に着手するときに、指導者の影響力は非常に増すということを、わたしは学びました。またわたしは、混乱したメッセージは決してメッセージではないということ、そして教えるべき事柄をしっかりと根付かせるために費やした時間は報いをもたらすということも学びました。そして最後に、わたしは、適切な教えを受けた青少年の成長と知恵と道徳的な勇気を自分自身の目で見たのです。」

## 福音を教える指導者としてのあなたの責任

あなたが教会の指導者としての責任を果たす最も重要な方法の一つは、教えることである（『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』[1998年] 305-307）。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように教えている。「教会における指導の真髄は、効果的に教えることです。」（“How to Be a Teacher when Your Role as a Leader Requires You to Teach” 中央幹部神権管理会、1969年2月5日。ジェフリー・R・ホランドによる引用「神からこられた教師」『聖徒の道』1998年7月号、29）

主は教師として仕える指導者の優れた模範であられる。「イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。」(マタイ9:35) ボイド・K・パッカー長老は次の

ように強調している。「主はわたしたちの模範です。主を行政官のように描写するのは難しいことです。もう一度繰り返します。主を行政官のように描写するのは難しいことです。主は教師でした。それは理想であり、手本です。」(地区代表セミナー、1984年4月6日)

聖典には福音の教師として仕えたほかの指導者たちの話が数多く記されている。アダムと彼の子孫の多くは「義を説く者であって、語り、預言し、どこにいる人でもすべての人に悔い改めるように呼びかけた。」彼らの宣教によって、「人の子らに信仰が教えられた。」(モーセ6：23) 初期の使徒たちは「毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした。」(使徒5：42) モーサヤ王は、「わたし自身……わたしの持つあらゆる力と知力を働かせて、あなたがたに神の戒めを教えようと、また全地に平和を確立しようと努めてきた」(モーサヤ29：14) と証している。

### 指導者として教える方法

#### 義の模範を示す

あなたは指導者として、あなたの生き方によって福音を教えている。あなたは戒めを守るように、また親切であるように、さらに主やあなたが指導する人々の忠実な僕であるように期待されている。あなたは義の模範を示すことによって、ほかの人々に、福音に従って生活する決心をさせることができる。

#### 教会の方針と手続きに従う

あなたは教会を管理するうえで定められた規範に忠実に従うとき、あなたとともに働くすべての人を教えているのである。あなたはほかの人々に彼らの務めを果たす方法を知らせることができる。例えば、定期的にホームティーチングの面接を行うメルキゼデク神権指導者は、面接の仕方を実際に示しているのである。

#### 福音の原則について直接話す

指導者には、福音を教える多くの機会が定期的に与えられる。その機会として、指導者会(152ページ参照)や面接(153ページ参照)がある。ほかにも、ほかの人々を指導したり影響を及ぼし合ったりする機会がごく普通にあることに、あなたは気づくであろう。

トーマス・S・モンソン管長は、若いビショップで、印

刷の仕事をしていたころ、当時大管長会の一員であったJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長としばしば一緒に働く機会があった。彼らが一緒に働いたとき、クラーク管長はしばしば機会を捕らえて福音を教えた。後年、モンソン管長は自分が大きな影響を受けたそのような機会の一つについて語っている。

「[クラーク管長は]わたしに、らい病にかかっていた人についての話をルカによる福音書から声を出して読むように[言いました。]次いで、中風になっていた人について、またどうして主がその人に注意を払い、癒しを施されたのかについて、ルカによる福音書から読むように言いました。クラーク管長はポケットからハンカチを取り出して、その目からあふれた涙をふくと言いました。『人は年を取ると、涙が出やすいものです。』わたしは別れの言葉を述べると、彼の思いと涙を後にして、彼の事務所を出ました。

ある晩遅く、わたしはソルトレーク・シティーにある彼の自宅の事務所に印刷物の校正刷りを持って行きました。そのとき、クラーク管長は伝道の書を読んでおり、静かに思いにふけている様子でした。彼は本や新聞を積み上げた大きな机に向かって座っていました。彼は聖典を手にして、目を上げると、わたしに読んで聞かせました。『事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。』(伝道12：13)そして、彼は強い調子で言いました。『大切な真理です。深遠な人生観です。』

このようなすばらしい教師のもとで毎日学べたことは、わたしにとって何という祝福でしょう。……わたしがチャレンジに富んだワードを管理するビショップとして新たに召されたことを知り、彼は、人々を知り、人々の状況を理解し、人々の必要を満たす必要があることをわたしに強調しました。

ある日、彼は、ルカによる福音書に記されている、救い主がナインのやもめの息子を蘇生させられたことについて語りました。クラーク管長は聖書を閉じると、涙を流していました。彼は静かな声で言いました。『トム、やもめに親切にし、貧しい人の世話をしなさい。』(Inspiring Experiences that Build Faith [1994年], 233-234)

教会においては指導することは教えることであり、指導者として進歩することは、説教台から、指導者会で、一对一の場で、もっと効果的に教えるすべを学ぶことである。



## 指導者会での教え



主はこう言われた。「さて見よ、わたしはあなたがたに戒めを与える。あなたがたは集まるとき、どのように行動し、わたしの教会を導くか、またどのようにわたしが与えた律法と戒めの要点を実行するかを知ることができるように、互いに教え合い、教化し合わなければならない。このようにして、あなたがたはわたしの教会の律法に通じた者となり、あなたがたが受け入れたものによって聖められるのである。またあなたがたは、わたしの前に聖さを尽くして行動する義務を自ら負わなければならない。」(教義と聖約43：8-9)

この啓示に関連して、ジェフリー・R・ホランド長老は次のように述べている。「管理集会においては、啓示に示されているように、『教え合い、教化し合』いましょう。そうすれば、集会で学ぶことにより『高い所から教えを受け』られるでしょう。」(「神からこられた教師」『聖徒の道』1998年7月号、30。教義と聖約43：16も参照)

指導者会での時間は限られているので、教えることに使う時間は注意深く計画しなければならない。集会によっては、最初に行う短い霊的な話を教えとすることができる。またほかの集会では、前もって一人か複数の参加者に、事前に選んでおいた主題を詳細に研究してグループの指導を行うよう依頼しておくといよい。このような割り当てを受けた人々は、本書で奨励されている原則と教授法を用いるようにしなければならない。

### 教える事柄を決める

詳細な指示を与える指導者会を準備するに当たっては、管理指導者は、何を教え、まただれが教えるかを、祈りをもって決めなければならない。指導者は、教義上の主

題、あるいは教会の運営や集う人々の義務に関する主題を選ぶことができる。主は次のように述べておられる。

「あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、あなたがたが理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。」(教義と聖約88：77-78)

聖典は指導者会で学ぶ基本的な資料である。主は次のように述べておられる。「わたしはあなたがたに一つの戒めを与える。あなたは記されているものに頼りなさい。その中には、わたしの教会とわたしの福音とわたしの岩の基について、すべてのことが記されているからである。」(教義と聖約18：3-4)ほかの資料として、『教会指導手引き』や総大会の説教、そのほか末日の預言者の教えがある(このような資料からレッスンを展開する助けとして、「大会説教やその他の資料からレッスンを構築する」100-101ページを参照する)。

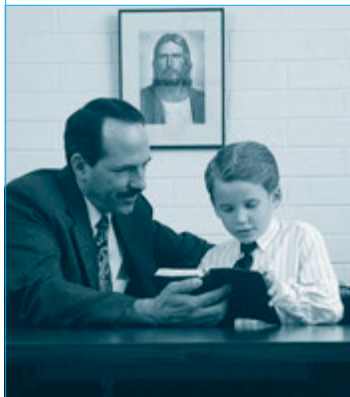
### 敬虔になることによって御霊を招く

御霊がわたしたちに伴うとき、わたしたちは福音を教え、学び、互いに教化し合うことができる(教義と聖約42：14；50：17-24参照)。わたしたちは敬虔になることによって御霊を招くことができる(「教えるときに御霊を招く」45-46ページ、「敬虔」82-83ページ参照)。指導者会では、管理者と司会者は早く席に着くことによって敬虔さを促すことができる。彼らの振る舞いによって、集会の雰囲気を作る助けとすることができる。出席するほかの指導者たちも早く来ることができる。聖典や手引き、筆記用具を持参し、また静かに、祈りの気持ちをもって自分自身を備えることができる。

指導者会の始めにささげられる祈りを、敬虔さを引き出し、御霊を招く助けとすることができる。霊的な話も、福音の原則を教え、学ぶ良い機会を与える。指導者会によっては、適切な前奏曲と集会で歌う賛美歌を、出席者の心と思いを備える助けとすることができる。

3

## 面接時の教え



トーマス・S・モンソン管長は、次のような経験を語っている。

「あれはわたしが18歳の誕生日を控えて……いたときです。……そのとき、わたしはメルキゼデク神権を受けるように推薦を受けていたのです。わたしはまずチャイルドステーキ会長に電話をして、面接の約束を取ることになりました。チャイルドステーキ会長は聖典を愛読し、聖文に深く通じた人でした。そして、他の人も皆同じように聖文に親しみ、聖文を理解すべきであるというのが彼の考えでした。彼がどちらかといえば詳細にわたって、鋭い面接をする人であることは他の人々から聞いていました。チャイルドステーキ会長に電話したときの会話は次のようなものであったと記憶しています。

『もしもし、チャイルドステーキ会長でいらっしゃいますか。モンソン兄弟です。実はビショップからステーキ会長の面接を受けるように言われましたのでお電話しました。』

『よろしいですよ、モンソン兄弟。それでいつわたしのところに来られますか。』

彼のワードの聖餐会は6時から始まることを知っていましたので、わたしは聖文に関する知識のなさをできるだけ知られまいとしてこう申しました。『5時ではいかがでしょうか。』

すると、次のような答えが返ってきたのです。『おや、モンソン兄弟、それでは二人で聖文を読む時間が足りませんね。2時に来てくださいませんか。自分の聖典を全部持ってね。』(「道を備えよ」『聖徒の道』1980年9月号, 7-8)

若いトーマス・S・モンソンは、ステーキ会長との面接が単なる「面接」以上のものであることを知ったのである。すなわち、それは福音を研究し学ぶ機会であった。

### 面接時に教えるための原則

面接を行う場合、次の原則が役立つであ

ろう。

「命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。」(教義と聖約84：85)

主はあなたが出会う人々を御存じであることを心に留めておくことよい。主は人々が必要としている事柄や心配事、長所、弱点を御存じである。あなたが個人や家族を助ける備えをするとき、しばしば御霊はあなたを励まし、教えてくださるであろう。

主はこのように述べておられる。「絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」(教義と聖約84：85) 聖文を研究するとき、面接で聞く必要のある事柄がちょうどその聖句に述べられている可能性がある。一人のビショップの次の経験から、これが真実であることが分かる。

「ある月曜日の朝、わたしは、教義と聖約から悔い改めと赦しについて読んでいました。すると、わたしの思いと心の中に神聖な真理、特に自分自身を赦すことに関する真理が、洪水のように注ぎ込まれてきました。『主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。』(教義と聖約64：10) この真理が自分自身にも当てはまると、わたしは一度も考えたことがありませんでした。

わたしはその朝の読書を終えて、仕事に出かけました。翌日の夜、わたしは結婚生活に不安を抱える1組の夫婦に会いました。彼らと話していたとき、姉妹は、若い女性のころ、ある事柄があつて法律を犯し、その結果法廷での措置を受けたことを説明しました。それから30年を経て、今日となつてはささいなことになりましたが、彼女はまた罪の重荷を感じていました。すると不意に教義と聖約のこの聖句が心に浮かんできて、悩む心に平安がもたらされました。日々の聖文の研究がこのように早く報いをもたらしたことは、わたしにとって一つの証となりました。」

### 聖文と聖文の教える原則について証を述べる

面接を行う際に聖文に頼るときは、聖文について証を述べなければならない。また、今述べている原則があなたと人々の生活にどのように祝福をもたらしたかを示す経験を分かち合ってもよい。

4

## 指導者が 教師を教えるとき



あなたが教会の指導者であるならば、その最も重要な責任の一つは、自分の組織の教師たちに彼らの義務を教え、自ら改善の努力をするように導くことである。あなたは指導者会（152ページ参照）や教師改善集会で時々これを行い、また一對一の教えを必要とする場合もある。この責任を果たすあなたの努力は、教会内における教授の質の向上に大きく貢献することになる。

個々の教師を導くために何をなすべきかについての指示は、『教会指導手引き』の「福音の教授と指導」（307-309ページ）、ならびに『福音の教授法改善——指導者用ガイド』（4-6ページ）を参照する。これらの手引きに述べられている指導の与え方に関する5つの提案は以下のとおりである。

### 一人一人の教師を純粋に愛する

人は時々、弱点を指摘された人は変わることを望むと考え、相手を批判する傾向がある。しかし、この考えが真実となることはまれである。批判は普通、自己弁護と落胆を招く。教師は、自分に対するあなたのキリストのような愛を感じ、あなたが助けたいと心から思っていることを知るときに、あなたの助言をもっと受け入れるようになるであろう。やがて教会の立派な指導者になった一人の姉妹は、教会の奉仕である事柄を経験し、この原則を学んでいた。この経験により、教え方についての彼女の考え方を永遠に変えたのである。

「わたしは結婚したばかりのとき、扶助協会で、教え方を改善するのを助ける責任を受けました。当時は気づきませんでした。わたしは責任のことをあまりにも気にしすぎて、わたしが参観したクラスの教師のことを十分に配慮しませんでした。わたしはその教師に、『あなたはこのようにす

べきでした』と何度も何度も言いました。わたしが受けた反応は、言葉で言われなかったものの、態度では明らかにこうでした。『それでは、あなたがやってみてください。あなたの考えているとおりにわたしが行っていないと言うのなら、あなたがクラスを担当してみてください』と。そのとき、わたしは、自分に欠けていたのは愛であることを学んだのです。わたしは彼女を十分に愛していませんでした。わたしは彼女に十分敬意を示していなかったのです。』

### 教師が行っている良い事柄を指摘する

人は自分が得意と思うことをするのが好む傾向がある。あなたの心からの称賛の言葉は、教師を励まし、教師に改善の努力を続けさせるので、批判では行えないことを成し遂げる。

あなたがともに働く教師を愛するとき、あなたの称賛の言葉は心からのものとなるであろう。そうすると、あなたはもっと多く褒めるべき事柄を見いだせるであろう。すべての教師に、心に留める価値のある特質があるからである。ある教師は、話すときの良い声、話し合いを指導する才能、聖文や教会歴史への確かな理解を備えている。また、計画能力のある教師や、謙遜で、強い証を持っている教師もいる。

褒め言葉は具体的でなければならない。例えば、あなたは教師に次のように言うことができる。「あなたが見せた救い主の絵はあなたのメッセージを伝えるのにとても効果的だったと思います。」あるいは、「レッスンの最後のあなたの証によって、わたしは御霊を感じました。」または、「あの難しい質問への対応の仕方が良かったですね。」具体的な言葉は通常、一般的な表現よりも励みになる。あなたが注意深く見ていることが分かるからである。

あなたには、教師が行っている良い事柄を指摘する機会がたくさんある。あなたは教師改善集会や、教師に会って個人的に助言するときにそれができる（「指導者からの支援を得る」28ページ参照）。しかし、そのような機会を待つ必要はない。クラスの後、廊下で、あるいはメモを渡して、または電話をかけて称賛の言葉を伝えることができる。また、教師が戸惑わなければ、クラスの生徒の前で教師の良い点を言ってもよい。



### 各教師の神聖な潜在能力を尊ぶ

個々の教師の現在の能力を認めるほかに、あなたは教師たちの神聖な潜在能力も認めなければならない。彼らは天の御父の霊の子であり、無限の能力を持っている。適切な養いを受け、また自らへりくだって献身するとき、彼らは自分の才能と能力を改善し、伸ばすことができる。

### 教師に自らの改善計画を作成させる

教師たちは、あなたから愛され、自分の努力を認められていることを知ったら、もっと気軽に助けを求めようと思うであろう。彼らから相談を受けるときに、彼ら自身で改善計画を作成できるようにする。この方法は、教師たち（この場合は、指導者たち）は人々の学習と成長に関しては、その人が自らの責任で行えるようにするという原則を尊ぶものである（「福音を学ぶ責任を引き受けられるように個人を援助する」61-62ページ参照）。人は自発的に物事を行うときに、最もよく学び、成長するものである。普通は、もっと早く成長するように指導者が圧力をかけるよりも、教師自身が自らの計画に基づいて徐々に成長する方がより良い結果をもたらすものである（「教授法改善の計画を立てる」24-27ページ参照）。

### へりくだり、愛をもって、聖霊の導きを得て修正を加える

一般的には、教師自身に自らの改善計画を作成させるのが最善であるが、時には修正を加える必要があるかもしれない。そうするときは、温厚で柔和であること。また、「聖霊に感じたとき」にのみ叱責しっせきするようにし、その後、いっそうの愛を示さなければならないことを覚えておく（教義と聖約121：43）。次の話はこの原則の重要性を示し

ている。

「かつてわたしは、ビショップリックの一員として、アロン神権定員会の一つを割り当てられました。わたしは初めて定員会集會に出席したとき、ひどく当惑しました。アドバイザーがすばらしいレッスンをしましたが、その後、最後の言葉が、それまで教えた良いものをすべて台無しにしてしまったのです。彼はこう言いました。『わたしたちはこのことを教わりました。でも、現実とは違います。』わたしはこの言葉にひどく困惑しましたが、そのアドバイザーを少しも非難せずに、若い男性たちが正しい理解を得られるように証を述べました。数週間後、彼はまた同じことをしました。今回は、良いレッスンをした後、彼自身が教えた原則に厳密に従うことの大切さに疑問を投げかけたのです。

わたしは数日待ってから、会いに行ってよいかどうか彼に尋ねました。そして、出かける前に、断食し、祈りました。わたしはこの人に深い愛を感じており、彼に対してまったく悪い感情は持っていませんでした。わたしたちは定員会の若い男性たちについて話した後、わたしは彼に、レッスンの手引きはわたしたちが教える事柄を概説しているわけではないという彼の考え方を心配してと言いました。わたしは彼に、若い男性は理想を持つ年代であり、彼らが理想を理解し、それを目指して生活できるよう助ける必要があることを告げました。彼は目に涙を浮かべ、彼にそのように言わせるに至った数々の苦難について語り始めました。一緒に話をするので、わたしたちはとても親しくなりました。翌週ではありませんでしたが、数週間後、彼は以前に言ったことは間違っていたとクラスで述べ、謝りました。わたしは、愛と主の御霊が彼の心を大きく変えさせたと感じました。彼が教師としてさらに立派になったことは、言うまでもありません。」





F

教授法





# 教授法

『教師，その大いなる召し』のこの部では，福音を教える際に用いることのできる様々な方法が紹介されている。あなたは，教えている原則と，教える相手の必要とをいつも心に留めて，注意深く教授法を選ぶ必要がある。教授法を選ぶときは，「変化を持たせて教える」（89-90ページ），「適切な教授法を選ぶ」（91ページ），「効果的な教授法を選ぶ」（92ページ）に述べられている情報を検討する。

方法	ページ	方法	ページ
活動シート	159	音楽	172
活動の歌	159	ナレーションを伴う音楽（歌でつづる物語）	174
応用の技術	159	実物を用いて行うレッスン	174
導入（注目を得るための活動）	160	オーバーヘッドプロジェクター	174
視聴覚教材（ビデオテープと録音テープ）	160	パネルディスカッション	174
ブレインストーミング	160	紙人形	175
バズセッション	161	写真・絵	175
事例研究	161	指人形	176
黒板	162	質問	176
朗読	163	朗読劇	176
比較と実物を用いたレッスン	163	復唱	177
実演	164	ロールプレー	177
ジオラマ	165	ローラーボックス	178
話し合い	165	聖句に印を付ける，余白に注釈を書き込む	178
劇化	165	聖句の暗記	178
絵を描くこと	166	聖句を声に出して読む	178
具体例	167	聖典中の学習資料	178
フランネルボード	168	聖典から教える	178
ゲーム	168	歌でつづる物語	178
ゲストスピーカー	169	島	178
講義	170	物語	179
当てはめること	170	視覚資料	181
地図	171	ホワイトボード	182
暗記	171	ワークシート	182

## 活動シート

「ワークシート」182-183ページ参照。

### 活動の歌

年少の子供たちは簡単な身振りを伴う詩や歌を喜ぶ。これらの詩や歌は、しばしば活動の歌と呼ばれる。子供たちが福音の原則を学ぶ助けとなるよう、活動の歌を用いることができる。また、これらをクラスの初めに用いて子供たちがクラスに喜んで迎えられていると感じられるようにしたり、祈りの準備、あるいはレッスンに参加する導入としたりすることもできる。

レッスンの進め方に変化が必要であると思われたり、もしくは子供を活動に参加させる必要があると思われるときのために、幾つかの活動の歌を準備しておくといよい。

活動の歌や歌のアイデアは『子供の歌集』、初等協会教師用引き、また『リアホナ』の幾つかの記事に含まれている。詩や歌に簡単な身振りを付け、独自の活動の歌を作り出すことも可能である。

### 活動の歌の参考例

以下に挙げる活動の歌は、子供たちに神の創造に対して感謝することを教えるために用いることができる。これは初等協会の歌「世界はとても大きい」[英文]（“The World Is So Big”, Children's Songbook, 235）からの引用である。

世界はとても大きくて丸い  
 (両腕で大きく輪を描く)  
 そこに神の創造物を見る。  
 星は夜通し明るく光り  
 (全部の指をまっすぐに伸ばし、小刻みに揺らす)  
 真昼の太陽はとても暖かくまぶしい  
 (両腕で大きく輪を描く)  
 世界はとても大きくて丸い  
 神はわたしたちすべてを愛してくださり、  
 祝福は周りに満ちている  
 (両腕を胸元で交差させ、自分を抱き締める)

### 活動の歌の教え方

活動の歌を教える前に、歌詞や身振りを覚えること。活動の歌を教えるため、以下のようにする。

1. 子供たちに歌詞を言いながら身振りを示す。ゆっくりと行い、動作は大げさにすること。これは、子供たちが歌詞や身振りを覚えやすくするためである。
2. 子供たちも一緒に活動の歌を試してみるよう促す。
3. 子供たちがその活動の歌を楽しんでいるようであれば、繰り返す。落ち着きがなくなるようであれば、短くする。活動の歌が長いようであれば、あなたが歌詞を言い、子供が振りをするようにしてもよいであろう。

時折、活動の歌を提示するうえで助けとなる絵や写真を用いるのもよいであろう。『福音の視覚資料セット』や教

会出版の教師用引き、また教会発行の機関誌に収められた絵や写真が役立つであろう。初等協会視覚資料の切り抜きの使用を検討するのもよいであろう（『教会書籍・教材総合カタログ』を通じて入手可能）。

活動の歌に参加しなくても、ほかの子供たちの動作を見ているのを楽しむ子供もいるかもしれない。気が向けば参加してくるであろう。

### 応用の技術

福音を教える教師として最も重要な目標の一つは、生徒が福音の原則を日常の生活に応用するのを助けることである。応用の技術は、生徒が福音に従って生活するときに授けられる祝福を見いだせるよう助ける。

以下は、生徒があなたの教えてきた原則に従って生活するのを助けるための幾つかの方法である。これらを含む多くの方法が本書のこの章に示されている。

- 生徒が遭遇するであろう似通った状況について話し合う。そのような状況に置かれた際、どのように正しい選択を行うかを話し合うため、ロールプレーやパネルディスカッション、バズセッション、ゲーム、ワークシート、事例研究もしくはブレンストーミングを用いる。
- クラスで具体的な応用問題を話し合うための準備をする。
- 福音の原則に従って生活することがあなたの生活にいかん祝福をもたらしたかの個人的な経験を分かち合う。簡単に生徒自身の経験も語ってもらうよう促す。
- 生徒に、あなたの教えてきた原則に従って生活するうえで役立つ目標を、一つもしくはそれ以上定めるよう促す。例えば、祈りのレッスンの際、生徒がさらに意味のある方法で祈るのに役立つような目標を立てるよう励ますことができるであろう。翌週、生徒らにどのような気持ちの変化が見られたか語ってもらうとよいであろう。
- 原則を証する聖句を分かち合う。生徒の好きな聖句や聖典の中に登場する話を挙げてもらう。
- 生徒に、原則を思い起こさせるのに役立つ歌について考えてもらう。彼らに有用と思われる歌を提案する。
- レッスンから学んだこと、例えばクラスで行った活動、用いられた歌、ワークシート、聖句などを生徒が家族と分かち合うように促す。生徒に、原則をどう応用することができるか家族と話し合わせる。
- 家に持ち帰り、レッスンを思い起こす資料となるよう、生徒に聖句や引用文、詩、歌詞の一部を書き取らせる。
- 子供に、原則に従って生活している自分自身の絵を描かせる。
- 原則に関連した信仰箇条を暗記するのを助ける。子供の場合、小冊子『わたしの達成の日』の裏面にある「わたしの福音の標準」の中から選んだ一項目と原則を関連づける。

- 1か月前に、生徒に特定のレッスンを学習して生活に応用するよう割り当てる。あなたがレッスンする際、割り当てた生徒から経験談を報告してもらう。

### 導入（注目を得るための活動）

導入は関心を引き起こし、生徒がレッスンのテーマに注目するのを助けるために用いられる。それらは簡潔であり、またレッスンに直接結びついている必要がある。たいていレッスンの始めに用いられることが多いが、レッスンの最中に生徒の関心を捕らえるために用いることや、またレッスン内容を移行する際のつなぎとして用いることも可能である。教会出版の教師用引きにある多くのレッスンには、導入のための提案が含まれている。

導入の用い方やさらに展開して用いる提案に関しては、「レッスンを始める」93ページ、「生徒の注意を引きつける」71-72ページを参照。

### 視聴覚教材（ビデオテープと録音テープ）

あなたは時折、福音の原則を教えるのに役立つ教会制作のビデオテープや録音テープを使用することがあるであろう。幾つかの教材は、特定の教科課程における特定のレッスン用に作られている。ほかのものは、様々なレッスンに用いることができる。入手可能な教会制作の視聴覚教材一覧表に関しては、最新の『教会書籍・教材総合カタログ』を参照すること。

教会が著作権を有さない視聴覚教材の教会での利用に際しては、しばしば著作権法に違反する。著作権法に関する指針については、『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』327ページを参照。

### 視聴覚教材の使い方

1. クラスで用いる前に、あらかじめ提示されている内容を視聴し、レッスンの内容をさらに強調する、あるいは、裏付けるものであるかどうかを確かめる。
2. レッスンの中で必要なときに、的確な部分から始まるように準備しておく。視聴覚教材は短い部分のみを用いるのが一般的であり、レッスンのすべての時間が投じられるべきではない。
3. クラス開始前に機器を準備し、適切に機能するか確かめる。さらに、すべての生徒が座る位置から視聴できるかどうかを確認する。

レッスンの一部として用いる際、その教材が単なる娯楽ではなく、教えるための道具となるようにする。例えば、ビデオを上映する間、生徒に特定の原則もしくは状況を探し出してみよう促すことができる。あるいは、録音されたものを聞き終えた時点で、伝えようとしていることを要約させることもできる。

### ブレインストーミング

ブレインストーミングの活動では、教師が質問や状況を提示し、生徒が自由に解決策や考えを提案するための短い時間を与える。

### ブレインストーミング活動の例

あなたの家族、定例会、あるいはクラスの必要としていることを題材にブレインストーミングすることもできるであろう。例えば、生徒に奉仕活動を組織させたり、あまり活発でない会員を活動に招待する方法について提案させる、あるいはホームティーチングの成果を向上させるためのアイデアを分かち合ってもらえることができる。

また、レッスン中の特定の話題に関してアイデアを引き出すためにブレインストーミングを用いることも可能である。例えば、神権を通してもたらされた祝福や、教会の会員として良い模範を示すためにできる事柄を列挙する時間を取ってもらうのもよいであろう。

### ブレインストーミング活動の進め方

1. ブレインストーミングの意味を説明する。生徒にアイデアを提供してもらうための短い時間を与える旨を告げる。あなたには生徒の出したアイデアを批評したりからかったりするつもりはなく、生徒も互いの意見に批判的であったり、からかったりすべきでないことを理解させておく。ブレインストーミングの本質上、生徒には態度と提案が敬虔なものであるよう注意を促す必要があるかもしれない。
2. 具体的な質問や状況を提示する。提言できるための所要時間がどのくらいあるかを明確にしておく。
3. 生徒に自分の意見を提出してもらう。ブレインストーミングを開始するのをためらっているようであれば、あなた自身が意見を幾つか切り出して生徒が取りかかれるようにする。なかなか参加しない生徒を話し合いに加える方法を探す。
4. 生徒が意見を出す際、黒板または紙に書き留めていくか、だれかに記録してもらう。
5. 終了の時間が来たら、生徒から出された提案について話し合う。出されたアイデアに改良を加え、レッスンにどう関連があるか話し合ってもらおう。奉仕活動であるとか、あるいはあまり活発でない会員を活動に招待するなどといった特定の実行策を決めるような目的を持つブレインストーミングであれば、生徒が提案事項の中の一つを選択できるように助ける。さらに、生徒がその提案に添って計画を立てるよう助ける。
6. 生徒がまじめに話し合っているが、それが教義にそぐわない意見であるような場合、こうした意見を穏やかに訂正するためレッスン中に時間を取る。



## バズセッション

バズセッションとは、生徒が小さなグループに分かれて話し合いを行う活動のことである。まず与えられたテーマについてグループで話し合い、後にほかのグループとの意見交換を行う。レッスンに参加する機会を多くの人に与えるためにバズセッションは有効な手段である。通常参加をためらう生徒も、すべてのグループを前にして発表するのと異なり小さなグループでは意見を述べることもあるかもしれない。これは、そのような生徒に彼らの意見がほかの生徒にとって重要であると認識してもらう助けになる。

時には、ポスターもしくは表を作成したり、絵を描いたりしながらグループで意見を交換するのもよい。例えば、同じ聖典の記事でも異なる場面の絵を描いてもらうことも可能であるし、あるいは感謝している事柄について絵に描いてもらうこともできる。

### バズセッションの例

専任宣教師として伝道するための準備に関するレッスンでは、長老定員会の教師は定員会会員を5つのグループに分け、それぞれのグループに以下の質問の中から一つについて報告するよう準備してもらう。

- 専任宣教師として伝道するため、若い男性はどのような準備ができるでしょうか。
- 専任宣教師として伝道に出ようとする息子が準備するのを助けるため、父親は何ができるでしょうか。
- 専任宣教師として伝道に出ようとする若い男性や少年たちが準備するのを助けるため、ホームティーチャーは何ができるでしょうか。
- 専任宣教師として伝道に出ようとする若い男性が準備するのを助けるため、アロン神権アドバイザーは何ができるでしょうか。
- 専任宣教師として伝道に出ようとする成人はどのような準備ができるでしょうか。

これと同様のパターンを用いて、バズセッションのほかの議題を展開していくことができる。

### バズセッションの進め方

バズセッションの進め方については以下の段階が示されておりである。バズセッションを進めていく計画を練る際、それぞれの段階の所要時間を検討する。その行程にあまり多くのレッスン時間を費やさないようにする。

1. 少なくとも3人から成るグループ分けをする。(もしくは、簡単に隣に座る生徒と短い話し合いをするよう指示するのが適当なときもある。この方法を選ぶなら、第2から第6までの段階をそれに合わせる必要がある。)
2. 教師が各グループのリーダーを指定するか、もしくはグループに選出させる。グループごとに記録係も割り当てる。記録係には紙とペンあるいは鉛筆を渡す。記録係は、

話し合いの最中にグループ内で交わされる意見を列挙していく。リーダーは話し合いを進めていき、後にグループとしての意見をクラスで発表する。(絵を描く作業を伴うバズセッションを進めるのであれば、紙、鉛筆、クレヨンなどの必要な教材を提供する。)

3. 各グループに、レッスンに関連のあるテーマを割り当てる。すべてのグループが同じテーマについて話し合うのもよいであろうし、グループごとに異なるテーマを割り当ててもよい。テーマの記された紙を各グループに配るのもよいであろう。
4. 与えられたテーマについて話し合うための所定時間を告げる。話し合いが脱線してしまうことのないよう注意する。終了1-2分前に知らせる。
5. グループの話し合いで出された意見をリーダーから発表してもらう。(すべてのグループが同じテーマを話し合ったのであれば、順番に意見の一つずつグループリーダーから報告してもらう。さもないと、最初のグループが多くの意見を述べてしまい、残りのグループの言うべきことがなくなってしまう。)
6. テーマについて十分話し合われたことを確認したうえで、出された意見を要約する。話し合った事柄が教師の教える福音の原則とどのように関連しているか、生徒が理解していることを確認する。

## 事例研究

事例研究では、似たような状況に置かれた場合どうするかについて、生徒の熟考、もしくは話し合いを促すような現実に即した状況が扱われる。この研究は、日々の生活に福音の原則がいかに応用されるかを示すうえで役立つ。話し合いを奨励するためであるとかレッスンの主要原則を強調するため、もしくはレッスンの締めくくりに事例研究を用いてもよい。

事例研究として、事実に基づいた話や現実味を帯びた創作を基にした状況が用いられてもよい。実話を用いるのであれば、レッスン中のある時点で話の出典を述べるとよいであろう。

### 事例研究の例

話し合うべき質問を付した4つの事例研究の例を以下に示す。

#### 親切な心をもって人に接する

近所の友達と午前中ずっと遊び通し、とても楽しくしているところへ、道路を挟んで向かいにある家を訪問している女の子が外に出て来て、どうやら一緒に遊びたい様子である。

- あなたはどうすべきでしょうか。

### 什分の一を完全に納める

暮れも押し迫り、ジョーンズ兄弟姉妹はその月の家計について調べている。その結果什分の一を納めたならば、請求書の支払いを完全にすることができなくなると分かった。

- あなたがジョーンズ兄弟姉妹の立場にいるとしたら、どうするでしょうか。

### 福音を分かち合う

何か月も前から、ワード内のほかの若い男性や女性と、死者のためのバプテスマを受けるために神殿に参入する計画をしてきた。教会員でない友人がその同じ日の夕べに行われるパーティーに誘ってきている。パーティーに行けない旨を告げると、友人はその夜何をするつもりでいるのか尋ねてきた。

- あなたならどう答えるでしょうか。

### 正しい決意をする

友人から、ふさわしくないと分かっている映画に行こうと誘われた。

- その誘いを断るためにどうするでしょうか。

### 事例研究の作り方

教会出版の教師用手引きの中にあるレッスンの幾つかは、事例研究として用いることのできる話を含んでいるが、時には、独自の事例研究を作りたいと思うかもしれない。以下のようにするとよいであろう。

1. 教えようと準備している原則を心にとどめておく。次にそうした原則に関連づけ、かつ教える生徒の年齢に見合う状況について考える。
2. 考えたり話し合ったりするのを促すような方法で、かつ現実により得るような状況を提示するよう準備する（「話し合いを展開する」63-65ページ、「質問を交えた教え方」68-70ページ、「物語」179-181ページ）。
3. 話し合いの後、原則を強調するために何を言うべきか、あるいはどんなことをすべきか検討する。

### 黒板

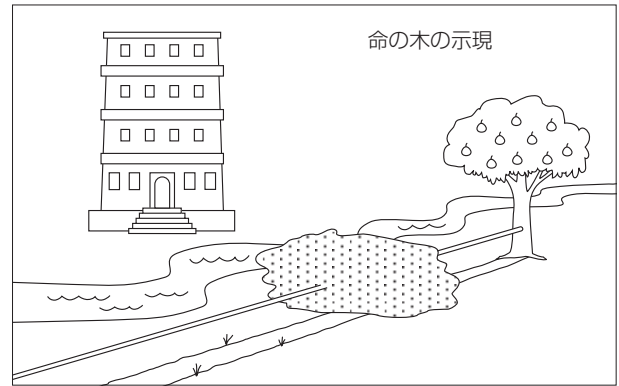
黒板は、最も簡単に即座に利用できる教材の一つと言える。教師は以下の用途で黒板を利用することができる。

- 主要な事実もしくは考えを強調したり、生徒がそれらを感じるように役立つ。
- 書き留めることで生徒から出された意見を確認する。
- 質問事項を記し、生徒の意見を列挙することで話し合いを誘導する。以下はその例である。

わたしたちが祈るときには

\_\_\_\_\_を \_\_\_\_\_  
天父に感謝する。 父に願う。

- 簡単に描写することによって、概念や話を明らかにする。例えば、



- 生徒が話し合いを進めるのに役立つよう、概要またはリストを作る。
- 現在行っているレッスンもしくは次回のレッスンに関連する課題や参照聖句を列挙する。

### 黒板を活用するための指針

以下の指針は、黒板を効果的な教える手段として用いる際に役立つものである。これらの指針はオーバーヘッドプロジェクターやホワイトボードを用いる際にも適用できる。

- 情報や絵をどのようにまとめていくか決めながら、書くべきことを計画し、練習する。用いようと考えている絵を描く練習する。
- 黒板に概要やリストを記したり、絵を描いたりすることを計画しているならば、授業の始まる前にあらかじめ準備し、紙で覆い、レッスン中適切なときに覆いを取り除いて見せるのもよいであろう。
- 板書事項が十分な行間を取って書かれ、整然としており、読みやすいことを確かめながら、皆が見えるように、はっきりと大きく書く。鍵となる言葉や句のみを記す。
- 物語または概念を描写するためには簡単な棒線画や略画を用いる。図や形を簡略にしておけば、それらがレッスンの最大関心事になってしまうことを防げるであろう。
- 板書している間も話し続けることで、生徒が注意をそら

すことのないようにする。

- 黒板での作業に長い時間を費やすことを避ける。生徒がレッスンに対する興味を失うことになりかねない。
- 誤字、字の下手さ、もしくは絵を描くセンスがないことでわびない。わびることは、あなたの字や絵の才能など特定の側面に注意を引くだけである。黒板を用いるのが苦手というのであれば、だれかに手伝ってもらう。
- 生徒と視線を合わせておくことができるよう、時には教師に代わってだれかに板書してもらう。その生徒が、教師の記してもらいたいこと、また黒板のどこにそれを書くべきであるかを理解していることを確かめる。

### 朗読（「朗読劇」；「復唱」も参照）

朗読は、グループが一緒に聖句や詩、もしくは散文などを読むことであり、クラスの中で行うこともできるし、聴衆を前に披露することもできる。

教師は、聖典の中の記述、物語、詩、またその他の情報を提示するのにこの方法を用いることができる。また、祝祭日、あるいは特別な行事のために企画された特別プログラムの一部として用いることも可能である。

#### 朗読の例

テーマ：信仰箇条

手順：生徒に信仰箇条を復習させた後、教師の後に一緒に読み上げさせる。

#### 朗読の進め方

- レッソンのテーマに添った教材を選択する。適切な教材は、聖典や教会の作成した教師用手引き、教会の機関誌、『子供の歌集』などから探し出せるであろう。
- 聴衆を前に朗読を披露するつもりであるなら、グループが声をそろえて読めるように、教材を読む練習をさせる。主旨をよく伝えるため、はっきりと話し、間を取り、声の大きさと読む速さにメリハリをつけるようにする。朗読中は、生徒が自分の担当箇所と一緒に繰り返せるよう指導する。

### 比較と実物を用いたレッスン

信仰、悔い改め、愛、イエス・キリストの贖い、罪の赦し、贖罪といった原則は、福音において形のない側面を持つものである。このような事柄を教えるのは難しいことがしばしばある。ボイド・K・パッカー長老はこう語った。

「福音を教えるとき、わたしたちは、我々を取り巻く目に見える世界を再現するのではない。わたしたちは、わたしたちの内にある形のない世界と取り組むのであって、両者の間には大きな違いがある。わたしたちは、普通に用いられている手段を用いることはできない。猫についての知識を若者たちに伝えることなど、信仰について語るよりず

っと容易なことである。信仰について描写することは難しい。

例えば、信仰の大きさはどれくらいだろうか。わたしたちは、すぐに大きさが役に立たない概念であると悟る。信仰のことなどまったく何も知らない若者に語るができることと言えば、ただあいまいに信仰が強いとか弱いとかいう尺度で表現するにとどまる。それがどんな色であるかを教えることはできないし、どんな形をしているかも言えない。どんな手触りかも教えることはできないのである。」

そして、パッカー長老は形のない原則について教えるために用いることのできる手段をこう伝授している。「目で見ることのできないその概念を、……生徒のすでに知っている形のあるものに結びつけ、その知識を基に概念を築き上げるのである。」(Teach Ye Diligently, 改訂版[1991年], 31-32)

教師は、生徒が形のない原則を理解できるように役立つ比較や実物を用いて行うレッスンを活用することができる。物語や個人の証を同時に用いることにより、これらの方法はわたしたちの五感では測り知ることのできない永遠の現実を教えるための優れた手段となる。

比較や実物を用いて行うレッスンを活用する際、いかなる場合にもそれらはレッスンの目的を強調するために用いられるものであり、教えている福音の原則からそれるべきでないことを覚えておくべきである。

#### 比較

救い主は、霊にかかわる原則を聴衆が理解するのに役立つよう、なじみがあり身近な物や経験をしばしば引用された。主は御自身のことを「命のパン」(ヨハネ6:35)と呼ばれ、また「よい羊飼」(ヨハネ10:11, 14)とも言われた。救い主は従う者たちに、失われた羊を捜すよう教えられ(マタイ10:5-8参照)、また主の小羊を養うよう説かれた(ヨハネ21:15-17参照)。主は天の王国を宝や真珠、また魚を囲み入れる網にたとえられた(マタイ13:44-48参照)。信仰をからし種になぞらえ(マタイ17:20参照)、人はその実によって見分けられると主は言われた(マタイ7:15-20参照)。主の教えにあっては、狭い門は命に至る道であり(マタイ7:13-14参照)、弟子たちは人間をとる漁師である(マタイ4:18-19参照)。主の民を集めることについては、めんどりが翼の下にそのひなを集めるようなものであると語られた(マタイ23:37参照)。

訓練と想像力により、福音の概念を身近にあるものに見いだすことができるようになる。例えば、祈りはラジオに、祝福師の祝福はリアホナになぞらえられ、希望は雲間からさし込む光にたとえることができる。職場における経験や、日々の家事の中に、あるいは他の人々との交わりの中にレッスンを見いだすことができるであろう(「あらゆる場所で教えるヒントを見つける」22-23ページ)

パッカー長老は比較を見つけるための方式を提示している。

\_\_\_\_\_ は \_\_\_\_\_ のようである。

以下に示すように、この方式は悔い改めについて教える



ために用いることができる。悔い改めという形のない原則も、何か単純で身近なものにたとえることにより、はっきりしたものになっていく。パッカー長老はこう教えている。

「悔い改めというテーマに取り組んでみよう。

悔い改めは \_\_\_\_\_ のようなものである。

悔い改めにたとえることのできる、だれにとっても身近でありふれたものとは何であろうか。石けんを用いてみよう。

悔い改めは 石けん のようなものである。」(Teach Ye Diligently, 36-37; 34ページも参照)

#### ほかの比較例

以下はほかの比較事項のリストである。福音を教える際に用いることができるであろう。

聖文の学習はごちそうのようなものである。

子供は宝のようなものである。

信仰は盾のようなものである。

聖典は荒波に投げ込まれた救命ボートのようなものである。

罪は流砂のようなものである。

#### 実物を用いたレッスン

比較と同じように、実物を用いたレッスンは形のない原則を身近なところで目にするものに関連づける。しかし、実物を用いたレッスンでは、概念に関する話だけにとどまらず、実物を提示する。例えば、悔い改めのもたらす清めについて生徒が理解するのを助けるため、教師は石けんを示し、自分の手についた汚れを洗い流して見せることも可能である。

#### 実物を用いたレッスンのほかの例

実物を用いたレッスンの活用法については以下の例でさらに詳しく説明されている。

- 儀式と聖約が切り離せないものであることを示すため、硬貨を見せる。その後硬貨の裏表どちら側がより重要であるか尋ねる。(どちらがより重要であるかという比較は成り立たない。) 生徒に硬貨の両側を切り離せるかどうか尋ねる。硬貨の二つの面が切り離せないのと同様、儀式と聖約も切り離せないことを説明する。また、催し物に参加するためには時折硬貨が必要であるように、神のもとに招き入れられるためには儀式と聖約が必要なことを指摘する。
- それぞれの個人が重要であることを強調するため、生徒にあらかじめ一片を抜き取っておいた単純なパズルをさせる。生徒が足りない一片について尋ねてきたら、それを渡す。足りない一片がなぜ重要であるか尋ね、パズルの各々の一片は家族の一員のようなもの、あるいはクラスの一員のようなものであることを説明する。すべての個人が重要なのである。

- 福音の大切さについて説明するために、地図を見せる。わたしたちが地図を用いる理由を尋ねる。次に、その地図を福音になぞらえる。地図と同様、イエス・キリストの福音はわたしたちを導くものであることを説明する。わたしたちが天父とともに住むことのできる永遠の命に至る道にとどまっていられるよう、福音は助けを与えるのである。

- わたしたちの心に植えつけられた神の言葉に養いを与えることについて教えるために(アルマ32:28-43参照)、2本の木を描く。1本は生き生きしており、水けのある豊かな土壌に植えられている。もう1本は、生気がうせており、乾いてやせた土壌に植えられている。

#### 比較と実物を用いたレッスンをいつ活用するか

比較や実物を用いたレッスンはいろいろな場合に活用できるが、以下のような必要がある場合にとりわけ効果がある。

- 生徒の注意を喚起しようとする場合。直ちに生徒の興味を引き、注意を向けさせ、レッスンのテーマもしくは原則を導入しようとする際、比較や実物を用いたレッスンを活用することができる。
- レッソンの概要を説明する場合。時折、比較や実物を用いたレッスンを骨組みにして全体のレッスンを構成していく方法も考えられる。
- 締めくくり、要約し、励ます場合。福音の原則を教えた後、話し合われた事柄を要約し、生徒が生活に価値のある変化をもたらすよう促すため、比較や実物を用いたレッスンを活用することができる。

#### 実演

ある特定の原則や技術を教える最善の方法は実演して見せることである、と感じることが時折あるかもしれない。実演は、歌や賛美歌の指揮、応急処置の施し方の指導、パンの焼き方、ロープの結び方、家族の歴史資料の使用法、もしくは神権の儀式の執行などの技術を教えるために用いることができる。教師が実演を行った後、生徒がその技法を試してみる機会を与える。

技法や技術を実演するためだれかほかの人を招く場合は、その人が準備する際に喜んで手伝いたい旨を伝える。

#### 実演の準備と提示の仕方

実演の準備に関しては、以下の段階に倣う。

1. 教師自身が実演を行うのであれば、事前に練習する。目的を達成できるものであるかどうか、時間内に提示し終わられるかを確かめる。生徒がその新しい技術を試みる際必要以上に苦勞することがないように、生徒に適した技術かどうかを確認しておく。
2. 必要な材料や道具を検討する。使用するものがよく見える大きさか、小さいのであれば、描写によって説明で

きるかを確認する。実演するためだれかほかの人を招いており、必要な材料や器具をその人に用意してもらわない場合には、教師の側で準備しておく品々のリストを渡してくれるように依頼する。実演で行われた作業を生徒に繰り返させる場合は、生徒がすぐ使用できるよう必要なすべての道具や材料を整えておく。生徒に観察記録用紙を配っておくのもよいであろう。実演の間、測定値や成分などをその用紙に書き込むとよい。

3. 生徒が実演で学んだことを再現する間、その技法に精通している人の援助を得るのが望ましいかもしれない。その場合、援助を頼める人に前もって話しておく。
4. すべての生徒が見聞きできるように教室を整えておく。
5. 必要であれば、実演終了後使用した場所を掃除する手はずを整えておく。

実演の提示に際しては、次の段階を踏む。

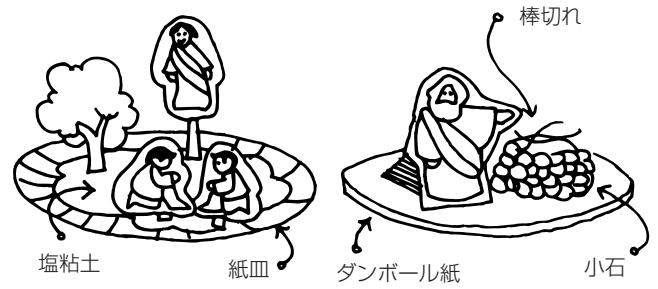
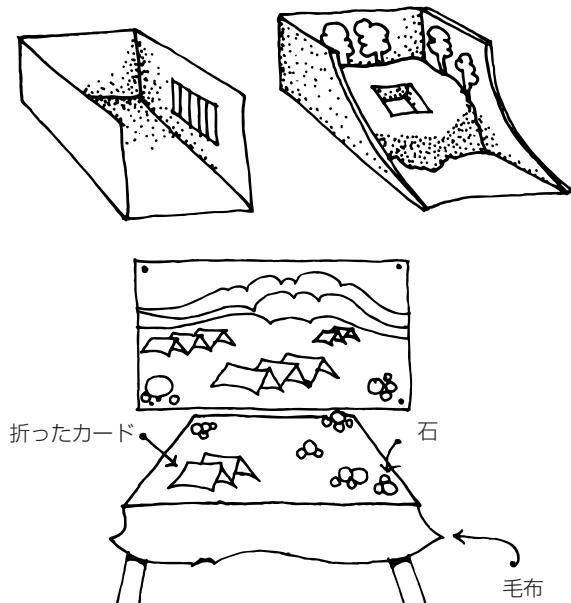
1. 説明する。生徒が実演の目的や手順の理由を理解するよう助ける。また、生徒がその技法や行程、または技術がどう役立つことになるのか理解するよう助ける。
2. 実演する。その技法や行程、または技術をどのように行うかを示す。これは、生徒が同様のことができるようになるための、例や手本を提供することになる。
3. 実践させる。生徒に手順を実践させる。実践段階の間、教師は観察し、教え、必要であれば手伝う。忍耐を持ち、理解を示し、肯定的に受け止めかつ励ます。

原則を教えるための実演の活用例は、167ページを参照のこと。

### ジオラマ（「紙人形」も参照）

ジオラマとは人形を配置するための小さな舞台である。簡単なジオラマと人形は、子供たちにとって物語を心に残るおもしろいものにする。

#### ジオラマと人形の例



クラスの時間中生徒に手伝ってもらいながらジオラマと人形を作ってもよいし、すでにジオラマとともに使うために作った人形を持参してもよい。

### 塩粘土のレシピ

塩1カップ〔訳注——1カップは約240cc〕

小麦粉4カップ

食用油大さじ1

水2カップ

食紅（任意）

塩と小麦粉を混ぜる。ほかのボールに油と水、色を付けなければ食紅を入れてかき混ぜる。これを塩と小麦粉の混ぜ合わせたものに注ぎ、よく混ぜ合わせる。よくこねて塊を作る。軟らかさを保つため、粘土を密閉した容器に入れる。

箱や皿で作ったジオラマは、一つの物語にとどまらず、ほかにも利用できるであろう。

### 話し合い

「話し合いを展開する」63-65ページ参照。

### 劇化

劇化とは、物語を演じることである。聖典や教会歴史、あるいは教会の機関誌に掲載されている話を劇化することで、生徒は福音の原則に対しより深い理解を得ることができる。

#### 劇化の様式

劇化にはいろいろ異なった様式がある。例えば、

- 出演者には身振りのみで演じさせ、教師が話を読む（あるいはだれかに読んでもらうこともできる）。
- 教師が話を物語り、その後出演者にせりふを伴った（せりふなしでもよい）演技をさせる。しばしば、年少の子供たちは異なる役をもらって何度でも喜んで演じたがる。
- クラスで読み合わせができるよう、事前に脚本を用意する。
- 幾人かの出演者によく知られた話の中からせりふ抜きの演技をしてもらい、見ている人にどんな話の劇化であったか当てさせる。

- 生徒のだれかに聖典や教会歴史に登場する人物であるかのように振る舞ってもらい、インタビューをする。例えば、教師はだれかにノアの息子の一人であったセムの役を演じてもらうよう頼む。セムを演じるその人に、ノアの説教や洪水、箱舟のこと、ノアと家族が再び大地を踏むことができるようになった日のことなどを話してもらう。(教師がそのような「インタビュー」を進めるのであれば、役を演ずるその生徒と事前に打ち合わせを行い、尋ねるべき質問を知らせておく。)

### 劇化の指導と準備の仕方

どのように劇化を指導していくかにかかわらず、明らかにレッスンに関連づけられたものでなければならない。生徒に福音の原則を思い起こさせるようなものであるべきである。内容が分かりやすく、率直に伝わるようではない。霊的な出来事もしくは歴史的な出来事の背景にある神聖さが損なわれるようになってはならない。

長い衣や帽子のような簡単な衣装は、子供にとっては特に、劇化をいっそう興味深いものに演出する。生徒によって演じられる劇中の人物がだれであるかを明らかにするよう、名札を用いることも助けとなる。

生徒の中には、聖典もしくは教会歴史に登場する人物の役を演じることに抵抗を示す者もいるかもしれない。そのような生徒にも、何らかの形で参加する方法を見いだすことはできるであろう。例えば、年少の子供にとっては、動物のまねをすることなら安心してできるかもしれない。風や走る足音のような音響効果の役割であれば、楽しめる子供もいるであろう。参加したくないというのであれば、無理に押しつけることはしてはいけない。

劇化を指導するために、以下のようにする。

1. 参加したい人を募り、役を与える。
2. 参加者が、自分たちの劇化する話と演じる登場人物を理解できるよう助ける。
3. 劇化の間、必要に応じて出演者の役作りを手伝う。彼らはせりふを述べる際、教師に促される必要があるかもしれない。年少の子供を教えているのであれば、「次はどうするの？」あるいは、「さてここで何と言うの？」などの質問をするとよいだろう。

劇化はレッスンの時間すべてに及ぶべきではない。最後に出演者に、劇を通して何を学んだか尋ねる時間を必ず取る。生徒が、劇化によって伝えようとした内容をレッスンや個人の生活に関連づけて考えられるよう助ける。

### 劇化における神会の人物の描写に関する注意

「父なる神および聖霊は集会、演劇、またはミュージカルにおいて描写しない。

救い主を演じる場合は、最大限の敬虔さと尊敬に満ちたものでなければならない。救い主を演じる人は、それにふさわしい人格を備えた人にする。救い主を演じる人は、聖典に書かれた救い主の言葉のみを語るようにする。救い主

を演じる人は、歌ったり踊ったりしてはならない。

救い主を演じる人は、公演終了後、休憩室やその他の場所で衣装を着用せず、直ちに普段の服装に着替える。

降誕の場面を除き、子供が救い主を演じてはならない。」(『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』280-281)

救い主によって語られる聖典の言葉をナレーターに読んでもらうのもよい。

### 絵を描くこと

生徒が福音の原則を理解するのに役立つ方法の一つは、絵を描かせることである。絵を描くことで、生徒は探究したり、福音の話や話題にされている原則について自分の理解していることや思うことを表現できるのである。

### 絵を描くことに関する例

- レッソンのテーマに関連のあることを描かせる。例えば、生徒の住む家、家族、休日、什分の一、もしくは神殿に参入する備えなどについて絵に描かせる。
- レッスンに関連のある壁画や年表を作成させる。1枚の長い紙の上に共同作業をさせる。
- 生徒に話を聴かせた後、その感想を絵に描かせる。
- 話を終えた後、それぞれの生徒にある特定の場面を絵にしてもらう。その絵を用いてもう一度話をさせる。教師は生徒の描いた絵をつなぎ合わせ、ローラーボックス〔訳注——回して画面を進める箱紙芝居〕に入れて見せることも可能である(「ローラーボックス」178ページ参照)。
- 賛美歌あるいは『子供の歌集』を歌うか録音したものを聴かせる。生徒に賛美歌や歌を聴いて何を考え、どう感じたかを絵に描かせる。

### 絵を描かせる活動を指導するための指針

レッスンの一環として生徒に絵を描かせる際には、その活動を、教えようとする原則と関連させるようにする。しかし、その活動がレッスンの中心とならないようにする。生徒が短い時間で描き終えることができるよう、簡単な作業にする。必要なすべての画材を用意しておく。

絵を描かせるに当たり、生徒に想像力を用いるように促す。子供には、決まり切った方法で絵を描く必要のないことを教える。描いている間、生徒の出来栄を平等に褒める。生徒の描いていることに質問があれば、「何を描いているの？」とは尋ねず、「描いている絵について話してくれる？」と言う。

教師は時折、『リアホナ』からの塗り絵を用いることがあるであろう。子供に救い主の絵を塗らせる際には、敬慕う気持ちや敬虔さを思い起こすよう促す。

レッスンに戻る時が来たら、描いた絵について生徒に話



してもらうのもよいであろう。レッスンとどうかかわりがあるか生徒に尋ね、絵を描いての感想を分かち合ってもらおう。レッスンの残りの時間、それらの絵を飾っておくのもよい。

教会のクラスを教えているのであれば、生徒に描いた絵を家族に見せるよう促す。これは、生徒が学んだことを思い出すのに役立つ。また、両親が子供と福音の原則について語り合う機会ともなる。

### 具体例

聖典に付けた印を見たこともない人たちに、そのことを説明する様子を想像してみる。言葉だけで説明しようとしても理解させるのは難しいが、印の付いた聖典のページを例として示すなら、恐らくすべての人が難なく理解できるであろう。10分の1という概念を理解できない子供に、十分の一の律法について説明することを想像してみたい。教師が10枚の硬貨をテーブルに並べ、そのうちの1枚を献金用の封筒に入れるという例を示すならば、生徒はその律法についてはるかによく理解できるであろう。

福音を教える教師として、生徒にとってなじみの薄い事柄を理解させることにチャレンジを覚える場合がしばしばあるだろう。このことを達成する一つの方法は、具体例を用いることである。原則について語り、応用の仕方を説明するのは重要なことであるが、通常、具体例を示すことで教師の教えは効果を増すことが期待できる。

生徒の理解を確実にするのに役立つ方法として、レッスン中にしばしば具体例を示すようにする。本書の73ページには、初等協会の啓示に関するレッスンで、具体例を用いるべきであったある教師の話がある。その教師は、様々な効果的な方法を用いながら、細心の注意を払って丁寧にレッスンを行った。レッスンも終わりに近づいたころ、その教師は「教会のために啓示を受ける権能を持っているのはだれですか」という、復習の質問を行った。すべての子供が手を挙げた。教会の大管長という答えを知っていたからである。ところが、その教師は生徒が「啓示」という言葉の意味を知らずにいたことに、ほとんど偶然気がついたのである。教師がレッスンの早い段階で、聖霊に導かれたというような個人的な経験や、最初の示現の中で主がジョセフ・スミスに語られたことなどの具体例を簡単に示していたならば、まったく違った結果を生んでいたことであろう。

### 具体例の活用の仕方

具体例を示すための方法はたくさんある。最も重要なことは、生徒が教師の教えている事柄を明確に理解できる助けとなるよう、それらを用いるということである。以下は幾つかのアイデアである。

#### なじみのない考え方に関する身近な具体例

生徒にとってなじみのない概念について話そうとするな

ら、理解させるのに役立つ具体的で身近な例を用いるとよい。例えば、神権の儀式について話そうとするなら、「バプテスマ、聖餐、神殿における永遠の結婚は、神権の儀式の具体例です」と教えることができる。預言者について述べようとするなら、「アダム、アブラハム、モーセなどは古代における預言者であり、末日の預言者の例としては、ジョセフ・スミス、デビッド・O・マッケイ、エズラ・タフト・ベンソンやゴードン・B・ヒンクレーが挙げられます」と言うのもよいであろう。

信仰や罪の赦し、あるいは贖いというような形のない概念は例示するのが難しいが、物語や比較または実物を用いたレッスンによりそのような概念をよりうまく教えられることがよくある（「比較と実物を用いたレッスン」163–164ページ参照）。

#### 技術を実演して見せる具体例

ある技術を教える最善の方法はそのやり方を実演して見せることである。例えば、

- ほかに人がレッスンの準備の仕方を学ぶ助けとなるよう、あなたの準備したレッスンの概要を分かち合う。
- 学習の手引きとなるものが聖典にあることやその活用の仕方を単に説明するのではなく、実際に聖典の中に収められた聖句ガイドや脚注、その他参考となる資料を開けさせ、それらの具体的な利用の仕方を示す。

#### 原則を実演によって示す具体例

原則の幾つかは実演によって示すことができる。以下は初等協会の教師が分かち合うという原則をいかに実演できたかを物語っている。

「初等協会の3歳児を受け持つ教師は、分かち合うことについて大まかに説明した後、分かち合った子供たちに関する短い話を二つした。それから新聞を床に敷くと、それぞれの子供に粘土の塊を渡した。教師の持つ粘土は生徒たちのに比べてはるかに小さく、分け与えてくれるよう一人一人に尋ねた。初めはためらっていた子供も、教師の喜んで分け与えようという態度を見て、その教師とだけでなく、他の生徒たちとも分かち合うことを楽しむようになった。そのレッスンは生徒たちに分かち合いという概念がどういうものかを定義づけただけではなく、分かち合うことによって得られる感情を知るという経験をも与えたのである。」（ジャネル・リセンコ，“Tools for Teaching Tots,” *Ensign*, 1987年3月号, 71）

#### 福音に従った生活をしている人の模範を物語る話

信仰、愛、忠実さや悔い改めなどの原則は、目に見えない霊的な事柄について触れることになるため、実演によって示すことが不可能である。しかし、実際の話を通してそのような原則に従って生活した人々の模範を示すことができる。例えば、高潔さについて教えるために、ポテパルの

妻から逃れたエジプトのヨセフの物語を用いるとよいであろう。生命の危険を冒してまでも、預言者ジョセフ・スミスやその兄ハイラム・スミスとともに、カーセージの監獄にあえてとどまろうとしたジョン・テーラーやウィラード・リチャーズの話をするので、忠誠心というものを教えることができるであろう。教師自身の経験を語ることもできる。たとえを含む創作話は、福音に従った生活をどのように送るかという具体例を示してくれる。(物語の用い方に関する指針や提案は「物語」179-181ページ参照)

### フランネルボード

フランネルボードは、通常切り抜き絵を張り付けていきながら話をする、持ち運びが可能な布張り板のことである。この教授法は子供に適している。フランネルボードを用いる際、生徒に切り抜き絵を張り付ける手伝いをしてもらうのもよいであろう。話をするためにフランネルボードを使用した後は、生徒にその話を自分の言葉で話させるために使うのもよいであろう。

### フランネルボードの作り方

フランネルボードを作るために、

1. 固いボール紙か薄いベニヤ板、あるいは同等の素材を切る。
2. 無地のフラノ地、フェルト、ナイロン製の毛羽立ったニットか粗めの黄麻布を、板の各々の端から5センチ幅広に裁断する。
3. 生地を表を下にして、中心に板を置く。板の縁に沿って布地を折り返し、しっかり張り付ける。

### フランネルボード用切り抜き絵の作り方

独自のフランネルボード用切り抜き絵を作るために、

1. 絵を描くか、教会の機関誌、教師用引きなどから写して、色を塗る。
2. 絵を切り抜く。
3. 厚めの紙に絵をテープで止めるかのり付けする。
4. 厚紙に貼りつけた絵の裏側に、フラノ地またはサンドペーパー、もしくは目の粗い素材の一片を付ける。これは、切り抜き絵がフランネルボードにくっつくようにするためである。

人や動物、物体などフランネルボード用の切り抜き絵は『教会書籍・教材総合カタログ』にある「初等協会視覚資料(切り抜きセット)」として注文することができる。

### ゲーム

ゲームはレッスンに多様性を持たせ、生徒が協力し合う機会を与える。ゲームに関するアイデアは教会出版の教師用引き、教会の機関誌、『家庭の夕べアイデア集』を参考にとよい。

### ゲームの選び方

- レッスンで用いるゲームを選ぶ際には次の事項に留意する。
- 教師が教える福音の原則を強調する内容のものであること。
  - 教えようとする状況に当てはまるものであること。
  - 生徒の年齢や人数の規模に適したものであること。
  - 分かりやすいものであること。
  - レッスンのごく一部を占めるにとどまること。ゲームがレッスンの大きな位置を占めざるを得ない場合があるにせよ、それは例外というべきであり、常例ではない。
  - 競争をあおってはならない。ゲームに勝った者に賞を与えることは避けるべきである。
  - すべての生徒に参加する機会と成功の喜びを与える。生徒の頑張りを等しく褒めるようにすべきである。

### ゲームの例

#### 組み合わせゲーム

このゲームでは、生徒が互いに関連の深い情報や絵を2枚セットで探し出す。以下の例を検討してみる。初等協会のレッスンで用いることができるであろう。

だれもが見ることのできる同じ大きさに切った12枚の紙を用意する。紙の半分には、レッスンに関係のある絵を張り付けるか描き、残り半分にはそれぞれの絵の説明文を書き入れる。絵も説明文もない面には1から12までの番号を付しておく。レッスン中の適当な時間を見計らって、番号の書いてある側を上にしてそれらの紙を床に並べるか、ポスター大の台紙にテープで張り付ける。番号順である必要はない。

それぞれの生徒が2枚の紙を選びながら、順番にゲームを進めていく。絵とそれに合う情報の組み合わせが成立したかどうかを見るために、選択した紙を裏返す。組み合わせが成立すれば、その2枚を抜き取る。成立しなければ、番号の記された面を上にして元の位置に戻し、次の人が2枚の紙を選ぶ。すべての組み合わせが成立した後、それらがレッスンとどうかかわるかを話し合う。

以下に示されているのはこのゲームに変更を加えたものであるが、そのうちの一つを用いてみるのもよいであろう。

- 1枚の紙に聖句の一節の半分を書き、残りをもう1枚の紙に書き入れる。あるいは、聖典中の成句の一部を1枚目に書き、残りを2枚目に書き入れる。例えば、ある1組は、「福音」と「の回復」の組み合わせであり、また「命の木に関する」と「リーハイの示現」の組み合わせ、また「鉄の」と「棒」の組み合わせというもの。
- 信仰箇条の節番号をそれぞれ13枚の紙に書き入れる。対となる13枚の紙には各々の条文に含まれるキーワードを書き込む。

### 当てっこゲーム

このゲームは、生徒が特定の人物や場所、物、聖典の中の話、または原則を当てるのを助けるため、教師が一連のヒントを与えるというものである。レッスンの導入として、またはレッスンの一部を強調したいときにこのゲームを用いるとよいであろう。

このゲームをするのに、教師は生徒がレッスンにかかわりのある人物または物を当てられるようヒントを与える。1回につき、1つのヒントを与え、ヒントの後にその人物や物を当てる機会を与える。一般的なヒントから始め、正解が出るまで少しずつヒントをその答えに特有のものにしていく。例えば、以下は生徒が預言者モーセを当てるために役立つヒントである。

わたしは、旧約聖書の預言者である。

わたしは、顔と顔を合わせて神と語った。

わたしは、エジプトの王妃によって育てられた。

わたしの代弁者はアロンであった。

わたしは、イスラエルの民を捕らわれの身から解放すべく導いた。

以下に示されているのはこのゲームに変更を加えたものであるが、そのうちの一つを用いてみるのもよいであろう。

- 二人組みのパートナーに分かれてもらう。各組の一人に言葉を与える。言葉を受け取った者は、自分の相手にそれを当ててもらおうため一言のヒントを出す。例えば、「バプテスマ」という言葉を与えられたとしたら、そのヒントとして「水」「フォント」「沈める」などを用いる。「ノア」というのが与えられた言葉であれば、「洪水」「動物」「箱舟」「鳩」あるいは「虹」をヒントにできるであろう。
- 生徒の一人に言葉を与える。20問までの質問を許し、ほかの生徒にその言葉を当てさせる。質問は必ず、「はい」か「いいえ」で答えられるものにする。
- 一人の生徒にあるテーマや人、または物語を示唆する絵を描かせ、ほかの生徒たちに当てさせる。

### 解答ゲーム

レッスンの最後に、復習に役立つ質問事項を生徒に各々書いてもらう。質問が記されたそれらの紙を瓶または他の容器に入れる。

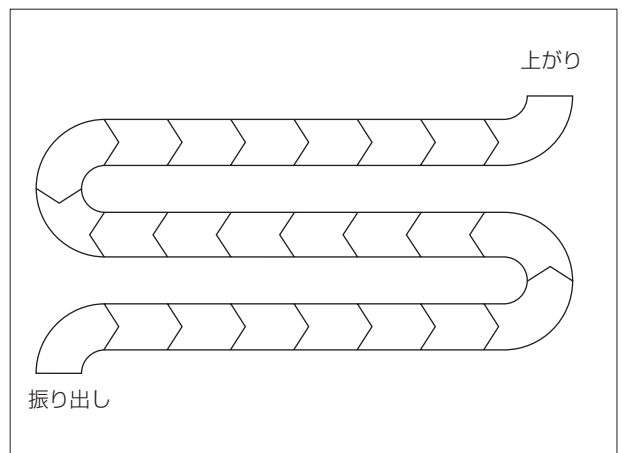
レッスンを復習するため、お手玉あるいは何か柔らかいものを生徒の一人に向かって投げ、その生徒に容器の中から質問事項を取り出して答えさせる。次にその生徒はほかの人に向かってお手玉を投げ、同様の作業を繰り返す。

### ボードゲーム

ボードゲームでは、競技者は用意されたゲームカードの質問に答え、指示に従いながら、振り出しから上がりまでこまを進めて行く。以下に示す例におけるボードゲームは、

厚紙で作るか黒板を用いて行われる。厚紙を利用する場合は、硬貨などの小さなものをこまに用いる。黒板の場合は、チョークでこまの位置を示す。ゲームカードの内容は福音の原則を教えるものか復習させるものにすべきである。例えば、以下のように記されているカードを準備すればよいであろう。

- あなたの弟が、友達のジョンのおもちゃを持ち帰る。弟は、「ジョンはたくさんのおもちゃを持っているから、これがなくなってもどうってことはないよ」と言っている。あなたは、おもちゃがジョンのものであるかぎり、返さなければならぬと説明する。弟と一緒に友達の家までおもちゃを返しに行く。正直な行いであるため、6個先進む。
- 学校で行われる、あるテストのための勉強をまだしていない。テスト中、隣の席の人の答えをカンニングする。正直な行いでないため、3個戻る。  
ゲームを始めるに当たり、ゲームカードは裏向きにする。参加者に順にカードを引かせ、カードに記されていることを読んで、指示に従ってこまを進めさせる。



### ゲストスピーカー

時折教師は、レッスンの一環として招待客に話をしてもらいたいと思うかもしれない。例えば、伝道の備えについて若い男性に話してもらうため、アロン神権アドバイザーは帰還宣教師を招待することができる。

### ゲストスピーカーとともにレッスンする方法

ワードの会員でない人をゲストスピーカーとして招く場合は、事前にビショップの許可を得なければならない（『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』329ページ参照）。ビショップの許可が得られたら、以下の段階を踏む。

1. あらかじめ、ゲストスピーカーを招待しておく。ゲストスピーカーには、レッスンのテーマや生徒の年齢層、そ



の企画を通して生徒に学んでほしいと望んでいる事柄、与えられる時間などの情報を伝えておき、テキストの該当するレッスンのコピーも手渡しておく。

2. ゲストスピーカーへの質問を準備しているのであれば、質問事項をリストアップし、そのコピーをゲストスピーカーに渡す。
3. ゲストスピーカーが話に入る前に、生徒に紹介する。

## 講義

特定の原則や歴史上の出来事については、話し合いを進めたりほかの学習活動をする以上に、単刀直入に語るのが最善という場合がある。広範囲の題材を素早く網羅し、生徒にとって新しい事柄を提示する場合、あるいはレッスンを要約するような場合、適切な時間で行われる講義は大変効果的である。

## 講義の仕方

講義は一般的に、ほかに何もせずじっと聞きながら静かに座っていることの難しい幼少の子供より、年長の生徒に効果があるものであるが、講義が上手に運ばなければ大人であっても退屈してしまう。以下の指針は、講義を効果的に行うのに役立つ。

- テキストを一語一語読まずに済むよう、レッスンの内容を熟知する。これは、生徒に視線を向けながらレッスンするのに役立つ。
- 絵やポスター、図表、地図、黒板あるいはオーバーヘッドトランスベアレンシーなどの視覚教材を用いて、関心を持たせ、集中させる。
- 生徒が原則を生活に当てはめることができるよう、講義の内容を日常の状況に関連づける。
- 生徒が理解できる言葉を用いる。
- 多様性を持たせたり、重要な箇所を強調するため、話す速度や語調に変化を持たせる。
- できるかぎり、説明している話題に関する質問や話し合いの時間を設ける。たとえ講義がほかの方法より広範囲の題材を網羅することになるにせよ、ほとんどのレッスンは何らかの方法で生徒の参加を促すよう図られるべきである。

## 当てはめること

わたしたちは、「それが自分たちの利益となり、知識となるようにするため、すべての聖文を自分たちに当てはめるべきである（1ニーフアイ19：23参照）。聖文を当てはめるとは、聖文に記されている事柄がいかにか今日のわたしたちを取り巻く環境に似通ったものであるか、またわたしたちの生活といかにか関連が深いかを理解することである。例えば、真理に立つというレッスンにおいては、生徒をノア王の裁判の席に連れて来られたアビナダイに当てはめるこ

とができる（モーサヤ11-17章参照）。霊的な盲目について、またわたしたちを癒し、さらに霊的な視野を広げてくれる救い主の力について教えるために、キリストが盲人を癒される物語を当てはめることもできる（ヨハネ9章参照）。

この方法は、読んだ記述について家族や生徒に深く考えさせる機会を与えるような場合最も効果的に活用できる。例えば、聖なる森で敵の力に打ち負かされそうになったときのジョセフ・スミスの対応について教えた後（ジョセフ・スミス—歴史1：15-16参照）、教師は生徒が試された経験について思い出してもらい、さらにはそれらを書いてもらうこともできる。そしてその試しの間「あらんかぎりの力を尽くして神に呼び求め」ることがなぜ重要であるかについて考えてもらう（16節）。

家族や生徒がそうした聖句との関連を理解するのに役立つよう、預言者や過去の人々の経験と、今日のわたしたちの経験を結びつけながら教えるべきである。毎回レッスンを準備する際、その原則（話や出来事でもよい）が生活の中で家族や生徒が経験する出来事とどこか似たところがないだろうかかと自問してみる。例えば、十戒に関する話し合いを含めてのレッスンでは、刻んだ像を作ったり拝んだりしてはならないという戒めについてどう教えるべきか思い巡らしてみる（出エジプト20：4-5参照）。教会員で刻んだ像を拝むという経験を持つ人はほとんどいないであろうが、時折「拝む」ほどに心を奪われる事柄は多くある。教える際、出エジプト20章4-5節にある古代の戒めを、身近にある何か、現代社会の金や運動競技、娯楽または名声に対する礼拝といったものに当てはめる。

聖典にあるほとんどすべての話は、わたしたちの生活に当てはめることができる。聖典の中にある話を生徒の身に当てはめた教師についての以下の例を検討してみる。

あるワードでは、毎週レッスン中、生徒に菓子を配る初等協会の教師のことで問題を抱えていた。与えられる菓子は御霊を妨げ、レッスンから子供の注意をそらすことになった。初等協会の会長はその問題を扱った分かち合いの時間を持ってくれるようワード教師改善コーディネーターに依頼した。

ワード教師改善コーディネーターは、教師と子供の双方にその考えを示せるような方法をあれこれ考えた。どのような試みもまったくしっくりしないように思われた。ある朝、彼女に与えられている責任について再び思い巡らしていると、最近家族と一緒に読んだ5,000人に食物を与えられたキリストの話の思い出した。会衆に食物が配られた後、福音を聞きたいという理由ではなく、食物欲しさにイエスに従った人々のいたことをその教師は思い出したのである（ヨハネ6：26-27参照）。

その日曜日、ワード教師改善コーディネーターはこの話に関連させながら、分かち合いを行った。初等協会に来る真の理由、すなわち霊の糧を与えかつ受けるという理由を教えるためにこの話を用いたのである。

聖文に自分自身を当てはめて考えられるように助けるう

えで役立つもう一つの方法は、聖句を自分に置き換えて読んでみるよう提案することである。例えば、だれかがヤコブの手紙1章5-6節にある状況に自分自身を置くとしたら、ジョセフ・スミス同様、その人にとってこの祈りに関する教えが自分自身に対して適用し得るものになる。

「〔わたしが〕知恵に不足しているのであれば、どがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、〔わたしに〕与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」

「この記録を書いた預言者は、そこからわたしたちに何を学んでほしいと望んだのだろうか」「こうして特別に詳細を書き加えた理由は何だったのだろうか」という質問をしながら、わたしたちの生活に幾らでも聖文を当てはめていくことができる。エノスの逸話についてこうした質問をすると、祈りに関する自分の経験に当てはめることができると気づくのである。祈りには努力が要ることや、天父はわたしたちの祈りにこたえてくださることを学ぶことができる。さらにまた、たとえ子供が親の教えに従うようになるには長い年月がかかるにせよ、親は子供に影響を与える存在であることを学ぶことができる。

聖文をわたしたち自身に見立てたり、人が同様に見えるよう助けるとき、わたしたちは、わたしたちの生活のあらゆる側面に及ぶ神の言葉の力を理解するのである。

## 地図

地図は、聖句ガイドや教会の教師用手引き、教会の機関誌、集会所付属図書館で入手可能である。

## 地図の活用法

以下のような例を参考に、レッスンの中で地図を用いるのがよいであろう。

- 学習中の聖典や教会歴史に登場する町を、生徒に地図上で確認させる。
- 黒板に簡単な地図を描く。
- 専任宣教師が派遣されている国や、神殿のある都市など興味のある分野について地図上で確認する。

## 暗記

聖句や引用文、賛美歌、初等協会の歌を暗記すれば、それらが慰めや導き、また靈感の源となり得る。それらを思い起こすとき、どこにしようともわたしたちは聖霊の影響を感じられるようになる。

暗記するには、細心の注意を払いながら神経を集中させるという努力が要求される。あなたは、暗記するのに役立つコツを教えることができるし、暗記するための示唆に富む教材を提案することもできる。

## 生徒が暗記するのを助ける方法

以下のアイデアは、生徒が暗記するのを助けるのに役立つ。これらのアイデアを考慮する際、生徒にとって意味のある題材は記憶に長くとどまるということを覚えておく。生徒が暗記しようとする言葉の意味を理解するようにする。

暗記すべき各言葉の最初の文字を黒板に書く

生徒が信仰箇条第2節を暗記するのを助けるため、黒板に以下の文字を書いておくのもよいであろう。

## わひじつゆばアそゆばらし

それぞれ対応する言葉を繰り返す際に、それぞれの文字を指し示す。

暗記事項を短い節や行に区切る

以下はこのコツの用い方を示す幾つかの例である。

- 生徒全員に、一区切りごとに文章を繰り返して読ませる。例えば、箴言3：5-6を暗記するのに、生徒は以下のように区切って読み返すとよい。(1)「心をつくして主に信頼せよ、」(2)「自分の知識にたよってはならない。」(3)「すべての道で主を認めよ、」(4)「そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」
- 生徒をグループに分ける。区切った句をグループごとに配る。指名されたグループは、その句を一緒に読み返す。時にはその句を声に出さず静かに心の中で読み上げさせてもよい。何度も繰り返して聞くうちに、生徒はすべての聖句を正しい順序で言うことが可能になる。
- 次の句を生徒に言わせるようにしながら、区切りごとに文章を繰り返す。
- 文章の書かれたコピーを用意し、句ごとに切り離しワードストリップとする。数回句を読んだ後、順序をばらばらにしたワードストリップを示し、生徒に正しく並べ替えさせる。

暗記事項を黒板に書く

生徒に暗記事項を数回読ませる。生徒が全文を暗記するまで、少しずつ言葉を消していくか紙で覆っていく。

音楽を活用する

例えば、『子供の歌集』から聖典の中の書名(63ページ)を教える場合のように、生徒が暗記するのを助けるよう音楽を用いることができる。これは、大人や青少年にも適応可能な楽しい方法である。

暗記事項を何度か練習する

暗記事項を練習するというのは重要なことである。練習の仕方を決める際、暗記事項がどれほどの長さであるかを検討する。短い聖句は直ちに覚えられる。新しい歌は、一行ごとに教わるのがよいであろう。特別プログラムのせりふは幾度か練習できる期間を設けた方がよい。それら暗記事項を生徒とともに、定期的に繰り返し復習する。各々自分で練習してみるよう促す。

音楽

大管長会は次のように述べている。

「霊を鼓舞する音楽は、教会の集會に欠かすことができません。賛美歌は主の御霊を招き、敬虔な雰囲気醸し出し、教会員を一つにし、主に賛美をささげる機会を与えてくれます。

賛美歌を歌うことが、すばらしい説教となることもあります。賛美歌は、人を悔い改めと良き行いへと駆り立て、証と信仰を強めてくれます。また、疲れた者を元気づけ、悲しむ者を慰め、そして最後まで堪え忍ぶように励ましを与えてくれます。」(『賛美歌』9)

賛美歌を暗記し必要に応じて思い起こすとき、偉大な霊感と慰めが生涯を通してわたしたちにもたらされる。

ダリン・H・オークス長老はすべての教会員に、自分や他者を強めるためもっと頻繁に賛美歌を用いるよう奨励した。

「集會で、クラスで、家庭で、わたしたちはこの天から授けられた財産を十分に活用しているでしょうか。

わたしたちは主の御霊と一致するために、心を一つにするために、また教義を教えるのを助けるために、もっと賛美歌を活用する必要があります。宣教師のレッスンで、福音を教えるクラスで、定員会集會で、家庭の夕べで、ホームティーチングで、賛美歌をもっと効果的に利用しなければなりません。」(『聖徒の道』1995年1月号, 11, 13)

音楽の効果によりレッスンの質を向上させる

レッスンの質を向上させ、御霊を招くためにいろいろな方法で音楽を用いることができる。以下はその例である。

福音の原則を教える、もしくは復習する

ほとんどの賛美歌は、福音の原則を教えたりすでに教えた原則を復習するのに役立つ。

原則を教えるのに歌を用いる際、生徒に、歌の伝えようとしている内容について考えさせたり、話し合わせたりするために質問してみるのもよいであろう。例えば、生徒に「戒めを守る人を」(『賛美歌』193番, 『子供の歌集』68)を歌わせる前に、「戒めに従うとき、心の安らぎと平安を感じられるのはなぜだと思いますか」と尋ねてみることもできる。逆境と向き合うわたしたちを救い主が助けてくださることを生徒に理解させるのには、「主のみ言葉は」

(『賛美歌』46番)を用いることができる。

福音の原則を教えた後で、生徒に「その原則を思い出すのにどの賛美歌が役立つでしょうか」と尋ねるのもよいであろう。その後で生徒が提案した賛美歌の中から1曲を歌う。子供たちに教えるときは、あなたが歌い、その歌がレッスンにどのように当てはまるかを尋ねるのもよい。その後子供たちも一緒にその歌を歌うよう促すこともできる。

聖文への洞察を与える

教会の賛美歌集に収められている賛美歌には、それぞれ参照聖句が付され、賛美歌集の巻末にはその索引が設けられている(『賛美歌』346-350参照)。『子供の歌集』にあるほとんどの歌にも、参照聖句が付されている。特定のレッスンに最適な歌を見つけるためにこうした参照聖句を利用することもできる。例えば、ヨハネ13:34-35を教えようとしているのであれば、「共に愛し合え」(『賛美歌』192番, 『子供の歌集』74)のように、聖句に対応する賛美歌を生徒に歌わせることができる。

生徒が証を育て、表現するのを助ける

生徒が賛美歌や教会のほかの歌を歌うとき、御霊は生徒に学んだ原則の真実性について証される。歌詞が証そのものを表現しており、それらを歌うことで証を伝え合うことができるというような歌が幾つかある。「主は生けりと知る」(『賛美歌』75番), 「神の子です」(『賛美歌』189番, 『子供の歌集』2), 「感謝を神に捧げん」(『賛美歌』11番)「イエス様、本当に復活したの」(『子供の歌集』45)などがこれに該当する。

ゴードン・B・ヒンクレイ長老は、音楽が預言者ジョセフ・スミスに対する彼の証をどれほど強めてくれたかについて語っている。

「何年も昔、わたしが12歳で執事に聖任されたとき、ステーク会長であった父はわたしを初めてステークの神権会に連れて行ってくれました。……ヨーロッパからの改宗者の母国なまりも交えて、全員が声高らかに、確信と証を言葉に込めてこう歌いました。

『たたえよ、主の召したまいし  
主と語りし預言者を  
末の時を始めたる  
業を世、皆崇めよ』

(「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番)

神権者たちは預言者ジョセフ・スミスのことを歌っていました。それを聞いているわたしの胸に、この神権時代の偉大な預言者に対する愛と信頼がいっぱいに込み上げてきました。わたしは子供時代に、家庭やワードの集會やクラスでジョセフ・スミスについていろいろと教えられていましたが、そのステーク神権会での経験はそれとは違ったものでした。わたしはそのとき、聖霊の力によって、ジョセフ・スミスが真実の神の預言者であることを知ったので



す。」(「たたえよ、主の召したまいし」『聖徒の道』1984年4月号、1-2)

レッスンを締めくくり、生徒に福音の原則を応用するよう励ます

レッスンの締めくくりとして、賛美歌や歌を歌うことで教えた原則をまとめることができ、動機づけとなるメッセージを伝達できる。例えば、戒めを守るというレッスンの終わりには、生徒に「選べ、正義を」(『賛美歌』152番)、「戒めを守る人を」(『賛美歌』193番、『子供の歌集』68)「おそれすぎをなせ」(『子供の歌集』80)、「ニーファイの勇氣」(『子供の歌集』64)を歌わせるとよい。

#### 敬虔な感情を啓発する

あなたとあなたの家族は、家庭の夕べや家族会議、そのほか家族の集まりの席上敬虔な感情を啓発しようとして、また家族で行う福音学習をさらに良いものとするために、賛美歌やそのほかの歌を歌うことができる。クラスでは、生徒が教室に入って来る間、録音された音楽を流したり、だれかにピアノを演奏してもらうこともよい。これは、敬虔な雰囲気をもたらし、生徒がレッスンに取りかかる備えをするのに役立つ。

教師が物語を読む間、または子供がレッスンについての絵を描く間、静かな音楽を流すことも敬虔さをはぐくむ方法となる。あるいは、生徒が聖書にある物語の絵を見る間、だれかに「イエス様の話聞かせて」(『子供の歌集』36)を歌ってもらうのもよい。

#### ふさわしい音楽を選択し、準備する

レッスンのための音楽を選択しようとする際、レッスンの内容に関連のある賛美歌や歌を探すには『賛美歌』や『子供の歌集』にある索引を利用する。教会音楽が録音されたカセットテープやコンパクトディスクは『教会書籍・教材総合カタログ』に掲載されている。

教会制作の教材でないどのような音楽を使用する場合も、教会の標準を保たなければならないこと明確しておく(『教会指導手引き』「音楽」の章参照)。ワード音楽委員長または音楽指揮者は、教師がふさわしい音楽を選択し、準備するのを助けることができる。

教師が歌う、あるいは賛美歌か歌を指揮するというのであれば、賛美歌集や歌集に頼ることなく生徒に注意を払うことができるよう、十分歌詞に精通しているようにする。

#### 歌を指揮するための提案

『賛美歌』と『子供の歌集』の末尾にある「賛美歌集使用に際して」(『賛美歌』329)、「本書の使用法」(『子供の歌集』149)を読む。基本的な拍子の取り方を学ぶ。さらに以下のような提案を検討する。

- 歌や賛美歌を指揮する際、歌のピッチやテンポ、あるいは

速度を指示するため、手を用いるのがよいと思うかもしれない。ピッチを取るには、手のひらを水平にし、歌に合わせてピッチが上がる場合は手を上に挙げ、落ちる場合は下に降ろす。これを行いながら、正しいテンポを指示するため手の動きを早めたり緩めたりする。さらに歌のパターンを黒板に描くこともできる。例えば、「神の子です」(『賛美歌』189番、『子供の歌集』2)の歌に見る始まりの旋律のパターンは、次のように描ける。

$$\begin{array}{ccccccc} & & & & \text{—} & & \\ & & & & \text{子} & & \text{—} \\ & & & & \text{—} & & \\ \text{—} & \text{—} & \text{—} & & & & \text{—} \\ \text{か} & \text{み} & \text{の} & & & & \text{す} \end{array}$$

- 歌を指揮するためのタクトの振り方をパターンどおりに行うのではなく、歌詞を反映するように手を動かしてみるのもよい。

指揮の仕方を学ぶのに援助が必要であれば、ワード音楽指揮者に依頼する。

#### 子供を教えるために音楽を活用する

ほとんどの子供は音楽活動に加わることを楽しむ。音楽の魅力あるリズムは生徒が歌詞の内容を覚えるうえで助けとなる。音楽は福音に対する生徒の理解を増し、彼らの証を強める。教師は、子供をクラスに迎え入れる際に、また祈りの準備をさせたり、レッスンへの注意を促すため、あるいは活動の後、生徒に落ち着きを取り戻させるために音楽を活用することができる。音楽はレッスンのペースを調整し、生徒の有り余るエネルギーを発散させるのに用いることもできる。

多くのレッスンが、教えた原則を強調するような歌を提案している。その他ふさわしい歌に関しては、『子供の歌集』の索引を利用する。

レッスンのために音楽を用いるからといって、教師に優れた音楽的技能が必要とされることはない。あなたがよく準備し、歌うことを楽しめるのであれば、生徒も楽しみながら音楽を通して学んでいこう。以下は子供に教えるために音楽を活用するうえで助けとなる提案事項である。提案事項の追加は、『子供の歌集』149-151ページを参照のこと。

以下の例は、神殿について教えるのに「神殿に行きたいな」(『子供の歌集』99)という歌をどのように活用するかについて示している。

わたしは、神殿についてのすばらしい歌を知っています。皆でこの歌を歌いながら、神殿に行ってもいいことをするのか注意して聴き取っててください。

なぜわたしたちが神殿に行くのか聴き取れましたか。(答えには、聖霊の影響を感じるため、聴き、祈り、天父と聖約を交わすため、また家族として結び固められるため

に神殿に行くというような事柄が含まれるであろう。)

では、この歌をもう一度歌ってみましょう。今度は、神殿がだれの家であるかを聴き取ってください。

神殿はだれのものなのか分かりましたか。(神の家である。)

生徒が歌の伝えるメッセージを理解するうえで助けとなる部分を十分強調しながら、似たような質問を続ける。

### ナレーションを伴う音楽 (歌でつづる物語)

レッスンに関連のある話をしたり福音のメッセージを分かち合う際、音楽とナレーションを一緒に用いることができる。この方法は時折、歌でつづる物語と称される。この活動の間、物語やメッセージは家族やクラスの生徒たちが歌う歌を通して表現される。簡単なナレーションがつなぎに入る。

祝祭日のプログラム、またはその他の発表を準備する際、音楽とナレーションを組み合わせる用いることができる。

### ナレーションを伴う音楽の例

音楽とナレーションを組み合わせた以下の例は、感謝についてのレッスンで用いることができるであろう。

ナレーター：神はその子供たちを大変愛しておられます。主がその愛を示された一つの方法が、わたしたちのために地球を創造してくださったことです。詩篇の136篇は、地球の創造に対し主に感謝を表すための指示を与えています。

「もろもろの主の主に感謝せよ……」

「ただひとり大いなるくすしきみわがをなされる者に感謝せよ……」

「知恵をもって天を造られた者に感謝せよ……」

「地を水の上に敷かれた者に感謝せよ……」

「大いなる光を造られた者に感謝せよ……」

「昼をつかさどらすために日を造られた者に感謝せよ……」

「夜をつかさどらすために月と、もろもろの星とを造られた者に感謝せよ……」(3-9節)

賛美歌：「地は麗しく」(『賛美歌』50番)

ナレーター：主がわたしたちのために創造してくださった地球は、わたしたちの必要とするすべてのものを豊かに与えてくれます。わたしたちの刈り取ることでできる祝福の実りを感謝し、神をほめたたえるべきです。

賛美歌：「来たりてうたえ」(『賛美歌』51番)

ナレーター：わたしたちはまた、わたしたちの罪を清め、永遠の命を与えてくださった主の贖いに対し、深い感謝の念を表すべきです。主の犠牲に対する感謝を表すとき、わたしたちはその力をさらに深く認識することになります。この認識は圧倒されるほどの思いとへりくだる心をもたらしてくれます。

賛美歌：「主イエスの愛に」(『賛美歌』109番)

ナレーター：主はわたしたちの受ける祝福を分かち合うように望んでおられます。すなわち、飢えた人に食物を分け、裸の人に着させ、病人や苦しむ人を慰め、真理を探し求める人を教えるようわたしたちに期待しておられるのです。わたしたちがこれらをなすとき、主の与えてくださった祝福に対し、真心からの感謝を表すことになるのです。

賛美歌：「主の恵み、人にも分かたん」(『賛美歌』138番)

### ナレーションを伴う音楽を準備する際の指示

- 似たようなテーマを持ちこの活動に使用可能な歌のリストに関しては、賛美歌や『子供の歌集』にある索引を見る。生徒になじみのある歌を用いる。
- ピアノを使用する場合、それらの歌を準備するためピアノ伴奏者とよく打ち合わせるか、指揮者にピアノ伴奏者との打ち合わせをしてもらう。ピアニストが各々の歌をいつ演奏することになるのかを理解していることを確認しておく。
- 歌の間に入るナレーションは簡単なものにする。聖句、短い物語、詩、個人の経験、あるいは引用文などがよいであろう。この活動を子供が行う場合、ナレーションの一部として、あなたの出した質問に子供たちが答えていくという形式をとってもよい。これは、子供たちにあなたが教えているメッセージを理解させるうえで助けとなる。
- 適当であれば、物語または提示されている福音のメッセージを生徒が映像として理解できるよう絵を用いる。発表の間、子供たちに絵を持たせておいてもよい。

### 実物を用いたレッスン

「比較と実物を用いたレッスン」163-164ページ参照。

### オーバーヘッドプロジェクター (「黒板」も参照)

集会所付属図書館で入手可能なオーバーヘッドプロジェクターは、映像をスクリーンや壁に拡大して映し出す器械である。これは、黒板の代わりとして使用することもできる。これはとりわけ、クラスで全員が黒板を見るには支障がある大人数のクラスで用いると有効である。図書館にオーバーヘッドプロジェクターがあれば、図書委員にその使い方を尋ねる。

### パネルディスカッション

パネルディスカッションは、与えられたテーマに基づいて話し合うため、二人またはそれ以上の人数から成る生徒のグループで構成される。専門的知識や経験を持つゲストパネリストによる構成もあり得る。パネルディスカッションは、司会者(通常は教師がその役を務める)によって進行される。

情報の提示を行ったり、福音の原則に従った生き方や問題の解決法について話し合うためパネルディスカッションを用いることができる。パネルディスカッションは、広範囲なテーマに及ぶ生徒のいろいろな考えを発言させる機会を提供する。教師が生徒に新しい出来事について提示したり、そのグループにとって興味のある問題を討論してみるよう促すとき、彼らは学ぶことにもっと積極的な姿勢を示すようになるだろう。

### パネルディスカッションの準備の仕方

1. レッスンやクラスの年齢層に見合う話題を選ぶ。パネリストたちに尋ねるべきその話題に関連した質問を準備する。
2. 会衆を前に物おじすることなく質問に答えることのできるパネリストを事前に選んでおく。パネリストの数は3人から5人が限度である。5人以上になると時間がかりすぎ、話題に関して意見を述べるのに十分な機会が与えられない可能性も出てくる。専門的な知識や経験を持つゲストパネリストを招待するつもりがあるなら、事前にビショップの許可を得る必要があることを覚えておく(『教会指導手引き第2部：神権指導者・補助組織指導者』329)。
3. パネリストたちが話し合いを準備できるよう助ける。以下の提案を検討してみる。
  - a. 話し合いがどんなことを意図し、パネリストとしてどういう責任があるか、またそのためにどのような下調べをし、ほかにどのような準備をすべきかについて理解できるよう助ける。クラスの年齢層や必要性、要請したい提示の種類、また提示する内容を発表するに当たって各々に与えられる時間などの情報をパネリストに与える。
  - b. 話し合いでの役割を果たすために必要とされる情報をパネリストが得られるよう助ける。
  - c. その場で扱う事柄が新しい情報もしくは知識である場合、話し合いの準備ができるよう少なくとも1週間前には各々のパネリストに話題となる内容の一部を割り当てておく。聖典や教師用手引きまたはほかの資料から、参照できるものをパネリストに与えてもよい。
  - d. パネリストが問題事項に焦点を当てる場合は、話し合いに入る前に彼らと会い、話し合うべき質問のリストを渡す。各々のパネリストに、答弁したい質問事項を2つないし3つ、選んでもらう。
  - e. 提示の始まる直前に、話し合われる議題についてパネリスト同士が互いの意見を交換する時間を数分間与える。

### パネルディスカッションの進め方

1. パネリストたちがよく見え、彼らの意見が聴き取れるように部屋を用意する。

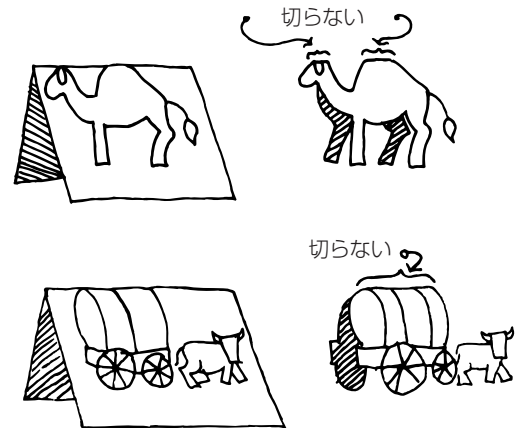
2. パネルディスカッションの時間になったら、パネリストたちおよび話し合われるテーマについて紹介する。
3. 教師もしくはほかに依頼された司会者が話し合いを進めたり質問を投じる際、それぞれのパネリストたちが答弁するのに適切な時間が与えられるようにする。パネルディスカッションの成功の大部分は、司会者の進行具合にかかっている。司会者は霊的な雰囲気の中で提示がなされるよう計らい、話し合いがだらだらと続いていかないように取りまとめ、またすべてのパネリストが話し合いに参加できるよう配慮しながら、テーマや問題事項に焦点を当てた話し合いが展開されていくようにする。
4. 生徒からパネリストたちに質問があれば受け付ける。
5. 話し合いの後、主要点についてまとめる。

### 紙人形(「ジオラマ」参照)

教師はレッスンで教える原則を説明したり、物語を聞かせるのに役立つ紙人形を用いることができる。

### 紙人形の作り方

1. 厚手の紙を二つに折る。
2. 折り山を上にして、その厚紙に絵を描き入れる。絵のいちばん上が折り目まで達するようにする。家族や生徒に色を塗らせたり、飾り付けをさせることもできる。
3. 絵が描かれている部分の折り目を切り離してしまわないように注意しながら、その絵に沿って切り抜く。



### 写真・絵(「視覚教材」も参照)

写真や絵はレッスンの主要点を強調し、生徒の注意を引きつけておくのに役立つ手段である。教師は集会所付属図書館や『福音の視覚資料セット』、教会出版の教師用手引き、また教会発行の機関誌を通して福音を教えるための写真や絵を入手することができる。

### 写真・絵を示す

いろいろな方法で写真や絵を示してよい。例えば、



- 黒板のチョーク受けや、画架またはいすの上に置く。
- 生徒に持ってもらう。
- 教師自身で持つ。  
黒板やペンキの塗られた壁にテープで貼りつけてはならない。

### 写真・絵を用いた教え方

写真や絵は物語を語るのに重要な位置を占める。例えば、子供に数枚の絵を順序よく並べさせ、その物語の一部を語ってもらうことで、生徒が内容を振り返り復習するのを助けることができる。

写真や絵は有意義に活用する。例えば、イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネの絵を示す。その折、「地上におられたとき、イエスはわたしたちが従うべき模範を示されました。イエスは、天父がすべての人にバプテスマを受けるよう戒めを与えられたことを御存じでした」と話した後、以下の質問をする。

- この絵は何が行われていることを表していますか。
- イエスはバプテスマを受ける正しい方法とはどのようなものだと言っておられますか。
- だれがイエスにバプテスマを授けましたか。
- バプテスマを受けるようイエスがヨハネに頼まれたのはなぜですか。
- イエスとヨハネはなぜ川に下りて行かれましたか。
- イエスの模範に倣い、わたしたちも同じようにバプテスマを受けることはなぜ重要なのでしょう。

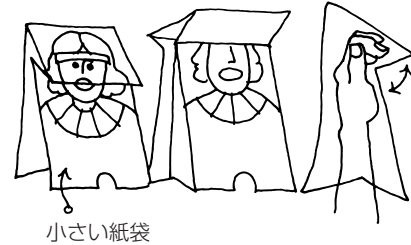
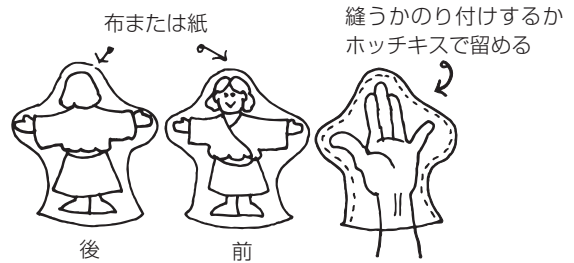
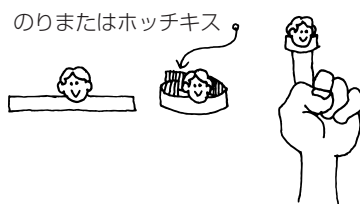
これらの質問について話し合った後、生徒の答えをまとめ、それらをレッスンの主要点に関連づける。

芸術家は作品を創造する際、自分なりの解釈を織り込んで描き上げるものであることを覚えておく。したがって、絵に表されているすべての要素が実際の様子を物語っているわけではない。背景や出来事の状態に関しては、聖典の記述に頼る。

### 指人形

指人形は、レッスンや物語の部分を劇化したり、生徒を迎え入れる際や、また指示を与えるときに、歌を歌うときやロールプレーを演出する手段として、さらには質問を与えたり、生徒の関心を引きつけておくために用いられる。

### 指人形の例



### 質問

「質問を交えた教え方」68-70ページ参照。

### 朗読劇（「朗読」「復唱」を参照）

朗読劇では、参加者が物語を伝えるために台本を用いる。朗読劇は、クラスの最中に行うこともできるし、聴衆を前に行ってもよい。

教師は、聖典の中の出来事や物語、詩やその他の情報を伝えるのにこの方法を用いることができる。また祝祭日に行われる特別プログラムの一部として、あるいは特別な催しにおけるプログラムの一部として用いることもできる。

### 朗読劇の例

物語：アビナダイ、ノア王とアルマ

手順：ノア王の民に罪を悔い改めるよう警告するため、神はアビナダイという預言者を遣わされたことを説明する。その後、モーサヤ17：1-19；18：1，7-11にあるノア王、邪悪な祭司、アビナダイ、アルマ、ニューファイの民の言葉を生徒に読ませる。だれかをナレーターに指名し、物語に登場する人々の語りの合間に話の筋を語らせる。

## 朗読劇の指導の仕方

- レッソンのテーマに添った題材を選ぶ。適切な題材は聖典や教会の教師用手引き、また教会の機関誌から得ることができる。
- その題材を幾つかの役に分ける。出演者に役割を割り当てる。ナレーターも含めてそれぞれ配役する。出演者がせりふを十分練習できるように、また自分の役について理解できるようにする。
- 聴衆を前に行う朗読劇を計画しているのであれば、出演者に台本を読む練習をさせる。主旨をよく伝えるため、はっきりと話し、間を取り、声の大きさと読む速さにメリハリを持たせるようにする。

## 復唱（「朗読」、「朗読劇」も参照）

復唱では、通常暗記した文章を参加者が繰り返す。クラスの中で行うか聴衆を前に行ってもよい。

教師は、聖典に登場する話や物語、詩、その他の情報を提示するためにこの方法を用いることができる。また祝祭日に行われる特別プログラムの一部として、あるいは特別な催しにおけるプログラムの一部として用いることもできる。

### 復唱の例

テーマ：十戒

手順：戒めを守るというレッスンをする前の日曜日に、「十戒」の各戒め（出エジプト20：3-17）を記したコピーを生徒に配る。各々の生徒に暗記すべき戒めを一つ割り当てる。翌週、割り当てられた箇所を順々に復唱させる。

### 復唱の進め方

- レッソンのテーマに添った題材を選ぶ。適切な題材は聖典や教会の教師用手引き、また教会の機関誌や『子供の歌集』から得ることができる。
- その題材を幾つかの役に分ける。出演者に役割を割り当てる。ナレーターも含めてそれぞれ配役する。出演者が自分の語るべき部分を理解し、練習に十分な時間が取れるようにする。
- 聴衆を前に復唱を行おうとしているのであれば、生徒に題材を読む練習をさせる。主旨をよく伝えるため、はっきりと話し、間を取り、声の大きさと読む速さにメリハリを持たせるようにする。

## ロールプレー

ロールプレーとは、日々の生活の中で遭遇し得る状況や問題を出演者が演じて見せることである。ロールプレーを行うことにより、問題の解決法を見だし、様々な選択肢がもたらす結果について検討し、またほかの人の見解を理

解しようとする際に、福音の原則を現実の生活に則した状況に当てはめる助けとなる。ロールプレーはレッスンの導入やまとめを行う際に、あるいは、レッスンで採り上げる原則についての話し合いを活気づけるために用いることができる。

注——ロールプレーは事例研究と同じではない。事例研究では、生徒が状況または問題について話し合うが、ロールプレーではそうした状況に置かれた場合、どう振る舞うかを出演者が演じて見せるのである。

## ロールプレーの例

- 一人の子供が、家の掃除を手伝うと両親に約束した。仕事にかかろうとしていると、幾人かの友達がやって来て、遊びに出ようと誘う。彼らはすぐに出かけたい旨を告げ、掃除は後回しにするよう望んでいる。彼は両親に何と云うべきか、また友達に対してはどう言うべきかをロールプレーで演じさせる。
- 友達が数人道を歩いている。彼らは、金の入った財布を見つけるが、その所有者が分からない。財布をどうするかについては、各々異なった意見がある。彼らがどうすべきかロールプレーで演じさせる。

## ロールプレーの活用法

1. 問題や状況の大まかな説明をして、生徒をロールプレーに備えさせる。生徒が十分に役をこなせるよう、必要な情報を提供する。あくまでも、役を演じるのであり、自分の現状を紹介するわけではないことを強調する。
2. 出演者を選ぶか、希望者を募る。だれがどういう役を演じるかについて明確に示す。一つの状況について数人にロールプレーさせる方が、起こり得る事態について一人だけに演じさせるよりも効果がある傾向にあるため、できるだけ多くの出演者を募る。（より多くの人が参加できるように、また別の解決方も見いだしていけるようロールプレーを繰り返してもよい。）
3. どのように演じるかを計画させるため、出演者に数分与える。
4. 何らかの形ですべての生徒がかかわることができるよう、演じる役を持たない生徒には注意深く見るよう促す。
5. ロールプレーの後、「その問題についてどんなことを感じましたか」「実際の生活でこのようなことは起こり得ますか」「こういうことが実際に起こったらどうするかを知る手がかりになりましたか」というような質問をしながら話し合いを持ち、また劇で展開された事柄を評価する。生徒に自分の生活で似たような問題を解決するときの方法を決めさせる。様々な解決法について話し合う。

## ロールプレーに関する一般的な指針

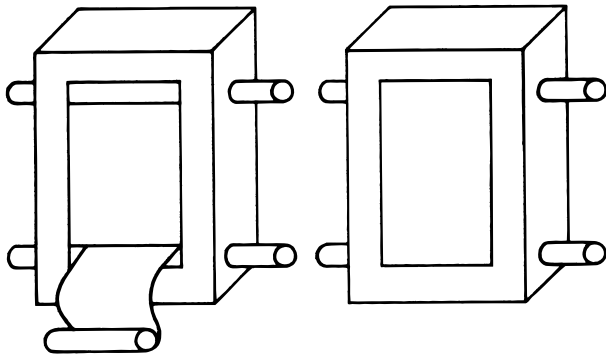
- ロールプレーへの出演は自発的な申し出によるべきである。強制してはならない。

- レッスンに関連があり生徒にとって重要と思われる現実的な状況についてロールプレーする。
- 生徒が個人的に経験した事柄に基づいた状況を描写したロールプレーは自分と結びつけて考えやすいが、ロールプレーするのにふさわしい題材であるかどうかを注意深く検討しなければならない。その問題ができるかぎり現実的で、意義深いことが大切である一方、出演者が自分自身の生活を描き出すような役回りをさせられたりするようなことがあってはならない。
- 教師として、生徒の感受性や態度に敏感になるべきである。誤りを受け入れ、生徒に互いの見解を理解し合うよう教える。出演者への批判を許してはならない。
- 帽子や名札のような簡単な小道具は、子供にとっては特にロールプレーをさらに興味深いものに演出する。

#### ローラーボックス〔訳注——回して画面を進める箱型紙芝居〕

以下に示すように、ローラーボックスとは絵巻風につながされた絵を見せるための箱である。子供が挿絵を見ることができる楽しい教材であり、自分たちの描いた絵が登場すればなおさら楽しい教材となる。

ローラーボックスは、安息日を聖くするためには種々異なる方法があるというように、福音のある原則の異なった側面を示す際に用いるとよい。また、聖典や教会歴史の中から抜粋した話を示す際にも利用できる。



#### ローラーボックスの作り方

1. 大きな箱またはダンボール箱の側面の一つを切り抜いて、絵を示すスクリーンにする。
2. スクリーン部分の横幅より5センチほど長めに2本の棒を切る。ほうきの柄やキッチンペーパーの中芯を用いてもよい。
3. 上の絵が示すように、棒を通す穴を箱の両側に2個ずつ開ける。
4. 穴に棒を通す。
5. 各々の生徒に紙と鉛筆かクレヨンを与える。福音のある原則の異なった側面もしくは話のいろいろな場面を描か

せる。絵が出来上がったら、1枚の絵巻になるよう絵の端を順序よくセロハンテープでつなぎ合わせる。あるいは1枚の長い紙に区切りを設けて生徒に絵を描かせることもできる。

6. 絵巻の両端を棒にそれぞれ貼りつける。  
子供たちは小さい箱、鉛筆、細長い1枚の紙を用いて、自分用のローラーボックスを作ることができる。

#### 聖句に印を付ける、余白に注釈を書き込む

56-57ページ参照。

#### 聖句の暗記

「暗記」171-172ページ参照。

#### 聖句を声に出して読む

55-56ページ参照。

#### 聖典中の学習資料

56ページ参照。

#### 聖典から教える

「聖文から教える」54-58ページ参照。

#### 歌でつづる物語

「ナレーションを伴う音楽」174ページ参照。

#### 島

島とは、異なった教師が学習活動を受け持つ各々の場所のことを言う。生徒は人数が等しくなるようグループに分かれ、島を順番に回る。各島では一人の教師が一つの学習活動を指導し、同じ場所に残って、各グループが入って来る度に同じ情報を提供したり、同じことを実演して見せたりする。

各島の指導者は、時間を覚えておき、すべてのグループが学習活動に同じ時間をかけるようにする。グループが交代する時間が分かるように、音楽をかけるようにしてもよい。クラス全体で経験したことをまとめる時間を取る。

#### 島の例

- 特定のテーマに関連するものを展示し、その説明をする。例えば、家庭における生産と食料貯蔵、貯水、燃料貯蔵、非常時用の道具一式といった具合である。
- 各島の教師に、親の役割、しつけ、家庭内での意思の疎通など、家族関係の様々な側面について、島に来る人と話し合ってもらおう。
- 各島でだれかに聖典中の別々の人物を表現させ、その聖



典中の人物がいかに福音に忠実に生きた人であるかを話し合う。

- 開拓時代の子供たちの活動、簡単な工芸、ゲームなどができる島を設置する。

## 物語

皆、良い物語が好きである。物語はレッスンの内容を豊かにし、生徒の興味を捕らえるという、ほかの教授法ではなかなか難しいことを可能にする。物語は、質問に答えるときに用いることができるし、原則を導入したり、効果的に教えるため、またレッスンの要約をするときにも使うことができる。義にかなった生活の実例を示すことにより、生徒の理解力に応じて、福音の原則を教えたり明らかにすることができるという大きな効果が、物語にはある。

物語が上手に用いられると、生徒の気持ちを引きつけ、価値観に影響を与えることができる。生徒が聖典の重要な出来事、決断の瞬間、苦難や努力、イエス・キリストの福音に従って生活することで得られる祝福などについて学ぶとき、物語は福音の原則を応用する助けとなる。物語のおかげで原則は分かりやすくなり、記憶に残りやすくなる。また、福音の原則をわたしたちの生活にどのように当てはめることができるかを、鮮明に、人を鼓舞させるような方法で、教えてくれる。例えば信仰について教えるために、教師は、信仰がある人は「まだ見ていない真実のことを待ち望む」（アルマ32：21）というアルマの説明について話すかもしれない。しかし、それと同時にゴリアテと戦うために出て行ったダビデ（サムエル上17：20-50、特に26, 32-37, 45-57参照）など、偉大な信仰を示した人の物語を話せば、その教師の教えはより充実したものとなるであろう。

救い主は偉大な教師であり、わたしたちが福音を教えるときにいつも従うべき模範を示してくださった。救い主は、御自身の教えによく物語を使われた。救い主のたとえは物語を使って教えるすばらしい模範である。例えば、ある律法学者が「わたしの隣り人とはだれのことですか」と尋ねたときのことである。主は、その質問に答えるため、エルサレムからエリコへ旅する途中で強盗に打ち倒され、持ち物を奪われた人の話をされた。二人の人が、その傷ついた人の近くを通り過ぎて行ったが、3番目にやって来たサマリヤ人は、立ち止まりその人の世話をした（ルカ10：29-35）。このたとえを話された後、イエスは、「この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか」とお尋ねになった。律法学者は、「その人に慈悲深い行いをした人です」と答えた。イエスは、「あなたも行って同じようにしなさい」と言われた（ルカ10：36-37）。

## 物語を選ぶ

物語を選ぶとき、以下のことを自問し、その物語が適切で効果的であることを確認する。これらの点については、

「適切な教授法を選ぶ」（91ページ）と「効果的な教授法を選ぶ」（92ページ）を参照する。

- その物語は、御霊を感じさせるものだろうか。
- その物語は、わたしが教えようとしている神聖な事柄と合う内容だろうか。
- その物語は、生徒を啓発し、強めるものだろうか。
- 生徒が教えられた原則をより理解する助けとなるものだろうか。
- レッソンの時間を有効に使えるものとなるだろうか。

## 様々な種類の物語

教師は、自分自身の経験を物語として話すことができる。また、聖典の物語や、教会指導者のこと、教師の知り合いや、本などで読んだ人のことなど、自分以外の人々についても話すことができる。目的によっては、たとえ話や民話など、架空の物語を使うこともできる。

## 個人の経験

個人の経験を話すことが、人々が福音の原則に従って生活するのを助けるうえで大きな影響力を及ぼすことがある。自分自身の経験を話すとき、その人は福音の真実性を示す生きた証人としての役割を果たしているのである。正直に、真心から話すならば、御霊は生徒の心に働きかけ、その話が真実であることを証される。生徒の個人的な経験談もまた、善を促す強い影響力となる。

ブルース・R・マッコンキー長老は、次のように教えた。「恐らく、信仰を鼓舞する話をする完全な方法とは、聖典にあることを教えた後で、わたしたちの神権時代の、わたしたちの地域に住む人々に、——そして最も理想的なのは——わたしたち個人に起こった同様の……ことについて話し、その聖典の内容が実生活に即したものであることを確信させることである。」（“The How and Why of Faith-promoting Stories,” *New Era*, 1978年7月号, 5）

個人の経験について話すに当たり、教師と生徒は次の点に留意する。

- 御霊に促されないかぎり、神聖なことについては話さないようにする。主は次のように言われた。「上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならぬことを覚えておきなさい。」（教義と聖約63：64）
- 人々の感情をおおるような事柄を避ける。つまり、生徒を驚かせるような事柄を話さないようにする。また、生徒を扇動するような事柄も避ける。
- いかなる理由があろうとも、自分の経験を大げさに話すことのないようにする。
- 自分に関心を引くために経験を話すことのないようにする。
- 過去の罪や背きについて話さないようにする。

### ほかの人々についての話

聖典と教会歴史には、福音の原則を自分の生活に応用した男性や女性、子供たちの話が数多くある。例えば、祈りについて教えるには、エノスが自分自身のため、自分の民のため、また、敵のため、主に祈った話をするることができる。ジョセフ・スミスが聖なる森で、主に嘆願した話をすることもできる。そして、現代の信仰ある末日聖徒の、有益で感動的な物語も多くある。ほかの人々についての話をする場合、以下の指針に従う。

- 個人の経験をお話するときと同様に、必ず御霊に従って行動する。人々の感情をおおるようなことは避け、話を大きにすることのないようにする。
- 物語は正確に話すようにする。事実ではない可能性のあることや、真実ではないことが含まれるような話はしない。情報源を調べて、その話が事実に基づくものであることを確認する。
- 話が公に印刷出版されていない場合や、人前で話されたことがない場合は、事前に本人の許可を得る。

### 架空の話

福音を教える際にも架空の物語を用いることができる。救い主がどのようにたとえを使って教えられたかを勉強すれば、架空の物語の使い方を知ることができる。主は、岩の上に家を建てた賢い人と砂の上に家を建てた愚かな人や（マタイ7：24-27参照）、なくした硬貨を探して家中を掃いた女性（ルカ15：8-10参照）、相続財産を浪費したが帰郷して父親に歓迎された放蕩息子（ルカ15：11-32参照）の話がされた。わたしたちが御霊を受けるにふさわしければ、これらのたとえをはじめ、救い主の説かれたほかの多くのたとえから、偉大な真理を学ぶことができる。

聖句ガイドで説明されているように、「たとえ」とは物事をなぞらえたものである。たとえは世俗的な物事や状況になぞらえることにより、霊的な真理を教えるために使われる（聖句ガイド「たとえ」の項、162ページ参照）。これは福音の原則を正しく教える架空の物語すべてについて言えることである。物語は福音の原則を理解しやすくし、想像力に訴え、印象的にする。たとえを使って福音の真理を教える際の提案については、163-164ページの「比較と実物を用いたレッスン」を参照する。

架空の物語を使う準備をする際、以下の指針に従う。

- その話が実際にあったものではないことを生徒に理解させるようにする。
- ほかの種類の物語と同様に、架空の物語は適切で、品のあるものにし、御霊に従って話すようにする。  
『リアホナ』にはレッスンの内容を補い、豊かにするために使用可能な架空の物語がよく載っている。効果的に物語を使って福音を教える例については、総大会の話調べる。

### 物語を準備し、話す際の指針

- 目的をもって物語を話す。生徒を楽しませるためだけに話さないようにする。物語をレッスンの中心となる概念や目的の一部である福音の原則と結びつける。
- 物語が架空のものである場合は、生徒にそのことを説明する。
- 自分の実生活や聖典、教会が発行する機関誌、教師用テキスト、教会歴史、中央幹部の生涯などから、気持ちを高揚させる物語を選ぶ。自分の実生活に基づく話をする場合、過去の過ちや罪について話さないようにする。
- 生徒の年齢に合った物語を使う。
- 生徒に聞かせる前に、物語をよく考えながら数回読み、よく理解する。同時に、その物語を自分の言葉で話すかどうか決める。表現に富む対話や記述が多く含まれる物語は、そのまま読んだ方が感銘を与えることがある。
- 物語にどれくらいの時間を費やすか決める。物語を短くする必要がある場合は、内容を理解するのに必要な人物や出来事についてだけ話す。
- 自分の言葉で物語を話す場合は、一連の出来事のあらすじを頭に入れておくか、紙に書いておく。声を出して話す練習をする。聞き手の関心を引き、話に精彩を加えるような言葉を使って表現する。
- 聞き手が物語を心に描くことができるよう工夫する。物語を興味深いものにするため、絵や写真を使ったり、黒板に絵を描いたり、物語に関連するものなどの視覚教材を使用する。例えば、モルモン書が世に出たときの話を始める前に、モロナイがクモラの丘に金版を隠している絵を見せ、「これは何の絵でしょう」または「どうしてモロナイはこういうことをしているのでしょうか」などと質問してもよい。
- 物語中の人物と場面を鮮やかに描く言葉を用い、聞き手の興味を引くような方法で話を始める。例えば、救い主が嵐を静められた話を始めるときは、次の聖句を読むとよい。「すると突然、海上に激しい暴風が起って、舟は波にのまれそうになった。」（マタイ8：24）
- 楽しんで話す。自然な口調で、その話への関心と確信をもって話す。
- 話の後で、物語が教える原則を日々の生活にどう当てはめることができるか、生徒と話し合う。

### 幼い子供たちに物語を聞かせる際の提案

- 子供の年齢を考え、物語は集中力と理解力に合わせる。
- 子供たちを物語に参加させる方法を考える。例えば、絵を持たせたり、言葉を繰り返して言わせる、などである。
- 話を始める前に、子供が知らないような言葉を説明しておく。そうすれば、物語を中断することなく続けられる。

- 絵本を読む場合は、途中で何度も絵を見せる。全員が絵を見ることができるくらいの時間を取ってから、話を進める。
- 子供が意見を言ったり、質問をした場合は、簡潔に答えた後で、話を進める。
- 小さな子供たちは同じ話を繰り返し聞くのが好きである。物語を繰り返す場合は、話の途中で、次にどうなるか聞く。お手玉や、柔らかい素材でできたおもちゃを一人の子に投げ、物語について一言言ってもらおう。その子は別の子にお手玉を投げ、物語が終わるまでそれを続ける。
- 聖典の中の一つの出来事に関連する様々な聖句を抜き出しておき、物語の進行に応じてそれらの聖句を生徒に一人ずつ読ませる。
- 子供たちは、物語の間、教師の前の床に座らせると喜ぶことがある。
- 物語の後で、話を劇にさせてもよい。

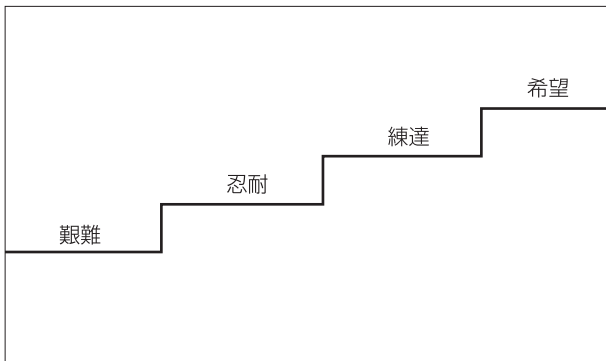
**視覚資料（「写真・絵」も参照）**

わたしたちはすべての感覚を通して学習する。型にはまった授業では、話し言葉に重点が置かれがちである。しかし、生徒の理解力と学習力を高めたいと望む教師は、視覚教材も用いる。ほとんどの人々は、教師が単に話すだけでなく、絵や地図、言葉のグループ分けや、その他の視覚資料を使用した場合に、より多く学び、学習したことをより長く記憶にとどめることができる。

以下は視覚資料のできるものの例である。

**概念や人々、場所などの関係を理解しやすくする**

ある扶助協会の教師はローマ5：3-4に記されている艱難と希望の関係を姉妹たちに理解してもらいたいと思った。その教師は以下のような簡単な図を書いた。



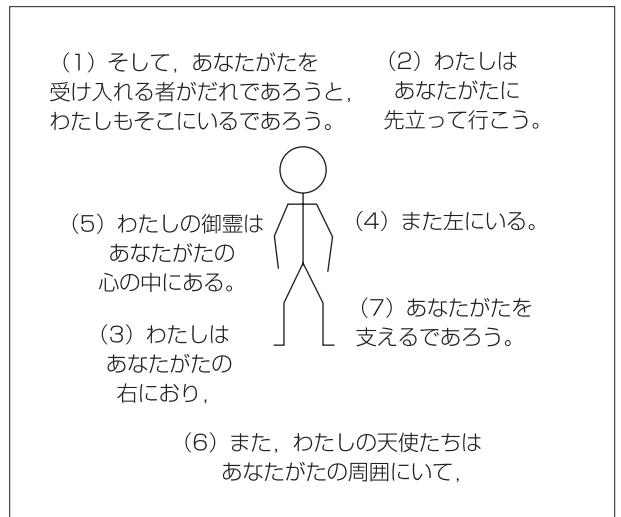
その後、姉妹たちに艱難がいかに忍耐をもたらすか話し合い、実生活における具体的な例を挙げてもらう。姉妹たちはこの簡単な図に従って話し合いを進めるうち、艱難、忍耐、練達、希望がいかに自分たち個人の生活に重要なも

のであるかを知った。

ある日曜学校のクラスでは、エマオへの道の話について勉強していた（ルカ24：1-35参照）。教師は聖典の地図を使い、クラスの人たちがエルサレムとエマオの距離がどれくらい分かるようにした。それからクラスの人たちが住む都市の地図を見せ、生徒たちがよく知っている同じ距離の場所を示した。そのおかげで生徒たちはエルサレムとエマオまで歩いてどのくらいの時間がかかるかを知ることができ、イエスと弟子たちの間の会話で起こったことをより正しく理解することができた。

**感動を伝え、霊的な安心感を与える**

ある教師は宣教師のクラスで、黒板を使って教義と聖約84：88の図解をした。教師は主の力が宣教師たちを取り巻くことができるという事実を感じてほしいと思い、聖典の言葉をそれぞれ次のように書いた。



この聖句の言葉の簡単な配列の仕方のおかげで、宣教師たちは守りを与えてくださるという主の約束を深く理解した。その後、生徒たちは、伝道活動に対する恐れと、主が自分たちを助けてくださるという約束に対する確信について印象深い話し合いをした。

**出来事の順序を生徒に理解させる**

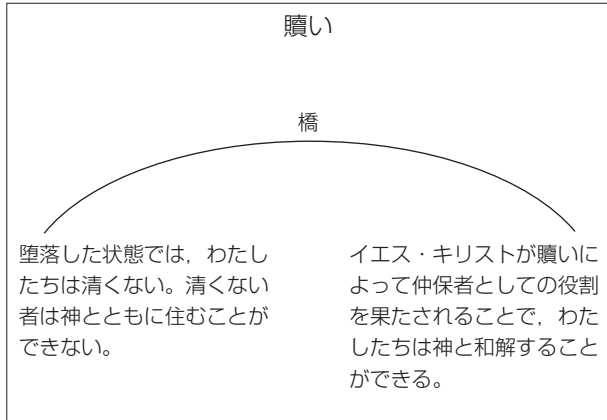
視覚資料は生徒に出来事の順序を理解させるのに役立つ。例えば年表は、イエスの教導の業や、パウロの伝道旅行、初期の教会歴史などのテーマを勉強する際に、一連の出来事を生徒に理解させる助けとなる。

**生徒に原則を理解させる**

聖典の記述の流れを視覚化することにより、生徒が原則をよりはっきりと理解できることがよくある。ほとんどの教会員は幸福の計画を視覚的に教わっている。前世、現世、霊界、裁き、そして3つの栄光の王国の図を描くと、この計画の順序が理解しやすくなる。



視覚資料は漠然とした原則を理解しやすくするのに役立つ。例えば次のような図で、贖いという、仲保者としてのキリストの使命を表すことができる。



生徒の記憶を呼び覚ます

貧しい人や助けを必要としている人を援助することに関するレッスンの内容をより豊かにするには、「キリストと金持ちの青年」の絵を使うとよい。この絵では、救い主が青年の注意を、助けを必要とする人々に向けさせ、次のように話される。「帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい。」(マルコ10：21) この絵は生徒が助けを必要とする人々に手を差し伸べることを思い出すのに役立つ。

ホワイトボード

「黒板」162-163ページ参照。

ワークシート

ワークシートは、生徒が福音の原則への理解度を評価し、新しいことを学び、重要な概念を復習するのに役立つ。レッスンの重要な点を導入したり、強調したり、復習するためにワークシートを用意するとよい。また、ワークシートは、レッスンの内容を思い起こす助けとなり、生徒が自宅に持って帰り、家族に学んだことを話すのにも役立つ。

ワークシートの例

評価用ワークシート

ワークシートは、人々が現在の生活で福音の原則をどれだけ実行しているか評価し、改善できる点を知るのに役立つ。レッスンの初めに、以下のようなワークシートを使う。生徒に、質問のリストのうち一つでも実行できていないものがあれば、今日のレッスンはその原則に従って生活できる方法を学ぶ助けとなり、改善する方法を一つか二つ提案するものであることを話す。

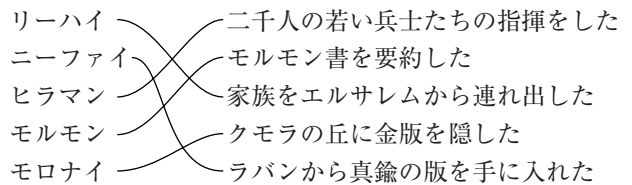
わたしはどのような模範を示しているだろうか。

はい いいえ

- 敬意を払ってほかの人の意見を聞いているか
- ほかの人のことをいつも肯定的に話しているか
- 家族に愛をもって接しているか
- 正直に仕事をしているか
- わたしは気さくで話の分かる人間だろうか
- 節度ある言葉遣いをしているだろうか
- 身だしなみに気をつけているだろうか
- 戒めを守っているだろうか
- 定期的に聖文を読んでいるだろうか
- 喜んで人を助けているだろうか
- 映画とテレビ番組は健全なものだけを見ているだろうか
- 本や雑誌は気持ちを鼓舞するものだけを読んでいるだろうか
- 自分の時間と才能をほかの人のために使っているだろうか
- わたしは信頼される人間だろうか

預言者とその行い

何人かの預言者の名前を一つの欄に書き、もう一つの欄にはその預言者たちの特筆すべき点を書く。以下のように生徒に預言者と関連する出来事を選ばせる。



この方法は、多岐にわたる福音のテーマに使用することができる。例えば、信仰箇条の内容と正しい節番号を合わせたり、神権の職務と正しい神権の職を結ぶことなどである。

年表

聖典の物語の一部や史実を幾つか載せたワークシートを準備する。それを、生徒に正しい順番になるよう番号を振らせる。例えば、

- キリストがニーフアイ人を訪れられる (3)
- モルモンが亡くなる (4)
- リーハイがエルサレムを離れる (2)
- ヤレドの民の文明が栄える (1)
- ジョセフ・スミスが金版を受け取る (5)

空欄を埋める

言葉が幾つか抜けている文章を渡し、生徒に空欄を正しい言葉で埋めさせる。答えは順番を変えて載せておく。例えば、

「\_\_\_\_\_のうち、\_\_\_\_\_に不足している者があれば、その人は、\_\_\_\_\_もせずに惜しみなくすべてのに\_\_\_\_\_神に、\_\_\_\_\_がよい。そうすれば、\_\_\_\_\_であろう。」(ヤコブの手紙1:5)

答え：とがめ、あなたがた、与えられる、人、知恵、与える、願い求める

聖文を応用する

ワークシートは、その日のレッスンや前のレッスンの内容を復習したり、応用するのにも使える。最近学んだ福音のテーマに関する聖句を幾つか選ぶ。その聖句を生徒と一緒に復習し、生徒が理解できるようにする。その後、黒板に参照聖句を書く。短い事例研究(「事例研究」161-162ページ参照)を紹介する。生徒に黒板の中から少なくとも一つ聖句を選び、その事例に応用させる。全員に紙と鉛筆またはペンを渡し、選んだ聖句と、その聖句が教えていることは何か、その事例にはどう当てはめられるか書かせる。

言葉の並べ替え

色々な方法で言葉を並べ替えることができる。例えば、

- 言葉の文字を並べ替える。生徒に文字を並べ替えて単語を作らせる。次のワークシートには、宣教師に必要な技術に関係のある言葉の文字を並べ替えて載せてある。

うしゆくが (学習)	のいぬも (縫い物)
うりりょ (料理)	んよさ (予算)
いんあろ (アイロン)	しえるお (教える)
んどうう (運動)	いぎれ (礼儀)
しかあ (証)	うじそ (掃除)

- ばらばらになっている単語を生徒に並べ替えさせ、正しい文や聖句、歌の題、信仰箇条などにさせる。例：  
永遠に家族は(「家族は永遠に」『賛美歌』187番、『子供の歌集』98)  
行って、わたしは 命じられた ます 主が ことを 行い(わたしは行って、主が命じられたことを行います。[1ニーファイ3:7])

ワークシートを作成し、使用する際の指針

- レッスンの手引きと『リアホナ』などの教会の機関誌には、生徒の関心を引くワークシートを作成する際に参考になる情報やアイデアが載っている。
- 生徒の年齢に合わせたワークシートを用意する。教育上有益で、楽しく、難しすぎないものにする。
- 生徒は一人で問題を考えることもできるし、小人数のグループに分かれ、グループごとに1枚のワークシートに取り組みさせることもできる。ワークシートから得られる情報を黒板に書き、クラス全員で完成させていくこともできる。
- 生徒全員に行き渡る数の鉛筆やペンを用意する。
- ワークシートに時間をかけすぎるのはよくないが、全員が問題を解き終えるだけの時間は取る。
- 全員がワークシートを完成させられるだけの時間が過ぎたところで、答え合わせをする。
- 全員がワークシートをよくできたと思えるようにする。難しそうにしている人がいれば、助ける。





G

## 福音の教え方コース



# コース教師用資料

## コースの目的

本コースは教会員が家庭ならびに教会においてさらに有能な福音教師になるための基礎を提供するものである。本コースのレッスンは、組織されたクラスの一部として教えるように計画されている。また個人的に、あるいは家族でも学習するとよい。

## コースのあらまし

主はこう命じられた。「あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。」(教義と聖約88：77) 主は教師の教師として、わたしたちに模範を示された。そして末日の啓示の中で、どのように教えるべきか具体的に示しておられる(例として、教義と聖約42：12-14； 50：13-22； 52：9； 88：122参照)。主の模範と戒めは、教師として改善を目指そうと努力するわたしたちにとって導きとなるものである。

第1課「神の計画における福音を教えることの大切さ」は、福音の教え方コース全体の基調となるもので、わたしたちに贖いの計画を教えるという主の偉大な目的に焦点を当てている。レッスンは、わたしたちにもその神聖な業の援助ができることを教えている。

第2, 3, 4課は福音教授の3つの基本原則である「生徒を愛する」「御霊によって教える」「教義を教える」を説明したものである。

第5課「熱心に学ぶように勧める」は、福音学習に対して個人が責任を持つように促すことに焦点を当てている。第6, 7課は同じ「学習に適した雰囲気を作る」という課題であるが、教えるという状況において生じる可能性のある問題の予防法と解決法を示したものである。「効果的な方法を用いる」と題した第8, 9課では、様々な教授法の効果的な利用について教え、話し合う。第10課「必要なものをすべて準備する」は、レッスンの計画の仕方を述べたものである。

第11, 12課では、第10, 11課で学んだことを応用する助けを与える。第11課「才能を伸ばす」は、生徒に改善のための個人計画を立てさせるとともに、その計画を達成するためにワードにはたくさんの援助手段があることを紹介している。第12課「行って、教える」はコースで学んだことを分かち合うことによって教え合う機会を提供するものである。

## コースの開き方

コースをいつ開き、だれが参加し、どのような修正を加えることができるかについては、『福音教授法の改善——指導者用ガイド』10ページを参照する。

## コースを教える準備

コースを始める前に12のレッスンすべてに目を通すことが望ましい。そうすれば、それぞれのレッスンが補完し合いながら福音教授の基本を教えていることが理解できるはずである。また、コースを教えるときにどのような福音教授の原則を模範として示すべきか分かるであろう。

**教会発行の資料を用いる**

本書に加えて聖典と『教会指導手引き』の「福音の教授と指導」の章が必要となるであろう。また、本書105ページに掲載されている「福音を教えるために教会が準備している資料」の中の資料も参照するとよい。

集会所付属図書館主任と連絡を取り、集会所付属図書館にどのような資料があるかを知っておく。

**生徒とともに行う作業**

*生徒が必要な資料*

生徒は聖典を持参する必要がある。また、ノートか日記帳を用意して、メモを取ったり割り当てや感じたことを記録する。また本書もクラスに持参する。

*生徒のクラスへの参加を援助する*

各課には生徒をレッスンに活発に参加させるための指示が含まれている。例えば、ノートに記録したり、考えを発表したり、個人的な経験を紹介したりすることである。レッスンの準備をするときは、十分な時間を取って生徒をこうした活動に参加させるように計画する。

*割り当て*

各課には2種類の性質の異なった割り当てがある。

1. レッスンの一部を準備する。これは多くのレッスンの「準備」の項に列挙されている。これは生徒に参加と教え合う機会を提供する。この割り当てをどの生徒に与えるかを祈りの気持ちで検討する。実際に割り当てを与えるときには、準備の時間を十分に与える。
2. クラス外で特定の原則を実践するように割り当てる。これは生徒が教師として継続して改善していく助けとなるものなので、このコースの中では重要な位置を占める。この割り当ては各課の最後に与える。

*各生徒を支援する*

コースでレッスンを教えることに加えて、生徒一人一人を支援する時間を取るべきである。生徒は次のレッスンまでの間にあなたから励ましや援助を受ければ、よりいっそうの成功を収めるであろう。生徒の側でも、クラスで教わった原則を応用した体験を話したいと思っているかもしれない。

**約束された主からの助け**

234ページの「教師へ」について深く考える。信仰を働かせ、助けを求めて祈り、コースで教える原則を実践するならば、生徒が「神の手に使われる者となり、〔他の人々に〕真理を知らせ〔る〕」ようになる助けとなるであろう（アルマ17：9）。



# 個人と家族によるこのコースの学習

福音の教え方コースがワードにおいて現在実施されていなかったり、あなたが出席できない場合は、個人または家族で学習することができる。しかし、コースが準備されている場合、個人や家族での学習をもってコースへの出席の代わりとすることはできない。ほかの生徒と意見を分かち合い、教師としてどう改善できるかをともに学ぶときに、ずっと多くのものを得るであろう。

## 個人と家族による 学習の鍵

「コース教師用資料」186-187ページを読む。提案をあなたが置かれた状況に合うように変更する。

決意をする。個人学習は改善しようとの決意と熱心にコースを学ぼうとの意欲があればより生産性の高いものとなる。

各課は順番に学び、週に学ぶ課は一つだけにする。学んだことを応用するには次のレッスンまで時間が必要であろう。

ノートを取る。進捗状況を記録することは福音の教え方コースの中で重要な位置を占める。レッスンではコースに関するメモを取ったり、感想、計画、経験、進捗状況を記録する機会が設けられている。

割り当てを行う。改善への努力は学んだことを実践するときのみ実を結ぶ。各課には、実際に教える機会が与えられたときに原則を応用する助けになる割り当てが書かれている。割り当ては忠実に行う。そしてノートに努力と進歩の評価を記入する。

家族で学習している場合は、クラスと同じ状況で行うようにする。順番で話し合いの司会をし、レッスンで提案されている聖句を読み、質問について話し合い、割り当てを行う。

個人で学習している場合は、クラスに出席している様子を想像する。レッスンのテーマについての話し合いでは、どのような意見を言うだろうか。質問へはどう答えるだろうか。考えたことをノートに書く。学習を効果的に進めるには、「福音を研究するための個人の計画を作る」16-17ページを参照する。

個人で学習している場合は、報告する人を見つける。個人学習は、感じたことや意見を分かち合う人がいるとあっという間に向上する。家族や友人、神権指導者、補助組織指導者などに依頼することができるであろう。あなたの目標や計画、努力の結果をその人と分かち合う。

# 神の計画における福音を教えることの大切さ

**目的** 福音を教えることを通して生徒が主の業を援助しようとの望みを増すように助ける。

## 教師へ

天の父はその愛にあふれた優しさにより、天父の子供たちが永遠の命を得るためにしなければならぬことを学ぶ助けとなるよう、教師を召された。わたしたちは皆、福音教授の恩恵を受けている者であり、福音をほかの人に教えるように命じられている。このコースを教えるあなたの努力は、この偉大な業の一部なのである。

以下のゴードン・B・ヒンクレイ大管長の声明は、このコースを通じてあなたが生徒に伝えるべきメッセージを表したものである。

「わたしたちは教師が書物からではなく心から語り、主への、またこのかけがえのない業への愛を伝えられるように、自分自身とわたしたちの民を強めなければなりません。そうすれば、生徒たちの心に火がともることになります。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年], 619-620)

「わたしたちにはすべきことがたくさんあります。腕まくりをし、新たな決意をもって、主を信頼して取りかかりましょう。……祈りを込めて忠実に行うならば、達成できます。かつてなかった成果を上げられます。」(「なすべき業あり」『聖徒の道』1995年7月号, 94)

このメッセージを中心にして、この課は福音の教え方コース全体の基調となるものである。

## 準備

1. 本課で採り上げられている聖句を祈りの気持ちで研究する。それらを本課の目的にどう当てはめたらよいかを考える。
2. 本書の「神の計画における福音を教えることの大切さ」(2-10ページ)を研究する。
3. 聖典とノートをクラスに持参するように生徒を励ます。必要であればビショップリックと話して、生徒用のノートを用意する手配をする。
4. 『教師、その大いなる召し』を持っていない生徒のために必要部数を取り寄せる。

## レッスンの提案

生徒を歓迎する。あなたが生徒を知らなかったり生徒がお互いを知らない場合は、短く自己紹介してもらう。

全員がクラスで用いるノートを持っているかどうか確認する。ノートは福音の教え方コースに関するメモを取ったり、感想、計画、経験、進歩状況を記録するために使うことを説明する。

**福音を教える教師は多くの人々の生活に影響を与える。**

物語

以下のトーマス・S・モンソン管長が話した物語を紹介する。

「決して忘れることのできない、いつまでも心に残る日曜学校の教師がいました。わたしたちが彼女と初めて会ったのは、ある日曜日の朝でした。彼女は日曜学校の会長と一緒にクラスへ来て、紹介されました。彼女はわたしたちを教えたいという望みを持っていたということでした。彼女は宣教師として働き、若い人々を愛していました。このルーシー・ゴーシュ姉妹は、静かな物腰の美しい人で、わたしたちに関心を持っていました。彼女はわたしたち一人一人に自己紹介を求めてから、幾つか質問をしました。その質問を通して、彼女はクラスの子一人一人の状況をよく理解しました。彼女は……子供時代の話をし〔ました〕。彼女は決して声を荒げることをしませんでした。とにかく粗野なことは、彼女のレッスンのすばらしさにそぐわないのです。……彼女は聖文を生き生きと教え、わたしたちはサムエル、ダビデ、ヤコブ、ニーファイ、そして主イエス・キリストを身近に感じるようになりました。聖文の知識が深まり、行いもよくなりました。わたしたちはゴーシュ姉妹を心から愛しました。

歳月は流れ〔ました〕。……しかしあの靈感された教師の指導の下に学び、笑い、成長した少年、少女は、彼女の愛と教えを決して忘れたことはありません。」「〔感謝を態度で示す〕『聖徒の道』1992年7月号、62)

モンソン管長の物語と同じように、イエス・キリストの福音を教えようとする努力は多くの人々の生活に影響を与えることができることを証する。教える召しの大切さについて、あなたが感じていることを述べる。

引用

生徒に以下のジェフリー・R・ホランド長老の声明を読ませる。

「わたしたち一人一人が『キリストのもとに来』て、主の戒めを守り、主の模範に従い天の御父のみもとに戻るのには、人類が存在する最も高く尊い目的です。そして、人々がこの目的を果たせるよう助けること、すなわち、彼らが贖いの道を歩むよう教え、説き勧め、祈りをもって導くのも、間違いなく人生でそれに次ぐ重要な務めです。」「〔『神からこられた教師』〕『聖徒の道』1998年7月号、28)

**福音教授は天父の計画において重要な役割を果たす。**

聖句を使った話し合い

神の贖いの計画では常に、教えることが重要な役割を果たすことを指摘する。生徒に以下の聖句を読ませる。各聖句の背景を説明するとよいだろう（例えば、教義と聖約138章はジョセフ・F・スミス大管長の霊界に関する示現が記述されているという説明をする）。天父の計画における教えることの役割について述べたこれらの聖句を読んでどう感じたか、生徒に分ち合ってもらおう。

- a. 教義と聖約138：56（わたしたちは「霊の世界において最初の教えを受け」た。）
- b. アルマ12：27-32（アダムとエバがエデンの園を追放された後、神は彼らが贖いの計画について学べるよう助けられた。神は彼らが教えを受けるために天使を遣わし、また、彼らの祈りにこたえられた。そして、彼らが贖いの計画を教えられた後に戒めを与えられた。）
- c. モーセ6：57-58（主はアダムとエバに、子供たちに対して率直に福音を教えるよう命じられた。）

ローマ10：13-15、17と2ニーファイ2：8を読んでまとめとする。天父の計画における福音教授の役割について証を述べる。



わたしたちには福音を学びそれを人に教える機会が多くある。

引用

教会員は多くの異なった立場で福音を教えていることを指摘する。それから5人の生徒に以下の声明を読ませる。それぞれが特定の人々に向けて語られたものであることに注意する。

両親へ

大管長会はこう語っている。

「親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教え育てることに全力を尽くしてくださいようお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。

わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」(1999年2月11日付けの大管長会からの手紙)

神権指導者、補助組織指導者へ

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語っている。「教会における指導の神髄は、効果的に教えることです。永遠の命は、兄弟姉妹がそのような効果的な方法で教えを受け、自らの生活を変え、訓練することによってのみもたらされます。強制により彼らに義を行わせ、天国に行かせるのは不可能です。皆が導きを得なくてはなりません。つまり教育が必要なのです。」(『神からこられた教師』『聖徒の道』1998年7月号, 29)

教会のクラスの教師へ

トーマス・S・モンソン管長はこう教えた。

「教会という学びの場も、子供や青少年の教育にとって非常に大切なものです。教会ではすべての教師が、レッスンに耳を傾け教師の証の影響力を感じ取る子供たちに靈感を与えることができます。主からの靈感によって召され、よく準備のできた教師は、初等協会や日曜学校、若い女性やアロン神権者の集会で、一人一人の子供や青少年に良い影響を及ぼし、すべての人が『最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求め』るように励まします(教義と聖約88:118)。教師の励ましの言葉や霊的な思いを伝える言葉が、子供の貴い人生を変え、不滅の魂に消すことのできない印象を残すのです。

教会の教室で教える謙遜で靈感あふれる教師は、生徒に聖文を愛する心を教えることができます。さらに、そのような教師は古代の使徒たちや世の救い主を教室へ招くことができるだけでなく、子供たちの心や精神、そして魂にまで深い印象を残すことができるのです。」(「大切な子供たち——神からの贈り物」『聖徒の道』1992年1月号, 75)

ホームティーチャーと訪問教師へ

スペンサー・W・キンボール大管長はこう語っている。「皆さんが訪問する目的は人を救いに導くことなのです。また、皆さんの訪問を受けて、新たな視野と新たな理解を得て、教会に活発になった人々も大勢います。皆さんはカーテンを引き開け、彼女たちの視野を広げ、新しいものを与えました。」(「家庭訪問の理想」『聖徒の道』1978年12月号, 4)

すべての教会員へ

ロレンゾ・スノー大管長はこう語っている。「中には天使の雄弁さで語ることできる人がいるかもしれませんが。しかし、その人の実践、善い模範、行いが人々への関心の誠実さを物語り、もっと雄弁に、もっと効果的に人々を教えることになるのです。」(The Teachings of Lorenzo Snow, クライド・J・ウィリアムズ編〔1984年〕, 78-79)

教師の提示

今読んだ引用の中に述べられていたそれぞれ異なった教師について生徒に考えさせる。すなわち、両親、神権指導者、補助組織指導者、教会のクラスの教師、ホームテッチャーや訪問教師、そして模範によって教える人々である。以上の役割の幾つかを実践して生徒の福音の理解を助けたり、福音の原則に従った生活をしようとの意欲を高めるうえで助けになった人について短く紹介させる。

証

家庭や教会、日々の交わりの中で学んだり教えたりする多くの機会によってもたらされる祝福について簡単に話す。そうした機会へのあなたの感謝の気持ちを示す。主がこうした機会を与えてくださっているのは、わたしたちを取り囲む邪悪な教えや影響力に対抗するためであることを強調する。次のゴードン・B・ヒンクレー大管長の声明を紹介する。

「地には飢えがあります。そしてほんとうの渇き、すなわち主の言葉へのひどい飢えと、御霊にかかわる事柄への満たされない渇きがあります。現在、世の人々は霊的な食物に飢えているように思われます。魂に養いを与えるのは、わたしたちに与えられた義務であり、機会でもあります。」(「霊を養い、魂に養いを与える」『聖徒の道』1998年10月号, 3)

**福音の教え方コースの目的はさらに優れた教師になるよう助けることである。**

教師の提示

189ページの「教師へ」にあるゴードン・B・ヒンクレー大管長の声明を読む。

ヒンクレー大管長の声明を読んだ後で、福音の教え方コースの目的がこれまでにないほど効果的にイエス・キリストの福音を教えられるよう助けることであることを指摘する。

このコースの資料として聖典、『教師、その大いなる召し』、『教会指導手引き』の「福音の教授と指導」の章が用意されていることを説明する。

『教師、その大いなる召し』を、まだ持っていない人に与える。この書物にはこのコースのレッスンに関連した資料が含まれていることを伝える。それらの資料は各レッスンの予習、復習のために読むようにすれば役に立つであろう。

本コースが福音教授の基礎を築くことを説明する。このコースはあらゆる年代や文化に応用する原則や教授法に焦点を当てている。コースには12のレッスンがある。これ以降11にわたる各課のタイトルは、コースから何を学べるか示している。生徒に本書のviページを開かせ、各課のタイトルを確認させる。

生徒がコースで教えられた原則を応用するよう励む際には助けを提供する。加えて、生徒に以下の事柄を行うように勧める。

- a. 聖典、『教師、その大いなる召し』、『教会指導手引き』の「福音の教授と指導」の章を研究する。
- b. 毎週聖典を持参する。
- c. 毎週ノートを持参する。
- d. レッスンに参加しクラスのほかの生徒の学習に貢献するために、毎週準備をして

クラスに臨む。

- e. 教える機会について深く考え、祈る。
- f. 教師として改善を図るために個人計画を作成し、実施する。

---

## まとめ

### 引用

一人の生徒に以下のボイド・K・パッカー長老の声明を読んでもらう。

「教会員の責任は次の3つに集約されると言われる。生きている教会員に救いを与えること、亡くなった親族のために必要な業を行うこと、全世界に福音を宣べ伝えることである。これらすべての責任は学ぶことを要求する。そして、学んだことは、今度は教えられなければならない。それを教えるのがわたしたちなのである。」(Teach Ye Diligently, 改訂版 [1991年], 7)

### 要約

説明した原則についてまとめをする。

### 証

御霊に導かれるままに証をする。

### 割り当て

生徒に以下の事柄を行うように勧める。

1. コースに参加したときにもたらされる教える機会や学ぶ機会についてノートに書く。
2. 次の家庭の夕べのレッスンや教会での割り当て、その他の教える機会に関して御霊(聖霊)の導きを求める。次の主の言葉を思い起こす。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。」(教義と聖約42:14) この割り当てを通して体験したことをノートに書き留める(第3課の一部として、何人かの生徒にこの体験について報告してもらう)。
3. 本書の「神の計画における福音を教えることの大切さ」の項(2-10ページ)を研究することにより、本課で学んだ原則を復習する。



## 第2課

## 生徒を愛する

**目的** コース参加者が自分たちの教える人々に対してキリストのような愛で満たされるよう努めるようになる。

**教師へ** この地上での働きも終わりに近づこうとしていたときに、イエスは使徒たちを教え強められた（ヨハネ13-17章参照）。そのような中で、主は「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」（ヨハネ13：34；15：12，17参照）という戒めを弟子たちに与えられた。弟子たちは、この戒めに対して従順であったことにより、自分たちが主の真の弟子であることを証明した（ヨハネ13：35参照）。彼らのなす務めは、全世界に出て行って教えるという責任も含め、すべて愛によって行われなければならなかった。末日にあって、主は同様のことを教えられた。「謙遜であり、愛に満ち……なければ、だれもこの業を助けることはできない。」（教義と聖約12：8）

教える人々に対してキリストのような愛で満たされる方法をクラスの参加者が理解できるように助ける。この課の勧めに従うときに、より効果的な方法で教えられるようになる。また教える喜びも増す。

- 準備**
1. 本課で採り上げられている聖句を祈りの気持ちで研究する。それらを本課の目的にどう当てはめたらよいかを考える。3ニーファイ11章から17章までに精通し、このテキストの195ページで紹介されている物語の概要を話せるように準備する。
  2. このテキストの中の「生徒を愛する」の項（30-39ページ）を研究する。
  3. 以下の資料が入手できるようであれば、レッスンの中で用いることができるように準備する。
    - a. 「西半球で福音を教えるイエス」（『福音の視覚資料セット』316）、「ニーファイ人を癒すイエス」（『福音の視覚資料セット』317）、「ニーファイ人の子供たちを祝福されるイエス」（『福音の視覚資料セット』322）。
    - b. 「わたしの喜びは満ちている」『モルモン書——ビデオ・プレゼンテーション』（53911 300, 所要時間4分）。
  4. 一人の生徒に割り当てを与え、福音の教師（例えば両親、教会でのクラスの教師、教会の指導者）の愛によって良い影響を受けた経験について簡単に話してもらう。同じ生徒に、この課の導入として、次のような質問に答えてもらう。
 

この人が自分を愛していることをどのようにして知りましたか。

この人の愛は福音を学ぶことに関する自分の気持ちにどのような影響を与えましたか。
  5. 1週間以上前に、独唱できる人、あるいは小人数の成人または子供たちに、レッスンの最後で「共に愛し合え」（『賛美歌』192番）を歌ってもらうよう調整する。それが難しいようであれば、クラスの生徒に賛美歌を合唱させるよう準備する。

## レッスンの展開

キリストのような愛を持つ教師は教える人々の生活に影響を与える。

## 聖典の物語と絵

ニーファイ人に教えられるキリストの絵を見せる。自分の言葉で、復活された救い主がニーファイ人を訪れられたときの様子を大まかに話す。次の内容を盛り込む。

復活された救い主はバウンティフルの地に住むニーファイ人に御姿を現された。救い主は、御自分のもとに来て、その両手と両足の釘の跡に触れるようニーファイ人をお招きになった。それから詳細にわたって彼らを教えられた。それが終わると、救い主は彼らに自分の家に帰り、御自分の語られた言葉について深く考えるように指示された。今まさに天の御父のもとに帰られるというときになって、救い主はニーファイ人が涙を流しながらもう少しとどまってほしいと願う姿を御覧になった。(3ニーファイ11-16章；17：1-5参照)

ニーファイ人を癒されるキリストの絵を見せる。それから一人の生徒に3ニーファイ17：6-10を読ませる。

## 黒板

この聖句を読ませた後で、黒板に「イエスは、御自分のところに連れて来られた者をことごとく癒された」と書く。

## 聖典の物語と絵

自分の言葉で、この出来事について続けて話す。イエスは病人をすべて癒された後で、幼い子供たちを連れて来るように命じられた(3ニーファイ17：11-12参照)。

ニーファイ人の子供たちを祝福されるイエスの絵を見せる。それから一人の生徒に3ニーファイ17：21-25を読ませる。

## 黒板

この聖句を読ませた後で、黒板に「イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福された」と書く。

## ビデオ

ビデオの「わたしの喜びは満ちている」を用いる場合には、ここで用いる。

## 話し合い

イエスがニーファイ人に示された愛について、クラスの生徒たちに深く考えさせる。また、イエスが一人一人を教え導かれたとき、ニーファイ人がどのように感じたか考えさせる。

■ 教師のキリストのような愛は、レッスンを受けている生徒にどのような影響を与えるのでしょうか。(以下のような答えが考えられる。教師のキリストのような愛は、御霊を招き、恐れを克服するのを助け、福音の教えをより受け入れやすくさせる。)

## 引用

この質問について短く話し合った後で、一人の生徒にこのテキストの30ページに掲載されている預言者ジョセフ・スミスの言葉を読ませる。

## 生徒の提示

割り当てを与えておいた生徒に、教師の愛によってどのような影響を受けたか話してもらおう。

## 教師の提示

この課では、教える人々に対してキリストのような愛で満たされるための手助けとなる聖文からの教えが紹介されていることを説明する。また、キリストのような愛が教師としての奉仕にどのような影響をもたらすかについての話し合いも含まれている。

**わたしたちは生徒を教えるときにキリストのような愛で満たされることができる。**

## 聖句とノートを使った活動

何人かの生徒に下記の聖句を読んでもらう。それぞれの聖句を読んだ後で、キリストのような愛で満たされるための原則をそれらの聖句から見つけさせる。この話し合いに参加する中で心に浮かんだ考えをノートに書き記すよう生徒を促す。レッスンの終わりの方で、その考えを分かち合う時間を取ることを説明する。

ヨハネ15：10 (戒めを守る)

エペソ4：32 (人を赦す)

- モーサヤ2：17（奉仕する）
- モーサヤ4：11-12（悔い改め，謙遜になり，信仰を行使する）
- アルマ38：12（激情を制する）
- 3ニーファイ11：29-30（争いをやめる）
- モロナイ7：48（キリストの純粋な愛で満たされるように祈る）

**生徒に対するキリストのような愛は，教師の準備，レッスン，そして日々の生活に反映される。**

ノートを使った活動と話し合い

教える人々に対してキリストのような愛で満たされるとき，その愛はわたしたちの準備，レッスン，そして日々の生活に反映されることを指摘する。その後で，次の言葉を黒板に書く。ノートにその言葉を書き写させる。

準備	レッスン	日々の生活

自分たちが教える具体的な人々（例えば，家族，クラスの生徒，定員会の会員）について考えさせる。その後で，次の質問について考え，自分たちのアイデアを，すでにノートに書き写した3つの言葉のいずれかの下に書いてもらう。

- これらの人々に対してキリストのような愛を示すためにどのようなことができるでしょうか。（幾つかのアイデアは次の表の中で紹介されていることに注意する。ほかのアイデアは，このテキストの31-36ページ，「愛は心を和ませる」「生徒を理解する」「個人に手を差し伸べる」の中で紹介されている。）

準備	レッスン	日々の生活
生徒のために祈る。 生徒の必要と興味に気づく。 生徒を教えるためによく備える。	レッソンの最初に心を込めてあいさつする。 生徒に愛を示す。 注意深く耳を傾ける。 レッスンに参加する生徒に尊敬の念をもって接する。 学んだ原則に従って生活するよう励ます。 適切なときに褒める。	生徒のために祈る。 生徒に会ったら親しみの気持ちを表す。 生徒の活動や達成したことについてよく知る。 生徒の参加する活動に出席する。 適切なときに褒める。 生徒が試練に遭っているときに関心を示し，励ましを与える。



生徒がノートに書いたアイデアの中から幾つかを選び、話し合ってもらおう。生徒のアイデアを黒板に書く。

## まとめ

### 要約と引用

レッスンの内容を、ジョセフ・B・ワースリン長老の次の言葉を借りて、簡潔に要約する。

「キリストのような友から受ける憐れみは、生活に大きな影響と変化をもたらします。愛はまさに、キリストの福音の真髄です。この教会では、助けを求める祈りがしばしば、思いやりのある兄弟姉妹の日々の簡単な奉仕を通して、主からこたえられます。わたしは誠実な友の親切な行為の中に、主御自身の憐れみを見てきました。」（「価値ある交わり」『聖徒の道』1998年1月号，37）

### 証

御霊に導かれるままに、証を述べ、生徒に対する愛を示す。

### 音楽

割り当てを与えておいた人々に、ソロもしくは小人数のグループで「共に愛し合え」（『賛美歌』192番）を歌ってもらおう。それが難しいようであれば、クラスの生徒に賛美歌を合唱させる。

### 割り当て

生徒に以下の事柄を行うように勧める。

1. 196ページの「ノートを使った活動」の中から少なくとも一つのアイディアを選ぶ。次の1週間、そのアイデアを、教える機会に生かす。その結果をノートに書き留める。
2. 次の家庭の夕べのレッスンや教会での割り当て、その他の教える機会に関して御霊の導きを求める、という先週の割り当てを続けて果たす。主の次の言葉を思い起こす。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。」（教義と聖約42：14）この割り当てを通して体験したことをノートに書き留める。（第3課の一部として、何人かの生徒にこの体験について報告してもらおう。）
3. 本書の「生徒を愛する」の項（30-39ページ）を研究することにより、本課で学んだ原則を復習する。

# 御霊によって教える

## 第3課

**目的**                      コース参加者が御霊の導きを求めるとともに、ほかの人々に御霊の影響を感じさせられる教え方ができるように助ける。

**教師へ**                      わたしたちは聖霊あるいは御霊の力によって福音の真理を学ぶ（モロナイ10：5参照）。主は御霊によって教えることの大切さについて次のように語られた。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」（教義と聖約42：14）教師と生徒がともに御霊に導かれるようふさわしい生活をするならば、「両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」（教義と聖約50：13-22）

生徒の中には、御霊によって教えることはできないと感じている人がいるかもしれない。教会における経験がほとんどないような人は特にそうであろう。この課を教えるときに、生徒が自分たちも御霊によって教えられるのだということを理解できるように助ける。御霊によって教える資格とは言葉の巧みさや教養、豊富な経験といったものではなく、祈りや、勤勉、敬虔、謙遜であることを、生徒が理解できるように助ける。

- 準備**
1. 本課で採り上げられている聖句を祈りの気持ちで研究する。それらを本課の目的にどう当てはめたらよいかを考える。
  2. このテキストの「御霊によって教える」の項（40-48ページ）を研究する。
  3. 教えるときに聖霊の導きを願い求めた経験について、2,3名の生徒に短い話の準備をしてもらう。（生徒は、1課と2課の終わりの方で、そのような経験についてノートに書くよう割り当てを受けている。）
  4. 教室に水を入れた水差しと透明のコップを持って来る。
  5. レッスンが始まる前に、黒板に次のような質問を書く。「福音を教えようと努力するとき最も大切なものは何でしょうか。」

**レッスンの展開**                      開会の祈りの前に、「主よ靈感もて」（『賛美歌』182番）またはほかの敬虔な賛美歌をクラスの生徒に歌ってもらおう。賛美歌に続いて、レッスンの間ずっと聖霊の導きがあるよう一人の生徒に祈りをささげてもらおう。

**「最も大切なのは御霊です。」**

**引用**                      黒板に書かれた質問に生徒の注意を向けさせる。その質問に声を出して答えるのではなく、頭の中で考えてもらう。その後で、その質問に対する答えの一つをエズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉の中に見いだせることを伝える。

「十二使徒の皆さんに繰り返し述べてきたメッセージがもし一つあるとすれば、それは大切なのは御霊だということです。これまで何度このことについて話してきたかわかりません。しかし、何度話してもこれで十分だとは思えないのです。最も大切なのは御霊です。」（伝道部会長セミナー、1985年4月3日）

教会では聖霊の影響力のことをよく「御霊」と呼ぶことについて説明する。御霊に

よって教えること、それは最も力強い教え方である。なぜなら、御霊の力を通してしか、神にかかわる事柄を理解することはできないからである（1コリント2：11）。

**福音を学び教えるときに、御霊はいろいろな形でわたしたちに注がれる。**

聖句を使った話し合い

ほとんどの場合、御霊は劇的な力を伴って現れることはなく、静かで、目立たない現れ方をされるということを説明する（列王上19：9-12参照）。それから、生徒に以下の聖句を読ませる。福音を教えるときに、御霊はどのようにわたしたちを支えてくださるか、これらの聖文で教えられていることを生徒に説明してもらう。生徒の答えを黒板に書く。

- a. ヨハネ14：26（あらゆることを教え、思い出させる。）
- b. ヨハネ15：26（キリストについて証する。）
- c. 2ニーファイ33：1（わたしたちの心に真理を伝える。）
- d. 教義と聖約6：14-15, 22-23（わたしたちの心を照らし、平安を与える。）
- e. 教義と聖約11：13（わたしたちの霊を喜びで満たす。）
- f. 教義と聖約50：21-22（教化する。）

生徒の提示

割り当てられた生徒に、教えるときに聖霊の導きを願い求めた経験について話してもらう（「準備」3参照）。

**御霊を招くためにできる具体的な事柄**

黒板を使った話し合い

■ 御霊を招くためにわたしたちには何ができるでしょうか。（生徒の答えを黒板に書く。黒板に書かれた答えをノートに書き写させる。）

以下の中で生徒から挙がらなかった答えがあれば、黒板のリストに書き加える。

- a. 祈る。
  - b. 聖文を用いて教える。
  - c. 証する。
  - d. 賛美歌、初等協会の歌、その他敬虔な歌を用いる。
  - e. 周囲の人々や天の御父、イエス・キリストに愛を示す。
  - f. そのレッスンの原則に関係のある洞察や気持ち、経験を分かち合う。
- 今日はこの中のどれを行ったでしょうか。御霊を招くためにほかにどんなことをしましたか。

ノートを使った活動

近い将来に与えられる教える機会について生徒に考えさせる。教えるときに、黒板に書かれた提案をどのように用いることができるか考えさせる。何分か時間を与えて、自分の考えをノートに書かせる。

**最大限の努力は、御霊の影響があるときに実を結ぶ。**

実物を使ったレッスン

「だれが御霊によって教えることができるか」と黒板に書く。

水差しの水とコップを見せる。この実演でコップは福音の教師であるわたしたちを象徴していると説明する。それからコップに途中まで水を入れる。今コップに注いだ水は、最大限に発揮されたわたしたちの能力を象徴していると説明する。

わたしたちは、自分にもっと能力があれば、真の意味での効果的なレッスンができると思うかもしれない。しかし、わたしたちは自分の能力だけでこのコップを満たすことはできない。真の意味での効果的な福音の教師となるためには、聖霊の力によって教えなければならない。奇跡と呼べるのは、わたしたちが何者であろうと、またどれほど才能に恵まれていようと、御霊の影響があるときにのみ最善の結果がもたらされるということである。このように説明しながら、コップに水を満たす。



引用

ヘンリー・B・アイリング長老の次の言葉を一人の生徒に読ませる。

「他人の信仰を養うという責任を果たすだけの力が自分にはないと考えるのは賢いことです。どれほど優れた能力を持っているとしても、十分とは言えません。けれども、自分の限界を現実的にとらえることによって、謙遜な気持ちが生じます。すると御霊に頼らざるを得なくなり、それによって力を受けることができます。」（「わたしの子羊を養いなさい」『聖徒の道』1998年1月号, 96）

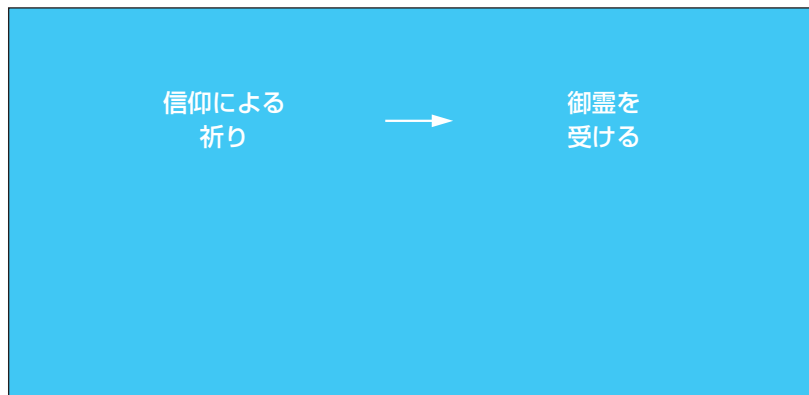
**だれもが御霊によって教えるふさわしさを身に付けることができる。**

聖句を使った話し合いと黒板

どのようにすれば御霊によって教えるふさわしさにあずかることができるか生徒が理解できるよう、以下の話し合いをする。

一人の生徒に教義と聖約42：14を読んでもらう。

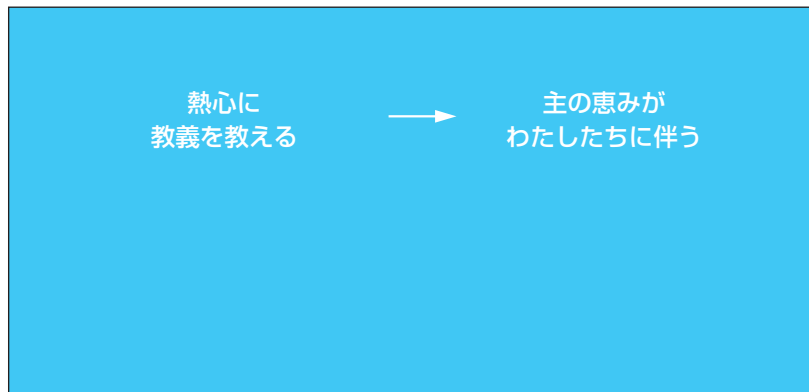
以下の事柄を黒板に書く。



一人の生徒に教義と聖約88：77-78を読んでもらう。

- わたしたちが勤勉に王国の教義を教えるならば、主は何が起こると約束しておられますか。（主の恵みがわたしたちに伴う。）

以下の事柄を黒板に書く。



恵みはすべてを可能にする力であることを説明する。恵みは神の憐れみと愛によって与えられる神聖な助けであり力である。主の恵みにより、自分一人ではできないすばらしい業を行うことができる（聖句ガイド「恵み」の項、254ページ参照）。

一人の生徒に教義と聖約100：7-8を読ませる。

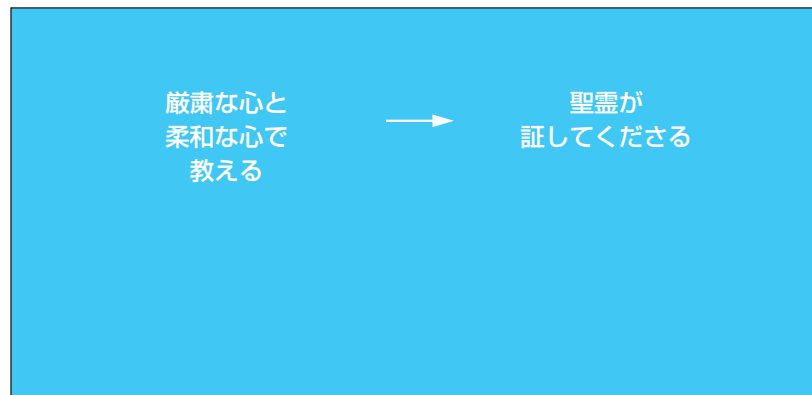
- ここには福音をどのように宣言すべきだと書かれていますか。（「厳粛な心」と「柔らかな心」で。）

厳粛とは敬虔や尊厳を意味することを説明する。それから、柔和という言葉の意味を生徒が理解するよう、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を読む。

「柔和とは、自己満足の態度とは正反対の感謝の精神、自分を超越するより大きな力を承認し、神を認知し、神の戒めを受け入れること意味します。」（“With All Thy Getting Get Understanding”, *Ensign*, 1988年8月号, 3-4）

- 厳粛な心と柔らかな心で福音を教える人に主は何を約束されましたか。（教義と聖約100：8参照。聖霊がわたしたちの教える原則について証してください。）

次の事柄を黒板に書く。



参加

生徒の注意を黒板に書いた原則に向けさせる。以下のことを強調する。わたしたちが信仰をもって祈り、教義を熱心に、厳粛な心と柔らかな心で教えるならば、御霊を受ける。そしてこの御霊はわたしたちの教える真理について証する。生徒に自分あるいはほかの人たちがこれらの原則に従うことにより御霊の訪れを受けた経験について話し合うよう勧める。

まとめ

要約と引用

簡潔にレッスンを要約する。それから、一人の生徒にトーマス・S・モンソン管長の次の言葉を読ませる。

「皆さんの中には、生まれつき内気だとか、自分はその召しを確信を持って果たすだけの力がないと考えている人もいるでしょう。忘れないでください、この業は皆さんやわたしだけのものではありません。主の業なのです。わたしたちは主の用向きをもって働くときには、主の助けを受ける特権があります。主から召される人は、主によって適格な者とされることを忘れないでください。」（「召しの義務」『聖徒の道』1996年7月号, 52）

証

御霊に導かれるままに証をする。

割り当て

生徒に以下の事柄を行うように勧める。

1. 自分のノートに書いた御霊によって教えるためのアイデアについてさらによく考える。今度の教える機会にこれらのアイデアの一つを用いる。

2. ノートに進歩の過程を続けて記録する。
3. 本書の「御霊によって教える」の項（40－48ページ）を研究することにより，本課で学んだ原則を復習する。





- a. エノス1：1-4。(福音の教義はわたしたちの心に深くしみ込んで、神の前にへりくだるよう導いてくれる。)
- b. アルマ31：5。(神の言葉は正しいことを行うよう人を導き、心に「力強い影響」を与える。)
- c. アルマ32：28。(神の言葉は、わたしたちの心を広げ、わたしたちの理解力に光を注ぎ、わたしたちにより気持ちを与えてくれる。)
- d. ジョセフ・スミス-歴史1：11-12。(神の言葉は「心に力強く」迫ってくる。)

黒板に書かれた質問について話し合ってもらおう。

生徒の提示

割り当てを受けた生徒またはワードのほかの会員に、福音のある特定の原則を学んだことにより自分の生活がどのように変わったか話してもらおう。

**わたしたちは教義を中心に教えるべきである。**

事例研究

自分が若い男性、若い女性、日曜学校の会長会の一員だと想像してもらおう。自分の属している組織の教師から次のようなことを言われたとする。「わたしは若い人たちを教えるときに、スポーツやデートあるいは映画といったことについて話すのにクラスの大半の時間を費やします。聖文を用いたレッスンに多くの時間を使いすぎると、生徒が興味を失うのではないかと感じるのです。」

話し合いと引用

- この教師が聖文を用いて教義を教えられるよう手助けをするために、どんな助言を与えることができるでしょうか。

この話し合いの一部として、3人の生徒に以下の言葉を読んでもらう。あらゆる年齢の教会員に神の言葉を教えることの大切さを強調する。

成人を教える教師へ

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように語った。「話すように求められた人が世の通説や人の考えを披露したり、——ここで言う人の考えとは、今日の世の人の考えを支配しようとするが、当人はイエス・キリストを信じていなければ、愛してもいない人々が提唱する理論のことである——あるいは福音の基本的な原則に反する事柄を採り上げたりした場合、もしわたしがその会に出席していたら、きっと不快感を味わうことであろう。」(『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編、第2巻、316)

若い男性と若い女性の教師へ

J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は次のように教えた。

「教会の青少年は、御霊に関することに飢えている。福音を学びたいと熱心に願っている。あるがまま純粋な福音を望んでいる。……

あなたがたは、こっそり〔彼らの〕背後に回って、宗教について耳もとでささやく必要はない。……宗教的な真理を、世俗的な事柄で覆い隠す必要もない。……真理を包み隠さず教えればよいのである。」(*The Charted Course of the Church in Education*, 改訂版〔パンフレット, 1994年〕, 3, 9)

子供の教師へ

エズラ・タフト・ベンソン長老はこのように助言した。「わたしたちが皆さんにお願いしたいのは、皆さんの心配りと指導の下に置かれるこれらの子供たちの心に靈感を与え、この地上で福音ほどすばらしいものはないという気持ちを植え付けることです。」(“Our First Obligation”, *Children's Friend*, 1950年10月号, 454)

## 福音を教えるすべての教師へ

ボイド・K・バッカー長老はこう語った。「まことの教義を理解すれば、人の態度や行動は変わります。福音の教義を研究することは、人の行動を研究することよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。」（「幼き子ら」『聖徒の道』1987年1月号、18-19）

## 正しい教義を教えていることを確認する。

## 引用と話し合い

マリオン・G・ロムニー管長の次の言葉を読む。

「小川の水を飲むとしたら、わたしは牛の通り道などになっている下流の水でなく、地面からわき出ている所から直接飲みたいと思います。ほかの人々の解釈も確かに助けとなりますが、福音に関するかぎり主が教えられたことを直接聖典から学ぶべきです。」（J・リチャード・クラーク「わたしの身も心も聖文を喜ぶ」『聖徒の道』1983年1月号、23）

- 自分の教える生徒が「主が教えられたことを直接」学べるように助けるときに、何をよりどころにすればよいでしょうか。（以下のような答えが考えられる。聖典や末日の預言者の教え。）
- どうしたら自分が正しい教義を教えていることを確認できるでしょうか。

この話し合いの一部として、生徒に教義と聖約42：12-13；52：9を読ませる。以下のことを強調する。聖典や末日の預言者の教えと比べることで、自分が正しい教義を教えているかどうか確認できる。一人の生徒にスペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉を読んでもらう。

「教会の組織で教えるよう依頼されたとき、自分の個人的な解釈を紹介する権利はだれにも与えられていない。教師は特別な存在であり、彼から教わる人々は、『教師は正しい手順に従って選ばれ支持された人なのだから、当然のことながら、教会を代表しており、教える事柄はすべて教会の承認を受けているはずだ』と思うであろう。」（“The Teachings of Spencer W. Kimball”，エドワード・L・キンボール編〔1982年〕、532-533）

現在用いられている教会発行の教師用手引きがあれば、この段階で見せる。

教会発行の教師用手引きには、聖典や末日の預言者の言葉を中心として教えるために役立つ、応用のための質問、活動、視聴覚資料などに関する提案が含まれていることを指摘する。

**わたしたちが主の教義を熱心に学び教えるならば、主は偉大な祝福を授けると約束しておられる。**

## 引用

福音の教義を効果的に教えるためには、まずそれを学ばなければならないことを指摘する。その後で、スペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉を読む。

「よく知っていてすぐに浮かんでくる聖句が幾らかあって、そのために自分は福音をかなり知っているという錯覚に陥るのはよくあることである。その意味で、わずかな知識のあることが実際に問題となる場合がある。わたしは、だれもが一生のうちでいつかは聖文の価値を悟らなければならない、それも一度だけではなく何度も何度も再発見しなければならないと信じている。」（「貴重な財産——聖典」『聖徒の道』1985年12月号、4）

## 黒板と聖句を使った話し合い

黒板を消して次の表を書く。この表は「〔聖文の価値を〕何度も何度も再発見」する教師に対する主の約束を明らかにすることを説明する。この表を各自ノートに書き写



すように言う。(テキストのこのページを開けさせないようにする。)

聖句	わたしたちのなすべきこと	わたしたちの受ける祝福
アルマ17：2-3 教義と聖約11：21-22 教義と聖約84：85		

この表に記された聖句を生徒に読ませる。それぞれの聖句を読んだ後で、わたしたちにできる行為とそれぞれの行為の結果受ける祝福について発表してもらおう。該当する欄に生徒たちの考えを書く。これらの考えを自分たちのノートに書き写させる。次の表には考えられる答えが幾つか紹介されている。

聖句	わたしたちのなすべきこと	わたしたちの受ける祝福
アルマ17：2-3 教義と聖約11：21-22 教義と聖約84：85	熱心に聖文を探求する 祈りと断食 研究を通して神の言葉を得る 「絶えず命の言葉を… …大切に蓄える」ことにより教える準備をする	預言の霊と啓示の霊を受ける 神の力と権能によって教える 御霊の導きを受ける 人に確信させる力を受けて教える 靈感によって教える

応用

これらの聖句に記された勧告に従うために、これから実行することを一つ具体的に自分のノートに書いてもらう。また、主から祝福を受けて教える責任を果たしていくうえで、その行為がどのような助けになると思うか書いてもらう。

まとめ

証

御霊に導かれるままに、福音の教義を学び教えることからもたらされる力について証する。

割り当て

生徒に以下の事柄を行うように勧める。

1. 聖文を毎日熱心に研究する。(このテキストの16-17ページにある「福音を研究するための個人の計画を作る」を読むようにチャレンジしてもよい。)

2. この課のノートによる割り当てに関連して、次の週までに福音の個人学習を改善するために一つのことを実行するよう努力する。
3. 本書の「教義を教える」の項（49－59ページ）を研究することにより、本課で学んだ原則を復習する。

## 第5課

# 熱心に学ぶように勧める

### 目的

コース参加者が、一人一人に福音を学ぶ責任があることを理解する。この責任が果たせるように教師としてどのようにほかの人々を助けられるか理解する。

### 教師へ

主はわたしたちに「研究によって、また信仰によって学問を求め」るように命じられた（教義と聖約88：118）。スペンサー・W・キンボール大管長は、この戒めに熱心に従うように教えた。「まず、『聞く人』とならなければ『御言を行う人』にはなれない。そして『聞く人』となるには、ただ怠惰に座ったまま、偶然に聞こえてくる教えを待っているのではない。尋ね求め、研究し、祈り、理解することである。」（「貴重な財産——聖典」『聖徒の道』1985年12月号、2）

個人として福音を熱心に学ぼうと決心している人は、選択の自由を正しく行使していると言える。選択の自由の教義を理解している教師は、ほかの人々に福音を学ぶよう強制することはない。そうではなく、人々が熱心に福音を学ぶ励みとなる教え方を目指すはずである。

### 準備

1. 本課で採り上げられている聖句を祈りの気持ちで研究する。それらを本課の目的にどう当てはめたらよいかを考える。
2. このテキストの「熱心に学ぶよう勧める」の項（60–74ページ）を研究する。また『教会指導手引き第2部』第16章「福音の教授と指導」の中の「改心の原則」（302ページ）を研究する。
3. 209–210ページの朗読劇を演じる責任を3人の生徒に前もって依頼しておく。生徒にそれぞれナレーター役、ゾーラム人の役、アルマの役を割り振る。
4. 朗読劇を演じる生徒のために名札を3つ用意しておく。名札にそれぞれナレーター、ゾーラム人、アルマと書き込む。

### レッスンの展開

**一人一人に福音を学ぶ責任がある。**

#### 朗読劇

朗読劇を演じる生徒に教室の前の方に出て来てもらう。名札を渡す。その後で、この3人の生徒が朗読劇を演じてくれることを伝える。この実演の目的は、福音を学ぶ個人の責任について検討することである。

黒板に次の参照聖句を書く。アルマ32：27–28、33、38、41。これらの参照聖句は朗読劇の中に出てくるアルマの教えと同じであることを説明する。アルマのせりふが読まれるときに、生徒たちもそのせりふに相当する聖句を目で追うよう勧める。

ナレーター：アルマとアルマの兄弟たちは、神の教えに背いているゾーラム人と呼ばれる人々の間で伝道をしていたときに、ゾーラム人の会堂の中に入って行きました。そこで彼らはゾーラム人が「キリストが現れることはない」（アルマ31：16）と宣言するのを耳にしました。

この偽りの教えを聞いたアルマとアルマの兄弟たちは、分かれて神の言葉を伝え、キリストについて証しました。非常に大勢のゾーラム



人がアルマのもとにやって来ました。ゾーラム人の一人がアルマにこう語りかけてきました。(アルマ31：37-38；32：1参照)

ゾーラム人：(アルマ32：5から「まことに、ここにいるわたしの仲間は、どうすればよいのでしょうか」という言葉で始まる部分を読む。)

ナレーター：(アルマ32：6を読む。)

黒板

次の言葉を黒板に書く。

**個人の責任**

御言葉を聞く用意ができています(教えを受け入れやすい状態である)。

このゾーラム人たちは、多くの苦しみを受けて心が謙遜になっていたことを指摘する。彼らは自分たちに神の言葉を教えることのできる人を探し求めていた。

朗読劇

ナレーター：アルマは、このゾーラム人たちに神の御言葉を聞く用意ができていることを認め、彼らがほんとうの意味で御言葉を理解しその真理に関する証を得るにはどうすればよいか教えました。

アルマ：(アルマ32：27-28, 33を読む。)

黒板

以下に示す事柄を黒板のリストに付け加える。

**個人の責任**

御言葉を聞く用意ができています(教えを受け入れやすい状態である)。

御言葉のために場所を設ける。

朗読劇

ナレーター：アルマは、説教を終えるに当たって、御言葉に関する証を得ても、まだなすべきことが数多く残っているとゾーラム人に説明しました。その際に、アルマは御言葉を種から生長した木にたとえました。

アルマ： (アルマ32：38, 41を読む。)

黒板

以下に示す事柄を黒板のリストに付け加える。

**個人の責任**

御言葉を聞く用意ができています (教えを受け入れやすい状態である)。

御言葉のために場所を設ける。

御言葉を養う。

朗読劇に参加した生徒たちを席に戻す。

教師の提示

アルマはゾーラム人に、福音を学ぶのは個人の責任であると教えたことを説明する。すべての人に福音を学ぶ責任がある。この責任をたった今受け入れ始めたような人も、「御言葉を聞く用意ができています」(アルマ32：6) 人と言える。御言葉を試し、心の中に場所を設けて、御言葉をそこに植えている人もいれば (アルマ32：27-28参照)、信仰と熱意と忍耐をもって御言葉を養っている人もいるだろう (アルマ32：41参照)。

**一人一人が信仰と熱意と忍耐をもって福音を学ぶ。**

話し合い

■ 「御言葉に養いを与え」るために具体的にどのようなことができますか。(生徒の答えを黒板に書く。考えられる答えとして次のようなものがあることに留意する。)

- a. 日々聖文を研究し、瞑想する。
- b. 質問に対する具体的な答えを得るために聖文を探求する。
- c. 総大会の説教を研究する。
- d. 教会発行の機関誌に掲載されている記事を研究する。
- e. 理解力を求めて断食し祈る。
- f. 神殿の業に従事するときに理解力を求める。
- g. 家族や友人と福音の原則について話し合う。
- h. 御霊の導きに従う。
- i. 信仰をもって戒めを守るよう努力する。

■ 福音を学ぼうと熱心に努力することにより、結果としてどのような祝福がもたらされるでしょうか。

**教師は一人一人の生徒が選択の自由を行使して福音を学び、福音に従った生活をするよう助ける。**

教師の提示

神がわたしたちに選択の自由、すなわち善と悪を選ぶ力 (教義と聖約29：35参照) を与えられたことを思い起こさせる。わたしたちは、福音を学び、それに従って生活するかどうかを選ぶときに選択の自由を行使する。

引用

ジェームズ・E・ファウスト管長の次の言葉を読む。

「選択の自由は、御父の計画の定めるところに従い、サタンの強制の計画に代わるものとしてわたしたちに授けられたものです。このすばらしい賜物によって、わたしたちは進歩成長し、完成を目指して前進できるようになりました。」(「大いなる偽り者」)

話し合い

『聖徒の道』1988年1月号, 37-38)

- 一人一人に選択の自由があり、自分で学ぶ責任があると知ることによって、わたしたちのレッスンはどのように変わりますか。(生徒の答えを黒板に書き留めるとよい。)

教えること自体ではなく、教える人々に集中する必要があることを生徒が理解するよう助ける。効果的に福音を教えられる教師は、教える内容について考えるだけではなく、次のように自問する。「自分の教える人々が、知る必要のあることを学び発見したいという望みを持つために、自分はどのように助けることができるだろうか。」そうすることによって、教師は自分の教える人々の選択の自由を尊重し、彼らが喜んで福音を学ぶ責任を受け入れるよう助けることができる。

ほかの人々が福音を学ぶ責任を受け入れるよう助けるときに、強制するのではなく、勧めたり励ましたりすべきである。自分の教える人々を助ける計画についてよく考え、祈るべきである。

**ほかの人々の福音を学ぶ望みをくじくようなことは一切しない。**

話し合い

- 人々の福音を学ぶ望みをくじくような教師の行いとしてどのようなものがあるだろうか。(この質問についてよく考え、話し合う時間を与える。個々の教師を批判するのではなく、一般的な言葉で話し合うよう生徒を励ます。考えられる答えとして次のようなものがある。)

- a. 教師用手引きからレッスン内容を読む。
- b. ほとんどの時間を講義に使う。
- c. 知識や教授技術で生徒を感心させようとする。
- d. 生徒の質問や発言を批判したり、軽く扱ったりする。
- e. 生徒の信仰をぐらつかせるような発言をしたり、質問をしたりする。
- f. 御霊を退かせるような言葉や例を用いる。
- g. レッソンの中心を福音の真理に置かない。

引用

この話し合いを終えるために、ダリン・H・オークス長老の次の言葉を読ませる。

「主に従おうとする福音の教師はすべて、自分自身ではなく、ほかの人々に全精力を傾けます。サタンはこう言いました。『わたしをお遣わしてください。……わたしは全人類を贖〔い〕みましょう。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。』この提案と救い主の模範を比較してください。『父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。』(モーセ4:1-2)福音の教師は、羊の必要と主の栄光に焦点を絞って教えます。舞台の中心には立ちません。羊の群れに絶えず主を仰ぎ見るよう教えます。成長の機会を阻むことによって、また自分をよく見せようとしたり、自分の都合に合わせてしようとしたりすることによって、主に対する生徒の考えを曇らせるようなことは決してしません。」(1998年3月31日に行われた説教)

**熱心に学ぶよう勧めるために多くのことができる。**

ノートを使った活動

このテキストの60ページを開かせ、そのページに書かれてある言葉を一人の生徒に声を出して読んでもらう。その言葉の中には、熱心に学ぶよう促すためにできる3つの一般的な事柄が含まれている。これら3つの分野の一つ一つにおいて、わたしたちにできる簡単で具体的なことがたくさんあることを指摘する。

次のリストを生徒に検討させる。次のレッスンの機会に応用できるよう、リストの中から一つのアイデアを選ぶように促す。時間的な余裕があれば、そのアイデアを用いる方法についてノートに簡単に書いてもらう。また、自分の立てた計画をほかの生



徒と分かち合ってもらおうようにするとよい。ノートに書いたり、自分の計画について分かち合ったりする時間がない場合は、家でノートに書くように促す。

- a. レッスンを助けてもらうよう前もってだれかに依頼する。その準備を手伝う。
- b. 実物を使ったレッスンをだれかに依頼する。
- c. 適切なときに、個人的な経験を分かち合う。
- d. 自分と自分の家族に与えられた主の祝福について、生徒に深く考えてもらう。
- e. 聖文を読み理解する方法を教える。
- f. 一人一人の生徒がレッスンに貢献できる価値ある存在であることを認識する。話し合いの際に出されたアイデアをよく聞き、生かす。
- g. いろいろな考えが出るような質問を投げかけ、話し合いに積極的に参加するよう促す。
- h. 生徒の質問にほかの生徒が答えるように促す。
- i. 学んだことをどのように応用できるか生徒に考えてもらう。

## まとめ

福音を教える教師は、自らが熱心に福音を学ぶ者としての模範を示さなければならないことを思い起こさせる。福音の教義を学ぶ努力という点に関し自己評価をするよう奨励する。御言葉を熱意と信仰と忍耐をもって養うというアルマの勧告に従うために自分は何ができるか考え決意するよう促す（アルマ32：37、41-42参照）。

一人一人に与えられた選択の自由の神聖さについて思い起こすように勧める。その後で、スペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉を読む。

「物質的、霊的知識という宝はともに隠されている。正しい探求方法で見いだそうと努力しない人の目には隠されているのである。……単に求めるだけの人に霊的な知識は与えられない。祈りだけでも十分ではない。生涯を通じた忍耐と献身が必要なのだ。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編〔1982年〕, 389-390）

## 証

御霊に導かれるままに証をする。

## 割り当て

生徒に以下の事柄を行うように勧める。

1. 熱心に学ぶよう生徒を促すために立てた計画を実行したときの自分の経験について、ノートに書き留める（上記の「ノートを使った活動」を参照）。適切なときに、それらの経験について指導者やクラスの仲間、あるいは家族のだれかに話す。
2. 本書の「熱心に学ぶよう勧める」の項（60-74ページ）を研究することにより、本課で学んだ原則を復習する。

# 学習に適した雰囲気を作る

## 第6課

### 第1部

**目的** 福音を学ぶ雰囲気を作るために教師と生徒が協力する方法を理解する。

**教師へ** 第5課で、生徒は熱心に福音を学ぶという個人の責任について話し合った。今週のレッスンでは、学習に適した雰囲気を作るという教師、生徒間で分かち合うべき責任に焦点を当てる。このレッスンは、学習活動の妨げとなるものを避けるうえで福音の原則を応用し、すでに存在しているかもしれない規律の問題を解決するために役立つはずである。

このレッスンを基にして、生徒は、具体的な問題に対する解決策を提案するという第7課で行う活動に向けて準備ができる。

- 準備**
1. 本課で採り上げられている聖句を祈りの気持ちで研究する。それらを本課の目的にどう当てはめたらよいかを考える。
  2. この課で紹介されている物語に精通する。生徒が興味を維持できるような読み方を練習する。
  3. 次のものを持参する。
    - a. 大きなサイズの紙3枚（または小さい紙を数枚）
    - b. 印を付けるための鉛筆3本
  4. このテキストの「学習に適した雰囲気を作る」の項（75–87ページ）を研究する。

**レッスンの展開** 預言者の塾は学習に適した雰囲気を作る方法を知るためのひながたを提供してくれる。

**引用** 次の言葉を分かち合う。

「この神権時代の初期の時代に、主は『互いに王国の教義を教え合う』（教義と聖約88：77）よう兄弟たちに命じられた。この兄弟たちは自分たちが理解する必要のある福音と神の王国に関するあらゆること、また諸々の技術と科学、王国や国々に関することを学ばなければならなかった。彼らは『研究によって、また信仰によって学問を求め』、カートランドに何よりも増して『学びの家』となる聖所すなわち神殿を建築しなければならなかった。（教義と聖約88：74–81, 118–122）

これらの命令を果たすために制定された計画の一部として、主は『預言者の塾』を設立するように指示された（教義と聖約88：122,127–141）。」（ブルース・R・マッコンキー『モルモンの教義』ビーハイブ出版、534）

預言者の塾の目的は「全世界の人々にイエス・キリストの福音を宣べ伝えるために、選ばれた神権者を備えること」（エズラ・タフト・ベンソン『聖徒の道』1983年4月号、92）だったと説明する。啓示によって、主は塾生にどのように振る舞えばよいか教えられた。ここで与えられた主の教えの中の3つの要素は、家族や教会のレッスンで学習に適した雰囲気を作るために役立つものである。

黒板

黒板に次のようなりストを書く。

1. 全員が貢献する。
2. 福音にはその場にいる人を一つにする友情のきずながある。
3. 一人一人の生徒が心を集中し、ほかの生徒の意見に注意を向けるよう心がける。

聖句

教義と聖約88：122–123, 125を開く。黒板に書いた3つの要素は、これらの聖句で教えられていることを説明する。この聖句を声に出して読ませる。読むときに、学習に適した雰囲気に関する3つの要素を維持するうえで役立つ主の戒めを探すように言う。

福音を学ぶために集まって来る生徒一人一人が、クラスに貢献できる何らかの価値あるものを持っていることを強調する。一人一人の生徒が御霊に導かれて自らの見識や経験を分かち合うことでほかの人々を啓発することができる。出席している「すべての者が互いに強化し合うように」（教義と聖約88：122）互いに耳を傾ける必要がある。

**教師と生徒は福音学習に適した雰囲気を作る責任を分かち合う。**

教師の提示と聖句

このコースの最初の5つのレッスンには、教師の責任に関する話し合いが含まれていたことを指摘する。また第5課には、福音を学ぶ個人の責任に関する話し合いも含まれていた。今日のレッスンは教師と生徒の双方で分かち合う責任、すなわち福音を両者が効果的に学ぶための雰囲気を作る責任に焦点を当てる。この責任を果たすために、教師と生徒は助け合い、共通の目的のために一つとなる必要がある。

アルマもモルモンの泉でバプテスマを受けた人々を教えたときに、この一致について語ったことを説明する。モーサヤ18：18–22を一人の生徒に読ませる。

物語

次の物語を分かち合う。これは、自分の出席する日曜学校のことで心を悩ませたある女性の語った話である。学習に適した雰囲気を作るために教師と生徒がどのように協力し合ったか、その方法に注意して聞くように言う。

「新しく転入したワードで、夫とわたしは福音の教義クラスがあまり効果的に運営されていないことに気づきました。教師が教えているときに、聖典を読んでいる人もいれば、頭を垂れたままの人もいました。この状況に教師が悩んでいることがわたしには分かりました。あるときなどは、『だれか聞いていますか』と教師が尋ねたくらいです。

やがてわたしたちは、このワードの中に福音の教義クラスではなく福音の原則クラスに出席している人がかなりいることを知りました。このクラスの教師はすばらしい教師だということも聞きました。わたしたちもこのクラスに出席しましたが、活気があり、洞察に富み、出席する価値のあるクラスでした。しかしある日、教会からの帰り道、わたしたちは互いに感じていることを話しました。二人とも、『自分たちのしていることはあまりいいことではない』と感じていたのです。わたしたちは、ビショッ



プが教えるよう召した教師を支持することによって、ビショップを支持する必要があったのです。そこでわたしたちは福音の教義クラスの内容を豊かにするために自分たちには何ができるか話し合いました。わたしたちは、良いレッスンを経験するための責任をすべて教師に負わせていたことに気づきました。わたしたちは教師に、自分たちの注意を向けさせ、興味を維持させようとしていたのです。

わたしたちは1週間導きを求めて祈り、日曜日の福音の教義クラスに気持ちを新たに出席しました。レッスンが始まってから数分たつて、夫が一つの質問をしました。すると教師はほかの生徒にその質問に対して答えるように促しました。活発な話し合いが続き、何人かの生徒が意見を述べてくれました。同じレッスンの後半で、わたしは教師の言ったことがよく理解できなかったので、理解できるように助けてほしいと依頼しました。教師はわたしがそれまで一度も気に留めたことのなかった聖句を引用して答えてくれました。それから、ある姉妹が教師の言ったことをさらに明確にするような話をしました。またもう一人の生徒が別の聖句を提示しました。わたしたちは教室の中に御霊の影響力を感じました。教師は肩の力が抜けたようで、わたしたちが少しの興味と参加意識を示したことにより、力と自信を取り戻したようです。レッスンは感謝の祈りで閉会し、クラス中に『アーメン』という声が響き渡りました。

その日以来、ほとんどの生徒が深い興味を抱きつつこのクラスに参加しています。教師は生徒の熱意に元気づけられ、生徒からの助けを心にかけて感謝の意をよく表すようになりました。その日曜学校のクラスは、回を重ねるごとに質の高いものとなってきています。」

#### グループでの話し合い

クラスを3つに分ける。それぞれのグループに印を付けるための鉛筆と1枚の大きなサイズの紙（または数枚の小さな紙）を渡す。各グループで書記として働いてくれる人を一人選んでもらう。その後で、各グループに以下の質問のうちのいずれかを割り当てる。

1. レッスンに貢献するようすべての人を励ますために教師と生徒はどのようなことができるでしょうか。
2. 互いの友情をはぐくむために教師と生徒はどのようなことができるでしょうか。
3. すべての人が互いに心を配り耳を傾けるために教師と生徒はどのようなことができるでしょうか。

すべてのグループに、自分たちの質問について3分間話し合うように伝える。話し合う際、生徒は自分たちの経験と教師が分かち合った物語を考慮に入れるようにする。各グループの書記は、自分のグループで出た意見を、配られた大きなサイズの紙に書き留める。それから、すべての生徒に見えるように掲示する。

2, 3分たった後で、グループのリストを掲示してもらおう。リストに記された意見を簡潔に検討する。自分のノートにこれらの意見を書くように勧める。

リストの中に次の提案が入っていない場合には、簡単に触れておくとよい。

1. レッスンに貢献するようすべての人を励ますために、教師と生徒はどのようなことができるでしょうか。
  - a. 教師と生徒は、話し合う原則を実生活で応用すべきである。
  - b. 神権会や扶助協会、福音の教義クラスのように可能なクラスでは、レッスンを受ける前に教材を読んでおく。
  - c. 生徒は話し合いのときに進んで意見を述べる。生徒は、質問があることや、意

見を分かち合う準備ができていることを教師が分かるように手を挙げる。

- d. それぞれの生徒は、自分が話し合いを独占しないように気をつける。
  - e. 生徒は熱心に割り当てを果たす。
2. 互いの友情をはぐくむために教師と生徒はどのようなことができるでしょうか。
    - a. 教師と生徒は互いの能力や必要を知っておく。
    - b. 教室内でも教室外でも助け合う。
    - c. 適切なときに、互いに対する関心や感謝を言葉で表す。
  3. すべての人が互いに心を配り耳を傾げるために、教師と生徒はどのようなことができるでしょうか。
    - a. 教師と生徒は互いに尊敬の念をもって、注意深く耳を傾げる。
    - b. 教師と生徒は時間どおりに到着する。
    - c. 教師と生徒はいつも神経を集中し、レッスンに心を向ける。
    - d. 生徒は教えられているレッスン内容が理解できないときには適切に質問する。
    - e. 可能ならば、生徒は最初から最後までレッスンに参加する。

**教師は、生徒が学習に適した雰囲気を作るという責任を理解し、それを果たせるよう助ける。**

#### 物語と話し合い

これから二つの物語を分かち合うことを説明する。学習に適した雰囲気を作るうえでほかの人々も貢献できるように、この物語に登場する教師はどのような助けを与えたか考えるよう生徒に言う。その後で、トーマス・S・モンソン管長の次の話を分かち合う。

「わたしはある年の冬に、子供時代の一つの出来事を思い出しました。わたしがまだ11歳だったある日のこと、初等協会の会長メリッサ姉妹に、話したいことがあるので後で残っているようにと言われました。彼女はもうかなりの年輩で、白髪交じりの頭をしていました。わたしはがらんとした礼拝堂の中で、メリッサ姉妹と会いました。彼女はわたしの肩に手を置くと、涙を流し始めました。わたしは驚いて、どうして泣くのかと聞きました。すると彼女はこう答えました。『初等協会の開会行事のときにどうしても男の子たちを静かにさせることができないの。トミー、あなたの助けが欲しいの。』わたしは『分かりました』とメリッサ姉妹に約束しました。問題はすぐに解決しました。わたしはどうしてそのように早く解決したのか理由がよく分かりませんでした。しかしメリッサ姉妹にとっては当然の結果だったのです。彼女が働きかけたのは問題の張本人であるわたしだったのです。」（「愛の道」『聖徒の道』1988年1月号、74-75）

- この物語の中で、初等協会の会長である姉妹は、学習に適した雰囲気を作り出すために何をしましたか。（トミー・モンソン少年が自分の責任を理解し、果たせるよう助けた。）
- この物語を聞いて、自分たちの作ったリストに付け加えたい提案が出てきましたか。（生徒が自分たちのノートに書いたリストにこれらの提案を付け加えるよう提案してもよい。）

#### 物語と提案

これから若い女性の組織で働いていた教師の物語を分かち合うことを知らせる。

「12歳と13歳の若い女性のあるクラスをのぞいてみましょう。生徒が教義を見いだすように耳を傾けてください。生徒が教義を現実の生活に結びつけることができるように教師が与える経験に注目してください。クラスにとどまる御霊の証を感じてください。」

教師は半円形に座った5人の少女たちにイスを近づけて言いました。『外に訪問者が待っています。ジョナス姉妹です。生まれたばかりの赤ちゃんを見せてくれるんです。そして、母親になったばかりの気持ちがどんなのか話してくれます。皆さんは赤ちゃんを見ながら、お母さんの様子にも注意して見てください。どんなふうに赤ちゃんに接するか、何をするか、何を言うか、よく見ておいてください。彼女が話し終えて教室を出たら、みんなで話し合いたいと思います。』

ジョナス姉妹が入って来て、7、8分赤ちゃんについて話し、質問に答えました。生徒たちはお礼を述べ、ジョナス姉妹は教室を出ました。

うれしそうにはしゃぐ少女たちに、教師は声をかけました。『赤ちゃん、かわいかったわね。でも、お母さんについて何か気づいたことはありませんか。』

ちょっと静かになり、一人が答えました。『幸せそうでした。』もう一人が言いました。『赤ちゃんを抱いている間、ずっと体を前後に揺すっていたわ。』さらに2、3人が答え、次に、ケティーがゆっくりと言いました。『お母さんは、ええと、とっても静かに話していたわ。』

『もう少し詳しく話してみてくれない?』教師は優しく少女を促しました。

『ええ、彼女の声を聞いて、わたしのお母さんの声を思い出しました。去年、いちばん下の妹が生まれたとき、お母さんが病院から電話をしてきたときの声です。』

教師は、ほかの少女たちに向かって尋ねました。『皆さんはどう思いますか。ほかにだれか、ジョナス姉妹の声に気づきましたか。』

少女たちは深く考え始めました。そして、『敬虔』や『天国』、『愛』のような言葉を使って答え始めました。

教師は言いました。『みんなの言うことが分かるように思います。このような言葉を思いついたのは、天の御父から与えられた大きな賜物に気づいたからだと思います。天の御父はわたしたちをとっても愛し、信頼しておられるので、天の御父の持っておられる創造の力をわたしたちにも与えてくださったのです。このような信頼に対してわたしたちは心から感謝し、敬虔な気持ちになります。母親となることは神聖な役目です。』

教師は、このように分かりやすく教義を説明し、証を述べた後、少女たちが自分の母親の持っている、母性の神聖さを示すような特性について考える活動に移ります。『皆さん、今週は、良い母親となるための準備として、忍耐、親切、前向きな態度、などの徳の中から一つ選んで、実行してみてくださいませんか。』

少女たちはそれぞれが選んだ目標について話し、教師は自分の証を述べ、閉会の祈りがささげられました。」(バージニア・H・ピアス『聖徒の道』1988年1月号, 13-14)

- この物語の中で、教師は学習に適した雰囲気を作るために何をしましたか。(以下のような答えが考えられる。ゲストを招いて個人的な経験を分かち合ってもらった、洞察の深い質問をした、注意深く耳を傾けた、生徒の意見にフォローアップの質問で対応した、教義を教えた、若い女性が生活の中で教義を応用できるよう助けた、など。) クラスの生徒はどうしたでしょうか。(以下のような答えが考えられる。思いやりの気持ちで耳を傾け、参加した。)



- この教室で培われた学習の雰囲気は将来起こり得る困難を回避するうえでどのように役立つでしょうか。
- この物語を聞いて、自分たちの作ったリストに付け加えたい提案が出てきましたか。(生徒が自分たちのノートに書いたリストにこれらの提案を付け加えるよう提案してもよい。)

**生徒が学習に適した雰囲気作りに参加するのを助けるとき、イエス・キリストの弟子となるよう教えていることになる。**

教師の提示

今分かち合った二つの物語の中に、問題を回避し、解決する方法が幾つか示されていたことを指摘する。このテキストの75ページから始まる「学習に適した雰囲気を作る」の項を開いてもらう。76-83ページでは学習に適した雰囲気を作り、妨害を避けることについて話し合い、84-87ページでは混乱が生じた場合の対処の仕方について具体的な提案が与えられていることを指摘する。問題を回避するにせよ、解決するにせよ、目的とするところは同じである。すなわちイエス・キリストの福音を教え、生徒が学習に適した雰囲気を作るために分かち合うべき責任を理解し果たせるよう助けることである。

この目標は、教室における規律の鍵である。この目標を念頭に置いていれば、ただ単に行儀よくさせたり、教室内で静かにさせるだけでなく、生徒がイエス・キリストの弟子となるよう教えられるようになるであろう。

時として教師は、福音学習に適した雰囲気を作る方法を見いだせない、自分は失敗していると考えがちである。しかし、ほとんどの場合、そのような雰囲気はすぐに作り出すことはできない。人は一度に少しずつ、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて(2ニーファイ28:30)成長する。絶え間ない努力が求められるのである。大切なのは、信仰をもって、熱心に、忍耐強く働き、常に正しい原則に導かれることである。

まとめ

証 御霊に導かれるままに証をする。

割り当て 次の週のレッスンでは、教師が混乱を避け、規律の問題を解決するためにできる幾つかの具体的な事柄に焦点を当てることを知らせる。学習に適した雰囲気を妨げる状況について、また可能な解決策について考えて来てもらう。解決策は具体的で実際的なものでなければならない。ノートに状況と解決策の両方を書く。翌週のクラスで、2、3分、自分たちの書いたことについて話せるよう準備する。

可能な解決策について考える際に、生徒は本書の「学習に適した雰囲気を作る」の項(75-87ページ)を研究する。

# 学習に適した雰囲気を作る

## 第7課

### 第2部

**目的** 第6課で学んだ原則を応用する。

**教師へ** 第6課のまとめの部分であなたは本コースの参加者に、混乱を避け、規律の問題を解決する方法について考えて来るよう依頼した（218ページ）。参加者は教師として、様々な問題に対処するのに实际的で具体的な方法を学びたいと願っているはずである。したがって、クラスのほとんどの時間をそのような応用活動に使うよう、レッスンを計画する。

このレッスンで行う話し合いを導くに当たって、学習に適した雰囲気を作る自分たちの能力にもっと自信を持つように生徒を助ける。

- 準備**
1. 教義と聖約12：8を祈りの気持ちで研究する。この聖句を本課の目的にどう当てはめたらよいかを考える。
  2. 具体的な混乱を避ける、あるいは規律の問題を解決する方法について話す準備をする。解決策は必ず实际的なものにする。
  3. 生徒も、混乱を避け規律の問題を解決する方法について話す準備をする（218ページの割り当て参照）。生徒の発表する解決策が具体的かつ实际的なものとなるよう確認しておく。
  4. 「学習に適した雰囲気を作る」の項（75-87ページ）を続けて研究する。

**レッスンの展開** 人々に影響を与えることができるかどうかは、わたしたちの謙遜さと人々への愛の深さにかかっている。

**教師の提示と聖句を使った話し合い** 生徒に第2課で生徒を愛することの大切さについて話し合ったことを思い起こさせる。この原則は、わたしたちが学習に適した雰囲気を作ろうと努力するとき、特に生徒に個人的に働きかけようとするときに、わたしたちの行動のすべてを支配する原則である。

一人の生徒に教義と聖約12：8を読ませる。

- ほかに人々によい影響を与えようとするとき、なぜ謙遜や愛が大切なのでしょう。

混乱を避け、規律の問題を解決する方法について話すときに、この原則の大切さを念頭に置くよう提案する。

**引用** ハワード・W・ハンター長老の次の言葉を分かち合う。

「神が用いられる方法は、説得と忍耐によるものであり、強制や厳しい対決によるのではないということです。神は善意にあふれ優しく導き、常にわたしたちの選択の自由と独立を尊重しておられます。神はわたしたちを助けたいと望み、その機会を備えておられますが、わたしたちの選択の自由を侵してまでそうされることはありません。なぜならば、神はわたしたちを非常に愛しておられるからで〔す。〕」（「黄金の選

沢の糸」『聖徒の道』1990年1月号, 18)

**人々が学習に適した雰囲気作りに貢献する責任を理解し果たせるように、わたしたちは手助けすることができる。**

教師の提示

先週生徒に課した割り当てについて話す。自分も同じ割り当てに取り組んだことを伝える。それから自分の考えた問題とその解決策について分かち合う。自分の解決策によって、学習に適した雰囲気作りの3つの要素のうち、どの要素が強化されたか簡単に話す（この要素について復習したければ、214ページを参照）。自分の解決策を分かち合ったら、次のように質問する。

- この解決策の効果的なところはどこですか。
- この解決策を用いるときに注意すべきことは何ですか。
- これ以外にどのような解決策が考えられますか。

生徒の提示

生徒に自分たちが考えた問題とそれらの解決策の提案について順番に話してもらう。必ず生徒全員が意見を述べる機会を持てるようにする。時間的余裕があれば、それぞれの発表に関して上記の3つの質問をする。

教師の提示

混乱を避け、規律の問題を解決するためには、生徒に一人ずつ働きかけることが往々にして必要であることを説明する。しかしながら、生徒の責任について、彼らが集まっているときに教えることもできる。このことを行うよい方法の一つは、教師としての自らの召しについて、また責任についてどう感じているか自分の気持ちを分かち合うことから始めることである。その後で、簡単に生徒の責任について話し、先週のレッスンで話し合った学習に適した雰囲気作りの3つの要素について教えることができる（214ページ参照）。最後に、クラスの成功は教師と生徒が協力するとき初めて得られるものなので、生徒の助けが必要であることを強調する。（そのような提示の一例として、このテキストの78ページを参照する。この物語を生徒と読んでもよい。）

**わたしたちは混乱を少なくする方法を見いださなければならない。**

実物を使ったレッスン

一人の生徒に皆の前に立ってもらう。この生徒に腕を前に伸ばし、両腕にそれぞれ重い本などの物を持たせる。同じ姿勢で両腕に物を持ったまま、最初の示現について教えるように依頼する。生徒の両腕が下がり始めたら、下げないように言う。30秒ほどたってから、両腕に載せていたものを降ろし、自分の席に戻ってもらう。

この生徒が教えようとしたときに、クラスの生徒は語られている内容にあまり集中することができなかったことを指摘する。本を持ったままという努力に対し、生徒の注意力は散漫になった。

教師の提示

すでに話し合った問題に加えて、物理的な配置も、教えること、学ぶことに影響を与えると強調する。整頓されていない、あるいは居心地の悪い教室やそのほかの学習環境に置かれると、レッスンのメッセージに対する生徒の集中度が減る傾向がある。

注意深く計画した物理的環境の中では、気が散る度合いも減ってくる。例えば、いすは教師や黒板、また互いの姿が見えるような位置に並べるべきである。このように教室内部を配置すると教師の教授能力や生徒の学習能力や取り組む姿勢は向上する。可能ならば、室内の温度も調節すると、すべての人が快適にレッスンに参加できる。物理的環境を整えることに関するさらなる提案は、このテキストの76ページ「教室の環境作り」に記されている。



**福音教授の基本的な原則に従うことにより、規律の問題を避け解決することができる。**

#### 教師の提示

学習に適した雰囲気を作り、維持するときに、わたしたちは混乱を避け、規律の問題を解決しているということを指摘する。このことを達成するためにわたしたちにできる最も大切なことは、このコースで教えられている福音教授法の原則を実践することである。それらの原則として以下のことが挙げられる。

1. 生徒を愛する。
2. 御霊によって教える。
3. 教義を教える。
4. 熱心に学ぶよう勧める。
5. 必要なものをすべて準備する。
6. 効果的な教授法を用いる。

教師として、わたしたちは定期的に自分自身と自分の教え方を吟味し、これらの原則の一つ一つを実践しているかどうか確認すべきである。

#### まとめ

##### 証

御霊に導かれるままに証をする。

##### 割り当て

生徒に以下の事柄を行うように勧める。

1. 「学習に適した雰囲気を作る」の項（75–87ページ）を続けて研究する。自分自身の教授法についてよく考え、学習に適した雰囲気を作るためにできることを明確にする。
2. 熱心に学ぶよう勧める方法について210ページのリストを復習する。リストの中から項目を一つ選び、この次の教える機会に応用する。そのときの経験についてノートに書き留める。

## 第8課

## 効果的な方法を用いる

## 第1部

**目的** 生徒が教授法を選び、それらの教授法を効果的に使えるように助ける。

**教師へ** 教授法を注意深く選び、それらを効果的に使うことにより、福音を教え、学ぶ質が高められる。各教師は教授法を選ぶ際、(1) 生徒が福音の教義や原則をはっきりと理解し、記憶にとどめるのに役立つものであるように、(2) レッソンの内容や生徒の年齢層に適したものであるように注意しなければならない。

本課と第9課において、以下の基本的な教授法を学ぶ。実物を使ったレッスン、比喻を用いる、黒板を使う、物語を分かち合う、質問をする、話し合いを行う。

**準備**

1. 本書の「効果的な方法を用いる」(88-95ページ)を読む。また、パートFの「教授法」(157-184ページ)を読む。
2. 外側も内側もきれいなコップと、外側はきれいだが内側は汚れているコップを一つずつ用意する。
3. 黒板を使って一つの福音の原則を教えるデモンストレーションを準備する。162ページの例の中から選ぶか、自分で考える。

**レッスンの展開** わたしたちは人々が福音の原則を理解し、覚え、実践するのに役立つ教授法を使わなければならない。

**物語** 次の物語を紹介する。これは、ボイド・K・パッカー長老が伝道部会長時代に姉妹とともに経験したことであることを説明する。

「わたしたちはゾーン大会を計画し、毎回パッカー姉妹は3層になったケーキを焼いて持って行きました。それは色とりどりのクリームで飾られたきれいなデコレーションケーキで、いちばん上には『福音』という文字が書かれていました。宣教師が集まると、わたしたちはまるで特別なセレモニーでもあるかのように、ケーキを運び入れました。それはまさに見ものでした。

ケーキは福音を表すことを説明した後で、『食べたい人はいますか?』と尋ねると、毎回、おなかをすかせた長老が勢いよく名乗りを上げました。わたしたちは長老の前に呼ぶと、『では、あなたに最初に切って差し上げましょう』と言って、ケーキのてっぺんに指を突っ込むと、大きな一切れを取り分けました。その後で、クリームが指の間からはみ出るように注意深く手を握り締めた後、まったく信じられないといった様子で座っている長老に向かってその一切れを投げつけて、スーツの前の方にクリームが飛び散るようにしました。『ほかにケーキが欲しい人はいますか』という問いかけに、なぜか手を挙げる人はいませんでした。

それから、わたしたちはクリスタルガラスの皿と、銀のフォーク、布のナプキン、そして美しい銀のサービングナイフを並べると、それは恭しい様子で、指を入れた方の反対側から注意深く一切れを切り分け、そっと皿に置いて尋ねました。『ケーキを一切れいかがですか。』

レッスンで何を伝えたいかは一目瞭然でした。どちらも同じケーキで、味も栄養もまったく同じでした。しかし、その分け方、配り方一つで、おいしそうな、食欲をそそるケーキに見えることもあれば、反対に、まずそうに見えるだけでなく、人をむっとさせてしまうことさえあるのです。わたしたちはもう一度、ケーキは福音を表すことを宣教師に思い出させました。そして、彼らがそれをどのように人々に分かち合っているかを尋ねました。

このデモンストレーションの後、レッスンの教え方を改善していくのは非常に簡単でした。むしろ、宣教師からは非常な熱意が感じられるほどでした。数か月後、わたしたちは宣教師たちがあのレッスンをよく思い出してくれるように、ケーキの絵が描かれた手紙を送りました。

宣教師たちと次に会ったとき、わたしが『最近、手紙を受け取りましたか』と尋ねると、彼らは『はい、もちろん』と答えました。そして『それには何と書いてありましたか』と聞くと、いずれの宣教師も『それを見ると、レッスンの教え方を向上させて、もっと勉強して、レッスンを注意深く学んで、そして教えるうえで助け合わなければならないことを思い出します』と答えました。『1枚の絵で、それら全部を思い出したのですか。』『はい、あのレッスンはそう簡単には忘れられません。』

わたしが喜んで長老のスーツのクリーニング代を支払ったということ、最後に付け加えておきます。』(Teach Ye Diligently, 改訂版 [1991年], 270-271)

注意：パッカー長老の実物を使ったレッスンを実際に行いたいときは、ケーキを生徒に投げつける代わりに、ケーキをつかんで皿に押しつけるようにするとよい。

話し合い

- 福音をいかに伝えるべきかについて、この物語から何を学べますか。
- パッカー会長のレッスンの効果的であったことは、どんなことから分かりますか。

パッカー会長の伝道部の宣教師がレッスンを理解し、覚え、生活の中で実践したことを強調する。生徒が単に福音の原則を理解するよう助けるだけでは十分ではない。それらを覚え、実践できるように助ける必要がある。

生徒に本書の158ページを開けさせる。そこには、福音を教えるうえで使える方法が挙げられていると説明する。本課と次の課では、この中の幾つかの方法を実際に行って見せる。生徒を高め、教える原則からそれないような方法を選択しなければならないことを強調する。

#### 実物を使ったレッスンを行う

デモンストレーションと話し合い

先ほどの物語では、効果的に教えることを宣教師に思い出させるために、パッカー長老が実物を使ったレッスンを行ったことを指摘する。様々な福音の原則を教えるために、実物を使ったレッスンを行うことができる。

一つは外側も内側もきれいで、もう一つは外側はきれいだ内側は汚い、二つのコップを見せ、次のような質問をする。

- あなたなら、どちらのコップを使いたいですか。

かつてイエスは、ある人々を外側はきれいだ内側は汚い杯にたとえられた。生徒の一人にマタイ23：25-26を読んでもらう。

- この実物を使ったレッスンは、どんな福音の原則を教えていますか。(見せかけの義人ではなく、心からの義人となり、清くならなければならない。)この実物を使ったレッスンはどんな点で効果的だと思いますか。



教師の提示

本書の163-164ページには、教師が効果的な実物を使ったレッスンを行うのに役立つ事柄が載せられている。164ページを開けてもらう。実物を使ったレッスンを考え出し、使うための提案を読む。実物を使ったレッスンを行ううえでの提案がほかがあれば、紹介する。

**比喩を用いる**

引用

実物を使ったレッスンは、霊的な原則を身近で目に見える形で示すことができるので、効果的である。同じことが、簡単な比喩を使っても行える。

以下の比喩を3人の生徒に一つずつ読ませる。(163-164ページに、その他の比喩が載せられている。)

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のように教えた。

「信仰は腕の筋肉に似ています。筋肉は使えば強くなり、鍛えれば発達します。そして多くのことを行えるようになります。しかし、腕を包帯で首からつり下げて何もしなければ、筋肉は弱くなり、役に立たなくなります。」(Church News, 1998年6月6日付, 2)

ラッセル・M・ネルソン長老は次のように語った。

「〔接種を意味する〕“inoculate”という動詞は『中に目を入れる』、つまり『害のないように監視する』という意味です。

小児まひのような病気は、足や体に障害を残すことがあります。そして罪という病気は霊に障害をもたらします。小児まひから生じる障害は免疫によって予防できますが、罪から生じる惨害に対しては別の予防手段が必要です。医者<sup>ひよく</sup>は邪悪に対する免疫を与えることはできません。霊的な予防は主から、主御自身の方法でもたらされます。主が選ばれたのは予防接種ではなく、真理の教えです。」(「聖約にあずかる者」『聖徒の道』1995年7月号, 35)

ジョセフ・B・ワースリン長老は次のように語った。

「大きなかしの木の根は、木の高さの2倍半以上も深く生長しています。このようなかしの木は、どんな激しい嵐が吹き荒れても、めったに倒れません。

教会の忠実な会員も、かしの木のように、福音の基本原則という肥沃な土壌に、しっかりと根を下ろしていなければなりません。」(「深い根」『聖徒の道』1995年1月号, 81)

聖句を使った話し合い

一人の生徒にマタイ13:44を読んでもらう。

- この比喩からどんなことを学べますか。

教師の提示

比喩は、その内容が生徒にとって身近であるときのみ効果的であることを強調する。本書の163-164ページに、教師が効果的な比喩を考え出すのに役立つ事柄が書かれていることを伝える。

**黒板を使う**

デモンストレーション

黒板を効果的に使うことにより、重要な概念を強調したり、生徒の注意を引いたり、複雑な概念を簡略化するのに役立つことを説明する。これから黒板の使い方についてデモンストレーションを行うと話す。そして、準備したデモンストレーションを行う(「準備」3参照)。

話し合い

生徒に以下の質問をする。

- このデモンストレーションから、どんなことを学びましたか。黒板を使うことによ

り、これらのことを学ぶうえでどのように役立ちましたか。

- このデモンストレーションから、教授方法の一つとしてどのように黒板を使うべきかについて、何を学びましたか。

以下の意見が生徒から出ない場合は、教師から話す。

1. 全員が見えるようにはっきりと大きく書く。全文を書くよりも、重要な言葉だけを書いた方が効果的な場合が多い。
2. 話しながら書く。それによって、生徒の注意を引きつけておくことができる。
3. あまり長い時間、黒板に向かわないようにする。
4. あらかじめ計画し、絵や、地図、表など、書く予定のものを練習しておく。
5. 字が上手でないことや、芸術的能力がないことを謝らない。
6. 物語や概念を表すのに、簡単な線画や形を使う。
7. 時々生徒に黒板に書いてもらうことにより、生徒の参加を促す。

そのほかにも、様々な提案が本書の162-163ページに書かれている。

**教える準備をする際、様々な教授法の中から選ぶことができる。**

教師の提示

様々な教授法を使うことで、福音を教え、学ぶ過程を豊かで、生き生きとしたものにする事ができる。しかし、単に目先を変えるためだけに異なった方法を使うべきではない。方法を選ぶに当たって、(1) 生徒が福音の教義や原則をはっきりと理解し、記憶にとどめるのに役立つものであるように、(2) レッスンの内容や生徒の年齢層に適したものであるように注意しなければならない。

応用

生徒の一人に、現在準備しているレッスンの中の教義や原則を一つ挙げてもらう。そして、生徒全員に本書の158ページを開けてそこに書かれている方法の中から、その教義や原則を効果的に教えるのに適した方法を挙げてもらう。また、なぜその方法が効果的だと思ったかを話してもらう。

まとめ

引用

生徒の一人に、ボイド・K・パッカー長老の次の言葉を読ませる。

「道徳的な価値や霊的な価値を教えるとき、わたしたちは目に見えないことを教えている。これほど成し遂げるのが難しいことはない。それと同時に、成功したときに得る達成感がこれほど大きいものもない。それを教えるためには技術と道具があり、教師は自分を備え、レッスンを準備するのになすべき事柄がある。それによって、生徒は教えを受け、証が一人、また一人と伝えられていくのである。」(Teach Ye Diligently, 62)

方法は大切だが、レッスンを準備する際そればかりに注意を集中すべきではない。方法は、生徒の注意を福音の救いの教義に向けさせ、彼らが生活でそれを実践するのを助けるための手段である。

証

御霊に導かれるままに証をする。

割り当て

生徒に以下の事柄を行うように勧める。

1. 福音の原則をさらに効果的に教えるために、どんな方法を使うべきかをよく考える。
2. 様々な教授法方法を選び、それらを使った経験についてノートに書き留める。

3. 本書の「効果的な方法を用いる」の項（88-95ページ）を読む。また、単元F「教授法」（157-184ページ）を読む。



# 効果的な方法を用いる

## 第2部

### 目的

生徒が第8課で学んだ原則を実践できるように助ける。

### 教師へ

本課は第8課の続きである。本課を準備する際、数人の生徒に以下の方法を使って福音の原則を教えるように依頼しておく。物語を分かち合う、質問をする、話し合いを行う（下記の「準備」1参照）。この経験によって、高められ、様々な教授法を使う能力に自信が持てることを約束する。特に、あまり経験が豊富でない教師たちの必要や気持ちに敏感にならなければならない。

### 準備

1. あらかじめ3人の生徒と話し、以下のデモンストレーションを一つずつ行ってもらいように依頼しておく。デモンストレーションで教える内容については、聖典や『福音の原則』を、また依頼された方法の使い方については本書を参考にするように勧める。

デモンストレーション1：個人の祈りの力について実話を話す。福音を教えるうえで物語を効果的に使う方法について、幾つか自分の考えを分かち合えるように準備する。

デモンストレーション2：安息日を聖く守るときに得られる祝福について、質問を使って教える。福音を教えるうえで質問を効果的に使う方法について、幾つか自分の考えを分かち合えるように準備する。

デモンストレーション3：なぜ喜んで犠牲をささげる必要があるかについて教えるために、話し合いを行う。福音を教えるうえで話し合いを効果的に使う方法について、幾つか自分の考えを分かち合えるように準備する。

2. 必要であれば、生徒のデモンストレーションの準備を手伝う。

### レッスンの提案

前課では、福音を教えるために「実物を使ったレッスン」「比喩」「黒板」を使用したデモンストレーションを見たことを生徒に思い出させる。今日は、依頼された生徒が「物語を分かち合う」「質問をする」「話し合いを行う」の3つの方法で福音を教えるデモンストレーションを見る。

#### 物語を分かち合う

#### デモンストレーションと話し合い

依頼してあった生徒に、第1のデモンストレーションをしてもらう（「準備」1参照）。その後、生徒たちに次の質問について話し合わせる。

- 個人の祈りの力について理解するうえで、この物語はどのように役立ちましたか。

依頼してあった生徒に、福音の原則を教えるうえで物語を使うことについて学んだ事柄を幾つか話してもらう。

#### 教師の提示

生徒に本書179–182ページの「物語」の項を開けてもらう。「物語を準備し、話す際の指針」（180ページ）を読む。

### 質問をする

デモンストレーションと話し合い

依頼してあった生徒に第2のデモンストレーションをしてもらう（「準備」2参照）。その後、生徒たちに次の質問について話し合わせる。

- このデモンストレーションでの質問は、安息日を聖く守ることによって得られる祝福について理解するうえで、どのように役立ちましたか。

依頼してあった生徒に、福音の原則を教えるうえで質問をどのように使うべきかについて学んだ事柄を幾つか話してもらう。

教師の提示

教授法の一つとして質問を使う際に、以下の事柄に注意すべきであることを生徒に理解させる。

1. 考えや話し合いを刺激する。人々が知っていること、考えていること、感じていることを知るために、「何」「どこ」「いつ」「なぜ」「どのように」「どんな方法で」という言葉を使った質問をする。一般的に、「はい」「いいえ」で答えられるような質問は、ほかの質問を導き出したり、決意を促したりする場合以外は効果的ではない。
2. 福音の原則をどのように生活に応用すべきかを理解させる。
3. 教えられている原則に関する個人的な意見や経験を分かち合うように生徒に勧める。

質問の後で、答えを考えるために時間がかかる場合もあるので、しばらく生徒が沈黙していても気にしないでよいことを指摘する。

そのほかの提案が、本書68-70ページの「質問を交えた教え方」に書かれていると話す。

### 話し合いを行う

デモンストレーションと話し合い

依頼してあった生徒に第3のデモンストレーションをしてもらう（「準備」1参照）。その後で、生徒たちに次の質問について話し合わせる。

- なぜ喜んで犠牲をささげるべきかを理解するのに、この話し合いはどのように役立ちましたか。

依頼してあった生徒に、話し合いを行う方法について学んだ事柄を幾つか分かち合ってもらおう。

教師の提示

話し合いを行ううえで以下の点に注意すべきであることを生徒に理解させる。

1. 生徒全員が自分の証や考え、経験、質問、意見を気楽に述べられるように助ける。
2. 生徒の発言に対して、感謝と尊敬の気持ちを示す。
3. 発言するのをためらっている生徒の気持ちに敏感になる。レッスンで聖文を声に出して読んだり発言したりすることについて、どのように感じているかを個人的に聞いてみるのも助けになる。また、レッスンの前に聖句の箇所を教え、それを読んで考えてくるように依頼して、話し合いに備えさせることもできる。
4. 生徒からの発言や質問に対して、ほかの生徒に考えて答えてもらうこともできる。

そのほかの提案が、本書の63-65「話し合いを展開する」に書かれていると話す。

### まとめ

要約

3人のデモンストレーションへの感謝を述べる。

方法は大切だが、そればかりに注意を集中すべきではないことを思い出させる。方法はあくまで、生徒が福音の救いの教義に目を向け、それらを生活で実践できるように助けるための手段にすぎない。

続けて様々な方法を使う能力を伸ばそうとするなら、教える熱意がさらに増すことを指摘する。新しい方法を使うときには恐れやぎこちなさを感じるかもしれないが、そういった気持ちは克服できる。

引用

ヒーバー・J・グラント大管長は、ラルフ・ウォルド・エマソンの次の言葉をよく引用した。「物事を継続して行っていけば、容易に行えるようになる。それは物事の性質が変わるからではなく、わたしたちの力が増すからである。」(1997年改訂版『教師、その大いなる召し』164)

証

御霊に導かれるままに証をする。

割り当て

以下の事柄を行うように生徒に勧める。

1. 新しい方法を使って福音の原則を教えてみる。その経験についてノートに書き留める。
2. 来週は、近いうちに自分が教えることになっているレッスンの計画をする準備をしてくる。これは、教える責任であれば、家庭の夕べや教会、その他いずれの責任でもかまわない。聖典やレッスン用手引きなど、レッスンで使う教材を持って来る。



# 第10課

## 必要なものをすべて準備する

**目的** 生徒が効果的なレッスンを準備できるように助ける。

**教師へ** 福音の教師は、レッスンを準備するうえで以下の3つの質問を自問しなければならない。

1. このレッスンを教えることにより、生徒の生活にどのような変化が起きるべきだろうか。
2. 特にどの原則を教えるべきだろうか。
3. これらの原則をどのように教えるべきだろうか。

1番目の質問は、人々の必要に焦点を当ててレッスンを考えるのに役立つ。このことをいつも念頭に置けば、何を教えるべきかを決められる。これは大切な決断である。なぜならレッスンには時間内に教えらる以上の事柄が含まれていることが多いからである。どのように教えるべきかを決めるのに、教師は内容に適した方法を、御霊に従い、熱心に学んだうえで決めなければならない。

この課を教えるに当たり、生徒がレッスンを効率よく、御霊に導かれるままに準備できるように助ける。この課を教えるためのあなた自身の準備が、生徒が準備するための模範となることを覚えておく。

- 準備**
1. 本書の「必要なものをすべて準備する」(96-105ページ)を研究する。
  2. 近いうちに教えることになっているレッスンの計画をする準備をして来ることを、生徒に再確認する。聖典やレッスン用手引きなど、レッスンで使う教材を持って来るように話す(この割り当ては第9課の最後で与えられた)。
  3. 最近出版された教会のレッスン用教材で、レッスンの目的や教える方法の提案が書かれているもの(初等協会の手引きや福音の教義クラスの手引きなど)を準備する。
  4. レッソンの前に、以下の事柄を黒板に書いておく。

1. このレッスンを教えることにより、生徒の生活にどのような変化が起きるべきだろうか。	2. 特にどの原則を教えるべきだろうか。	3. これらの原則をどのように教えるべきだろうか。
---	----------------------	---------------------------

**レッスンの提案** 福音を教えるうえで、教師自身の準備が不可欠である。

**引用** 生徒の一人にダリン・H・オークス長老の言葉96ページを読んでもらう。

黒板と教師の提示

黒板に書いた質問に生徒の注意を向けさせ、それぞれのノートに書き写させる。

これらは、レッスンを準備する際に自問すべき3つの重要な質問であると説明する。

この課では、それぞれが持って来たレッスン用教材に当てはめて、これらの質問に答えてもらうことを説明する。

### 1. レッスンによって生徒の生活にどのような変化が起きるべきかを定める。

ノートを使った  
活動と教師の提示

それぞれ、持って来たレッスン用教材を参照してもらう。ノートのいちばん上にレッスンの題名を書かせる。聖句を使ったレッスンの場合は、その章と節を書かせる。

レッスンの題名を念頭に置きながら、このレッスンが生徒にどのような影響を与えるべきかを定めることができると説明する。例えば、ある初等協会の教師は、什分の一のレッスンを教えるに当たり、子供たちが什分の一とは何か、またなぜわたしたちは什分の一を納めるのかを理解するべきだと考えるかもしれない。ある両親は、子供たちに神殿について教えるに当たり、彼らが神殿結婚にふさわしく生活したいという望みを持つべきだと考えるかもしれない。ある長老定員会会長は、家庭の夕べについて教えるに当たり、定員会の会員たちの霊が鼓舞されて、毎週有意義な家庭の夕べを持ちたいと願うようになるべきだと考えるかもしれない。

教会で出版されている多くのレッスン用手引きには、レッスンごとにその目的が記されている。準備したレッスン用手引きの中から、レッスンの目的が書かれている箇所を生徒に見せる。わたしたちはレッスンの準備をする際、これらの記述を指針として用いるべきであると説明する。

それぞれの生徒に、自分の生徒の必要について考えてもらった後、次の質問を尋ねる。

- このレッスンを教えることにより、生徒の生活にどのような変化が起きるべきだと思いますか。

この質問への答えには、このレッスンによって生徒が何を理解し、感じ、望み、また行うべきかが含まれることを説明する。その後、質問について考える時間を与え、自分のノートに答えを書かせる。

話し合い

それぞれノートに自分の答えを書く時間を取った後、何人かにその答えと、それを書いた理由を話してもらう。

レッスンを準備する際、生徒の必要について考えるべきであることを強調する。御霊に導かれるままに、レッスンが生徒にどのような影響を与えるべきかを知ることができる。これが分かれば、何をどう教えるべきかを定めるのに役立つ。

### 2. レッスンで何を教えるかを定める。

教師の提示

レッスンで教えるように提示されている事柄は多く、実際にはそのすべてを教えられないことが多いことを指摘する。これは、レッスン用手引きでも、『リアホナ』の記事や大会の説教などを使ったレッスンでも同様のことが言える。そのような場合、生徒にとって最も役立つ事柄を祈りの気持ちで選ぶ必要がある。

福音を教える際、情報を提供するだけでは十分ではないことを強調する。最も重要なのは、どれだけ多くの事柄を教えるかではなく、レッスンが生徒にどれほど大きな影響を及ぼすかである。

黒板と話し合い

- 特にどの事柄を教えるべきかを定めるのに、何をしたらよいでしょうか。(黒板に書いてあることを消さずに、空いたところに生徒の答えを書いていく。重要な点の幾つかが以下に挙げてある。生徒から意見が出なかった場合は、教師から話す。)

- a. 祈りの気持ちで、レッスンの内容を研究する。
- b. レッスンで採り上げられている重要な原則を箇条書きにする。
- c. 常に生徒の必要や知識、経験などを念頭に置く。
- d. 御霊の導きに従う。

レッスンの準備を少なくともレッスンの1週間前に始めるように勧める。これによって、内容について深く考え、祈り、それを理解し、生徒の注意を引くような教え方を考え出す時間を取ることができる。

ノートを使った活動

もう一度、それぞれ持って来たレッスン用教材を参照させる。以下の質問に答えながら、生徒の必要について引き続き考えてもらう。また、生徒がどのようなことを受ける備えができていないかを考えてもらう。

- このレッスンで、生徒にとって最も重要な概念は何だろうか。

この質問について考える時間を与える。ノートの「特にどの原則を教えるべきだろうか」の下に、自分の答えを書かせる。

話し合い

生徒がノートに答えを書く時間を取った後、何人かに自分の答えとそれを書いた理由を述べてもらう。

**3. レッスンをどのように教えるべきかを決める。**

話し合い

何を教えるかを決めたら、次にそれをどのように教えるかを決めなければならないことを説明する。これには、生徒がその原則を理解するのに役立つような教授法を選ぶことも含まれる。

- 福音を教えるのにどのような方法がありますか。(第8課と第9課で示された方法を思い出せるように助ける。また、本書の158ページに載っている方法を参照させる。)

教授法は生徒を高め、熱心に学ぼうという気持ちを起こさせ、福音の原則を理解し実践できるように助けるものでなければならないことを思い出させる。

ノートを使った活動

ノートに書いたことをもう一度見させる。「特にどの原則を教えるべきだろうか」という質問の下に書いた原則について考えるように言う。その原則を教えるためにどんな方法を使うべきかをしばらく考えて書いてもらう。

用意したレッスン用手引きを見せ、中には特定の原則をどのように教えるべきかについての提案が書かれているものもあることを示す。教師はそこで提案されているものを使ってもよいし、生徒の必要に応じて自分で考えた方法を使ってもよい。

生徒がノートに書く時間を取った後、何人かに答えを発表してもらう。

まとめ

引用

デビット・O・マッケイ大管長の次の言葉を読む。

「すべての教師は次の3つの手順に従って教えなければならない。第1に、自分が学んで、第2に、実践して自分のものにし、第3に、教える人々が実践して自分のものにできるように導くのである。彼らの中にそれを注ぎ入れるのではなく、あなたが知っていることを彼らも見、あなたが知っていることを彼らも知り、あなたが感じていることを彼らも感じるように導くのである。」(Gospel Ideals [1953年], 424)

この課で学んだ原則を実践するように勧める。祈りの気持ちでそれを行うならば、人々が福音の原則を学び、生活で実践するうえで助けとなるようなレッスンを計画することが必ずできると約束する。



証

御霊に導かれるままに証をする。

割り当て

以下の事柄を行うように生徒に勧める。

1. 今日のレッスンで始めた自分のレッスンの準備を終える。そのレッスンを準備し、教えた経験について、ノートに書き記す。
2. 本書の「必要なものをすべて準備する」の項（96-105ページ）を研究することにより、本課で学んだ原則を復習する。
3. 次の課のために、マタイ7：1-5を学習する。その中で教師として直面しているチャレンジに立ち向かうために行っていることがあるか考える。それによって彼らがどのように変わっていくか考える。その際、エテル12：27, 37で主が勧告されている、わたしたちがへりくだって自分の弱さを認めるときに得られる祝福について深く考える。

## 第11課

## 才能を伸ばす

**目的** 生徒が、教師として引き続き向上する方法を理解できるように助ける。

**教師へ**

民の間を巡って旅をしていたエノクは、人々に悔い改めを説くようにという天からの声を聞いた。「エノクはこれらの御言葉を聞いたとき、主の前で地に伏し、主の前に語って言った。『わたしがあなたの目になつたのはなぜでしょうか。わたしは若者にすぎず、すべての人はわたしを憎みます。わたしは口の重い者だからです。どうしてわたしはあなたの僕なのでしょう。』」（モーセ6：26-31参照）

「主はエノクに言われた。『行って、わたしがあなたに命じたように行いなさい。あなたの口を開きなさい。そうすれば、それは満たされるであろう。わたしはあなたに語る力を与えよう。……見よ、わたしの御霊があなたのうえにあるので、あなたのすべての言葉を、わたしは正しいとする。……あなたはわたしにつながっていない。そうすれば、わたしはあなたとつながりよう。それゆえ、わたしとともに歩みなさい。』」（モーセ6：32, 34）

エノクは命じられたとおりに出て行き、主は力をもって教える能力を彼にお与えになった。

生徒の中には、教えを説くように命じられたときのエノクのように、自分の弱さや能力への不安を感じている人がいるかもしれない。この課では、教師として向上する方法について学ぶ。この課では教会の教科課程教材や指導者の助け、教師改善集会などから得られる助けに焦点が当てられている。しかし、最も大きな助けは主から得られることを思い出させることが重要である。へりくだり、主を信じるならば、主は「彼らの弱さを強さに変え」てくださる（エテル12：27）。

**準備**

1. あらかじめ、生徒の一人、あるいはワードの指導者の一人に235ページのブリガム・ヤング大管長の言葉を読むように依頼しておく。同時に、そこに書かれていることが真実であると感じた経験について話すように頼む。
2. 神権定員会、あるいは補助組織の教師の一人に、レッスンに来て、指導者から受けた助けによってどのように力を得たかについて3分から5分の話をするように依頼しておく。
3. 神権定員会、あるいは補助組織の指導者の一人に、レッスンに来て、指導者は教師の働きをどのように助けられるかについて3分から5分の話をするように依頼しておく。その際、本書の28ページに書かれている事柄を基にして話を準備してもらう。教師が指導者と経験を分かち合い、定員会やクラスの一人一人の必要について話し合い、助けや勧告を求めることの大切さについて話してもらうように確認する。（話を依頼した教師と同じ組織で働く指導者に頼むとさらによい。）
4. 本書の「才能を伸ばす」の項（21-28ページ）を研究する。
5. 『福音教授法の改善——指導者用ガイド』の7-9ページに書かれている、教師改善集会に関する事柄を読む。個々の教師の必要を満たすために教師改善集会がどのように役立つかについて、3分から5分の話を用意する。この話の中で、次回の教師改善

集会がいつ行われる予定か、だれが出席すべきかを生徒に知らせる。(もしあなたが教師改善コーディネーターでない場合は、この話を教師改善コーディネーターに依頼してもよい。)

6. 25ページの表に書き入れたい事柄を2, 3紹介する準備をする。
7. レッソンの前に、あなたの地域で入手可能で現在教会で出版されている教師用教材を並べておく。これらの教材について、3分から5分の説明を準備しておく。105ページに挙げられている教材が入手できれば、それらも一緒に並べておく。

## レッスンの提案

生徒一人一人に手を差し伸べるため、わたしたちはさらに向上し続けなければならない。

## 導入

依頼した生徒、あるいはワードの指導者に、以下の言葉を読んでもらう。

ブリガム・ヤング大管長はこう語った。「主に従う謙遜な人々に今日、少し与えられます。彼らがそれによって向上するのであれば、主は明日、もう少し与えられます。そしてその翌日にもう少し与えられます。主は自らを向上させない人々に対して、与え続けるようなことをされません。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』96)

この言葉が真実であると感じた経験について話してもらう。

## 教師の提示

ブリガム・ヤングが教えたこの原則は、福音の教師として努力するわたしたちにも当てはまると話す。わたしたちは主から与えられたものを使って向上し続けるならば、主の助けを受ける。この課では、わたしたちが教え方を改善するために何ができるかに焦点を当てる。また、その努力をするうえで、教会から得られる助けについても学ぶ。

**教会は、わたしたちが教師として向上するための援助を与えてくれる。**

## 報告

### 集会所付属図書館

教会はわたしたちが効果的なレッスンを行うのに役立つ様々な教材を出版していることを説明する。レッスンの前に並べた教材に生徒の注意を向ける(「準備」7参照)。これらの教材について数分を使って説明し、生徒からの質問を受ける。集会所付属図書館に行き、これらの教材や、その他レッスンの助けとなる教材について学ぶよう生徒に勧める。

教会には、レッスン用教材のほかにも、教師として向上するための援助が準備されている。以下の事柄について話し合う。

### 教師に対する指導者の助け

依頼してあった指導者と教師に、教師に対する指導者の助けについて話してもらう(「準備」2, 3参照)。

その後、教師に対する指導者の助けについて質問するよう、生徒に言う。また、そのような助けが、指導者や教師として向上するためにどのように役立つかについて話し合ってもらう。

教師に対する指導者の助けの大切さについて、あなたが感じていることを話す。

### 教師改善集會

教師改善集會について話す(「準備」5参照)。



福音の教え方コース

このコースも、教師として向上するために教会から得られる助けの一つであると話す。

**わたしたちは自分が教師として効果的に教えているかどうかを常に吟味しなければならない。**

ノートを使った活動

わたしたちは常に、自分たちの働きがどれほど生徒たちに助けを与えているかを吟味しなければならないことを説明する。それから、全員に本書の25ページを開けてもらう。そこに書かれている表を自分のノートに書き写させる。

このクラスを受け始めてからの数週間について思い起こしてもらう。前課の最後に与えられた割り当てについて考えてもらう。そしてこの表を使って、教師としての自分の成長を簡単に評価させる。教師として長所と短所を一つずつ書かせる。改善するために今すぐできることを一つ、また伸ばさなければならない技術の一つ、書くように勧める。(この評価の仕方についての説明は、25ページの例を参照する。)

これによって、教育改善のきっかけとなることを説明する。あとは自分で表に書き入れるように勧める。その際、24-27ページの「教授法改善の計画を立てる」を参考にしてもよい。

教師の提示

表に書き込む時間を取った後、あなた自身が教師として成長したいと望んでいることを話す。自分が表に書き込むだろう2, 3の事柄について話す(「準備」6参照)。

引用

わたしたちが改善しようと努力するとき、主が必ず助けてくださることを約束する。生徒の一人に、本書の21ページに書かれているジェームズ・E・ファウスト管長の言葉を読ませる。

まとめ

教師の提示

ブリガム・ヤング大管長の言葉をもう一度読む。この原則の大切さについて感じている気持ちを話す。時間が許すならば、234ページの「教師へ」で述べられているエノクについての話を分かち合う。

証

御霊に導かれるままに証をする。

割り当て

以下の事柄を行うように生徒に勧める。

1. 自分の組織の各指導者と会って経験を分かち合い、定員会やクラスの一人一人の必要について話し合い、助けや勧告を求める。(教師としての召しを受けていない生徒については、家族や教師改善コーディネーター、あるいはあなたと、この課で学んだ事柄について話すように勧める。)
2. 本書の「才能を伸ばす」の項(21-28ページ)を研究することにより、本課で学んだ原則を復習する。自分の改善のために立てた計画に基づいて、引き続き努力する。
3. 次回のレッスンまでに、この課で学んだこと、あるいはこのクラスに参加することによって自分が成長できたことについて話す準備をする。時間は生徒の数によって変わるが、約3分から5分以内とし、(a)学んだ事柄により、自分は教師としてどのように変わったか、(b)教師として向上し続けるために、何を行っていくつもりか、について話してもらう。

# 「行って、教える」

## 第12課

**目的** 生徒が教師として向上するうえで、互いに強め合う機会を与える。

**教師へ** 主は福音を教えることに関する大切な原則を次のように教えられた。「あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように、またすべての人が等しい特権を持てるようにするためである。」(教義と聖約88：122)

福音の教え方コース最後のこの課では、生徒にこのクラスで学んだ教義、原則、技術、方法について感じたことを分かち合い、互いに教え、高め合う機会を与える。クラスの全員が参加できるように、注意してレッスンを組み立てる。

**準備**

1. この課に備えるために与えられていた割り当てについて、前もって生徒に確認を取る (236ページの「割り当て」3参照)。
2. 各生徒がこのクラスを受ける間どのように成長したか、また、あなたが彼らから何を学んだかを考える。レッスンの中でその一部を話せるように準備しておく。

**レッスンの提案** 福音を教える大切さについて、また、教師として働く特権について簡単な証を述べる。その後、以下のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を読む。その際、生徒に、この言葉がこのクラスのまとめとしてどのようなことを述べているか注意深く聞くように言う。

「家庭で子供たちを教えるときでも、教会で聴衆を前に話すときでも、自らの信仰を分かりにくい言葉で伝えるのは絶対に避けましょう。わたしたちは、『神から来た』教師とならなければならないことを心に銘記しましょう。疑いの種をまかないでください。利己的な行動や虚栄心を遠ざけてください。よくレッスンを準備してください。聖文に基づいた話をしてください。明らかにされた教義を教えてください。心からの証を述べてください。祈り、実行し、向上しようと努めてください。また、管理集会においては、啓示に示されているように、『教え合い、教化し合』いましょう。そうすれば、集会で学ぶことにより『高い所から教えを受け』られるでしょう。こうして教会も皆さんも、より良いものとなるのです。パウロはローマ人にこう語っています。『なぜ、人を教えて自分を教えないのか。』」(「神からこられた教師」『聖徒の道』1998年7月号、30)

各生徒に、準備して来た話をしてもらう (「準備」1参照)。

### まとめ

**所見** 時間の許すかぎり、このクラスが始まってからの各生徒の成長ぶりについて、あなたが見て感じたことを話す (「準備」2参照)。また、各生徒から学んだことを幾つか話す。

証 御霊に導かれるままに証をする。その中で、これから続けて福音を教えていく生徒への信頼、励まし、助けの言葉を贈る。



## 索引

## あ

アーチボルド, ダラス・N, 愛をもって教えることは生徒の心を広げる, 31

## 愛

教えに与える影響, 12, 30-32, 195  
 学習に適した雰囲気作りに貢献する, 77  
 生徒と主に対する\_\_, 不可欠な資質, 12, 31-32, 194-197  
 生徒に\_\_を示す, 30-39, 194-197  
 御霊を招く, 46

アイデア, 収集し記録する, 23

アイリング, ヘンリー・B

愛と一致が学習には不可欠である, 77  
 謙遜さは御霊に頼る気持ちにつながる, 200

## 証

教えの一部としての\_\_の力, 10, 43-44  
 学習に適した雰囲気作りに貢献する, 80  
 体験によって強められる, 45  
 \_\_の定義, 43  
 \_\_の例, 43-44  
 \_\_を得て, 強めていく, 44  
 \_\_を述べることは御霊を招く, 43-44, 45  
 アダムとエバ, 子供たちに教えるように命じられた, 3, 190  
 当てはめること, 一つの教授法として\_\_を用いる, 170-171  
 あまり活発でない会員, \_\_を助ける, 37  
 誤った引用, 教義を純粋に保つために\_\_を避ける, 53  
 暗記, 一つの教授法として, 171-172  
 イエス・キリスト  
 指導者の最高の模範, 150-151  
 \_\_についての教えは学習に適した雰囲気作りに貢献する, 80

\_\_のもとに来るのは人類が存在する最も高く尊い目的, 3, 190

養いを与える永続的な糧の源, 5

イエス・キリスト, \_\_の言葉

あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい, 77, 237

あなたがたの掲げる光とは, わたしである, 3

あなたがたの家族の中で, わたしの名によって常に父に祈りなさい, 137

あなたがたは……主の用向きを受けている, 8

争いの心を持つ者はわたしにつく者ではな [い], 69

上から来るものは神聖, 91

王国の教義を教え [なさい], 203

神のみこころを行おうと思う者であれば, だれでも, ……この教が, ……わかるであろう, 14, 19

研究によって, また信仰によって学問を求めなさい, 14

子供たちに福音を教えなさい, 127

これがわたしの業であり, わたしの栄光である, 4

これらの言葉は人々から……出ているのではなく, わたしから出ているのである, 45

『聖書』と……『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教え [なさい], 9

聖文を調べなさい, 8

説得により, 寛容により, 温厚と柔和により, 維持される力, 86

絶えず命の言葉を……大切に蓄え [なさい], 14, 153

互いに愛し合いなさい, 12, 79

互いに教え合い, 教化し合わなければならない, 152

常に祈りなさい, 45

- 説く者と受ける者が、ともに喜ぶのである、9-10, 47  
 熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう、8  
 人の価値が神の目に大なるものであること、35, 84  
 人は謙遜であり、愛に満ち〔ていなければ〕、だれもこの業を助けることはできない、31, 85, 194  
 まずわたしの言葉を得るように努めなさい、8, 14  
 御霊……によってわたしの福音を宣べ伝えるためである、9  
 御霊を受けなければ、あなたがたは教えてはならない、9, 198  
 預言者たちや使徒たちが書き記したこと〔を教えなさい〕、8  
 喜びのおとずれを告げ知らせなさい。謙遜の限りを尽くしてそれを行いなさい、41  
 わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない、6  
 わたしが命のパンである、5  
 わたしが述べたことを深く考えなさい、97  
 わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、20  
 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、74  
 わたしの羊を養いなさい、5  
 わたしは彼らの弱さを強さに変えよう、24, 234  
 1歳半児、\_\_の特徴、110  
 祈り  
   証に不可欠、44  
   家族の\_\_における教える機会、128, 137  
   慈愛を受けるために必要、12  
   主の言葉を得るために必要、14-15  
   \_\_を通して御霊を招く、45, 199, 200  
 歌（「音楽」の項参照）  
 歌でつづる物語（「ナレーションを伴う音楽」の項参照）  
 絵を描くこと、166-167  
 応用  
   \_\_を奨励する教師の責任、74  
   \_\_を奨励する教授法、74, 159-160  
 オークス、ダリン・H  
   神の名を敬虔な気持ちで用いる、82-83  
   賛美歌は重要な財産である、172  
   自分自身ではなく、ほかの人々に全精力を傾けて教える、211  
   毎日聖文を研究する、14  
   御霊によって教える、40  
   御霊によって教えるためには従順が必要、13  
   御霊の導きを受けるためには準備が必要、96  
   御霊を認識する、47  
 オーバーヘッドプロジェクター、174  
 教え  
   思いがけなく訪れた\_\_の機会、121-122, 128, 140-141  
   家族会議での\_\_、139  
   家族の祈りでの\_\_、127, 137  
   家族の食事時間での\_\_、138-139  
   家族の聖文研究での\_\_、127, 137-138  
   家庭における\_\_、125-148  
   家庭の夕べでの\_\_、128, 138  
   兄弟の\_\_による影響、142  
   厳粛な心と柔和な心をもつての\_\_、201  
   謙遜と愛をもつての\_\_、12, 31-32, 46, 194-197  
   子供たちとの個人的な語りでの\_\_、139  
   指導者会での\_\_、152  
   親戚の\_\_による影響、142-143  
   すべての会員の責任、3-4, 192  
   前世で始められた、3, 190  
   選択の自由を義にかなって行使するために必要、3, 210-211  
   祖父母の影響による\_\_、142  
   魂を養う、5-7  
   定期的な家庭での\_\_の機会、128, 137-139  
   手引きがない場合の\_\_、100-101  
   天父の計画における\_\_の役割、2-4, 189-193  
   \_\_における子供たちの能力、143  
   \_\_の重要性、2-4, 189-193  
   \_\_のための教会の資料、105  
   御霊による\_\_、40-48, 198-202  
   面接時の\_\_、153  
   模範による\_\_、18-19, 121, 128, 192  
   教えの機会、思いがけなく訪れた\_\_、121-122, 128, 140-141  
 音楽  
   歌を指揮するための提案、174  
   敬虔さを高める、83  
   子供を教えるために\_\_を活用する、173-174  
   選択し、準備する、173  
   適切な\_\_は御霊を招く、45-46, 83, 172-174

一つの教具として\_\_を用いる, 45-46, 172-174

## か

会員, 新しい\_\_ (「新会員」の項参照)

会員, あまり活発でない\_\_ (「あまり活発でない会員」の項参照)

会員, 障害を持つ\_\_ (「障害を持つ会員」の項参照)

解釈, 個人的ならびに正統でない\_\_に対する警告, 53, 205

### 改善

計画表, 25

主の助けにより\_\_する, 26-27

\_\_のための計画を立てる, 24-27

\_\_のための目標を設定する, 24-25

### 学習に適した雰囲気

教室における規律の鍵, 75, 221

教室の環境作りによって\_\_を高める, 76

子供たちとともに\_\_を作り出す, 80-81, 86-87

\_\_に関して人々に教える, 77-78, 215-221

\_\_のための教師の責任, 79-87, 213-221

\_\_のための個人の責任, 77-78, 214-218

\_\_の特徴, 77, 214

話し合いを通して\_\_を高める, 63

預言者の塾というひながた, 213-214

\_\_を作るための提案, 76-87

学習補助資料, 聖典の\_\_, 56

### 家族

教えることによって\_\_を強める, 109, 119, 127

\_\_内において確立される福音に添った生き方, 135-136

家族会議, \_\_における教える機会, 139

家族の祈り, \_\_における教える機会, 128, 137

家族の食事時間, \_\_における教える機会, 138-139

家族の聖文研究, \_\_における教える機会, 15, 127, 137-138

### 活動

教え, 教化するものでなければならない, 117

計画するための指針, 121-122

青少年を教えるためのグループ\_\_, 121-122

年少の子供のために単純にする, 117

活動シート (「ワークシート」の項参照)

活動の歌, 159

家庭, \_\_における教え, 125-148

家庭の夕べ, \_\_における教え, 138

### 家庭訪問

メッセージを選ぶ, 147

メッセージを準備して伝える, 148

紙人形, 175

### 神の言葉

聖典と末日の預言者の言葉における\_\_, 51

\_\_の力, 50-51

\_\_を得る (「御言葉を得る」の項参照)

\_\_を使ったアルマの例, 50

環境作り, 教室の\_\_ (「教室の環境作り」の項参照)

関心, 話し合いによって高まる, 63

関連聖句の連結, 57

脚注, 聖典の学習補助資料として, 56

9歳児, \_\_の特徴, 115

教会歴史, 改ざんしたり新しい解釈を加えることに  
対する警告, 53

### 教義

純粋な\_\_を教えるための教師の責任, 52-53,  
203-207

\_\_の力, 50-51, 203-207

まことの\_\_は態度や行動を変える, 50, 205

霊的な守りを与える, 51, 224

\_\_を純粋に保つための注意, 52

### 教師

学習に適した雰囲気作りに貢献する, 75-87,  
213-221

家族を強める, 109

指導者との接触, 28

主の代理人, 8

主の手にある器, 41

純粋な教義を教える, 52-53, 203-207

生徒を理解する, 33-34

魂を養う, 5-7

入手可能な教授資料や資源, 105, 235-236

熱心に学ぶように勧める, 60-74, 208-212

\_\_の影響力, 2-4, 190-192

人々に手を差し伸べる, 35-36

\_\_への注意, 52-53

最も大切な資質, 26

### 教室の環境作り

学習に適した雰囲気作りに貢献する, 76

\_\_に関する提案, 76

### 教師の指導者との接触

相談のためのアイデア, 28

\_\_に関する指針, 28

### 教授法

当てはめること, 170-171

暗記, 171-172

絵, 175-176



- 選び方, 91-92
- 絵を描くこと, 166-167
- 応用の技術, 159-160
- オーバーヘッドプロジェクター, 174
- 音楽, 172-174
- 活動の歌, 159
- 紙人形, 175
- 具体例, 167-168
- ゲーム, 168-169
- 劇化, 165-166
- ゲストスピーカー, 169-170
- 講義, 170
- 黒板, 162-163
- 様々な\_\_を用いる, 72, 80, 89, 225
- ジオラマ, 165
- 視覚資料, 181-182
- 視聴覚教材, 160
- 実演, 164-165
- 島, 117, 178-179
- 事例研究, 161-162
- 生徒が原則を理解し, 覚え, 実践するのに役立つ  
ものでなければならない, 88, 99, 222-223
- 地図, 171
- 導入, 160
- ナレーションを伴う音楽, 174
- バズセッション, 161
- パネルディスカッション, 174-175
- 比較と実物を用いたレッスン, 163-164, 223-  
224
- 表, 90
- 復唱, 177
- フランネルボード, 168
- ブレインストーミング, 160
- 物語, 179-181, 227
- 指人形, 176
- 朗読, 163
- 朗読劇, 176-177
- ローラーボックス, 178
- ロールプレー, 177-178
- 教授法ワークシート, 182-183
- 兄弟, \_\_の教えによる影響, 142
- 兄弟と姉妹, \_\_の教えによる影響, 142
- キリスト (「イエス・キリスト」の項参照)
- 規律, 教室における\_\_は学習に適した雰囲気を持つ  
ことではぐくまれる, 218
- キンボール, スペンサー・W  
教え方を評価する, 103
- 教えることを実践する, 18
- 外部の偽りの教えから子供たちを守る, 6
- 隠された真理を見いだすためには熱心に学ぶこと  
が必要, 212
- 敬虔さは善に向かわせる力である, 82
- 正統でない教えを避ける, 53, 205
- 聖文を何度も何度も再発見しなければならない,  
205-206
- 任命が持つ意義, 20
- ホームティーチャーと訪問教師が与える影響,  
192
- 具体例, 一つの教授法として, 167-168
- クック, ジーン・R  
御霊が真の教師であられる, 41  
子供たち一人一人を教える, 139
- クラーク, J・ルーベン, ジュニア  
青少年は福音を学びたいと熱心に願っている, 6,  
204
- 大管長は教会のために啓示を受ける, 53
- 福音を教えることほど貴重なものはない, 2
- クラスへの訪問, 指導者の\_\_, 28
- グラント, ヒーバー・J, 模範によって教える,  
18-19
- グループ活動, 青少年を教えるための\_\_, 121-122
- 経験  
適切な\_\_を分かち合うことは学習に適した雰囲気  
作りに貢献する, 80
- 適切な\_\_を分かち合うことは御霊を招く, 45
- 敬虔  
神を敬う気持ちから生まれる, 82  
\_\_の重要性, 82-83, 152  
\_\_の定義, 82  
\_\_の模範を示す, 82-83  
\_\_を教える方法, 83
- 敬虔さを欠く (「妨害行為」の項参照)
- ゲーム  
一つの教授法として, 168-169  
\_\_を選ぶための指針, 168
- 劇化  
\_\_に関する注意, 166  
\_\_の利用, 165-166
- 朗読劇, 176-177
- ゲストスピーカー, 169-170
- 研究する  
隠された真理を見いだすために要求される, 14  
神の言葉を得るために必要, 14  
個人の計画を作る, 16-17

質を高めるためのアイデア, 17-18  
 聖典と末日の預言者の言葉, 14-17  
 \_\_ための時間を決める, 16

謙遜  
 主の助けを受けるために不可欠, 200  
 \_\_であることを通して人々に影響を与える, 41-42, 219

講義, 一つの教授法として, 170  
 コールドウェル, C・マックス, 御霊に導かれてレッスンの準備をする, 48  
 黒板, \_\_の利用, 162-163, 224-225  
 5歳児, \_\_の特徴, 112  
 個人的な語らい, 両親にとって教える機会となる子供たちとの\_\_, 139

個人の準備  
 \_\_の時間を取る, 97  
 \_\_のための提案, 12-20

答え, 正しくない\_\_に対応する, 65, 69

子供たち  
 個人的な語らいによる両親の教え, 139  
 聖文を使って\_\_を教える, 57-58, 127, 137-138  
 \_\_に教えるときの効果的な方法, 57-58, 80-81  
 \_\_に対して積極的に話す, 80-81  
 \_\_に物語を聞かせる際の提案, 180-181  
 \_\_の学習に適した雰囲気作りの方法, 80-81, 86-87  
 \_\_の年齢別特徴, 110-116  
 福音に添った生き方により\_\_を教える, 6, 135-136  
 福音の真理を学ぶ必要がある, 127  
 予期せぬときに訪れた教育の機会での両親の教え, 140-141  
 両親に多くの事柄を教えることができる, 143  
 両親は\_\_に何を教えなければならないか, 127-128  
 \_\_を参加するよう励ます, 80-81  
 \_\_を理解し, 教えるための指針, 80-81, 108-117

コンテキスト, 聖文を理解する助けになる, 54-55

混乱  
 学習に適した雰囲気を維持することでしばしば回避される, 220  
 \_\_を少なくするための提案, 220

## さ

## 才能

主はあなたの\_\_を伸ばすことがおできになる, 234, 235

\_\_を伸ばす, 21-28, 234-236

## 参加

生徒に\_\_を奨励する方法, 71-72

\_\_に関する個人の責任, 72

福音の教え方コースにおいて\_\_を援助する, 187

3歳児, \_\_の特徴, 111

## 慈愛

\_\_の賜物を受ける, 12

\_\_の定義, 12, 32

ジオラマ, 165

視覚資料, 181-182

時間, クラスにおける\_\_の管理, 94

支持の挙手, 会衆からの\_\_は力を与える, 20

## 視聴覚教材

\_\_の使用における教会の方針, 160

\_\_の使用に関する提案, 160

実演, 164-165

実物を使ったレッスン, 163-164, 223-224

## 質問

応用する方法を考えさせる\_\_, 69

事実に関する\_\_, 68

指針, 68-70, 228

救い主の模範に従う, 68

独創的な活用法, 70

\_\_に答える準備をさせる, 69

「はい」または「いいえ」で答えられる\_\_, 68

話し合いを展開するために効果がある, 63

フォローアップの\_\_, 69

深く考えさせる\_\_, 68-69

レッスンの準備の際に考える, 124, 230-233

論争に発展するような\_\_を避ける, 69

## 指導者

教える責任, 28, 150-155

教師は\_\_に接触を図る, 28

教師を教える\_\_への提案, 28, 154-155

教師を支援する責任, 28, 154-155, 235-236

\_\_のクラスへの訪問, 28

指導者会での教えのための\_\_への提案, 152

新任の教師を援助する責任, 28

面接時に教えるための原則, 153

## 島

様々な年齢層を教える際に役立つ, 117

- 一つの教授法として\_\_を用いる, 178-179  
 写真・絵, 175-176  
 ジャック, イレイン・L, 家庭訪問を通じて主に仕える, 147  
 11歳児, \_\_の特徴, 115-116  
 集会, 指導者会での教え, 152  
 集会所付属図書館, 105, 235  
 従順  
 主の言葉を得るために必要, 14  
 御霊によって教えるために必要, 13, 19  
 10歳児, \_\_の特徴, 115-116  
 準備, 個人の\_\_ (「個人の準備」の項参照)  
 準備, 霊的な\_\_ (「霊的な準備」の項参照)  
 準備, レッソンの\_\_ (「レッスンの準備」の項参照)  
 障害 (「障害を持つ会員」の項参照)  
 障害を持つ会員  
 言語および発声障害, 38-39  
 視覚障害, 39  
 精神障害, 39  
 聴覚障害, 38  
 読書能力の問題, 39  
 \_\_に対する救い主の愛, 38  
 \_\_のための資料, 39  
 自立, 福音の学習における\_\_ (「熱心に学ぶ」の項参照)  
 資料, 両親, 指導者, 教師を支援する\_\_, 105, 235-236  
 事例研究, 73, 161-162  
 新会員, \_\_が必要としているもの, 37  
 信仰, 主の言葉を得るために必要, 14  
 親戚, \_\_の教えによる影響, 142-143  
 推論, 教義を純粹に保つために\_\_を避ける, 52-53  
 スコット, リチャード・G  
 救い主の教えに従って生活する, 19  
 人々が御霊を認識できるよう助ける, 48  
 御霊によって教えるには謙遜が必要, 41-42  
 スノー, ロレンゾ, 教えにおける模範の力, 192  
 スミス, ジョセフ  
 聖文を理解するためにコンテキストを見る, 54-55  
 優しさと愛の力, 30  
 スミス, ジョセフ・F  
 推論を避ける, 52-53  
 救いの真理を教える, 49  
 福音を自分の好みに合わせるのを避ける, 53  
 スミス, ジョセフ・フィールディング  
 人の考えを教えるのを避ける, 204  
 御霊によって教えるには従順が必要, 19  
 御霊は天からの示現よりも力強く真理を伝える, 41  
 スミス, ハイラム, まず主の言葉を得るよう勧めされた, 14  
 聖句ガイド, 聖文の研究資料として, 56  
 聖句に印を付ける, 56-57  
 青少年  
 グループ活動を通して\_\_を教える, 121-122  
 娯楽よりも福音によって養われる必要がある, 6-7  
 成人から何を必要としているか, 120  
 福音を学びたいと熱心に願っている, 6, 204  
 \_\_を理解する, 118-120  
 成人  
 \_\_に共通の特徴, 123-124  
 様々な人がいる\_\_, 124  
 \_\_を教える, 123-124  
 聖文  
 あらゆる疑問に答えることができる, 51  
 家族で\_\_を研究する, 15, 128, 137-138  
 \_\_から教えることの重要性, 54  
 \_\_から教えるためのアイデア, 54-58  
 \_\_から子供に教える, 57-58, 127  
 \_\_からの教えは御霊を招く, 45, 199  
 関連聖句の連結, 57  
 印を付ける, 56-58  
 なぜ守られたか, 52  
 \_\_の学習補助資料, 56  
 余白に注釈を記入する, 57  
 聖霊 (「御霊」の項参照)  
 責任, 福音の学習に関する個人の\_\_ (「熱心に学ぶ」の項参照)  
 接触 (「教師の指導者との接触」の項参照)  
 前世, 最初の教えを受けた, 3, 190  
 選択の自由  
 主から授けられた大いなる賜物, 210-211  
 生徒の\_\_を十分に行使させる, 3, 210-211  
 \_\_を尊重する主の模範に従う, 210-211  
 相互参照, 聖典の学習補助資料として, 56  
 祖父母, \_\_の影響によって教える, 142  
 尊敬, 学習に適した雰囲気作りに貢献する, 79
- た**
- 大会説教, \_\_からレッスンを構築する, 100-101  
 代理人, 教師は主の\_\_である, 8



正しくない答え, \_\_に対応するための提案, 65, 69  
 楽しみ, 魂を養うには不十分, 6  
 魂, \_\_に養いを与える教え, 5-7  
 断食, 主の言葉を得るため, 15  
 短所  
 改善のための計画を立てる, 24-25  
 自分の\_\_を評価する, 24  
 主が強める助けをしてくださる, 24, 26-27  
 地図  
 教える際に\_\_を用いる, 171  
 聖典の学習補助資料として, 56  
 父親  
 \_\_が持つ教える責任, 129-130  
 義になかった指導をするための提案, 129-130  
 注意, 教義を純粹に保つための教師への\_\_, 52-53  
 注意力  
 生徒の\_\_を観察する, 71  
 生徒の\_\_を持続させる方法, 71-72  
 話し合いによって\_\_を強める, 63  
 レッソンを効果的に始めることによって\_\_を向けさせる, 93  
 長所, 自分の\_\_を評価する, 24  
 テーラー, ジョン, ジョセフとハイラム・スミスの  
 殉教の証, 52  
 伝統, 義にかなう\_\_は家族を一つに結びつける,  
 135-136  
 導入, 160  
 尊んで大いなるものとする, \_\_の定義, 20  
 図書館, 集会所付属\_\_, 105, 235

## な

---

7歳児, \_\_の特徴, 114  
 ナレーションを伴う音楽, 174  
 2歳児, \_\_の特徴, 110-111  
 日記帳, またはノート, 考えを記録するために役立つ,  
 16, 23, 99  
 入手可能な教授資料, 105  
 柔和, \_\_をもって教える, 201  
 任命  
 正式の召しは\_\_なくしては完全ではない, 20  
 強め, 導きを与える, 20  
 熱心さ, 学習に適した雰囲気作りに貢献する, 79-  
 80  
 熱心に学ぶ  
 \_\_気持ちをはぐくむ教師の責任, 61-62, 208-  
 212

\_\_気持ちをはぐくむための提案, 62, 211-212  
 個人の責任, 61-62, 208-210  
 ネルソン, ラッセル・M  
 福音の教義が持つ予防力, 51, 224  
 ほかの人々を教える子供たちの能力, 143  
 年齢層, 様々な\_\_のグループの子供たちを教える,  
 117  
 年齢別特徴, 子供の\_\_の説明, 110-116

## は

---

バズセッション, 161  
 パッカー, ボイド・K  
 イエスは模範的な指導者であられる, 150-151  
 教え, 心に触れる音楽, 46  
 音楽は礼拝の雰囲気を作り上げる, 83  
 形のないものについて教える, 92, 163-164,  
 225  
 神の呼び名である父, 130  
 教会員は学び, 教える責任がある, 193  
 敬虔さは啓示をもたらす, 82  
 言語障害を持つ若い女性を教えたときの話, 38  
 指導者は教師として働く, 150  
 生徒の理解を確認する, 73  
 聖文はあらゆる疑問に答えることができる, 51  
 人は基本的に善なる存在, 84  
 福音の教授をケーキを分け与えることにたとえ  
 る, 222-223  
 福音を教える目的は家族を一つに結びつけること  
 である, 127  
 まことの教義は行動を変える, 50, 205  
 両親はパートナーとして教える, 133  
 霊性が持つ繊細な性質, 13  
 8歳児, \_\_の特徴, 114-115  
 話し合い  
 生徒の理解を確認するうえで役立つ, 63, 73  
 \_\_の展開に関する指針, 63-65, 228  
 \_\_の持つ利点, 54, 63  
 \_\_を終える, 65  
 パネルディスカッション, 174-175  
 母親  
 \_\_が持つ教える責任, 131-132  
 子供たちを教えるための\_\_への提案, 131-132  
 \_\_の神聖な役割, 131  
 バラード, M・ラッセル  
 活動は教え, 教化するものでなければならない,  
 117

- 家庭の中で福音を学ぶ, 128  
 子供の教師に置かれている信頼, 108  
 霊的な知識を深める, 16
- ハンター, ハワード・W  
 神は説得と忍耐によって業を行われる, 219-220  
 決まった時間を聖文の勉強のために取る, 16  
 聖典の学習補助資料を利用する, 56  
 御霊は様々な形を取って現れる, 47-48
- ピアス, バージニア・H  
 意欲的に学ぶよう奨励する, 61  
 若い女性を学習に適した雰囲気作りに参加させた物語, 217
- 比較, 一つの教授法として\_\_を用いる, 163-164, 224
- ビデオカセット (「視聴覚教材」の項参照)
- 人の考え, \_\_を教えるのを避ける, 204
- 評価する, あなたのレッスンの提示方法を\_\_, 103-104, 236
- ヒンクレイ, ゴードン・B  
 愛情のこもったしつけ, 84  
 家族に対する父親の責任, 129  
 かつてなかった成果を上げられる, 189  
 基本は福音を教えること, 3  
 新会員が必要としているもの, 37  
 教義を純粹に保つ, 52  
 心から教える, 189  
 指導の真髄は効果的に教えること, 150, 191  
 信仰は筋肉に似て使えば強くなる, 224  
 「尊んで大いなるものとする」の定義, 20  
 柔和の定義, 201  
 母親の神聖な責任, 132  
 標準聖典から教義を教える, 54  
 ホームティーチングと家庭訪問, 144  
 御霊を招く音楽の力, 172-173  
 世の人々は霊的な食物に飢えている, 5, 192
- ファウスト, ジェームズ・E  
 主は謙遜で熱心な者を通して業を行われる, 21  
 選択の自由という賜物, 210-211
- 福音の教え方コース  
 目的と概要, 186-187  
 レッスン, 189-238  
 \_\_を教える準備, 186
- 福音を自分の好みに合わせる  
 避けなければならない, 53  
 \_\_の定義, 53
- 復唱, 177
- フランネルボード, 168
- 振る舞いの問題 (「妨害行為」の項参照)
- ブレインストーミング  
 アイデアを引き出す, 160  
 \_\_の活用法, 160
- ヘイルズ, ロバート・D  
 両親は子供たちが御霊を認識できるように助けるべきである, 141  
 両親はへりくだり, 信仰を持ち, 祈りによって教えるべきである, 128
- ベリー, L・トム  
 敬虔さは神を敬う気持ちを表す, 82  
 子供たちを教える両親の責任, 128
- 変化を持たせる  
 \_\_教授法は学習に適した学習の雰囲気作りに貢献する, 72, 80  
 \_\_過程の表, 90  
 変化を持たせて教える, 89-90, 225
- ベンソン, エズラ・タフト  
 義にかなった伝統が家族を一つにする, 135-136  
 教会歴史に新しい解釈を加えることに対する警告, 53  
 主は主の僕に力を与えてくださる, 20  
 聖典と末日の預言者から教える, 52, 54  
 父親の義にかなった指導, 129-130  
 母親の教えがもたらす影響, 131-132  
 福音を大切にすることを子供たちに教える, 204-205  
 ホームティーチャーへの提案, 145  
 毎日聖文を勉強する, 15  
 まず主の言葉を得る, 14  
 御霊の影響, 13  
 最も大切なのは御霊, 198  
 預言者の塾の目的, 213
- 妨害行為, \_\_に対応する, 84-87
- 奉仕, 慈愛の賜物を受けるために重要, 12
- 訪問 (「クラスへの訪問」の項参照)
- ホームティーチャー  
 会員の生活における\_\_の重要性, 145-146, 191  
 \_\_の義務, 145-146
- ホームティーチング  
 \_\_に関する独創的なアイデア, 145  
 メッセージを選ぶ, 145  
 メッセージを準備して, 伝える, 146
- ホランド, ジェフリー・R  
 教えることほど大いなる召しはない, 3, 190  
 「神から来た」教師となりなさい, 237  
 指導者会における教え, 152

母親の重要な役割, 132

## ま

前書き, 聖典の学習補助資料として, 56

マックスウェル, ニール・A, 生徒一人一人の必要,  
33-34

マッケイ, デビッド・O

証は教えに命を与える, 44

あなたが知っていることを生徒も知り, あなたが  
感じていることを生徒も感じるように導く,  
232

敬虔の定義, 82

最良の方法を選ぶ教師の責任, 89

マッコンキー, ジョセフ・F, 福音を教える教師へ  
の注意, 52-53

マッコンキー, ブルース・R

証の力, 43

証をもって教える, 10, 43

イエスの証に雄々しくある, 18

神から託された教師の使命, 8-10

教師は主の代理人である, 8

個人の経験について話す, 179

救いの教義を教える, 5

聖霊の力によって教える, 9

標準聖典から教える, 8-9

福音の原則を教える, 8

福音の原則を生徒たちの必要に適用する, 10

福音を学ぶ責任は個人にある, 61

御霊を受けることができるのであれば, どのよう  
な代価も高くはない, 13

預言者の塾, 213

御言葉を得る

祈りと断食により\_\_, 15

研究と信仰により\_\_, 14

従順により\_\_, 14

力強い教えに必要, 14-15

ハイラム・スミスに与えられた勧告, 14

御霊

応用するよう奨励する\_\_の証, 74

効果的に教えるために必要, 41-42

真の教師, 41-42

真理を伝える, 41

\_\_によって教える, 40-48, 198-202

\_\_によってレッスンを準備する, 48, 97, 99

わたしたちへの\_\_の影響, 13

\_\_を受ける, 13, 200-201

\_\_を受けるにふさわしい生活をする, 13, 19,  
200-201

\_\_を認識できるように助ける, 48, 141

\_\_を招く方法, 45-46, 199

\_\_を認める, 47-48

耳を傾ける

教えにおける\_\_ことの重要性, 64-67

教師への提案, 66-67

救い主の模範に従う, 67

召し

あなたの\_\_を尊んで大いなるものとする, 20

挙手による支持は\_\_の一部である, 20

主から与えられる, 20

任命によって完全となる, 20

奉仕をする機会, 20

\_\_を尊んで大いなるものとしたヤコブとヨセフの  
模範, 20

目を合わせる, 生徒の注意を引きつける, 71-72

面接, \_\_における指導者の教え, 153

訪問教師

会員の生活における\_\_の重要性, 147, 191

\_\_の責任, 147-148

目標, 改善のための\_\_設定, 24-25

物語

幼い子供たちに\_\_を聞かせる, 180-181

好奇心をあおる\_\_を避ける, 53, 179

聖文の中の\_\_を話す, 55

\_\_の種類, 179-180

\_\_を選ぶ指針, 179

\_\_を準備し, 話す際の指針, 180

模範

個人の決意が要求される, 18-19

力強い教具, 18-19, 121, 128, 192

モンソン, トーマス・S

学習に適した雰囲気を作ることに関する子供のこ  
ろの話, 216

神は召された人々を強めてくださる, 20, 201

教会の教室で教える, 190, 191

子供たちを教える両親の責任, 127-128

指導者による教えの影響, 151

人々を助けるために手を差し伸べる, 36

面接時の教え, 153

模範の力, 18



## や

## 養い

- 生徒に対する教師の責任, 5-7
- \_\_の真の源であるイエス・キリスト, 5
- 霊的な\_\_を与えるという難題にこたえる, 5-7

## ヤング, プリガム

- 愛をもって懲らしめる, 86
- 証の力, 43
- 子供たちは伝統から学ぶ, 135
- 主からの知識によって絶えず向上する, 235

## 指人形, 176

## 預言者

- 教えるために召されている, 3
- \_\_の言葉は御霊を招く, 45
- 末日の\_\_の教えを研究する, 16

## 余白に注釈を記入する, 聖典の\_\_, 57

## 4歳児, \_\_の特徴, 111-112

## ら

## リー, ハロルド・B

- 教師にとって不可欠な資質, 26
- 福音をだれも誤解することがないようにする, 52

## 理解

- 生徒の\_\_を確認する, 73
- 話し合いを通じて深める, 63

## 両親

- 教える責任, 127-128
- 家庭生活での教育の機会, 140-141
- 子供たちが御霊を認識できるように助ける, 141
- 子供たちの教師と協力する, 86, 87
- 子供たちを教える際の一致の重要性, 134
- 子供たちを教える方法に関する\_\_への提案, 127-141
- 時間を取って一緒に計画する, 133-134
- 入手可能な教授資料, 105
- パートナーとして教える, 133-134
- 福音に添った生き方を確立するための提案, 135-136

## 霊性, \_\_が持つ繊細な性質, 13

## 霊的な準備

- 学習に適した雰囲気作りに貢献する, 79
- モーサヤの息子たちの模範, 11

## レッスン

- 締めくくる方法, 94-95

日常生活において教えるヒントを見つける, 22-23

\_\_の提示方法を評価する, 103-104

始める方法, 93

\_\_を状況に合わせる, 102

レッスンを状況に合わせる

年齢層の必要に基づいて\_\_, 33

\_\_の例, 102

レッスンの準備

教会が制作した資料を利用する, 105

生徒の状況に合わせて\_\_をする, 23, 33-34, 102

大会説教やその他の資料を利用する, 100-101

\_\_における御霊の導き, 48

\_\_に時間を取る, 22, 97

\_\_に喜びを見いだす, 97

\_\_の方向性を決める大切な質問, 98-99, 230-233

レッスンを始める

効果的に\_\_ことが学習に適した雰囲気作りに貢献する, 79

\_\_ことに関する指針, 93

\_\_方法, 93

レッスンをまとめる

効果的なまとめの説明, 94

\_\_ための時間を取る, 94

\_\_の例, 94-95

朗読, 163

ローラーボックス, 178

ロールプレー, 177-178

録音テープ (「視聴覚教材」の項参照)

6歳児, \_\_の特徴, 113-114

ロムニー, マリオン・G, 福音の個人的な解釈を教えるのを避ける, 205

## わ

ワークシート, 182-183

ワースリン, ジョセフ・B

愛は福音の真髄, 197

忠実な教会員は大きなかしの木にたとえられる, 224

ワーナー, スーザン・L

子供たちは家族の教えを思い起こす, 6

祖父母の影響によって教える, 142







